

第一部 北海道・東北エリア

環境省阿寒摩周国立公園管理事務所

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
1	1	阿寒摩周国立公園のストーリー	
2	2	摩周湖第一展望台	展望台
3	3	硫黄山	駐車場からの入り口
4	4	美幌峠	散策歩道入り口案内板
5	5	アイヌ民族とその歴史・文化の概要と地域内の地名の由来紹介	
6	6	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	VR 設置場所 (新規)
7	8	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン入り口 (新規)
8	9	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン インフォメーションポスト「森林の世界」
9	10	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン インフォメーションポスト「噴気孔の世界」
10	11	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン インフォメーションポスト「河川の世界」
11	12	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン インフォメーションポスト「湖沼の世界」
12	13	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	レクチャールーム ラムサール条約登録湿地 (案内板)
13	14	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	レクチャールーム 前田一步園財団について 1 (案内板)
14	15	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン 解説ボード「ヒグマ、エゾシカ、エゾモンガ」
15	16	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン 解説ボード「メアカンフスマ、メアカンキンバイ」
16	17	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン 解説ボード「イトウ、ヒメマス、ワカサギ」
17	18	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン 解説ボード「クマガラ、オジロワシ」
18	19	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	レクチャールーム マリモの研究 (案内板) アクティビティサロン ・解説ボード「マリモ」「マリモの保護活動」・マリモの壁面展示解説 ・インフォメーションテーブル「マリモデータファイル」
19	20	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン インフォメーションスタンド「マリモの丸くなり方」
20	21	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン 三角ポスト「阿寒湖」
21	22	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン/インフォメーションサロン 三角ポスト「雌阿寒岳」
22	23	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン/インフォメーションサロン 三角ポスト「雄阿寒岳」
23	24	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン/インフォメーションサロン 三角ポスト「白湯山」
24	25	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン/インフォメーションサロン 三角ポスト「オンネトー」
25	26	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン/インフォメーションサロン 三角ポスト「ボッケ」
26	27	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン/インフォメーションサロン 三角ポスト「双湖台」
27	28	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン/インフォメーションサロン 三角ポスト「双岳台」
28	29	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティサロン/インフォメーションサロン 三角ポスト「湯の滝」

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
29	30	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティーサロン/インフォメーションサロン 三角ポスト「滝口」
30	31	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティーサロン 三角ポスト「チュウレイ島・チュウレイ川」
31	32	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティーサロン 三角ポスト「阿寒川」
32	33	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティーサロン 三角ポスト「バンケトー」
33	34	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティーサロン 三角ポスト「バンケトー」
34	35	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティーサロン 三角ポスト「ヒョウタン沼」
35	36	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティーサロン 三角ポスト「フレバツボク」
36	37	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティーサロン 三角ポスト「イバシベツ川」
37	38	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティーサロン 三角ポスト「フツシ岳」
38	39	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	アクティビティーサロン 三角ポスト「蝶湾川」
39	40	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	インフォメーションサロン ビュースポット紹介「太郎湖」
40	41	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	インフォメーションサロン ビュースポット紹介「次郎湖」
41	42	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	インフォメーションサロン ビュースポット紹介「滝見橋」
42	43	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	レクチャールーム 前田一歩園財団について 2
43	44	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	レクチャールーム 前田一歩園財団について 3
44	45	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	レクチャールーム 前田一歩園財団について 4
45	46	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	レクチャールーム 前田一歩園財団について 5
46	47	屈斜路湖畔	砂湯、屈斜路コタン

支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区訪日外国人自然体験活動推進協議会

47	1	支笏洞爺国立公園パンフレット 2 ページ目	火山は湖を生み、森を育て、雄大な風景を作った
48	2	支笏洞爺国立公園パンフレット 6 ページ目	火山が作り出した自然
49	3	支笏洞爺国立公園パンフレット 8 ページ目	有珠山今も続く活発な火山活動
50	4	支笏洞爺国立公園パンフレット 8 ページ目	洞爺湖有珠山世界ジオパーク
51	5	支笏洞爺国立公園パンフレット 10 ページ目	20M の水底が見える
52	6	支笏洞爺国立公園パンフレット 16 ページ目	開発の歴史
53	9	支笏洞爺国立公園パンフレット 17 ページ目	森林と鉱山の開発
54	10	支笏洞爺国立公園パンフレット 17 ページ目	恵庭岳オリンピック競技場跡地と自然復元
55	11	支笏洞爺国立公園パンフレット 11 ページ目	最北の不凍湖
56	12	支笏洞爺国立公園パンフレット 7 ページ目	支笏湖と周辺の三つの山
57	13	支笏洞爺国立公園パンフレット 15 ページ目	中央部分の説明文
58	14	支笏洞爺国立公園パンフレット 11 ページ目	羊蹄山の湧き水
59	15	支笏洞爺国立公園パンフレット 11 ページ目	ヒメマスの移入と増殖
60	16	支笏洞爺国立公園パンフレット 12 ページ目	早春の林床植物
61	17	支笏洞爺国立公園パンフレット 13 ページ目	噴火による植生の破壊と再生

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
62	18	支笏洞爺国立公園パンフレット6ページ目	羊蹄山
63	19	支笏洞爺国立公園パンフレット7ページ目	洞爺湖
64	20	支笏洞爺国立公園パンフレット7ページ目	倶多楽湖と登別
65	21	支笏洞爺国立公園パンフレット4ページ目	羊蹄山エリア
66	22	支笏洞爺国立公園パンフレット4ページ目	洞爺湖エリア
67	23	支笏洞爺国立公園パンフレット5ページ目	定山溪エリア
68	24	支笏洞爺国立公園パンフレット5ページ目	支笏湖エリア
69	25	支笏洞爺国立公園パンフレット5ページ目	登別エリア
70	26	支笏洞爺国立公園パンフレット9ページ目	昭和新山とミマツダイヤグラム
71	28	支笏洞爺国立公園パンフレット12ページ目	支笏カルデラ外輪山の森
72	29	支笏洞爺国立公園パンフレット12ページ目	美笛の巨木林
73	31	支笏洞爺国立公園パンフレット13ページ目	苔の洞門
74	32	支笏洞爺国立公園パンフレット15ページ目	森にすむ鳥たち
75	35	支笏洞爺国立公園パンフレット18ページ目	ようこそ支笏洞爺国立公園へ
76	54	支笏洞爺国立公園パンフレット24ページ目	温泉は火山の恵み
77	55	支笏洞爺国立公園パンフレット24ページ目	温泉の効用

釧路市湿原展望台 リニューアル検討協議会

78	1	釧路市湿原展望台	施設のまとめ
79	2	釧路市湿原展望台	湿原が形成されるまで
80	3	釧路市湿原展望台	釧路湿原の紹介
81	4	釧路市湿原展望台	イトウ
82	5	釧路市湿原展望台	タンチョウの四季
83	6	釧路市湿原展望台	湿原の動物たち
84	7	釧路市湿原展望台	湿原の植物
85	8	釧路市湿原展望台	建物紹介
86	9	史跡 北斗遺跡	全体概要
87	10	釧路市立博物館	全体概要
88	11	釧路市丹頂鶴自然公園	全体概要
89	12	釧路市動物園	全体概要
90	13	阿寒国際ツルセンター	全体概要
91	14	サテライト展望台	遊歩道出入口1
92	15	サテライト展望台	遊歩道出入口2
93	16	サテライト展望台	ひだまり広場
94	17	サテライト展望台	サテライト展望台①

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
95	18	サテライト展望台	サテライト展望台②
96	19	サテライト展望台	サテライト展望台③
97	20	釧路フィッシャーマンズワープ	全体概要
98	21	釧路湿原国立公園	全体概要
99	22	道の駅 阿寒丹頂の里(クレインズテラス)	全体概要
100	23	幣舞橋	全体概要
101	24	バシクル沼	全体概要
102	25	佐々木榮松記念 釧路湿原芸術館	全体概要
103	26	港文館	全体概要
104	27	マリトポスクしろ	全体概要
105	28	釧路和商市場	全体概要
106	29	阿寒摩周国立公園	全体概要
107	30	阿寒湖	全体概要
108	31	阿寒湖アイヌコタン	全体概要
109	32	阿寒湖アイヌシアター「イコロ」	全体概要
110	33	阿寒湖遊覧船	全体概要
111	34	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	全体概要
112	35	サテライト展望台	サテライト展望台⑦
113	36	サテライト展望台	サテライト展望台⑧
114	37	サテライト展望台	サテライト展望台⑨
十和田八幡平国立公園 地域協議会			
115	1	十和田ビジターセンター	自然情報展示
116	2	十和田ビジターセンター	自然情報展示
117	3	十和田ビジターセンター	自然情報展示
118	4	十和田ビジターセンター	自然情報展示
119	5	十和田ビジターセンター	自然情報展示
120	6	十和田ビジターセンター	自然情報展示
121	7	十和田ビジターセンター	自然情報展示
122	8	十和田ビジターセンター	自然情報展示
123	9	十和田ビジターセンター	自然情報展示
124	10	十和田ビジターセンター	自然情報展示
125	11	十和田ビジターセンター	自然情報展示
126	12	十和田ビジターセンター	自然情報展示
127	13	十和田ビジターセンター	自然情報展示（十和田湖の歩き方）

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
128	14	JNTO サイト	JNTO サイト
129	15	十和田湖休屋休平地区	自然情報看板
130	16	十和田湖休屋休平地区	自然情報看板
131	17	十和田湖休屋休平地区	自然情報看板
132	18	十和田湖休屋休平地区	自然情報看板
133	19	十和田湖休屋休平地区	自然情報看板
134	20	十和田湖休屋休平地区	自然情報看板
135	21	十和田湖休屋休平地区	自然情報看板
136	22	十和田湖休屋休平地区	杉並木看板
137	23	十和田湖休屋休平地区	杉並木看板
138	24	十和田湖休屋休平地区	占場看板
139	25	十和田湖休屋休平地区	十和田湖開発の碑
140	26	十和田湖休屋休平地区	十和田神社
141	27	十和田湖休屋休平地区	開運の小道
142	28	十和田湖休屋休平地区	乙女の像
143	29	十和田湖休屋休平地区	自籠岩
144	30	十和田湖休屋休平地区	占場
145	31	十和田湖休屋休平地区	神泉苑
146	32	御鼻部山	展望台看板
147	33	御鼻部山	展望台看板
148	34	御鼻部山	展望台看板
149	35	紫明亭	展望台看板
150	36	西湖畔遊歩道	遊歩道看板（礼拝堂）
151	37	西湖畔遊歩道	遊歩道看板（和井内神社）
152	38	和井内	ヒメマス看板
153	39	和井内	旧孵化場看板
154	40	大川岱	樹恩の鐘碑
155	41	子の口	看板
156	42	子の口	看板（奥入瀬保全地域）
157	43	子の口	十和田新道開拓の碑
158	44	発荷峠	展望台看板
平泉町世界遺産推進協議会			
159	1	観自在王院跡	
160	2	無量光院跡	

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
161	3	中尊寺	不滅の法灯
162	4	中尊寺	松尾芭蕉と奥の細道
163	5	中尊寺	宮沢賢治石碑
164	6	中尊寺	古実式三番
165	7	中尊寺	慈覚大師と中尊寺
166	8	無量光院跡	梵字ヶ池
167	9	無量光院跡	北小島
168	10	無量光院跡	東島
169	11	無量光院跡	中島跡
170	12	無量光院跡	阿弥陀堂
171	13	無量光院跡	土塁跡
172	14	観自在王院跡	南門跡
173	15	観自在王院跡	車宿跡
174	16	観自在王院跡	遣水、滝石組
175	17	観自在王院跡	土塁
176	18	観自在王院跡	大阿弥陀堂跡
177	19	観自在王院跡	小阿弥陀堂跡
178	20	観自在王院跡	中島跡
179	21	観自在王院跡	舞鶴ヶ池
180	22	観自在王院跡	伝普賢堂跡
181	23	毛越寺	本堂
182	24	毛越寺	南大門跡
183	25	毛越寺	嘉祥寺跡
184	26	毛越寺	講堂跡
185	27	毛越寺	金堂円隆寺跡
186	28	毛越寺	遣水と曲水の宴
187	29	毛越寺	常行堂
188	30	毛越寺	夏草英訳の句
189	31	毛越寺	開山堂
190	32	毛越寺	宝物館
191	33	毛越寺	毛越寺の庭園(築山・州浜・出島石組)
宗教法人 瑞巖寺 (多言語解説協議会)			
192	1	瑞巖寺	本堂
193	2	瑞巖寺	本堂 室中孔雀の間

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
194	3	瑞巖寺	本堂 仏間
195	4	瑞巖寺	本堂 文王の間
196	5	瑞巖寺	本堂 上段の間
197	6	瑞巖寺	本堂 上々段の間
198	7	瑞巖寺	本堂 羅漢の間
199	8	瑞巖寺	本堂 墨絵の間
200	9	瑞巖寺	本堂 菊の間
201	10	瑞巖寺	本堂 松の間
202	11	瑞巖寺	本堂 鷹の間
203	12	瑞巖寺	本堂 御成玄関
204	13	瑞巖寺	本堂 唐戸
205	14	瑞巖寺	本堂 欄間彫刻
206	15	瑞巖寺	本堂 板戸絵(復元模写)
207	16	瑞巖寺	庫裡
208	17	瑞巖寺	廊下
209	18	瑞巖寺	御成門・中門・太鼓塀
210	19	瑞巖寺	埋木書院
211	20	瑞巖寺	総門
212	21	五大堂	五大堂
213	22	瑞巖寺	雲版(原版および複製)
214	23	瑞巖寺	臥龍梅
215	24	瑞巖寺 宝物館	木造伊達政宗倚像
216	25	瑞巖寺 宝物館	脇差
217	26	瑞巖寺 宝物館	銅鐘
218	27	瑞巖寺	参道
219	28	瑞巖寺	参道洞窟群
220	29	三聖堂	三聖堂
221	30	瑞巖寺	本堂(方丈)
222	31	雄島	雄島
223	32	瑞巖寺	松島せっこく
224	33	陽徳院	陽徳院御霊屋
Mt.6 多言語解説整備協議会(蔵王)			
225	1	蔵王温泉	樹氷原と霧氷地帯
226	2	蔵王温泉スキー場	概要

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
227	3	蔵王温泉スキー場	樹氷原コース
228	4	蔵王温泉スキー場	大平コース
229	5	蔵王温泉スキー場	高鳥コース
230	6	蔵王温泉スキー場	ハーネンカムコース
231	7	蔵王温泉スキー場	連絡コース
232	8	蔵王温泉スキー場	上ノ台ゲレンデ
233	9	蔵王温泉スキー場	竜山ゲレンデ
234	10	蔵王温泉スキー場	サンライズゲレンデ
235	11	蔵王温泉スキー場	中央ゲレンデ
236	12	蔵王温泉スキー場	ダイヤモンドバレー
237	13	蔵王温泉スキー場	パラダイスゲレンデ
238	14	蔵王温泉スキー場	菖蒲沼ゲレンデ
239	15	蔵王温泉スキー場	コタンゲレンデ
240	16	蔵王温泉スキー場	中森ゲレンデ
241	17	蔵王温泉スキー場	横倉ゲレンデ
242	18	蔵王温泉スキー場	百万人ゲレンデ
243	19	蔵王温泉スキー場	ユートピアゲレンデ
244	20	蔵王温泉スキー場	大森ゲレンデ
245	21	蔵王温泉スキー場	黒姫ゲレンデ
246	22	蔵王温泉	概要
247	23	蔵王温泉	共同浴場(上湯)
248	24	蔵王温泉	共同浴場(下湯)
249	25	蔵王温泉	共同浴場(川原湯)
250	26	トレッキングコース	概要
251	27	蔵王温泉	三大神巡り
252	28	わらべの里	概要
253	29	わらべの里	庄屋の蔵、雅の蔵
254	30	わらべの里	行在所
255	31	蔵王温泉	蔵王高湯系伝統こけし
256	32	蔵王温泉	史跡めぐりマップ (温泉街史跡めぐりモデルコース)

環境省阿寒摩周国立公園管理事務所

1

No.1 Akan-Mashu National Park, Hokkaido

<阿寒摩周、北海道>

【施設名】阿寒摩周国立公園ストーリー

【整備予定媒体】JNTO サイト

できあがった英語解説文

Akan-Mashu National Park

A land of volcanoes, lakes, and forests, Akan-Mashu National Park is rich with stories from ancient times. Located in Eastern Hokkaido, Japan's northernmost island prefecture, volcanic eruptions approximately 150,000 years ago created Akan Caldera, resulting in this region's topography. Over the course of thousands of years, constant volcanic activity has altered the land, shaping mountain ranges, calderas (large volcanic craters), and lakes. Today, the area's pristine environment is home to several unique ecosystems and exploring the vast national park reveals fascinating interconnections between volcanoes, waterways, flora, and fauna.

Akan-Mashu National Park is 91,413 hectares in size and is divided into two main sections: Akan to the west and Mashu to the east. Lake Akan is in the heart of the western area, and is famous for being the natural habitat of a rare green algae called Marimo. They can grow into round balls as large as 30 cm in diameter, and Lake Akan is the only place in the world where spherical Marimo exist. These organisms thrive in Lake Akan due to waves that help to create their unique shape, sunlight that filters through the lake's clear water, and saline spring water that seeps from the lakebed. The Marimo Exhibition Center and the Akankohan Eco-museum Center give visitors a chance to see this fascinating organism up close.

The Akan area usually receives its first dusting of snow in October and up to 1m of snowfall can pile up each winter, except in areas where there are bokke. Bokke is boiling mud that erupts continuously from underground. These bubbling pools can be seen, heard, and smelled along the shore as well as in the mountains south of the lake. The ground near bokke remains warm year-round so Yezo shika deer gather here in search of food, and the chirping sounds of crickets can even be heard in an otherwise snowy landscape.

With Lake Kussharo and Lake Mashu at its center, the Mashu side of the national park has an equally diverse natural environment. Hundreds of whooper swans migrate from Siberia to Lake Kussharo, one of the largest caldera lakes in the world, for the winter. Visitors can bathe in open-air hot springs and watch these beautiful swans from just meters away.

Both Lake Kussharo and Lake Mashu exhibit a rare natural phenomenon that occurs early in the morning during the warmer months of the year. Referred to as a "sea of clouds," coastal fog that moves inland becomes trapped in low

lying areas of these two enormous calderas. Fog hovers above the lakes as warmer air above the water traps colder air beneath. This can be viewed from several observation decks located around the perimeter of the two lakes.

Mt. Io (Sulfur Mountain) is an active volcano in the center of the Mashu side of the park. The sulfur of this rocky mountain was mined extensively in the 19th century. Around the volcano, hot steam escapes from 1,500 various-sized vents or “fumaroles.” The odor of sulfur permeates the air and the bright yellow, sulfurous vents make for an otherworldly sight. The volcanic gases affect the acidity of the soil and only the hardiest plants can thrive here. Japanese pine stone and marsh Labrador tea, two plants that can survive in this type of harsh environment, cover the foot of Mt. Io.

The Akan-Mashu area was designated a national park in 1934. The Ainu people have lived on this land from ancient times. The indigenous Ainu people of Japan coexist peacefully with nature as fishermen, hunters, and plant gatherers. They believe that all living things were spirits sent to Earth with a purpose. For example, brown bears are worshipped as reincarnated mountain gods that give people meat for food and fur for clothing. Although the remaining Ainu population no longer practices their traditional lifestyle, their customs and culture are kept alive at places such as the Akanko Ainu Kotan village and Kussharo Kotan Ainu Folklore Museum.

There are many outdoor activities available throughout the year at the Akan-Mashu National. In summer, many visitors go canoeing and camping, and this is also the best season for fishing. In autumn, hiking through the vibrantly-colored forests is popular. Winter’s sub-zero temperatures cause the lake to freeze and allow visitors to try ice fishing for smelt, or snowshoeing. Spring comes later to Hokkaido than the rest of Japan; warmer temperatures usually return around May, when the landscape explodes into a bouquet of colorful flowers including the yellow Meakan-kinbai (*Potentilla miyabei Makino*).

One of the traditional homelands of the Ainu, Akan-Mashu National Park is full of wildlife and awe-inspiring natural wonders. It is a hidden treasure of Japan waiting to be discovered and explored.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿寒摩周国立公園

阿寒摩周国立公園には、火山、湖、森などがあり、古代からの物語の宝庫です。日本最北端の都道府県、北海道の東に位置する阿寒摩周地域は、巨大な火山の噴火で阿寒カルデラが形成された、約 150,000 年前にできました。数千年の間、絶え間ない火山活動によって、地形が変わり、山脈、カルデラ、湖が形成されました。今なお残る原生的な自然には独自の生態系がいくつもあり、この広大な国立公園を探検すると、火山、河川、動植物などの相互関係に魅了されます。

阿寒摩周国立公園は、広さ 91,413 ヘクタールで、西の阿寒と東の摩周の、主な 2 つのエリアに分かれています。西側の中心地は阿寒湖で、マリモという緑色の珍しい藻の生育地として有名です。マリモは、直径 30 センチもの大きさの球

形に育つことがあります。阿寒湖は世界最大級のマリモの群生地となっています。阿寒湖で繁茂できるのは、その特殊な地形により発生する波や、湖に差し込む光、湖底湧水の塩分などがマリモにとって最適な条件になっているおかげです。観光客は、マリモ展示観察センターや阿寒湖畔エコミュージアムセンターで、この魅惑的な生物を間近で見ることができます。

阿寒湖では、10月には初雪が降り、冬になると、ポッケ周辺の地域以外では、最大約1メートルの積雪があります。ポッケとは、地下から絶え間なく噴出する煮え立つ泥のことです。この湖の湖畔沿いや湖の南にある山には、ポコポコと泡立つ泥沼があり、音が聞こえ、その匂いが立ち込めています。ポッケの近くの地面は一年中温かく、冬でさえも、エゾシカが食べ物を求めてやってくることや、コオロギの鳴き声が響き渡ることがあります。

屈斜路湖と摩周湖を中心に、国立公園の摩周側にも、同じように多様な自然環境があります。世界最大級のカルデラ湖の1つ、屈斜路湖はシベリアから渡ってくる数百羽のオオハクチョウの越冬地です。観光客は、露天温泉に入って、この美しい鳥をすぐそばに眺めることができます。

屈斜路湖でも摩周湖でも、暖かい時期の早朝に珍しい現象が見られます。「雲海」と呼ばれ、内陸に入ってくる海からの霧がこの2つの巨大なカルデラにある、窪んだ一帯に溜まるのです。暖かい空気は冷たい空気を下に閉じ込めるといった気象現象のため、霧は湖の上を漂います。この幻想的な光景はカルデラの端にある展望台から眺めることができます。

公園の摩周側の中央には、硫黄山があります。この岩だらけの山は19世紀の硫黄の採掘でよく知られています。硫黄山周辺では、大小1,500の噴気孔から湯気が出ています。硫黄の特徴的な匂いが充満し、鮮やかな黄色い噴気孔が、この世のものとは思えない光景を作り上げています。火山性ガスが土壌の酸性度や周辺地域で生育できる植物に大きく影響しています。硫黄山の麓は、厳しい環境でも繁茂する2つの植物、ハイマツやイソツツジに覆われています。

阿寒摩周地域は、1934年に国立公園に指定されましたが、この土地には、はるか昔からアイヌの人々が住んでいました。先住民であるアイヌは、自然と調和して共存する術を身につけていました。漁師、狩人であり、植物の採集も行い、すべての生き物は、目的を持って地上に送られた霊（魂）であると信じていました。ヒグマは、人々に食糧になる肉や、衣類になる毛皮を与えるために神の国から地上に降りてきた神の化身として崇められていました。現存するアイヌの人々は、もはや伝統的な生活様式で暮らしていませんが、伝統と文化は阿寒湖アイヌコタンや屈斜路コタンアイヌ民俗資料館のような場所に残されています。

阿寒摩周国立公園では、観光客は、アイヌについて学べるだけでなく、年間を通して、たくさんのアウトドア活動に参加できます。夏には、カヌーやキャンプがよく行われ、釣りを楽しむにも最高の季節です。秋には、鮮やかに紅葉する森を通るハイキングが人気です。冬は氷点下の気温となり、湖は氷結します。観光客は、ワカサギ釣りやスノーシューに挑戦できます。北海道の春は、日本の他の場所よりも遅くやってきます。通常、暖くなるのは5月頃で、その後、風景はメアカンキンバイのような地域の名前が付いた花をはじめとし、様々なカラフルな花たちでいっぱいになります。

アイヌの故郷の1つである阿寒摩周国立公園は、野生生物や圧倒されるような自然の素晴らしさであふれています。

ここは、発見され、探検されるのを待っている、日本の秘宝です。

本事業以前の英語解説文

なし

2

No.2 Lake Mashu Observation Deck No. 1, Hokkaido

<阿寒摩周、北海道>

【施設名】摩周湖第一展望台

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Lake Mashu

Lake Mashu is in a caldera (large volcanic crater) a located in the eastern section of Akan-Mashu National Park. In the Ainu language, Lake Mashu is called *Kamui-to* which means “the lake of the gods.” Lake Mashu has an unchanging water level, due to the fact that no rivers flow into or out of the lake. The lake is also known for its natural beauty—especially the unique color of the water dubbed “Mashu Blue.” With a small presence of plankton, Lake Mashu has been able to maintain its pristine waters: since the year 2000, the lake has had an average transparency level of about 20 meters.

Observation Deck No. 1

Lake Mashu Observation Deck No. 1 is on the southwestern edge of the Mashu Caldera. From this observatory, visitors can take in the sheer size of the caldera. Formed by volcanic eruptions approximately 7,000 years ago, Lake Mashu is surrounded by steep walls between 200 and 300 m high.

This observatory marks the trailhead to two nearby peaks. Mt. Mashu (Kamui-nupuri) is the partially collapsed explosion crater visible directly across the lake. It takes about three hours to reach the 857 m summit of Mt. Mashu. Following the same trail part of the way, it takes about two hours and 45 minutes to reach the 799 m summit of Mt. Nishibetsudake. On clear days, both mountaintops offer a 360-degree view of the Akan and Shiretoko mountains, as well as the Mashu Caldera.

Observation Deck No. 3

Lake Mashu Observation Deck No. 3 is located along the western edge of Mashu Caldera and has separate west- and east-facing observatories. Mt. Io is visible from the west observatory, with Lake Kussharo beyond. The east observatory offers a closer view of Kamuishu Island, the small island in the center of Lake Mashu. This viewpoint is also the best place to see the natural phenomenon known as *unkai* (sea of clouds) that sweeps over the caldera early in the morning, typically between June and October.

The distance between Observation Deck No.1 and No. 3 is 3.4 km. There is a walking trail between the two observation decks as well as a road. Please be careful of the traffic if you walk on the road. Due to snow cover, the road is closed

from November until the end of April.

While Observation Deck No. 1 has a rest area with bathrooms and food services, Observation Deck No. 3 has no facilities.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

摩周湖

摩周湖は、阿寒摩周国立公園の東に位置するカルデラ湖です。アイヌ語では、摩周湖は神の湖を意味する「カムイ・トー」と呼ばれています。摩周湖は、水位が一定しており、これは、湖を出入りする河川がないためです。摩周湖の独特な色は「摩周ブルー」と呼ばれています。植物プランクトンの生息密度が小さいこと等により、摩周湖は清浄な湖水を維持しており、2000年代からの平均値として、透明度は20メートル前後を推移しています。

第一展望台

摩周湖第一展望台は、摩周カルデラの南西端にあります。この展望台から見ると、カルデラの大きさがよく分かります。約7,000年前に火山の噴火でできた摩周湖は、周囲を高さ200～300メートルの絶壁に囲まれています。

この展望台には、近くにある2つの山への登山口があります。摩周岳（カムイ・ヌプリ）は、湖の向こうに見える山で、山頂直下に爆裂火口があります。857メートルの摩周岳の山頂まで所要時間は約3時間です。途中よりコースが分かれる、799メートルの西別岳の山頂までの所要時間は約2時間45分です。

晴れていれば、いずれの山頂からも遠く阿寒と知床の山々や摩周カルデラを含む景色を360°見渡すことができます。

第三展望台

摩周湖の第三展望台は摩周カルデラの西端にあります。西に面した展望台と東に面した展望台で構成されています。西の展望台からは、硫黄山が見えます。硫黄山の向こうには、屈斜路湖が垣間見えます。東の展望台からは、摩周湖の中心にある小島、カムイシュ島を近くで見ることができます。ここは、6月から10月の早朝にカルデラ湖の上に漂う、「雲海」として知られる自然現象を見るには、最高の場所でもあります。

第一展望台から第三展望台までの距離は、3.4キロです。道路を利用し、車や徒歩で行き交うことが出来ませんが、通行には注意してください。なお11月上旬より4月下旬までは降雪、積雪のため道路は閉鎖され通行出来ません。

第一展望台にはトイレや売店のある休憩所があります。

第三展望台にはトイレや売店のある休憩所はありません。

本事業以前の英語解説文

なし

3

No.3 Mt. Io (Atosa-nupuri), Hokkaido

<阿寒摩周、北海道>

【施設名】硫黄山

【整備予定媒体】案内板、ウェブサイト

できあがった英語解説文

Mt. Io (Atosa-nupuri)

Mt. Io (Sulfur Mountain) is called *Atosa-nupuri* (Bare Mountain) in the Ainu language because of its barren, rocky face. Mt. Io is a 508 m volcano that was formed sometime between 500 and 2,000 years ago. Hot steam escapes from the earth through 1,500 “fumaroles” (small vents) of various sizes. The air is heavy with the distinct odor of sulfur, and the bright yellow vents create an otherworldly sight. Volcanic gases have affected vegetation in the surrounding area, easily seen by looking at the neighboring peak of Mt. Kabuto: stark differences in plant life are visible between the side facing Mt. Io and the side facing away. Kawayu Onsen’s hot springs originate from Mt. Io’s geothermal activity.

History of Mining on Mt. Io

The sulfur in Mt. Io has long been used for goods such as dyes and matches. In 1877, a sulfur mine was dug into Mt. Io. The uses of sulfur expanded to include not only the making of matches, but also gunpowder, insecticides, and paper, and even producing electricity. Mt. Io’s sulfur was exported abroad to several countries, including Qing Dynasty China and the USA, and sulfur production became an important industry for the area surrounding Teshikaga Town, including Kawayu Onsen. In 1887, Hokkaido’s second railway line opened on Mt. Io, replacing the use of horses to transport the mined sulfur. Eventually, demand for sulfur decreased and the mine was permanently closed in 1963.

Hiking Trails around Mt. Io

The Tsutsujigahara Nature Trail is a trail at the foot of Mt. Io, taking approximately 60 minutes to reach Mt. Io’s slopes from the Kawayu Eco-museum Center. Along the way, the vegetation changes dramatically due to increasing soil acidity. The trail winds through a lush forest of Sakhalin spruce and into a forest of Japanese oak before opening onto lowlands covered in Japanese pine stone and marsh Labrador tea. In June, the fields of Labrador tea burst into a beautiful carpet of white flowers. Other trails in the area include the Sakhalin Spruce Forest Trail, which consists of a short trail (30 minutes) and a long trail (60 minutes), and the Aoba Tunnel Trail, an approximately 30-minute hike from JR Kawayu Onsen Station to the foot of Mt. Io.

WARNING

This is an active volcanic zone. Steam emitted from openings in the earth's crust reaches temperatures over 100°C.
For your safety, DO NOT climb over the fence.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

硫黄山（アトサヌプリ）

硫黄山は、不毛で岩だらけの地表であるため、アイヌ語でアトサヌプリ（裸の山）と呼ばれています。硫黄山は高さ 508 メートルの火山で、500～2,000 年前に形成されました。様々な大きさの 1,500 の噴気孔からは噴煙が出ています。特徴的な硫黄のにおいが充満し、鮮やかな黄色の、噴気孔が、この世のものとは思えない光景を作り出しています。火山性ガスが周辺の植生に大いに影響しています。近くにあるかぶと山では、硫黄山側と反対側の植生が明らかに異なります。また、硫黄山の活発な地熱活動は、川湯温泉の源になっています。

硫黄山での採掘の歴史

硫黄山の硫黄は、染料や燃料のような日用品として、使われていました。1877 年に、硫黄山に硫黄の採掘場が作られました。硫黄は電気、マッチ、火薬、殺虫剤、紙のような、様々な製品の製造に使用されていました。清国やアメリカなどに輸出され、川湯温泉を含む弟子屈町周辺地域では重要な産業になりました。1887 年、硫黄の運搬のため北海道で 2 番目となる鉄道が硫黄山を通り、それまでの馬に代わり、利用されました。その後、硫黄の需要は減少し、1963 年、採掘場は閉鎖されました。

硫黄山周辺のハイキングコース

つつじが原自然探勝路は、硫黄山麓にある素晴らしい散策路です。川湯エコミュージアムセンターから硫黄山まで、所要時間約 60 分です。途中、土壌の酸性度が増していくため、植生はがらりと変化していきます。この散策路は、アカエゾマツが密生する森から、ミズナラの森を通り、ハイマツやイソツツジで覆われた低地へと続いています。6 月には、イソツツジの花畑が白いカーペットのように広がります。このエリアの散策路には、他にも短いコース（30 分）と長いコース（60 分）から成る、アカエゾマツの森コースや、JR 川湯温泉駅から硫黄山まで徒歩で約 30 分の青葉トンネルのコースなどがあります。

注意

ここは活火山地帯です。噴気孔から出る湯気は 100 度以上になります。
安全のため、柵を乗り越えてはいけません。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】美幌峠

【整備予定媒体】案内板、ユニコード

できあがった英語解説文

Bihoro Pass

At an altitude of 525 m, Bihoro Pass is on the northwestern border of Akan-Mashu National Park. Bihoro Pass Scenic Viewpoint overlooks the expansive landscape of Lake Kussharo, one of the largest caldera (large volcanic crater) lakes in the world, with views as far as Mt. Shari and the Shiretoko Mountain Range.

Bihoro Pass is one of the best vantage points for viewing the natural phenomenon called *unkai* (sea of clouds). *Unkai* can occur throughout the year, but is more common in spring and summer, typically from May to July, and in winter, between December and January. There are several ways *unkai* can form. Radiative cooling produces especially stunning *unkai* on clear nights with a light breeze, when the Earth's surface loses heat and the ground-level temperature drops, causing cold air to flow down the inner slopes of the caldera, resulting in fog accumulating above Lake Kussharo. Beautiful *unkai* also form when steam evaporating from Lake Kussharo is cooled by winter air currents. Bihoro Pass offers exceptional stargazing. When conditions are just right, many amateur photographers can be seen gathering at the pass to observe the starry sky.

Lake Kussharo

Lake Kussharo fills the Kussharo Caldera, which formed after a series of volcanic eruptions in ancient times. Volcanic activity is still visible at various sites around the lake. Along Wakoto Peninsula, volcanic gas is constantly emitted from the Oyakotsu-jigoku hot spring. The eastern and southern shores of the lake are dotted with open-air hot springs and unique places such as Sunayu, where digging into the sand along the shore causes hot water to rise to the surface. The relative warmth of Lake Kussharo makes it a wintering site for hundreds of whooper swans that migrate from Siberia. In winter, bathers can sit in the open-air hot springs and watch the swans swim on the lake right before their eyes.

Three Viewpoints on the Kussharo Caldera Outer Rim

There are three viewpoints on the outer rim of the Kussharo Caldera. The Tsubetsu Pass Observatory, southwest of the lake, is situated at an altitude of 947 m and is the highest of the observation facilities that overlook Lake Kussharo. To the north of the lake is the summit of Mt. Mokoto at an altitude of 1,000 m and the Mt. Mokoto Scenic Viewpoint and Observatory, which was built into the mountainside. Bihoro Pass Scenic Viewpoint is located to the west. These three locations not only provide a panorama of Lake Kussharo, Nakajima Island, and Wakoto Peninsula, but are also known as superb stargazing spots on clear nights. With the exception of Bihoro Pass, all locations are closed during the winter.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

美幌峠

美幌峠は阿寒摩周国立公園の北西に位置する標高 525 メートルの峠です。美幌峠からは、世界最大級のカルデラ湖の 1 つ屈斜路湖の広大な景色を一望でき、斜里岳や知床連山も見ることができます。

美幌峠は、「雲海」という自然現象を見るには、最高の場所の 1 つです。雲海は年間を通じて発生しますが、5月から7月の春から夏にかけてと、冬の 12 月、1 月は発生確率が高くなっています。雲海ができる方法はいくつかあり、晴れて風が弱い夜に地表面から熱を奪う放射冷却現象が強まり、地面付近の気温が下がって冷気が屈斜路湖を囲む外輪山の斜面に沿って下ることで、屈斜路湖に霧が溜まる方法や、屈斜路湖から蒸発する水蒸気が冬の冷たい風に冷やされ霧が発生する方法があります。また、美幌峠は星空もきれいです。星を観察する条件が整った日には、すばらしい星空を求め、多くのアマチュアカメラマンが撮影に訪れます。

屈斜路湖

屈斜路湖は、大昔、何度も繰り返された火山の噴火で作られた屈斜路カルデラにある湖です。周辺では、いまだに火山活動が見られ、和琴半島沿いのオヤコツ地獄からは、火山性ガスが絶え間なく噴気を上げています。湖の東岸と南岸には、露天温泉が点在し、湖岸を掘ると温泉が出る砂湯のような珍しい場所もあります。屈斜路湖は、シベリアから渡ってくる数百羽のオオハクチョウの越冬場所でもあります。冬には、露天風呂に入って、目の前の湖のハクチョウを眺めることができます。

屈斜路カルデラ外輪山の 3 つの展望地

屈斜路カルデラの外輪山には、3 つの展望地があります。湖の南西にある津別峠展望施設は、標高 947 メートルで、屈斜路湖を見ることができる展望施設の中では最も高い位置にあります。湖の北には、藻琴山山頂とその中腹の展望地および展望施設、西には美幌峠があります。この 3 つの場所からは、屈斜路湖、中島、和琴半島が一望できるだけでなく、天気の良い夜には、すばらしい星空を眺めることもできます。なお、美幌峠以外の場所は、冬期間は閉鎖となります。

本事業以前の英語解説文

The area on the east side of Akan-Mashu National Park consist of two calderas, Kussharo Caldera and Mashu Caldera. The Kussharo Caldera is one of the largest caldera in the world, with Lake Kussharo (circumference 57 km, area 79.5 m^2) in the center, it's features are its spectacular view from the Bihoro Pass (altitude 525m) and somma. Also, the landscape changes of the four seasons, as well as starry skies, sea of clouds at dawn, and scenery changes according to the time of day are captivating.

5

No.5 The Ainu People: History and Culture, Hokkaido

<阿寒摩周、北海道>

【施設名】アイヌ民族とその歴史・文化の概要と地域内の地名の由来紹介
【整備予定媒体】ウェブサイト

できあがった英語解説文

The Ainu People: History and Culture

The Ainu People

The Ainu are the indigenous people of northern Japan. In the Ainu language, “Ainu” means “human.” Little is known about the beginnings of Ainu culture. The earliest documented mention of the Ainu is thought to date from the mid-1300s. They inhabited Ezo (present-day Hokkaido) as hunters, gatherers, and fishermen, and has a deep understanding of the land in which they lived. The Ainu originally occupied a vast area that included Sakhalin and the Kuril Islands, as well as the northern tip of the Tohoku region. At the core of their culture was a spirituality that placed great importance on coexisting harmoniously with nature.

Ainu Culture

The Ainu people have their own language, belief system, and traditions, separate from those of other Japanese. Traditionally, there was no written language, with knowledge being passed orally from generation to generation. The Ainu language’s influence can be seen in the names of numerous sites across Hokkaido. Many of these place names refer to geographical features or characteristics of the surrounding area, showing how closely Ainu are connected to the natural world around them. They hold the belief that there are two separate worlds: the one in which they live and the spirit world. All living things in the human world, as well as man-made tools and even natural disasters, are thought to be spirits that have come from the spirit world to either aid or harm them in some way. These spirits are revered as being either indispensable to human life or as forces beyond their control. Rituals called *kamui-nomi* are performed to give thanks to the spirits and pray for continued peace. Brown bears are worshipped as reincarnated gods that have come from the spirit world to deliver meat for food and fur for warmth. A ritual called *iomante* sends off these bear spirits to the spirit world. At such events, Ainu wear embroidered garments whose patterns all have meaning. For example, the patterns on cuffs and hems are believed to ward off evil spirits. During special ceremonies, Ainu perform traditional dances and songs. Popular dances include the Crane Dance, when dancers lift their coats up behind them symbolizing the wings of a crane, and the Dance of the Ainu Girl’s Black Hair, when women rhythmically swing their long hair back and forth.

Ainu Lifestyle

The Ainu traditionally lived in villages, called *kotan* in the Ainu language. These settlements were mainly located by rivers, lakes, and the sea, to give them easy access to food and drinking water. In these villages, the Ainu built houses called *chise* that were made of natural materials such as trees, bamboo grass, or reeds, tied together with plants such as grape vines. The four-sided roofs were slanted down to allow snow to slide off, and vents at the top enabled smoke from the hearth to escape. A separate raised structure for food storage was close to the *chise*. The Ainu caught *Sakuramasu*, a type of trout in the summer, while salmon was the primary catch in the autumn. These fish would be cooked, dried, and stored in preparation for the harsh winters. As hunters and gatherers, the Ainu ate wild plants, animal meat, and seafood. Soup was a common meal, cooked with a variety of ingredients such as salmon and vegetables. Everyone in the village had designated duties which changed with the seasons. Typically, the men would hunt for large animals such as deer and bears in spring, and summer and autumn were fishing seasons. In winter, they would catch small animals such as rabbits and sable. Meanwhile, the women and children would make fabric using plants and the hides of animals, and pick vegetables for meals. They knew hundreds of species of edible plants and never harvested more than was necessary. The Ainu traded harvested goods such as animal fur and bird feathers with people from neighboring countries in exchange for materials such as glass beads, silk fabric, and metal products.

The Ainu Today

The Ainu no longer completely follow the traditional way of life, but they are proud of their heritage and much is being done to ensure that their history and culture are not forgotten. The Council for Ainu Policy Promotion, and annual events such as the Ainu Cultural Festival and the Ainu Language Speech Contest, have helped to promote Ainu traditions not only within Japan but around the world. In 2009, the Ainu ancient ceremonial dance was entered into the UNESCO Intangible Cultural Heritage List. In Akan-Mashu National Park, visitors can learn about Ainu culture at locations like the Kussharo Kotan Ainu Folklore Museum, Akanko Ainu Kotan, Ureshipachise's Ainu cultural facility in Shiranuka, the Nakashibetsu Municipal Folk Museum, and the Shibechea Local Museum. Ainu traditions are also celebrated in ceremonies across the region. In the town of Shiranuka, for example, the Shishamo Festival is held to pray for safety and a good catch of fish, and in Bihoro, visitors can witness the Bihoro Pass Festival, another prayer celebration.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

アイヌ民族とその歴史

アイヌ民族

アイヌの人々は、日本の北方に住む先住民です。アイヌ語では、「アイヌ」とは人間を意味します。アイヌ文化の起源についてはほとんど知られていません。釧路川沿いで発掘された、縄文時代(300 BC - 600 AD)の土器が、アイヌの人々の祖先の形跡を示していますが、アイヌについて記述しているのは、最も初期の書物でも、1300年代中期のものと言われています。蝦夷（現在の北海道）で、狩人、植物採集民、漁師として暮らし、自分たちが暮らす土地についての高度な知識を持っていました。アイヌの人々は、サハリンや千島列島、また東北の最北端までの広い範囲に先住していました。文化の中心は、自然との調和的共存を重視する精神性でした。

アイヌ文化

アイヌ民族は、日本とは違った、自分達だけの言語、信仰、伝統を持っていました。文字はありませんでしたが、世代から世代へと、口承で知識を伝えていきました。アイヌ語は、北海道中のたくさんの地名に残されていますが、それらは、地形や周りの自然を説明するものが多く、自然環境と密接なつながりを持っていたことは明らかです。世界には、自分たちが住む世界と神々の世界という、2つの別の世界があると信じていました。自分たちが住む世界のすべての生き物や、人間が作った道具や自然災害などは、何らかの方法で、人を助けたり、害を及ぼしたりするために神々の世界からやって来たと考えていました。このうち人間の生活に欠かせないものや人間の力が及ばないものを神として敬いました。神に感謝をささげ、平和の継続を祈るため、カムイノミという儀式をよく行いました。ヒグマは、食糧となる肉や、体を暖める毛皮を人間に与える役割を果たすために人間の世界に来た神の化身として崇められていました。ヒグマの魂は、イオマンテと呼ばれる儀式で神々の世界へ送り返されました。このような行事では、アイヌの人々は美しい手縫いの衣装を身につけました。衣類に刺しゅうされた模様には、様々な意味が込められています。袖口や裾の模様は悪霊を追い払うための意匠であると言われています。特別な儀式の間、アイヌの人々は伝統的な舞を踊り、歌を歌いました。有名な踊りには、鶴の羽を表わして、上着を持ち上げる鶴の舞や、女性が長い髪をリズムカルに前後に振る、女性の黒髪の踊りなどがあります。

アイヌ人の生活様式

アイヌの人々は、アイヌ語でコタンと呼ばれる集落に住んでいました。アイヌの集落は、食べ物や飲み水が手に入りやすいように、主に、川、湖、海のそばにありました。集落では、木や、笹、葦などのような自然の物を使い、ブドウの蔓で縛るなどしてチセという家を建てていました。4面の屋根は雪が滑り落ちるように斜めになっており、屋根の穴を通して、炉の煙を外へ出すようになっていました。チセの近くには、食糧を保管する高床式の倉庫がありました。夏にサクラムス、秋には鮭を捕って調理し、乾燥させ、厳しい冬に備えて保管しました。狩猟採集民として、野草、動物の肉、魚介類を食べていました。一般的な食事は、鮭や野菜など、色々な材料を煮た汁物でした。一年を通して、集落に住む者は皆、定められた役目がありました。一般的に、春には、男性はシカやクマのような大型動物を狩りました。夏と秋は漁の季節でした。そして冬には、ウサギやクロテンのような小型動物を捕まえました。その間、女性と子供は植物や動物の皮を使って生地を作ったり、食糧にする野菜を摘んだりしました。数百種類の食べられる植物を知っており、必要以上に摘むことは決してしませんでした。アイヌの人々は、このように収穫した動物の毛皮や鳥の羽などを、近隣諸国との交易で、ガラス玉、絹織物、金属製品のようなものと交換していました。

現代のアイヌの人々

伝統的な生活様式を送っているアイヌはもういませんが、現在のアイヌの人々は自分の文化遺産に誇りを持ち、歴史や文化が忘れ去られることがないよう、多くの取り組みが行われています。アイヌ政策推進会議や、アイヌ民族文化祭やアイヌ語弁論大会のような年間行事は日本国内だけでなく、世界中でアイヌの伝統を推進する役に立っています。2009年には、伝統的なアイヌの古式舞踊がユネスコ無形文化遺産に登録されました。阿寒摩周国立公園では、アイヌ文化拠点施設として、屈斜路コタンアイヌ民俗資料館、阿寒湖アイヌコタンやウレシパチセ（白糠町）等のアイヌ専門施設の他、中標津町郷土館、標茶町博物館の一部でアイヌ文化を紹介しております。

また、白糠町や美幌町では、それぞれ「ししゃも祭り（安全操業・豊漁祈願）」、美幌峠祭りの祈願祭りにてアイヌ伝統儀式が行われるなど、現在でもその伝承儀式は各地で見ることが可能です。

本事業以前の英語解説文

なし

6

No.6 Virtual Reality, Akankohan Eco-museum Center and Kawayu Eco-museum Center

<阿寒摩周、北海道>

【施設名】 阿寒湖畔エコミュージアムセンター

川湯エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】 VR 展示

できあがった英語解説文

Akan-Mashu National Park

From forests that are home to a mix of coniferous and broadleaf trees, to the clear waters of Lake Mashu, to the plumes of volcanic smoke that rise from Mt. Meakan and Mt. Io, the Akan-Mashu National Park has something to offer for everyone. Many parts of this diverse park are accessible by hiking trails. In addition to land activities, canoeing is a popular way to explore the undammed Kushiro River that meanders through the region.

The Akankohan Eco-museum Center and Kawayu Eco-museum Center offer a plethora of information about the park's natural environment. We recommend stopping by and gathering the information you need before heading out to explore. Enjoy a leisurely walk on the nature trails that wind through the areas around each Eco-museum Center, or, if you are up for a challenge, spend a day climbing Mt. Oakan, Mt. Meakan, or Mt. Mashu.

This Virtual Reality (VR) experience offers simulations of various outdoor activities such as hiking, mountain climbing, and canoeing. These can all be viewed by simply using your finger to scroll in the direction that you want to see.

After your VR experience, we encourage you to step outside and use your five senses to enjoy the park's wonders for yourself.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿寒摩周国立公園

針葉樹と広葉樹が混ざり合った森林から、驚くほど高い透明度を誇る摩周湖、雌阿寒岳や硫黄山の火口から立ち上る噴煙に至るまで、多様な景観を楽しめる整備された登山道があります。山歩きなどの陸地での活動に加えて、ダムが無くこの地域を曲がりくねって流れる釧路川でカヌー体験をするのも人気があります。

阿寒湖畔エコミュージアムセンターと川湯エコミュージアムセンターでは、阿寒摩周国立公園の自然環境に関する数多くの情報を用意しています。ですから、実際に探索に向かう前にエコミュージアムセンターに立ち寄って情報収集することをお勧めします。それぞれのエコミュージアムセンターの周りをのんびりと歩いて自然を味わうのも良いですし、雄阿寒岳

や雌阿寒岳、摩周岳などへの日帰り登山にチャレンジするのも良いでしょう。

バーチャルリアリティ（VR）によって、山歩きや、登山、カヌーなど様々な野外活動のシミュレーションを体験できます。あなたが見たいと思う方向に指をスクロールするだけでアクセス可能です。

VR 体験の後は、野外に足を踏み出し、自分の五感を使って、阿寒摩周国立公園の素晴らしさを体感してみましょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

At the Activity Zone you can learn about the unique natural environment of the Akan region within Akan-Mashu National Park. Text, illustrations, preserved animal specimens, and interactive displays explain the various volcanoes that make up the Akan Caldera, the formation of the region's lakes, and the flora and fauna that flourish in the area. Aquariums showcase living organisms that grow in Lake Akan, such as Marimo, Sakhalin taimen, and kokanee salmon.

An aerial photograph of the park's Akan region covers the floor of the Activity Zone. In order to protect this image, we ask that you remove your shoes before entering the room. Please use the slippers provided. Thank you for your cooperation.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

アクティビティサロンは、阿寒摩周国立公園のうち、阿寒地域の魅力的で独特な自然環境について学ぶスペースです。阿寒カルデラを構成する火山、湖の成り立ちやそれにより育まれてきた動植物が、解説ボード、イラスト、標本などで説明されていて、観光客は、この国立公園についてさらに理解を深めることができます。また阿寒湖に生育するマリモのほか、イトウ、ヒメマスなどの生体展示を行っています。

アクティビティサロンの床一面を覆っているのは、阿寒摩周国立公園の阿寒地域の航空写真です。この画像を守るため、入室前には靴を脱いでいただくよう、お願いします。用意されたスリッパをご利用ください。ご協力ありがとうございます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Forests of the National Park

Ecosystem

Coniferous trees such as the Yezo spruce and Sakhalin fir make up approximately 70% of the forests of the Akan-Mashu National, while the remaining 30% is broadleaf trees, including Japanese oak, Japanese elm, Japanese linden, and painted maple. This unique mixture of plant life provides an abundant supply of food and a wide variety of habitats for wildlife. These forests are inhabited by Yezo shika deer, brown bears, Siberian flying squirrels, black woodpeckers, a multi-colored beetle called Ainukin-osamushi (*Carabus kolbei*), and many other wild animals found only in Hokkaido.

Influence of Volcanic Activity

The forest floors have varying levels of acidity resulting from centuries of volcanic activity. In the early stages after an eruption, Sakhalin spruce thrives in acidic soil, and over time the soil's pH balance becomes more neutral as a result. This allows different types of plants to grow and the forest's cycle of regeneration to develop. Fallen leaves from the deciduous trees create mold on the forest floor, which fertilizes the ground and helps seedlings grow. Conifer trees also provide nutrients and benefit to the environment when they fall to the ground and decay, as moss develops, helping create a damp environment.

The forest at the base of Mt. Oakan consists mainly of Sakhalin fir and Yezo spruce, while communities of Sakhalin spruce are located on Mt. Meakan. Forests of Erman's birch can be found in the areas surrounding Mashu Caldera and Mt. Nishibestudake. Even within the same national park, various types of trees, a wide range of undergrowth vegetation, and many animal species combine to create a multitude of habitats.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

国立公園の森林

生態系

エゾマツやトドマツのような針葉樹が、阿寒摩周国立公園の森林の約 70%を占めています。残りの 30%は、ミズナラ、ハルニレ、シナノキ、イタヤカエデのような広葉樹です。植物が独特に混合していることで、野生生物には豊富な食べ物と様々な生息場所があります。森には、エゾシカ、ヒグマ、エゾモモンガ、クマゲラ、アイヌキンオサムシという多色の虫、

その他、北海道特有の多くの野生動物が生息しています。

火山活動による影響

長年に渡る火山活動のため、林床の酸度は様々です。噴火の後にアカエゾマツが酸性土壌で育ち、その結果土壌が中性化します。これにより、さまざまな植物も育つことができます。広葉樹が林床に落葉することでできる腐葉土は、地面を肥やし、種が育つのを助けます。さらに、針葉樹が林床に倒れ、腐敗すると、それを養分にして苔が生え、湿潤な環境を作ります。

雄阿寒岳の山麓に広がる森は、主にトドマツ、エゾマツで構成されています。雌阿寒岳には、アカエゾマツ群落があります。摩周カルデラや西別岳周辺の地域では、ダケカンバのみが生える森もあります。このように同じ国立公園内でも森林を構成する樹種は様々であり、それに伴い、下層植生やそこで生きる動物種も様々です。

本事業以前の英語解説文

なし

9

No.10 Fumaroles of the National Park, Akankohan Eco-museum Center, Hokkaido

<阿寒摩周、北海道>

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター
【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Fumaroles of the National Park

About Caldera

Akan-Mashu National Park is located along the Eastern Japan Volcanic Belt. The calderas, areas of land that have collapsed when repeated volcanic activity created an empty space underground, are the distinguishing features of this national park. The three calderas within the park—Akan Caldera, Mashu Caldera, and Kussharo Caldera—greatly affect the landscape and the organisms that inhabit it.

Akan Caldera has a diameter of 10 km. According to current research, this caldera is believed to have begun forming after eruptions over 1,300,000 years ago, with the caldera's current shape being approximately 150,000 years old. Repeated volcanic activity formed the mountains, lakes, and rivers that exist today.

Characteristics of Bokke

One type of active volcanism still visible in the Akan region today are bokke, areas where volcanic gases and boiling mud from underground build up and bubble continuously to the surface of the earth. A type of mud volcano, bokke can be seen on the Bokke Walking Trail along the shore of Lake Akan, as well as around Mt. Furebetsu and the Mt. Hakuto Observatory. The earth remains warm year-round from the geothermal activity around bokke. In fact, snow does not accumulate here, even in the middle of winter. As a result, living things that are usually found in temperate zones, such as madarasuzu (*Dianemobius nigrofasciatus*), a type of cricket, and plants such as milkworts, forked fimbry, and staghorn clubmoss, can be seen growing around bokke. It is common to see Yezo shika deer gather around bokke during the harsh winter months because of the abundance of food available.

Mt. Meakan is one of Hokkaido's most active volcanoes. From the summit, volcanic smoke can be seen rising from the raging crater. Most recently, small eruptions occurred in 2006 and 2008.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

国立公園の噴気孔

カルデラとは

阿寒摩周国立公園は東日本火山帯沿いに位置しており、この国立公園の地形の特徴であるカルデラは、何度もの火山活動によって形成されました。カルデラとは火山活動により大きく陥没してできた地形のことを言います。公園内には阿寒、摩周、屈斜路という3つのカルデラがあり、公園内の景観や生物に大きな影響を与えています。

ここ阿寒地域は阿寒カルデラが存在しますが、その大きさは直径 10km を超えます。これまでの研究から、阿寒カルデラは、130 万年以上にわたって起こった爆発的噴火により、約 15 万年前におおよそ現在の形状になったことがわかっています。その後も幾多の火山活動を繰り返し、現在のような山、湖、川の配列ができたと言われてしています。

ポツケの特徴

この地域で現在もなお、見られる火山活動の 1 つに、ポツケという、地下から火山ガスと泥が連続的に沸き上がる、煮え立つ現象があります。泥火山の一種です。ポツケは、阿寒湖畔沿い、フレバツ岳や白湯山の展望台付近で見ることができます。ポツケ周辺では地熱活動があるため、年間を通して土は暖かく、真冬でさえも地面に雪が積もりません。この珍しい現象のため、ポツケ周辺では通常は温帯で見られるマダラスズ（コオロギの一種）ヒメハギ、テンツキ、ヒカゲノカズラのような植物が、見られます。厳しい冬の間、餌が容易に得られるポツケの周りに、エゾシカが集まっているのをよく見かけます。

また、雌阿寒岳は、北海道で最も活発な活火山の 1 つとして知られおり、山頂まで行くと、噴煙を上げる荒々しい火口を見ることができます。最近では、2006 年と 2008 年に小規模な噴火を起こしました

本事業以前の英語解説文

なし

10

No.11 Rivers and Streams of the National Park, Akankohan Eco-museum Center, Hokkaido <阿寒摩周、北海道>

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Rivers and Streams in the National Park

Aquatic Environments

The rivers and streams within Akan-Mashu National Park are clearly essential for the plants and animals that inhabit this region. Running throughout the forests, the waterways connect the various lakes to each other and to the sea. They provide a glimpse into the Akan area's ancient river ecosystems.

In spring, melting mountain snows cause streams to rush with fresh water, sometimes threatening to break their banks. However, dense vegetation grows along these riverbanks, stretching out into marshland areas that provide an important buffer zone from floods. The forests and rivers thus naturally balance, helping each other to contain seasonal changes in water flow.

Ecosystem

Many varied forms of life can flourish due to the interaction between forest and waterway. Rivers sustain the lives of aquatic insects such as caddisflies, fish such as white-spotted char and cottus nozawae, and piscivores like Blakiston's fish owls and crested kingfishers. In addition, rivers provide land dwellers with water and a vital source of food. Yezo shika deer, brown bears, dragonflies, and butterflies are frequently seen along the riverbeds.

The Akan River is one of the principal rivers of this area. With a length of 98 km, it exits Lake Akan in the Takiguchi Waterfall area, winds its way south towards Kushiro, and empties into the Pacific Ocean. Even smaller tributaries have their own unique attractions: the Ibeshibetsu River, one of many that feed into Lake Akan, has kokanee salmon that swim upstream to their birthplace, laying their eggs there during each spawning period. The Rawan River flows from Lake Onneto and is home to Rawan-buki, a rare giant plant species that grows up to three meters tall.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

国立公園の河川

流域の環境

阿寒摩周国立公園の河川は、この地域に生息する植物や動物にとって不可欠です。川は森を流れ、多くの湖をつなげて、海へ流れ出ています。この川が、阿寒地方の原始の水系を垣間見せてくれます。

川は、新鮮な春の水と共に流れ、様々な自然環境を育みます。河岸沿いには、植物が密生し、湿地帯にまで広がっています。森は、過剰な水を留めて、川の氾濫を防いでいます。

生態系

このような、森と川の独特な相互関係のおかげで、様々な生命体がたくさん育っています。川は、トビケラのような水生昆虫や、アメマス、ハナカジカのような魚類、シマフクロウ、ヤマセミのような魚食鳥類の生命を維持しています。それに加えて、川は森に水と豊富な栄養を与えています。河岸でよく見られる他の動物は、エゾシカ、ヒグマ、トンボ、チョウなどです。

阿寒地方の主な川の1つは阿寒川です。長さ98キロで、滝口地域で阿寒湖に源を発し、釧路方面へ南下して太平洋へと注いでいます。イベシベツ川は、阿寒湖に流れ込んでいる多くの川の1つです。産卵期には、ヒメマスが産卵のために、流れに逆らってこの場所に戻ってきます。オンネトー湖から流れる螺湾川もまた、魅力的な水系です。ここでは、高さ3メートルにまで成長するラワンブキという種が生育しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Lakes and Marshes of the National Park

History

The Akan area is a caldera (large volcanic crater) volcano that formed as a result of volcanic activity from Mt. Fuppushi, Mt. Furebetsu, Mt. Meakan, and Mt. Oakan. Many lakes, ponds, and marshes dot the area and support an array of flora and fauna.

There are approximately ten lakes of varying size around Mt. Oakan. Originally, these lakes were joined as one enormous lake referred to as Old Lake Akan. Eruptions from Mt. Oakan between 10,000 and 6,000 years ago caused the old lake to be partially filled in, giving rise to the separate lakes that remain today.

Features of Lakes and Marshes in the Akan Region

Lake Akan is the region's most well-known body of water. The lake is the natural habitat of Marimo, a rare spherical algae, and kokanee salmon, a saltwater fish that is also adapted to fresh water. The nutrients that seep into the lake from the surrounding forests are one reason these unusual forms of life thrive here. The lake's water level remains stable year-round due to the forest's natural ability to regulate seasonal water flow. Lake Panketo and Lake Penketo, the next two largest lakes, are located deep in the forests of Mt. Oakan's northeastern foothills. Aside from these three large lakes, there are also the smaller water bodies of Lake Taro, Lake Jiro, and the Hyotan Swamp. Despite originating from the same source, all of these lakes have varying levels of water quality.

In contrast to the lakes around Mt. Oakan, Lake Onneto was formed after an eruption from Mt. Meakan created a dam. The cobalt-blue waters of the lake changes to different shades of green and blue depending on the weather, time of day, and the watcher's viewpoint, which is why it is one of Hokkaido's "Three Mysterious Lakes."

上記解説文の仮訳（日本語訳）

国立公園の湖沼

成り立ち

阿寒地域は後カルデラ火山（大きな火山性クレーター）であるフップシ岳、フレバツ岳、雌阿寒岳、雄阿寒岳の火山

活動によって形成され、多くの動植物が生息する、様々な湖、池、沼が点在しています。

雄阿寒岳の周囲には大小 10 ほどの湖沼があります。元々は、古阿寒湖と呼ばれる 1 つの巨大な湖でした。約 10,000 ～6,000 年前の雄阿寒岳の噴火によって、以前の湖は部分的に埋められ、現在残っている、10 の別々の湖ができました。

阿寒地域の湖沼の特徴

代表的な湖はなんといっても阿寒湖です。阿寒湖は、マリモという珍しい球形の藻や、ヒメマスという、海水魚から適応した淡水魚の自然の生息地として知られています。周囲の森の木々から湖へ注がれる栄養が、このような珍しい生命体が成長する理由の 1 つです。森の保水力などのおかげで、湖の水位は年間を通して一定です。次の 2 つの大きな湖であるパンケトーとペンケトーは、雄阿寒岳の北東山麓の深い森の中にある湖です。この 3 つの大きな湖の他、小さな湖には、太郎湖、次郎湖、ひょうたん沼などがあります。最初は同じ湖であったにも関わらず、これらの湖の水質は様々です。

これら雄阿寒岳周辺の湖沼とは違って、オンネトーは、雌阿寒岳噴火で水が堰き止められてできた湖です。この湖を満たすコバルトブルーの水は、天候、時間帯、見る場所によって青緑の色合いを変えます。オンネトーは、北海道三大秘湖の 1 つに数えられています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター
【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Wetlands of International Importance (Ramsar Sites) in Hokkaido

The Ramsar Convention calls for the conservation of important wetlands around the world that serve as waterfowl habitats, and the protection of animals and plants that live and thrive in these wetlands. The Ramsar Convention was signed in the Iranian city of Ramsar in 1971, with the Cobourg Peninsula in Australia becoming the first designated site in 1974. There are now over 2,200 Wetlands of International Importance (Ramsar Sites) worldwide. Japan joined the convention in 1980 and presently has over 50 designated sites.

To become a Ramsar site, a wetland must meet at least one of nine Criteria for Identifying Wetlands of International Importance. For example, the area must support threatened ecological communities, regularly support over 20,000 waterbirds, or support a significant proportion of indigenous fish species.

There are thirteen Ramsar wetland sites located throughout Hokkaido. Known for its fertile natural environment, Hokkaido has the highest density of Ramsar sites of any region in Japan. It plays an important role as a habitat for various indigenous waterfowl as well as for many migratory birds.

Lake Akan is the only Ramsar site in Akan-Mashu National Park. Designated in 2005, it is notable for being the habitat of Marimo, a type of freshwater algae. Sakhalin taimen, the largest freshwater fish in Japan, and kokanee salmon, a saltwater fish now adapted to freshwater, also call this lake home, while a wide range of birds and mammals depend on the lake's ecosystem, including the surrounding forests of Yezo spruce, Sakhalin fir, and Japanese oak.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ラムサール条約登録湿地

ラムサール条約は、水鳥の生息地となっている世界中の重要な湿地帯の保存、および、このような湿地帯に生息する動植物の保護を求めるものです。ラムサール条約は、1971年にイランの都市ラムサールで制定され、1974年、オーストラリアのコバーグ半島が最初に指定されました。現在は、2,200以上の「国際的に重要な湿地」（ラムサール条約登録湿地）が世界中にあります。日本は、1980年に条約に加盟し、すでに50以上の登録地があります。

湿地は、9つの「国際的に重要な湿地を選定する基準」のうち、少なくとも1つの基準を満たしていなければいけません。例えば、湿地は、危機に瀕した生態学的共同体を擁している、定期的に2万羽以上の水鳥を擁している、固有の魚類が相当な割合を維持している等です。

この情報板では、北海道にある13のラムサール条約登録湿地を紹介しています。北海道は肥沃な自然環境で知られており、ラムサール条約登録湿地の数が日本で一番集中している地域です。水鳥の生息場所や渡り鳥飛来地として重要な役割を果たしています。

阿寒湖は、阿寒摩周国立公園で唯一のラムサール条約登録湿地です。2005年に指定され、魅力的な淡水藻であるマリモや、日本最大の淡水魚であるイトウ、ヒメマスなどの生息地として有名です。無数の鳥類や哺乳類が、エゾマツ、トドマツ、ミズナラの森で囲まれた湖沼の生態系に依存しています。

本事業以前の英語解説文

The Ramsar Convention calls for the conservation of internationally important wetlands which serve as waterfowl habitats, and the animals and plants which live and thrive in these wetlands. In order to promote the wise use of wetlands, the Ramsar Convention was enacted in 1971, and Japan joined the Convention was in 1980. Within Japan, there are presently over 50 wetlands designated as Ramsar sites, including Lake Akan. This publication introduces the Ramsar site wetlands found throughout Hokkaido. Known for its abundant natural environment, Hokkaido is home to more Ramsar sites than any other region of Japan, which hold important roles as waterfowl habitats and migratory bird stopover habitats.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター
 【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Maeda Ippoen Foundation

The Maeda Ippoen Foundation was established to contribute to the conservation and sustainable management of Hokkaido's natural environment, to preserve the Akan region's beautiful ecosystems for future generations.

The foundation has four main activities. Forest Preservation aims to sustain the 3,900 hectares of forestland (including an urban area) given to the trust by the Maeda family, while Natural Environment Conservation protects Hokkaido's abundant flora and fauna. The Land Lease Business regulates use of the land owned by the foundation, and the Hot Spring Business supplies hot spring water to hotels and public facilities in the town of Akanko Onsen. The foundation's first two goals are funded by the latter two enterprises.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

前田一步園財団について

前田一步園財団は、北海道の自然環境の適正な利用と保全に貢献するために設立されました。阿寒の美しく魅力的な大自然をより多くの人々が永遠に味わえるようにするためです。

財団は、4つの事業を行っています。「森林保全活動」は、前田家が託した3,900ヘクタールの森（一部市街地を含む）を維持することが目的です。北海道の豊かな動植物についての「自然普及活動」も行っています。「土地貸付事業」では、財団所有の土地の貸付を行っています。「温泉事業」は、阿寒湖温泉のホテルや公共施設に温泉を供給しています。後半2つの事業が、前半2つの事業の資金源となっています。

本事業以前の英語解説文

The Maeda Ippoen Foundation was established to contribute to the conservation and wise use of Hokkaido's natural environment, to facilitate the appreciation of these natural wonders by many people far into the future. The foundation carries out four operations: "Forest Preservation Activities" to foster the 3,900-hectare forests (including urban areas) entrusted by the Maeda family, "Natural Environment Conservation Activities" to safeguard Hokkaido's abundant nature, as well as "Land Lease Business" and "Hot Spring Business" to provide financial backing for ongoing activities.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Mammals

Brown Bear

Brown bears are the largest land mammal in Japan, with females weighing up to 300 kg and males weighing as much as 500 kg. Females are approximately 2.5 m in length with the males about 3 m. Indigenous to the Northern Hemisphere, Hokkaido is the world's southernmost brown bear habitat. As omnivores that eat a varied diet, they are able to adapt more easily to Akan's harsh seasonal changes. In the Ainu language, brown bears are called *Kim-un-kamy* which means "god of the mountains." According to the Ainu people, brown bears are disguised deities that have been sent to provide assistance to humans. In the past, bear meat provided the Ainu with food, bear hides were used to make warm clothing, and other body parts were used as medicine.

Yezo Shika Deer

Many of the Akan region's Yezo shika deer migrate north during the summer to Lake Kussharo and the Abashiri region, and the forests of Akan serve as an important wintering spot due to natural warmth from the region's abundant geothermal energy.

In the past, these animals were in danger of becoming extinct. At the beginning of the Meiji Period (1868–1912), tens of thousands of Yezo shika deer were killed by immigrants who had moved to Hokkaido from Honshu to develop the land. The meat and fur of the deer were exported. Along with this overhunting, in the winter of 1879, the deer experienced a lack of food due to heavy snow. Their numbers plummeted to the point where they were on the verge of becoming an endangered species. As a result, the hunting of Yezo shika deer was banned in 1890. While this ban was lifted in 1957, the deer population rapidly increased beginning around 1980. The deer are now no longer at risk of becoming extinct. Numerous factors have contributed to their recovery, including a decrease in the number of hunters, and better management of the forests. Today, Yezo shika deer can often be seen in towns including Akanko Onsen and on the surrounding national highways. Unfortunately, the larger numbers of deer have damaged forest vegetation and cause more traffic accidents.

Siberian Flying Squirrel

With its tiny body and big, round eyes, the Siberian flying squirrel is one of Hokkaido's most adorable inhabitants.

They have a membrane that stretches between their front and rear limbs, allowing them to “fly” distances of 20 m to 30 m. Siberian flying squirrels are nocturnal mammals, and often uses holes made by woodpeckers as shelter during the day. They spend the majority of their waking hours in the treetops. They get their food from the trees around their homes, living on a diet consisting mainly of leaves, buds, seeds, and bark.

Siberian flying squirrels are not able to move well on the ground. Thus, when trees are cut down for development, previously connected sections of forests may become separated, and like an island that suddenly loses its bridge, this results in the squirrels no longer having access to their normal migration paths. If they are not able to breed or move about on their usual paths, this can cause a decrease in population size. Akan Mashu National Park strives to help prevent this from occurring through enforcing development regulations.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

哺乳類

ヒグマ

ヒグマは、日本最大の陸生哺乳動物で、最大で体重は、300 キロ（雌）、500 キロ（雄）、体長は約 2.5 メートル（雌）、3 メートル（雄）にまで成長します。北半球に生息し、北海道は最南端の生息地です。何でも食べる雑食動物のため、阿寒の厳しい季節の変化に食事を適応できています。アイヌ語では、ヒグマは「山の神」を意味するキムンカムイと呼ばれています。アイヌ民族によると、ヒグマは、人々に恵みをもたらすために送られた、神の化身です。かつては、ヒグマの肉は食糧に、皮は暖かい衣類になり、一部は薬にも使われました。

エゾシカ

阿寒地域のエゾシカは、北方の屈斜路湖や網走地方に季節的に移動するものが多く、地熱があるせいか、阿寒の森はエゾシカの重要な越冬地になることもわかっています。明治時代(1868-1912)、開拓のため本州から移住した和人が、肉や毛皮を加工し、海外へ輸出する目的で、何万頭ものエゾシカを乱獲しました。この乱獲に加えて、1879 年の冬の大雪で餌不足などにより、絶滅寸前まで数が激減したため、エゾシカ保護の目的で 1890 年から禁猟されました。その後、1957 年以降に狩猟が解禁されたにもかかわらず、1980 年頃から急激に増加し、分布も拡大しています。もはや絶滅の危機にはありません。これには、狩猟者が減少したこと、山林を適切に管理する人々が少なくなったことなどたくさんの要因があります。現在、阿寒湖温泉街や周辺国道でもエゾシカが頻繁に見られ、森林植生の食い荒らし、交通事故の増加などの被害も出ています。

エゾモモンガ

エゾモモンガは、小さな体と大きな丸い目を持っているため、北海道で最もかわいらしい動物の 1 つとして知られています。その際立った特徴は、前脚と後ろ脚の間で広がる飛膜で、20～30 メートルも「飛ぶ」ことができます。エゾモモンガは夜行性の動物で、日中は、キツツキがあけた穴をねぐらに利用することもあります。主に木の葉、芽、種、木の皮を食べ、自分が住んでいる木の周辺の木から食べ物を得ています。

モモンガは地面に降りて移動することができません。森の伐採（住宅地の拡大など）により、森林の孤立・分断化が進むと移動経路を絶たれたこととなります。例えば、島を結ぶ橋がなくなった状態です。そうになると、繁殖や分散が正常に行えなくなり、数が減少していくと考えられます。阿寒摩周国立公園ではこうしたことを避けるために開発を規制し

ています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Plants

Meakan-fusuma

Meakan-fusuma (*Arenaria merckiioides Maxim.*) is a plant named after Mt. Meakan, where it was first discovered. It is an alpine plant with a mass of tiny white flowers, resembling the stars in the night sky. Native to Hokkaido, it is found only on Mt. Meakan, along the Shiretoko Peninsula, and on the Kuril Islands, an island chain stretching approximately 1,300 km northeast of Hokkaido.

On Mt. Meakan, Meakan-fusuma inhabits the rocky slopes above the forest of creeping pines, starting at an altitude of 1,000m and continuing up to the 1,499 m summit. The plant grows to a height of between five and fifteen centimeters and begins to flower after the snow melts in June. It typically continues to bloom through August, attracting butterflies and other insects. Its five white pointed petals and green leaves stand out on the bleak volcanic slopes, and is visible along the Mt. Meakan Trail. Meakan-fusuma can also be seen between Mt. Meakan and Mt. Akanfuji, spreading in a meadow along the valley and swamp that link the two mountains.

Meakan-kinbai

Named after Mt. Meakan where it was first discovered, the Meakan-kinbai (*Potentilla miyabei Makino*) is a rare alpine plant. Kinbai means gold plum, because its yellow flowers resemble plum blossoms. Meakan-kinbai is a species of ground-covering plant that grows about three to ten centimeters in height. It blooms from June to July and can be seen in the alpine regions of Hokkaido such as the Akan area, Shiretoko, the Daisetsuzan Volcanic Group, and Mt. Yotei, as well as on the Kuril island chain that reaches 1,300 km northeast of Hokkaido.

The heads of the flowers extend well above the grayish-green leaves on long stems. Looking closely at the plant reveals that each of the five petals has a narrow, stem-like base that creates an unusually wide gap between the petals. Shoots have three small leaves, each of which has three points. The petals, pistil, and stamen are entirely yellow, adding a vibrant splash of color along the hiking trails of Mt. Meakan.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

植物

メアカンフスマ

メアカンフスマは、最初の発見地である雌阿寒岳にちなんで名付けられました。たくさんの小さな白い花をつける高山植物で、夜空の数百万の星に似ています。北海道原産で、雌阿寒岳、知床半島沿い、北海道の北西約 1,300 キロ先に広がる千島列島でのみ見られます。

雌阿寒岳では、メアカンフスマは、ハイマツの森の上にそびえる岩だらけの斜面に生え、標高 1,000 メートルから始まって、標高 1,499 メートルの山頂にまで生息しています。高さ 5～15 センチに成長し、6 月の雪解け後から、開花します。一般的には、8 月まで花が咲き、チョウや他の虫を引き寄せます。5 枚のとがった白い花びらと、緑色の葉は、荒涼とした火山の斜面ではひときわ目立ち、雌阿寒岳登山のハイライトの 1 つとなっています。メアカンフスマは、雌阿寒岳と阿寒富士の間にある谷や沢沿いに広がる、息をのむほど美しい花畑でも見られます。

メアカンキンバイ

メアカンキンバイは、最初の発見地である雌阿寒岳にちなんで名付けられた、珍しい高山植物です。キンバイとは、金色の梅という意味で、花の黄色と、梅の花に似た形を表しています。メアカンキンバイは、高さ 3～10 センチに育つ、地表植物の一種です。6 月から 7 月にかけて開花し、阿寒地方、知床、大雪火山群、羊蹄山、北海道の北西約 1,300 キロ先に広がる千島列島のような高山帯で見られます。

茎が長く、頭花は灰緑色の葉の上まで伸びています。この植物を間近で見ると、5 枚の花弁のそれぞれに、細い、茎のような基部があるため、花弁間に非常に大きな隙間があります。芽には、3 枚の小葉があり、それぞれに 3 つの歯牙があります。花弁、めしべ、おしべはすべて黄色で、雌阿寒岳の登山コース沿いに鮮やかな色を添えます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Fish

Sakhalin Taimen

Sakhalin taimen is a type of salmon. It is the largest freshwater fish in Japan and was first discovered in Hokkaido. Unlike other salmon, Sakhalin taimen is a long-lived species, with some living as long as fifteen or twenty years and measuring over one meter in length. In Ainu legend, Sakhalin taimen are powerful enough to attack Yezo shika deer or stop a river's flow. Their name includes the Kanji character for ogre, a reflection of the ancient belief that these fish are a savage animal.

In reality, Sakhalin taimen primarily eat aquatic insects and small fish. In the past, wild Sakhalin taimen also inhabited the Tohoku region of Japan. Today, Sakhalin taimen are rarely seen anywhere in Japan and have become extinct in the wild, even in Lake Akan. They are now being raised and released in an effort to re-establish the species.

Kokanee Salmon

Kokanee salmon is a landlocked variety of sockeye salmon. Usually, sockeye salmon lay their eggs in rivers, after which the juveniles remain in the river for two to three years before making their way downstream to the ocean, where they take three to eight years to reach maturity. They then return to their birth river to spawn before dying. However, kokanee salmon are sockeye salmon that became trapped in Lake Akan due to volcanic eruptions that altered the land after the fish had swum upriver. They have now adapted to a life spent entirely in freshwater.

Kokanee salmon take approximately three years to reach adulthood. They lay their eggs in the clear waters of rivers, then die shortly after. Kokanee salmon from Lake Akan have been introduced to lakes across Japan for commercial fishing.

Japanese Smelt

The Japanese smelt is a small fish of approximately ten centimeters in length. They mainly eat plankton and midge larvae and the like. They are extremely adaptable and inhabit various waterways including bays, lakes, and the lower

reaches of rivers.

From January to March, visitors and locals alike can enjoy the rare sport of winter smelt fishing from atop the frozen Lake Akan. The smelt were introduced from Lake Abashiri on the northern coast of Hokkaido and have since become one of the most populous fish in the lake.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

魚

イトウ

イトウ (Sakhalin taimen) は、サケ科の一種で、日本最大の淡水魚とされています。国内では北海道で最初に発見されました。サケ科としては珍しく、寿命が長く、長ければ15年から20年ほど生き、体長も1メートル以上にまで成長することもあります。アイヌの伝説では、イトウはエゾシカを攻撃し、川の流れを止めることができる魚です。この魚の名前は、悪魔を意味する言葉と似ており、そのため、ネズミからヘビまで何でも食べる獰猛な生き物と信じられていました。

現実では、イトウは主に小さな魚を食べます。かつては東北地方にも野生のイトウが生息していました。今では国内で野生のイトウはほとんど見られません。阿寒湖でも野生のイトウは絶滅したとされており、代わりに、養殖され、放流されたイトウが生息しています。

ヒメマス

ヒメマス (kokanee salmon) は、ベニザケ (sockeye salmon) の陸封型です。ベニザケは川で孵化し、(2~3年生活し) 海へ向かって川を下って行きます。3~8年で成熟し、再び川に戻ってきて産卵し、その後死にます。ヒメマスは、遡上したベニザケが火山噴火などによる地形変動で、阿寒湖に閉じ込められ、淡水条件下で一生活を過ごすよう適応したものだと言われています。

ヒメマスは成魚になるのに約3年かかります。川の澄んだ水に卵を産み、その後まもなく死にます。阿寒湖のヒメマスは、水産業用として国内の他の湖でも移入されています。

ワカサギ

ワカサギ (Japanese smelt) は、体長わずか10センチほどの小さな魚です。主にプランクトン、小昆虫の幼虫のような生物を食べます。極めて適応性があり、様々な河川の他にも、湾、湖、下流河川などに生息しています。

1月から3月には、凍った阿寒湖の上で、冬のワカサギ釣りという珍しいスポーツに挑戦できます。阿寒湖のワカサギは、北海道の北岸にある網走湖から移入されました。それ以降、阿寒湖で主要な魚の1つになりました。

本事業以前の英語解説文

Kokanees are lake fish versions of sockeye salmon that are native to Lake Akan, Normally, during their juvenile period, sockeye salmon swim out to sea and mature there, but those that spend their entire lives in the lake are called kokanees. Also, it is said that the kokanees were first transported to Lake Shikotsu from Lake Akan before they were transported to other regions of Japan.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Birds

Black Woodpecker

The black woodpecker is the largest species of woodpecker living in Japan. Its Japanese name is “kumagera.” *Kuma* means “bear” in Japanese, referring to the black woodpecker’s large size. According to Ainu legend, the birds warn others when a bear is nearby. Black woodpeckers are said to be able to guide people who have lost their way.

The calls of the black woodpecker can be heard all around Lake Akan. Although a rare experience elsewhere in Japan, the large numbers of black woodpeckers here means that visitors have a very good chance of spotting one. The woodpeckers use their beaks to make holes in both large living trees and decayed trees, and eat insect larvae found in the trunk. The hammering sound they make can be heard throughout the forest. The territory of one pair span approximately 200 hectares, and they stay within this area even during the harsh cold of winter. A breeding pair will take turns incubating their eggs and will share the duty of feeding their chicks.

Black woodpeckers grow to about 50 cm in length with a wingspan close to 70 cm. They are distinguishable by their jet-black body and bright red head. A rare bird in Japan, they were designated a Natural Monument in 1965.

White-tailed Eagle

Adult white-tailed eagles grow to 70 to 100 cm in length with a wingspan of 180 to 240 cm. They are a migratory bird that comes to Hokkaido from northern Eurasia for the winter. White-tailed eagles are a type of sea eagle, and as such, they commonly live in coastal areas. However, in rare cases, some white-tailed eagles make their way further inland to Lake Akan. The birds build their nests on the tops of large trees along the lakeshore and in the surrounding forests. They fly low across the surface of the water to catch fish and dive down to catch small mammals on land. The white-tailed eagles around Lake Akan are known to eat large fish such as white-spotted char.

White-tailed eagles and their habitat have faced various threats. Deforestation in Hokkaido decreased the number of nests and roosting grounds. Also, some white-tailed eagles died from poisoning after consuming Yezo shika deer that were shot and killed with lead bullet. In order to protect the eagles, the shooting of Yezo shika deer with lead bullets is now banned in Hokkaido. White-tailed eagles were designated a Natural Monument in 1970 and are currently classified by the Ministry of the Environment as a “Red List” endangered species.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

鳥

クマゲラ

クマゲラ (black woodpecker) は、日本に生息するキツツキ科の中で最大種です。クマとは「クマ (bear)」の意味で、名前の「クマ」は体が大きいことを表しており、アイヌの人々の間では「クマの居場所を教えてくれる鳥」や「道に迷ったときに道案内をしてくれる鳥」と崇められていたそうです。

阿寒湖では、クマゲラの鳴き声を聞くことができるかもしれません。この地域に多くのクマゲラが生息していることによるもので、これは日本では珍しいことであり、観光客らはその鳥を見る良い機会になるでしょう。これは阿寒の自然環境の豊かさの証です。クマゲラは、くちばしを使って、大きな木や朽ちた木に穴をあけ、木の幹にいる幼虫を食べます。森のいたる所で、クマゲラが木をつつく音が聞こえます。1組のつがいの縄張りは、約 200 ヘクタールに及び、厳しい冬の間も、この地域に留まります。つがいは、交代で卵を孵化させ、ヒナに餌を与えるのも分担して行います。

クマゲラは、体長 50 センチ前後にまで成長し、翼を広げると、70 センチ近くになります。真っ黒な体と真っ赤な頭で見分けがつかず。全国的にクマゲラの個体数はとても少なくなっていることもあり、1965 年、国の天然記念物に指定されました。

オジロワシ

オジロワシの成鳥は、体長 70～100 センチで、翼を広げると 180～240 センチです。冬になると、ユーラシア大陸北部から北海道へやって来る渡り鳥です。ウミワシの 1 種であることもあり、道内では、多くの個体が海岸沿いに生息していますが、まれに阿寒湖で越冬する個体もいます。海岸沿いでも内陸でも大きな木の梢に巣を作って生活しています。この鳥は、水面を低く飛んで魚を捕まえ、空から急降下して、地上の小さな哺乳類を捕まえます。阿寒湖周辺のオジロワシはアメマスのような大きな魚を食べることで知られています。

オジロワシはさまざまな危機に面しています。北海道での森林伐採は営巣やねぐらの減少を引き起こしました。鉛弾を用いた狩猟で殺されたエゾシカを食べ、鉛中毒になり、死亡する個体もいると言われています。オジロワシの保護のため、北海道では、狩猟での鉛の玉の使用が今では禁止されています。1970 年、国の天然記念物に指定され、現在では、環境省のレッドリストで絶滅危惧種に分類されています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板、ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Marimo: Introduction

Marimo are a rare type of green algae that form in lakes and marshes in relatively cold regions like Russia and parts of North America. In the Ainu language, Marimo are called *torasanbe* which means “spirit of the lake.” In Japan, Marimo were first discovered in Shurikomabetsu Bay in Lake Akan in 1897 by Sapporo Agricultural College (present-day Hokkaido University) student Kawakami Takiya (1871–1915), who was conducting research on local vegetation. Inspired by their appearance, he named the organisms “Marimo,” which means “round algae.” There are three different types of Marimo: long threads or tufts that cling to rocks and shells, tangled clumps that float in the water or accumulate at the bottom of lakes, and round balls. The environmental conditions at Lake Akan are perfect for the growth of circular Marimo, and the lake is the only place in the world where they regularly grow to diameters over 15 cm. Lake Akan’s Marimo were designated as a Special Natural Monument of Japan, recognizing the area’s ability to grow these large, beautiful, and rare spherical plants.

Marimo: Ecology

Marimo are a type of green algae that prefer cold water environments and are commonly found widely distributed in lakes and marshes in high latitudes of the Northern Hemisphere. They are shade-loving plants and can perform photosynthesis even on the bottom of lakes where there is little sunlight. Spherical Marimo are formed when many thread-like Marimo bunch together.

Marimo: Conservation Efforts

As a large and beautiful spherical species of algae seen nowhere else in the world, Lake Akan’s Marimo were designated a Natural Monument in 1921 and a Special Natural Monument in 1952. At the time of discovery, Marimo inhabited four different locations around Lake Akan. However, two colonies on the western shore became extinct during the 1940s due to sediment entering the lake from lumber transportation. The population of Marimo at the two remaining sites continued to decrease due to the large numbers of visitors who were taking them home, as well as lower water levels caused by hydroelectric power generation. In 1950, water levels at Lake Akan decreased so much that the Marimo began to wilt, resulting in a significant population reduction. Seeing this, local people came together to protect the Marimo and established the Human Association for Marimo in Lake Akan (now the Conservation Society of Marimo

in Lake Akan). The Marimo Festival was created with the aim of encouraging people around Japan to return to Lake Akan the Marimo that they had collected. A traditional Ainu spiritual ritual is performed at the festival. It became one of Lake Akan's most famous annual events and is now a popular opportunity to learn about these organisms and their conservation while also experiencing Ainu culture. There are Marimo field trips for children, and events where participants return to the lake Marimo that have been washed up on the shore.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

マリモ：はじめに

マリモは、ロシアや北アメリカなど比較的寒い地域の湖や沼で生育する種類の緑色の藻です。アイヌの言葉で、マリモは「トラサンベ」と呼ばれ、それは「湖の御霊」を意味します。日本では、マリモは1897年に阿寒湖のシュリコマベツ湾で、植生調査していた札幌農学校（現在は北海道大学）の学生の川上瀧彌に初めて発見されました。その外見に感動し、丸い形の藻を意味する「マリモ」という名前をつけました。3つの異なる生活体マリモには存在します。それは、糸状または房状で岩石や貝殻に付着するもの、絡まった状態で水中に浮くまたは湖底に滞積するもの、球状になるものです。直径15cm以上の球状マリモが群生するのは阿寒湖だけです。綺麗な球形に生育するため「阿寒湖のマリモ」は国の特別天然記念物に指定されています。

マリモ：生態

マリモは、北半球の高緯度地方の湖や沼に広く分布する緑藻類の一種で、冷水環境を好みます。また、陰性の植物であり、光の当たりにくい湖の底でも光合成をしつつ、生きることができます。球状マリモは、糸状のマリモ1本1本が集合して形成されています。

マリモ：保護活動

ほかに例を見ない大きさと綺麗な球状が理由となり、1921年、「阿寒湖のマリモ」は国の天然記念物に指定されました。さらに1952年には、特別天然記念物にも指定されています。発見当時は阿寒湖内4箇所に見られましたが、西岸の2箇所のマリモの生息地は、木材搬送によって湖に土砂が流入し、1940年代までに消滅しました。さらに、残された2箇所の群生地も、多くの観光客が阿寒湖に来てマリモを持ち帰ったことや水力発電による過度な水位低下などでマリモの数が減り続けました。1950年、阿寒湖の渇水によるマリモの大量枯死をきっかけに、地元住民がマリモを保護するために集まり、「マリモ愛護会」(現在は「マリモ保護会」)を設立しました。彼らはまりも祭りを開始し、阿寒湖から持ち帰ったマリモを返すよう日本中の人々に呼びかけました。この祭りでは伝統的なアイヌの儀式も行われます。今では、まりも祭りは阿寒湖を代表する行事の1つとなり、マリモについて知り、保護について考えたり、アイヌ文化に触れる行事として地域内外の人々を魅了しています。また、子ども達を対象としたマリモ観察会や打ち上げられたマリモを湖へ返すなどの様々な活動も続けられています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Marimo: Formation and Shapes

The mechanism by which Marimo develop their round shape is somewhat complex. There are two types of spherical Marimo depending on their internal structure. One type consists of many thread-like algae radiating outwards, while the other is formed when thread-like algae become bunched up and gather into a ball.

A number of factors at Lake Akan contribute to the formation of circular Marimo. The wind and waves that are produced due to the unique topography around the lake create just the right amount of movement needed for these Marimo to tumble. This tumbling exposes the entirety of the ball to sunlight, causing photosynthesis to be even and resulting in a round shape. When the wind and waves are too strong, Marimo can be washed up onto the shoreline. If the waves wash the Marimo back into the lake, they can begin to grow again.

Particular properties of Lake Akan's water also affect the growth of Marimo. Cold water from the rivers in the northern area and spring water rich with minerals and chloride ions from Mt. Oakan and the southern shore both flow into this habitat. The mixture of these two water sources creates a balance of nutrients conducive to Marimo development.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

マリモの丸くなり方

マリモはどうやって球状になるのかという質問には、簡単な説明で答えることはできません。球状マリモはその構造から2種類に分けられます。たくさんの糸状体が放射状に並んで丸く育つタイプと糸状体の塊が絡まりあい、丸い形へと成長するタイプがあります。

様々な要因が組み合わさって、球状マリモが育ちます。阿寒湖周辺の独特の地形が生み出す風と波が、球状マリモにちょうど良い速度で回転運動をさせています。この回転運動により、球全体が日光を浴びます。光合成はマリモを成長させます。風や波が強すぎると、マリモが打ち上がってしまうことがあります。打ち上がったマリモは逆向きの波により再び湖に戻されたときは、再度成長を続けることがあります。

また、阿寒湖の水質もマリモの成長に影響を与えています。マリモの生育地には北部からの冷たい川の水が、雄阿寒岳や南岸からはミネラルや塩化物イオンが豊かな湧き水が流れ込みます。これら2つの水源が混ざり合い、マリモにとつ

て良い養分バランスを生み出していると言われています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Lake Akan

Ecosystem

Lake Akan is the third largest lake within Akan-Mashu National Park. It is a designated Wetland of International Importance under the terms of the Ramsar Convention. The lake is a natural habitat of Marimo, a rare freshwater algae that can grow into spheres up to 30cm wide. The Marimo of Lake Akan are designated as a National Special Natural Monument, and removing them from the lake or even touching them is strictly prohibited. The Marimo Exhibition Center on Churui Island, accessible by sightseeing cruise boat, allows visitors to learn more about this mysterious organism. The lake is also home to two types of large freshwater fish, Sakhalin taimen, and kokanee salmon. Unfortunately, in addition to these native residents, the invasive Signal crayfish species has also flourished. They compete with Japanese native crayfish which are now at risk of extinction, and also consume rare shellfish and aquatic plants. For those interested in fishing, the catching of these invasive crayfish is permitted at Lake Akan.

The dense forest of Yezo spruce and Sakhalin fir that surrounds Lake Akan is inhabited by brown bears, Yezo shika deer, black woodpeckers, white-tailed eagles, and many other wild animals.

Activities

Each year around October, the forest blazes with vibrant autumnal colors. In winter the water freezes, and it is possible to walk on top of the lake's surface (snowshoes are available from the Akankohan Eco-museum Center for visitors). Beginning in January are snowmobiling and ice fishing: try your hand at catching Japanese smelt through holes cut in the lake's frozen surface.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿寒湖

生態系

阿寒湖は、阿寒摩周国立公園内で 3 番目に大きな湖です。ラムサール条約で、「国際的に重要な湿地」に指定されています。阿寒湖は、マリモという、最大で 30 センチの球形に育つ珍しい淡水藻の自然生育地です。「阿寒湖のマリモ」は、国の特別天然記念物に指定されていて、湖から採取することはおろか触ることも禁止されています。チュウレイ島にあるマリモ展示観察センターでは、この神秘的な生命体について、さらに学ぶことができます。この島へは、観光船で行けます。

また、阿寒湖には、イトウやヒメマスという、大きな淡水魚がいます。一方、特定外来生物のウチダザリガニが定着しているという残念な事実もあります。ウチダザリガニは在来のザリガニと競合し絶滅に追い込み、希少な貝や水草を捕食してしまいます。阿寒湖ではウチダザリガニの漁が行われています。

阿寒湖を取り囲む、自生のエゾマツやトドマツの深い森には、ヒグマ、エゾシカ、クマゲラ、オジロワシ、その他たくさんの野生動物が生息しています。

楽しみ方

10 月頃には、森は鮮やかな紅葉で赤く染まります。冬には、湖が凍結し、氷の上を歩くことができます。阿寒湖畔エコミュージアムセンターで、スノーシューを借りることができます。1 月になると、ワカサギ釣りや、スノーモービルといったアクティビティも楽しめます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Mt. Meakan

Overview

Mt. Meakan is a 1,499 m mountain southwest of Lake Akan. Climbing to the summit takes approximately two hours and thirty minutes from the Meakan Onsen trailhead, two hours and fifty minutes from the Onneto trailhead, and three hours and thirty minutes from the Akanko Onsen trailhead. The mountaintop offers a 360-degree panorama of the rugged terrain and steaming volcanic crater.

In the Ainu language, Mt. Meakan is called Machineshiri, which means “female mountain.” It is considered to be the wife of Mt. Oakan. Meakan, a composite volcano that has been active for approximately 20,000 years, has repeatedly erupted, creating the mountain’s ten summits. The highest peak, Ponmachineshiri, was formed approximately 4,000 years ago, while Mt. Akanfuji is a parasite volcano that is about 2,000 years old.

Plant Life

Near the summit, alpine plants grow on the scree-covered slopes. Meakan-fusuma (*Arenaria merckiioides Maxim.*), a perennial herb with white flowers, and Meakan-kinbai (*Potentilla mijabei Makino*), a perennial herb with yellow flowers, bloom from June to July. A vast forest of Sakhalin spruce covers the foothills around Meakan Onsen. Due to the constant volcanic activity, the soil is low in nutrients and the smell of sulfuric gases lingers in the air.

Hiking Routes

The mountain has three main hiking routes. The Meakan Onsen Course is the most popular trail. It follows a zigzag path past an area of creeping pines, then climbs a steep gravel slope and passes Akanuma (Red Swamp) and Aonuma (Blue Swamp). The Onneto Course starts from the Onneto campground. This steep, winding trail offers views of Mt. Akanfuji and Lake Onneto. It passes through fumes from the smoking crater before reaching the summit. The Akankohan Course follows a path from Akanko Onsen through the Sakhalin spruce forest, a creeping pine zone, and an alpine flower garden before following a ridge to the summit.

Important: Mt. Meakan is an active volcano with a Volcanic Alert Level system. For your safety, check the current eruption alert level before climbing the mountain.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雌阿寒岳

概要

雌阿寒岳は、阿寒湖の南西にある高さ 1,499 メートルの山です。山頂への登山時間は、野中温泉登山口経由で約 2 時間 30 分、オンネトー登山口経由で約 2 時間 50 分、阿寒湖畔登山口経由で約 3 時間 30 分です。山頂からは、起伏に富んだ山並みや噴煙を上げる火山クレーターの壮大な 360 度のパノラマを眺めることができます。

アイヌ語では、雌阿寒岳は「雌山」を意味するマチネシリです。雄阿寒岳の妻と呼ばれています。雌阿寒岳は、約 2 万年ずっと活動を続けている複合火山です。度重なる噴火によって、この山の 10 個の山ができました。最高峰ポンマチネシリは、約 4 千年前にできました。阿寒富士は 2 千年前に形成された寄生火山です。

植生

山頂付近では、がれ場に高山植物が生えています。6 月から 7 月に、白い花の多年草、メアカンフスマが開花します。6 月から 7 月には、黄色い花の多年草、メアカンキンバイも咲きます。雌阿寒温泉の辺りの山麓の丘は、アカエゾマツの広大な森で覆われています。絶え間ない火山活動のため、土壌は栄養分に欠け、空中には、硫黄の特徴的な匂いが漂っています。

登山コース

この山には、3 つの主な登山コースがあります。雌阿寒温泉コースは、最も人気があるコースです。ジグザグの道をたどって、ハイマツ帯、砂礫の急斜面、赤沼・青沼などへ向かいます。オンネトーコースは、オンネトー国設野営場から出発します。ジグザグの急勾配の山道からは、阿寒富士やオンネトーを眺めることができます。山頂へ到着する前には、噴煙を上げるクレーターから漂う火山ガスの中を通ります。阿寒湖畔コースは、阿寒湖温泉側から登るコースで、アカエゾマツの森、ハイマツ帯、高山植物の花畑などを通る道を進んだ後、山頂への尾根をたどります。

重要： 雌阿寒岳は活火山です。安全のため、登山前には噴火警戒レベルをご確認ください。

本事業以前の英語解説文

This 1,499-meter mountain lies southwest of the Akan Caldera. Climbing times (without descent) are approximately 2 hours 30 minutes via the Nonaka Onsen trailhead, 2 hours 50 minutes via the Onneto trailhead, and 3 hours 30 minutes

via the Akankohan trailhead. The summit offers a 360-degree panorama of the rugged terrain of the steaming volcanic crater.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板、ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Mt. Oakan

Overview

Mt.Oakan is a 1,370 m mountain to the east of Lake Akan. From the trailhead, it is approximately three hours and thirty minutes to the summit. The mountaintop offers panoramic views of the twin lakes Penketo and Panketo, as well as of Lake Akan. On a clear day, Lake Kussharo, the Shiretoko Mountain Range, and the Daisetsuzan Volcanic Group can be seen in the distance.

In the Ainu language, Mt. Oakan is called Pinneshiri, which means “male mountain.” The Ainu people believe that it is the husband of Mt. Meakan.

Plant Life

Visitors can observe alpine plants growing at different altitudes on this active volcano. From mossy rocks to a forest of conifer trees, various flora can be seen all along the trail. Plants such as creeping dogwood, a white flower that blooms in June and July, and tsubameomoto (*Clintonia udensis Trautv. et C.A. Mey.*), a perennial herb that produces white flowers and dark-blue berries, cover the forest floor. There are also clusters of Erman’s birch, and naturally-formed tunnels of creeping pine. Around the summit the creeping pines become less prevalent, but brightly colored alpine flowers such as black crowberries, cowberries, pincushion plants, and ukon-utsugi (*Macrodiervilla middendorffiana (Carrière Nakai)*) bloom in profusion.

Hiking Routes

The starting point for climbing Mt. Oakan is located at the Takiguchi Waterfall, five kilometers east of Lake Akan. From the trailhead to the summit and back is approximately seven to eight hours. Along the trail, it is possible to spot various animals such as squirrels, Yezo shika deer, and red foxes. Warning: brown bears also inhabit this area.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雄阿寒岳

概要

雄阿寒岳は、阿寒湖の東にある高さ 1,370 メートルの山です。登山口から山頂までは、約 3 時間 30 分です。山頂からは、双子の湖であるペンケトーとパンケトーを見下ろすことができます。阿寒湖も少し見えます。晴れた日には、遠くに屈斜路湖や知床連山、大雪山系まで望むことができます。

アイヌ語では、雄阿寒岳は「男山」を意味するピンネシリと呼ばれ、雌阿寒岳の夫と信じられています。

植生

この活火山の魅力的な特徴は、様々な標高で育つ、植物の層がはっきりと見られることです。苔むした岩から針葉樹の森まで、山道沿いには、いろいろな植物が生えています。林床は、ゴゼンタチバナという 6 月から 7 月に開花する白い花や、ツバメオモトという、白い花を咲かせ、濃紺の実が成る多年草のような植物で覆われています。ダケカンバの木立や、自然にできたハイマツのトンネルなどもあります。

ハイマツが少なくなる山頂付近では、ガンコウランやコケモモ、イワウメ、ウコンウツギといった色鮮やかな高山植物が咲き乱れます。

登山コース

雄阿寒岳の登山の出発地点は、阿寒湖から 5 キロ東の滝口にあります。登山口から山頂までの往復の所要時間は、約 7～8 時間です。山道沿いには、リス、エゾシカ、キタキツネのような、いろいろな動物を見かけることもあります。注意：この地域にはヒグマが生息しています。

本事業以前の英語解説文

Mt. Okan lies to the east of Lake Akan. The 1,370-meter summit is approximately 3 hours 20 minutes hike from the trailhead, offering panoramic views of Lake Akan and the twin lakes of Penketo and Panketo. In good weather, you can see as far as Lake Kussharo and the Shiretoko mountain range.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板、ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Mt. Hakuto

Overview

Mt. Hakuto rises 950 m above sea level and is south of Lake Akan. The Mt. Hakuto Observatory, at an altitude of 800 m, can be reached by taking the scenic walking trail from the ski area south of Lake Akan. From Akanko Onsen town, it is a five-minute drive to the trailhead, and it is then approximately two kilometers, or an hour and thirty minutes one-way, to the observatory. The viewing deck affords a panorama view of Lake Akan, Mt. Oakan, and the surrounding forest as far as Mt. Meakan.

Plant Life

Mt. Hakuto is beautiful year round. From spring to summer, a variety of flowers can be enjoyed along the walking trail. Ezo-osakuraso (*Primula jesoana* Miq. var. *pubescens* (Takeda) Takeda et H. Hara) is a plant that produces bright purple flowers, and nirinso (*Anemone flaccida*) is a plant with white flowers. In autumn, the maple leaves are especially picturesque.

Around the Observatory

Due to constant volcanic activity, with steam and gases being emitted from fumaroles, the ground around the observatory is warm. Bokke (mud volcanoes) can also be seen along the walking trail.

The observatory can also be accessed by car via the Furebetsu forest road.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

白湯山

概要

白湯山は、阿寒湖の南にある、標高 950 メートルの山です。標高 800m に位置する白湯山展望台へは、阿寒湖の南

にあるスキー場の登山口から、自然探勝路を歩いて行きます。阿寒湖温泉街から登山口まで車で 5 分、そこから展望台までは片道約 2km、徒歩で約 1 時間 30 分です。展望台からは、阿寒湖、雄阿寒岳、それらを取り囲む森林、さらには雌阿寒岳まで息をのむほど美しいパノラマが望めます。

植生

白湯山には、季節ごとの美しい風景があります。春から夏は、探勝路から、いろいろな花が楽しめます。エゾオオサクラソウは、鮮やかな紫色の花、ニンソウは白い花を咲かせる植物です。秋は、とりわけ色鮮やかなカエデの葉が絵のような美しさを見せます。

楽しみ方

展望台付近では、火山活動により地熱が高く噴気活動も活発です。探勝路沿いにボツケ(泥火山)を見ることもできます。

なお、展望台へは、フレバツ林道を通って近くまで車で行くこともできます。

本事業以前の英語解説文

About 1 hour 30 minutes from Akankohan National Ski Area, this observatory offers views of the entirety of Lake Akan, the Akanko Onsen town, and Mt. Oakan. In autumn, the colorful maple leaves are particularly beautiful.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板、ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Lake Onneto

Overview

Lake Onneto, in the westernmost region of the Akan-Mashu National Park, is located about 25 minutes by car from the Akankohan Eco-museum Center. The lake is believed to have formed when an eruption from Mt. Meakan blocked the flow of the upstream section of the Rawan River. The lake's waters mysteriously seem to change color depending on the weather, viewpoint, and time of day.

Features of the Lake Water

In the Ainu language, Onneto means “old, large” (onne) and “lake” (to). The lake is the highest lake in Akan area at an altitude of 623 m. It is located on the west side of Mt. Meakan. Known as one of Hokkaido's “Three Mysterious Lakes,” on sunny days the lake appears as a mixture of cobalt blue and emerald green, dubbed Onneto Blue. The scenery is especially beautiful in fall due to the contrasting colors of the sky, mountains, and red leaves, all reflected in the blue-colored water. Lake Onneto's unique hue is produced by a combination of the water's transparency and mud that has accumulated on the lakebed. Additionally, the lake's pH level has been changing from acidic to slightly alkaline over a long period of time; this is believed to be a natural phenomenon. Currently, the lake is close to pH-neutral, and algae and small fish not previously seen in the colorful waters have begun to appear.

Activities

A fifty-minute walking trail around the western side of the lake begins at Meakan Onsen and ends at the Onneto Campground. Along the trail, animals such as black woodpeckers and Siberian chipmunks can be seen. The Onneto Campground, nestled in the tranquil forest on the south side of the lake, is open from June to October. In order to protect Lake Onneto, canoeing and other water sports are not allowed.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

オンネトー

概要

オンネトーは、阿寒湖畔エコミュージアムセンターから車で約 25 分です。オンネトーは阿寒摩周国立公園の最西端にある湖で、雌阿寒岳が噴火し、螺湾川の上流が堰き止められて形成されたと考えられています。オンネトーの最大の特徴として、天候、見る場所や時間帯によって、不思議なことに、湖水が様々な色を変えるように見えることが挙げられます。

湖水の特徴

アイヌ語で、オンネトーとは「年老いた、大きな（オンネ） + 沼（トー）」という意味です。オンネトーは、雌阿寒岳の西山麓に位置し、湖面標高 623m、これは阿寒湖沼群の中で最も高い標高にあたります。北海道三大秘湖の 1 つとしても知られており、晴れた日には、湖は息をのむほど美しいコバルトブルーやエメラルドグリーンといった色に変化し、オンネトーブルーと称されます。とりわけ、秋は、オンネトーブルーの水面に映える空、山、紅葉のコントラストは圧巻です。このオンネトーの独特な色は、透明度の高い湖水の色と湖底に堆積した泥の色が混ざり合うことによって作り出されています。また、オンネトーの特徴の 1 つに湖の pH が、長期的に酸性から弱アルカリ性まで変化し続けていることも挙げられます。これは人為的な操作がなく自然現象によるものだと言われています。現時点では、ほぼ中性であり、以前は確認できなかった藻や小魚が少しずつ見かけるようになってきています。

楽しみ方

湖の西岸には遊歩道があり、雌阿寒温泉からオンネトー国設野営場まで約 50 分で歩くことができます。クマゲラやシマリスのような動物を見かけることもできるでしょう。オンネトー国設野営場は、湖の南岸の森林帯にあり、静寂な雰囲気の中でキャンプを楽しむことができます。6 月から 10 月まで開いています。オンネトーの綺麗な色彩を守るため、湖へのカヌーなど船の乗り入れは禁止されています。

本事業以前の英語解説文

About 25 minutes by car from Akankohan Eco-museum Center. Lake Onneto is a dammed lake on the west side of Mt. Meakan, its name meaning "old/big" (onne) and "lake/marsh" (to) in the Ainu language. Depending on the weather, your location, and the time of day, the color of the lake water seems to change to a variety of the colors, earning the lake its nickname of "Goshiki Numa", "the Five-Colored Marsh".

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板、ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Bokke

Overview

The bokke area is located five minutes on foot from the Akankohan Eco-museum Center via the Bokke Walking Trail. The Bokke Walking Trail is a leisurely one-and-a-half-kilometer circuit through the forest and along the shore of Lake Akan.

The name *bokke* comes from the Ainu word *pofuke* which means “to bubble up.” Bokke is a general term for mud volcanoes. Together with volcanic gases, gray mud from underground continuously builds up and erupts. The constant geothermal activity in these spots even prevents snow from accumulating during winter. They are recognizable not only by their appearance but also by their burbling sound and sulfur smell.

Activities

The Bokke Walking Trail showcases many of the typical natural features of the Akan region. The forest includes conifers such as the Yezo spruce and Sakhalin fir, and broadleaf trees like the Manchurian elm, katsura, shiuri-zakura (*Prunus siori*), and Japanese rowan. There are Eurasian red squirrels and Yezo shika deer. The chirping sounds of Madarasuzu (*Dianemobius nigrofasciatus*) and tsuzuresase-koorogi (*Velarifictorus micado*) crickets fill the air even in the colder months because of the warm microclimate caused by geothermic activity.

Warning: Bokke reach temperatures of close to 100°C. Please do not go beyond the fence.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ボツケ

概要

ポツケは、阿寒湖畔エコミュージアムセンターから、ポツケ遊歩道をとおり、約 5 分の地点にあります。ポツケ遊歩道では、阿寒湖沿いに森を通って、約 1.5 キロのゆったりした周遊が楽しめます。

ポツケという名前はアイヌ語の、「煮え立つ」という意味の「ポフケ」に由来しますが、一般的にいう泥火山のことを指しています。地下から灰色の泥が火山ガスとともに、絶え間なく湧き上がり、湯玉状に盛り上がった様子が観察できます。また、この周辺では、継続的な地熱活動があり、冬でも雪が積もりません。沸き立つ泥火山であり、その見た目のみならず、ポコポコという音や匂いも特徴的です。

楽しみ方

ポツケ遊歩道の周辺は、阿寒地域特有の自然の宝庫です。よく見られる植物は、エゾマツやトドマツのような針葉樹、オヒョウ、カツラ、シウリザクラ、ナナカマドのような広葉樹です。エゾリスやエゾシカのような野生動物を見ることもできます。地熱活動によって暖かいため、寒い時期でさえ、マダラスズやツズレサセコオロギの鳴き声が響き渡ります。

注意：ポツケは 100 度近くにまで温度が上がりますので、柵を超えないください。

本事業以前の英語解説文

About 5 minutes on foot from Akankohan Eco-museum center. The word "Bokke" comes from the Ainu word "pofuke", meaning "bubble up". A bokke is a mud volcano, where mud heated to about 100 degrees Celsius erupts continuously from an underground vent along with volcanic gases. The odor of hydrogen sulfide and the geothermal heat, which immediately melts any snowfall, are vivid reminders of the natural forces below ground.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板、ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Sokodai Observatory

Overview

The Sokodai Observatory is 680 m above sea level and is about fifteen minutes by car from the Akankohan Eco-museum Center on National Highway Route 241, the road leading to the town of Teshikaga. Sokodai means “two lakes observatory.” Lake Penketo is to the right, and with Lake Panketo to the left. The two lakes are located in the mountain range that forms the outer rim of the Akan Caldera.

The original Lake Akan was formed approximately 150,000 to 100,000 years ago. Approximately 10,000 to 6,000 years ago, Mt. Oakan was created through volcanic activity in the middle of the enormous Old Lake Akan, dividing it into the three separate lakes visible today: Lake Akan, Lake Panketo, and Lake Penketo.

In autumn, this observatory offers a spectacular view of the forest as it changes color. The view is especially serene early in the morning when wisps of fog pass through the valley.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

双湖台

概要

双湖台は、弟子屈町に向かう国道 241 号線沿い、標高 680 メートルにある展望地で、阿寒湖畔エコミュージアムセンターから車で約 15 分です。双湖台とは、「ふたつの湖の展望台」という意味で、右手にペンケトー、左手にパンケトーと 2 つの湖を眺望できます。

パンケトーとペンケトー、この 2 つの湖に連なる山並みは阿寒カルデラの外輪山です。

古阿寒湖と呼ばれる、元の阿寒湖は約 15 万年～10 万前に形成されました。約 1 万～6 千年前に起こった火山活動の結果、巨大な古阿寒湖の真ん中に雄阿寒岳ができ、現在見られる、阿寒湖、パンケトー、ペンケトーという、3 つの湖に分かれました。

楽しみ方

秋になると、この展望台から、紅葉した森の壮大な景観が望めます。特に、霧が谷を通る早朝は、のどかな光景です。

本事業以前の英語解説文

About 15 minutes by car from Akankohan Eco-museum Center. On the right, you can see the entirety of Lake Penketo, which is said to resemble the shape of Hokkaido. On the left, you can overlook Lake Panketo.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板、ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Sogakudai Observatory

Overview

The Sogakudai Observatory is about twenty minutes by car from the Akankohan Eco Museum Center on National Highway Route 241, the road leading to the town of Teshikaga. At an altitude of 740 m along, Sogakudai means “two mountains observatory” and offers views of both Mt. Oakan (in front) and Mt. Meakan (behind and to the left). There is thick forest below the observatory.

From the observatory, Mt. Oakan and Mt. Meakan resemble a couple, standing side by side as husband and wife, which is the origin of their names in Japanese.

Sogakudai is surrounded by a forest of Yezo spruce and Erman's birch. The view is particularly good in autumn and winter (approximately October to March) when the foliage is less dense.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

双岳台

概要

双岳台は、弟子屈町に向かう国道 241 号線沿い、標高 740 メートルにある展望台です。阿寒湖畔エコミュージアムセンターから、車で約 20 分です。双岳台とは、「ふたつの山の展望台」からは、前方に雄阿寒岳、左側後方に雌阿寒岳という、2 つの山を眺望できます。展望台の下方には、広大な深い森が広がっています。

ここから見える雄阿寒岳と雌阿寒岳は、まるで寄り添う夫と妻（夫婦）のようです。

双岳台は、エゾマツとダケカンバに囲まれています。

全景を見られる最高の時期は、木の葉が少ない秋冬（10 月～3 月頃）です。

本事業以前の英語解説文

About 10 minutes by car from Akankohan Eco Museum Center, this observatory offers views of two mountains: Mt. Oakan in the front, and Mt. Meakan in the back and to the left. Below is a vast expanse of dense forest.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板、ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Onneto Yunotaki Falls

Overview

Onneto Yunotaki Falls is approximately 1.4 km, or twenty minutes on foot, from the forest road entrance at the parking lot near the Onneto Campground. Wild birds, Eurasian red squirrels, Ezo squirrels, and Yezo shika deer can often be seen on the walking trail from the forest road entrance to the falls.

Yunotaki means literally “hot water waterfall.” The waterfall cascades down 30 meters. Bathing used to be common in the warm pool at the bottom of the falls, but for conservation purposes, entering the water is now prohibited.

Valuable Minerals of the Falls

Onneto Yunotaki Falls is home to microorganisms that produce manganese oxide, an important mineral used in the manufacturing of iron and dry cell batteries. These manganese deposits are formed on top of the rocks found at Yunotaki Falls. The scale of the manganese deposit found here is extremely uncommon, making it an important site for research on how manganese is formed in nature. In 2000, it was named a Natural Monument for its rarity.

Important: during the winter period (approximately December to April), all roads in the area are closed.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

オンネトー湯の滝

概要

オンネトー湯の滝は、オンネトー国設野営場手前の駐車場の林道入口から約 1.4km、徒歩約 20 分です。林道入口から湯の滝までの約 1.4 キロの遊歩道では、野鳥、エゾリス、エゾシカなどにしばしば遭遇します。

Yunotaki とは、「お湯の滝」という意味です。約 30 メートルの岩壁を、温泉が流れ落ちています。昔は、滝下の温泉で入浴をしていましたが、現在は、湯の滝の保全のため入浴禁止となっています。

滝の重要な鉱物

オンネトー湯の滝には、鉄や乾電池の製造に使用される重要な鉱物である、酸化マンガンを生成する微生物が生息

しています。湯の滝の上にあるマンガン鉱床の規模は比類なく、マンガン形成過程の研究にとって世界的に重要な場所になっています。2000年、国の天然記念物に指定されました。

重要：冬期（12月頃～4月頃）は、周辺の道路が閉鎖されています。

本事業以前の英語解説文

About 20 minutes on foot from the Onneto Yunotaki trailhead. Here, you can observe a growing surface deposit of manganese oxide, a phenomenon which is rarely found anywhere else in the world. This deposit is designated as a natural monument of Japan. Hot spring water winding through the black rocks creates an unforgettable sight.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板、ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Takiguchi Waterfall

Overview

The Takiguchi Waterfall is about five minutes by car from the Akankohan Eco Museum Center. The waterfall is at the foot of the Mt. Oakan Trail. Lake Akan is long, with small islands dotting the lake's surface that resemble a miniature garden, located just past its narrow inlets. The waters of the lake flow into the waterfall, and then to the Akan River. Products of eruptions by Mt. Oakan, the small islands of Kamenoko and Jukyuretto seem almost man made.

Plant Life

The scenic beauty of Takiguchi is complemented by the purple flowers of Ezo-murasaki-tsutsuji (*Rhododendron dauricum* L.), which blooms in spring, while Hakusan-shakunage (*Rhododendron brachycarpum* D. Don ex G. Don var. *brachycarpum*), a pink and white flower which blooms in summer. In autumn, the colorful foliage of the trees reflected in the lake is a striking sight.

Activities

There is a cruise boat which departs from Marimo-no-Sato Pier. It lasts around 85 minutes and is held from mid-April through late November (cruise service is irregular in April, but begins normal operation starting in May).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

滝口

概要

滝口は、阿寒湖畔エコミュージアムセンターから車で約 5 分です。雄阿寒岳の登山口にあります。阿寒湖の長く、細い入江のかなたの湖面に小さな島々が点在し、箱庭のように見えます。ここから、阿寒湖は滝と合流し、阿寒川へ流れ出ています。雄阿寒岳の噴火でできた、亀の子島や十九列島の島々の配置は、まるで人によってつくられたかのように見えます。

植生

湖畔や岩の上に咲くいろいろな花が、滝口の景観をさらに美しいものになっています。エゾムラサキツツジという紫の花は、

春に開花し、ハクサンシャクナゲというピンクと白の花は、夏に咲きます。秋には、湖の周りの色とりどりの紅葉もまた美しい光景です。

楽しみ方

まりもの里棧橋から出発する遊覧船からも楽しめます。遊覧時間は、1 周 85 分です。クルーズがあるのは 4 月中旬～11 月末までです（4 月中は不定期運行で 5 月～11 月は定期運航です）。

本事業以前の英語解説文

About 5 minutes by car from Akankohan Eco Museum Center, at the entrance of Mt. Oakan trailhead. Beyond Lake Akan's long, narrow inlet, small islands dot the lake's surface, seeming to resemble a miniature garden. From here, the lake water enters a waterfall, which flows into the Akan River.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Churui Island and Churui River

Overview

In the Ainu language, Churui means “fast-flowing current.” Churui Island is a very small, tree-covered island on the northern side of Lake Akan. The area around Churui Bay, located north of Churui Island, is inhabited by a large, spherical variety of Marimo algae and is strictly protected. Visitors can access the island by taking the sightseeing cruise boat that departs from Marimo-no-sato Pier.

A Habitat for the Marimo

The island houses the Marimo Exhibition Center. Marimo are displayed in aquariums that replicate the lakebed environment of Lake Akan. As the Churui River flows directly into the habitat of these Marimo, close attention is constantly paid to preserving the forest surrounding the river area upstream of the lake.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

チュウルイ島とチュウルイ川

概要

チュウルイとは、アイヌ語で「激しい流れ」を意味します。チュウルイ島は、阿寒湖の北側に浮かぶ、木々に覆われた、とても小さな島です。チュウルイ島のさらに北側にあるチュウルイ湾周辺は、大型の丸いマリモの群生地であり、厳しく保護されています。観光客は、まりもの里棧橋から出発する遊覧船で島へ行くことができます。

マリモ生息地として

島には、マリモ展示観察センターがあり、原始的な阿寒湖の湖底環境を再現した中でマリモの生体を展示しています。チュウルイ川は、マリモの生息地に流れ出ているため、この川の上流部を囲む森林環境の維持には、継続的に、細心の注意が払われています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Akan River

Overview

The Akan River is one of the rivers that flow from Lake Akan. Running parallel to National Highway Route 240, it runs south before entering the Pacific Ocean just to the west of Kushiro city. It is one of Hokkaido's largest rivers.

Ecosystem

The Akan River is home to a variety of fish that are also found in Lake Akan, including kokanee salmon, white-spotted char, and rainbow trout. The fish feed on the many aquatic insects living in and around the river. The ecosystem of the river is supported by the nutrients that come from the dense forest of Akan. This strong inter-relationship between water and land is one of the most important features of Akan River.

Activities

The Akan river is famous throughout Japan as a destination for fly-fishing aficionados, and there are also walking tours that explore the river basin.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿寒川

概要

阿寒川は阿寒湖からの数少ない流出河川であり、国道 240 号線とほぼ平行して走ったのち、釧路市街地から太平洋まで注ぐ、道内でも大きな川の 1 つです。

生態系

阿寒川には、阿寒湖にも生息する、ヒメマス、アメマス、ニジマスのような様々な魚がいます。魚がたくさんいるだけでなく、餌となる水生昆虫も多数生息しています。これらの生物が生きられる養分や水流は、阿寒の深い森が生み出しています。阿寒川では、自然界のこのような多くの興味深い相互関係を見ることができます。

楽しみ方

この川は、フライフィッシングのファンの憧れの場所として、日本中で有名です。また流域を散策するツアーもあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター
 【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Lake Panketo

Overview

Located in the northeastern foothills of Mt. Oakan, Lake Panketo, whose name means “lower swamp” in the Ainu language, has only one exit: the Ibeshibetsu River, which flows into the northern part of Lake Akan. Together with Lake Penketo, which means “upper swamp” in the Ainu language, Panketo is one of the water sources that feeds Lake Akan.

In ancient times, Lake Panketo, Lake Penketo, and Lake Akan were all one large lake, a water body now referred to as Old Lake Akan. Mt. Oakan erupted between 10,000 and 6,000 years ago, dividing the large lake into the three smaller ones visible today. Panketo is the deepest of the three lakes, with a depth of 54 meters; Akan is 45 meters deep while Penketo is 39 meters deep.

Water Quality

Lake Panketo is one of the most transparent lakes in Japan, and perhaps due to this clarity, a community of submerged plants flourishes on the lakebed. Regrettably, in 2010, signal crayfish, an Invasive Alien Species, were confirmed to have entered the lake.

Activities

The surrounding forest, as well as the road leading to the lake, is carefully protected by the government and the Maeda Ippoen Foundation. To preserve the area’s natural state, the general public is usually prohibited from going near the lake, so visitors wishing to experience the stunning, serene atmosphere are encouraged to participate in special tours and nature observation activities offered by the Eco-museum Center.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

パンケトー

概要

アイヌの言葉で、パンケトーは下の低い沼地という意味です。雄阿寒岳の北東山麓にあるこの湖は、唯一の流出河川であるイベシベツ川を經由して阿寒湖の北部に注ぎ込みます。アイヌ語で上の沼地を意味するペンケトーとともに、阿寒湖に注ぎ込む水源の一つとなっています。

古代には、パンケトーとペンケトー、阿寒湖は一つの大きな湖でした。現在は、この古代の湖を古阿寒湖と呼んでいます。1万年から6千年前に雄阿寒岳の噴火によって、大きな古阿寒湖は現在目にするような3つの湖に別れました。パンケトーは、3つの湖の中で最も水深が深く、最大深度は54メートルありますが、阿寒湖は45メートル、ペンケトーは39メートルです。

水質

パンケトーの湖水は、日本でもトップクラスの透明度を誇ります。透明度が高いせいか、湖底には沈水植物の群落が存在します。また2010年頃より、残念なことに、特定外来生物であるウチダザリガニの侵入が確認されています。

楽しみ方

パンケトーに通じる道路と周辺の森は国や前田一步園財団により厳重に管理されており、通常一般の人たちだけで行くことはできません。この美しく静寂な湖を楽しむには、特別ツアーや自然観察会に参加することをお勧めします。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Lake Penketo

Overview

In the Ainu language, Lake Penketo means “upper swamp.” Located in the eastern foothills of Mt. Oakan, a single outflowing river at the northern end of the lake connects it to Lake Panketo.

Long ago, Lake Penketo, Lake Panketo, and Lake Akan were joined together as one large body of water. However, due to volcanic activity from Mt. Oakan from approximately 10,000 to 6,000 years ago, the original Old Lake Akan was partially filled in and split into the three lakes that exist today. Said to resemble the shape of Hokkaido, Lake Penketo is the smallest of the area’s three lakes. It has a circumference of 3.9 kilometers, compared to Panketo at 12.4 kilometers and Akan at 25.9 kilometers. Lake Penketo is approximately 39 meters deep and is 520 meters above sea level.

Activities

As with Lake Panketo, the forest and road around Penketo is managed by both the government and private organizations. To protect the area’s natural environment, the general public is usually prohibited from going near the lake. However, visitors can view both Lake Panketo and Lake Penketo from the Sokodai Observatory.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ペンケトー

概要

アイヌの言葉で、ペンケトーは上の沼地という意味です。雄阿寒岳の東山麓にあるこの湖は、北端にある唯一の流出河川でパンケトーと繋がっています。

昔々、ペンケトーとパンケトー、阿寒湖は一つの大きな湖でした。しかし、およそ1万年から6千年前に起こった雄阿寒岳の火山活動によって、もともとの古阿寒湖は、一部が埋まり、現在見られるような3つの湖に分割されてしまいました。

た。北海道の形に似ていると言われるペンクトーは、3 つの中では 1 番小さな湖です。周囲は 3.9 キロ、一方ペンクトーは 12.4 キロ、阿寒湖は 25.9 キロです。ペンクトーの水深はおよそ 39 メートルで、標高は 520 メートルです。

楽しみ方

ペンクトーと同じく、周辺の森林と道は、国や民間により厳重に管理されており、通常一般の人たちだけで行くことはできません。ペンクトーよりもさらに奥にある秘湖ですが、双湖台からは全体を眺めることができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Hyotan Swamp

Overview

Hyotan Swamp is situated in the southeastern foothills of Mt. Oakan. Its name is said to be derived from the original shape of the swamp: in Japanese, hyotan means “gourd,” and the swamp’s shape used to be rounded with a narrow neck. These days, some imagination is needed to see the similarity.

Said to be the first place in Japan to freeze each winter, ice skaters used Hyotan Swamp’s surface for many years as a natural ice skating rink. A dense forest surrounds the swamp and it is situated away from any main roads. The calls of birds can often be heard, and wild animal tracks abound. In fact, brown bears inhabit the area around the swamp, so visitors should be cautious.

Activities

Access to Hyotan Swamp from the Akankohan Eco-museum Center is via National Highway Route 241 heading towards Teshikaga, before turning right on Road 1093 which leads to Tsurumidai. The swamp is approximately one kilometer from the highway. In winter, although Road 1093 is closed, it is possible to snowshoe from Route 241. For safety reasons, it is recommended that visitors who would like to experience walking on the frozen surface of the swamp be accompanied by a guide.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ヒョウタン沼

概要

ヒョウタン沼は雄阿寒岳の南東山麓に位置する沼で、阿寒湖沼群の1つです。かつてこの沼は首のところが細くなった丸い形をしていて、ヒョウタンに似ていたため、この名前がついたと言われます。最近では、ヒョウタンの形に似ていると見るには、なにがしかの想像力が必要です。

日本で最初に氷が張るところと言われ、自然のスケートリンクとしてスケート選手に利用された歴史もあります。ヒョウタン沼は、幹線道路からは遠く離れた場所にあり、深い森に囲まれています。鳥の鳴き声が聞こえ、野生動物の足跡も見られます。事実、この沼の周辺はヒグマの生息地でもあり、散策には注意が必要です。

楽しみ方

阿寒湖畔エコミュージアムセンターからヒョウタン沼へ行くには、国道 241 号線で弟子屈（てしかが）方面に向かい、鶴見台に向かう 1093 号線との交差点で右に曲がります。ヒョウタン沼は、241 号線からは約 1 キロです。冬になると、1093 号線は閉鎖されていますが、国道からスノーシューで行くことはできます。安全上の理由から、ヒョウタン沼の氷の上でウォーキングを体験したい人は、ガイドに付いてもらうことをお勧めします。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Furebetsu Bokke

Overview

The Furebestu Bokke is located on Mt. Furebestu, to the south of Lake Akan. In the Ainu language, bokke is derived from *pojuke*, which means “to bubble up.” Bokke is a general term for mud volcanoes. The Furebetsu bokke, the bokke on the shore of Lake Akan, and the bokke around Mt. Hakuto Observatory are all situated in a straight line, following the underground volcanic belt that crosses the Akan region. This volcanic belt continues from Shiretoko to the Kuril Islands, the island chain stretching approximately 1,300km northeast of Hokkaido.

Activities

The Furebetsu bokke can be accessed by either car or foot from Akanko Onsen via the Furebetsu forest road. Located deep in the thick forest, the landscape suddenly changes to large pools of grey volcanic mud. The bokke can be seen steaming and gurgling. Although there are no signboards or fences in the area, the sulfuric gases emitted from the bokke can be strong, so please be careful not to approach too close. Depending on Mt. Meakan’s level of volcanic activity, entry to the Furebetsu bokke may be prohibited.

Warning: Do not get too close to the bokke, as they can reach temperatures close to 100°C.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

フレベツボツケ

概要

フレベツボツケは、阿寒湖の南にあるフレベツ岳にあります。ボツケという名前はアイヌ語の、「煮え立つ」という意味の「ポフケ」に由来しますが、一般的に泥火山のことを指しています。フレベツボツケ、阿寒湖畔のボツケと白湯山（はくとうさん）展望台周辺のボツケはすべて一直線上にあります。この3つのボツケは、阿寒地域を横断するように火山帯が地下に横たわっていることの現れです。事実、この火山帯は知床から、北海道の北東 1300 キロの千島列島まで続いている。

ます。

楽しみ方

阿寒湖温泉街からフレベツ林道を通って車と徒歩でアクセスできます。深い森の中、突如として、大きな灰色のポッケが姿を現します。火山泥の溜まりが湯気をあげ、ゴボゴボと音を立てています。この付近には十分な案内看板や柵はありません。ポッケから出る硫黄ガスは強烈なことがありますから、近づきすぎないように十分に注意して下さい。雌阿寒岳の火山活動のレベルによっては、フレベツポッケは立入禁止になることがあります。

警告：ポッケは 100 度近くにまで温度が上がりますので、柵を超えないでください

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター
 【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Ibeshibetsu River

Overview

In the Ainu language, Ibeshibetsu means “abundant food source river”. The Ibeshibetsu River is the largest of the rivers that flow into Lake Akan, connecting Lake Panketo to the northern section of Akan.

The remains of old trees lay fallen in the clear waters of the river, and water grass can be seen swaying with the current. Shellfish and small fish can be seen on the riverbed, and during the spawning period in autumn, white-spotted char and kokanee salmon can be seen swimming upstream to lay their eggs. The Ibeshibetsu River provides a glimpse into the world of the rivers of Hokkaido.

Activities

The government and the Maeda Ippoen Foundation is responsible for the conservation of the surrounding roads and forests. In order to preserve the natural environment, the general public is usually prohibited from entering this area. There are special tours and nature observation events available which offer access to this unspoilt primeval river.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

イベシベツ川

概要

「イベシベツ」はアイヌの言葉で、「たくさんの食べ物がとれる川」という意味です。イベシベツ川は、阿寒湖に流れ込む川の中で最も大きな川で、パンケトーと阿寒湖北部を結んでいます。

透明な水中に、流れに揺らぐ水草や古い倒木の残骸、川底の貝や小魚たち、秋には産卵期のアメマスやヒメマスが遡上しているのが見えます。このように、イベシベツ川では北海道の水系の本来の姿を垣間見ることができるのです。

楽しみ方

周辺の道路と森は国や前田一歩園財団により厳重に管理されており、通常一般の人たちだけで行くことはできません。この原始の川を見るには、特別ツアーや自然観察会に参加することをお勧めします。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Mt. Fuppushi

Overview

In the Ainu language, Fuppushi means a “place with Sakhalin fir.” Unsurprisingly, a forest of Sakhalin fir stretches all the way to the 1,200 m summit of the mountain. Mt. Fuppushi is located southwest of Lake Akan.

Plant Life

Mt. Fuppushi, Mt. Meakan, and Mt. Oakan are all about the same altitude, but they are home to very different plants. While Sakhalin fir can be seen up to the highest point of Mt. Fuppushi, alpine flowers such as Meakan-kinbai (*Potentilla miyabei Makino*), Meakan-fusuma (*Arenaria merckioides Maxim.*) and black crowberries grow on Mt. Meakan's summit, and a creeping pine zone can be seen on Mt. Oakan. The reason for this is linked to when volcanic activity ceased on each of the mountains.

Although hiking is allowed, there are no marked trails on Mt. Fuppushi.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

フップシ岳

概要

アイヌの言葉で、フップシはトドマツのある場所という意味です。その言葉のとおり、トドマツの森が標高約 1200 メートルのフップシ岳の頂上までずっと広がっています。フップシ岳は阿寒湖の南西に位置しています。

植生

フップシ岳と雌阿寒岳、雄阿寒岳では、同じ標高でも異なる植物が生えています。フップシ岳の山頂はトドマツに覆われていますが、雌阿寒岳ではメアカンキンバイやメアカンフスマ、ガンコウラン等の高山植物帯、雄阿寒岳ではハイマツ帯

となっています。その理由は、これらの山で火山活動が休止した時期が異なっていることに関係しています。

フップシ岳は、ハイキングは可能ですが、標識が整備された登山道はありません。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】ラミネートシート、iPad 端末

できあがった英語解説文

Rawan River

Overview

The Rawan River is the only river flowing out of Lake Onneto. It carries the blue waters of the lake out of the national park toward the town of Ashoro, connecting with the Ashoro River before finally joining the Tokachi River and continuing on to the Pacific Ocean. The upper section of the Rawan River is surrounded by a primeval forest zone, where fish such as gobies can be seen on the riverbed. The river is known for its Rawan-buki (*Petasites japonicus*), a giant variety of Japanese butterbur that flourishes in the river basin. In the clear waters of the Rawan River, they can reach astonishing heights of two to three meters and have been designated a “Hokkaido Heritage.” The best time to see Rawan-buki is between June and July, in the farmland surrounding Akan-Mashu National Park.

The Rawan-buki

The reason Rawan-buki grow so high here remains unknown. An edible plant, they were heavily harvested in the past. The number of wild Rawan-buki colonies found within the river basin has decreased significantly, so they are also cultivated on farms and exported as a specialty of Ashoro Town.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

螺湾川

概要

螺湾川はオンネトーの唯一の流出河川であり、オンネトーから輝くような青色の水を国立公園外に運んでいます。足寄市街地で足寄川へと接続したあと最終的には十勝川に合流し、太平洋へと流れ込みます。上流部の周辺は原生的な森林帯で川底にはハゼなどの魚も観察できます。この川の最大の特徴は、なんといっても流域で自生するラワンブキです。螺湾川の綺麗な水に育まれたラワンブキは高さ 2～3m にも達し、北海道遺産に指定されています。このラワンブキは、6 月から 7 月にかけて、国立公園外の鑑賞ほ場で見るすることができます。

ラワンブキについて

ラワンブキはアキタブキの 1 種と考えられていますが、何故これほど巨大に育つかについては分かっていません。以前より食用として採集されており、流域にある自生地は減少しましたが、現在は農家がほ場で栽培したものが出荷され、足寄町の特産品となっています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Lake Taro

Lake Taro was formed in an eruption of Mt. Oakan. It is approximately a ten-minute hike from the Mt. Oakan Trailhead located at the Takiguchi Waterfall. The lake is connected to Lake Akan by a river, and shares very similar water quality with its larger neighbor. In spring, the purple-flowered Osakuraso (*Primula jesoana*) blooms, and in autumn, the surrounding forest is transformed when the foliage turns fiery red and orange. Depending on the season, white-tailed eagles and whooper swans can also be spotted around the lake.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

太郎湖

太郎湖は、滝口にある雄阿寒岳の登山口から 10 分ほど歩いたところにあります。この湖は、雄阿寒岳の噴火によりに形成されました。阿寒湖と川で繋がっており同様の水質をしています。春には、紫色のオオサクラソウの花が咲き、秋には周囲の森が燃える火のような赤色とオレンジ色に紅葉します。季節によっては、オジロワシやオオハクチョウなどの野生鳥類も湖の周りで見つけることができます。

本事業以前の英語解説文

About a 10 minute hike from the Mt. Oakan trailhead, Lake Taro is a scenic spot to observe purple *Primula jesoana* blossoms in spring, or vibrant autumn leaves. Wildlife such as white-tailed eagles and whooper swans can be seen depending on the season.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Lake Jiro

Lake Jiro is approximately a fifteen-minute hike from the Mt. Oakan Trailhead. It is five minutes on foot past Lake Taro. As with Lake Taro, Lake Jiro was also the result of an eruption of Mt. Oakan. Unlike Lake Taro, Lake Jiro has no inflowing or outflowing rivers. As a result, the lake has few waves and is very placid. The still surface of the lake mirrors the surrounding forest and sky above, a scene particularly beautiful in autumn when the leaves change color.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

次郎湖

次郎湖は、滝口にある雄阿寒岳の登山口から 15 分ほど歩いたところにあります。太郎湖を通り過ぎて、5 分ほど歩けば次郎湖を見つけることができます。太郎湖と同様に、次郎湖も雄阿寒岳の噴火によりに形成されました。太郎湖と違い、流出もしくは流入河川は見当たりません。そのため、次郎湖の周辺地域は静かで穏やかで独特な色合いをしています。波一つたたない湖面には、周りの森や空が映りこんでいます。秋の紅葉シーズンはとりわけ美しい光景です。

本事業以前の英語解説文

About a 15 minute hike from the Mt. Oakan trailhead. With no sound of water from rivers flowing in, Lake Jiro is surrounded in silence. The serene, mirror-like lake surface reflects the scenery.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター
【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Takimi Bridge

Takimi Bridge is approximately five minutes by car from the Akankohan Eco-museum Center. From the bridge, the clear-running waters of Lake Akan can be seen through the trees, flowing down a rocky slope to become the Akan River. The most popular time to visit the bridge is autumn, when the leaves turn striking shades of red, yellow, and orange. Worth a visit any time of the year whether blanketed in snow during winter, or for the lush greenery of summer.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

滝見橋

滝見橋は、阿寒湖畔エコミュージアムセンターから車でおよそ 5 分のところにあります。橋からは、阿寒湖から流れ出る阿寒川のごつごつした岩の間を透明な水が流れ落ちて行くのが木の間隠れに見えます。橋を訪れるのに最も人気のあるのは秋、木々が紅葉し目の覚めるような赤や黄色、オレンジ色に変わる時です。また、冬の雪に覆われた風景も、夏の豊かな緑も目が覚めるように美しいものです。

本事業以前の英語解説文

About 5 minutes by car from Akankohan Eco-museum Center. In autumn, this spot offers striking views of the splendor of changing leaves amidst the clear-running waters of the Akan River. This is the starting point of the Akan River, which flows through primeval forests.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

History of the Maeda Ippoen Foundation

1906:

Maeda Masana (1850-1921) was Vice-Minister of Agriculture and Commerce. He purchased 3,900 hectares of land around Lake Akan from the government, established a foundation called Akan Maeda Ippoen and becomes its first director. "Ippo" in the word "Ippoen" means "one step" and comes from a phrase that says "in all things, each step is important." The "en" means "an estate." He issued a charter declaring all Maeda family assets to be public property.

1921:

On August 11, Maeda Masana passed away. Maeda Shoji (1887-1957), Masana's second son, took over as the foundation's second director. Honoring his father's wish for the mountains and forests of Akan to be enjoyed for their beauty and not exploited for their natural resources, he undertook forestry regulation and the development of hot spring operations while endeavoring to promote the Akan region.

1934:

On December 4, approximately 90,000 hectares of land, including Lake Akan, Lake Mashu, and Lake Kussharo, is designated as Akan National Park.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

前田一步園財団——年表

1906:

前田正名（元農商務次官）は、阿寒湖畔の土地 3,900 ヘクタールを国から払い下げを受ける。阿寒前田一步園という名称の財団を設立、初代園主となる。一步園の「一步」は、「物ごと万事に一步が大切」という言葉に由来。「前田家の財産はすべて公共の財産となす」という家訓をもつ。

1921:

8月11日、前田正名死去。正名の次男、前田正次が二代目園主となる。阿寒の山と森を資源として伐採するのではなく、その美しさを愛でるものにしたいという父の願いを引き継ぎ、阿寒地域の振興に努めると同時に、森林管理規

定と温泉事業の発展に取り組む。

1934:

12月4日、阿寒湖、摩周湖、屈斜路湖を含むおよそ9万ヘクタールが阿寒国立公園に指定される。

本事業以前の英語解説文

1934

Masana Maeda receives 3,900 hectares of government-disposed land around Lake Akan, establishes Akan Maeda Ippoen, and becomes its first director. He issues the charter, "Let all Maeda family assets be public property."

1921

On August 11th, Masana Maeda, the first foundation director, passes away at the age of 71 years. Shoji Maeda takes over as the second foundation director. Honoring Masana's wishes that "The mountains and forests of Akan should be enjoyed for their beauty, not stripped of their resources. Nature belongs as public property," he undertakes forestry and hot spring development operations while endeavoring to promote and develop the Akan region.

1934

On December 4th, in Japan's first pre-war designation of national parks, a belt of approximately 90,000 hectares spanning Lake Akan, Lake Mashu, and Lake Kussharo is designated as Akan National Park.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

History of the Maeda Ippoen Foundation

1957:

Shoji Maeda, the second director of the Maeda Ippoen Foundation, passed away. His wife, Mitsuko (1912–1983), became the foundation's third director. Continuing her husband's wishes to preserve the natural environment and establish a permanent tourism industry in the Akan region that improves the welfare of local residents, she endeavored to protect the land, promote tourism, and also to turn the foundation into a corporation. She provided land for the use of the native Ainu people, enabling them to live more independently, and helped many young students continue their education through the Maeda Scholarship Fund. She was affectionately known as “the mother of Akan” by the Ainu people.

1983:

On April 1st, the Maeda Ippoen Foundation became an incorporated foundation. Receiving financial support from Maeda Mitsuko, Eako, and Mineko, the business begins the preservation of the area's natural environment. Mitsuko becomes the corporation's first chief director.

Subsequently, the Maeda Ippoen Foundation established forest operation policies, including a ban on clear-cutting forests, protecting trees that contain nesting wildlife, and conserving waterside ecosystems. With the principle of harnessing the power of nature rather than fighting against it, the foundation continues to restore this region to its original natural state.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

前田一步園財団——年表

1957:

主前田正次死去。正次の妻、光子が第三代園主となる。光子は、夫正次の阿寒地域における自然環境を保存したい、地元住民の福利を向上させるよう観光振興したいと望みを継ぎ、森林の保護と、観光の促進に努めるとともに、財団の法人化にも取り組む。また、アイヌの人々に土地を提供して、彼らが自立して生活できるように支援し、また前田奨学金によって多くの若者が勉学を続けられるように助力。そんな彼女を、アイヌの人々は親しみを込めて「阿寒の

母』と呼んでいます。

1983:

4月1日、財団法人前田一步園財団の設立。前田光子、前田エア子、前田峰子の経済的支援を受けながら、自然環境の保全を目的として事業を開始。前田光子は、財団法人の初代理事長に就任。

その後、前田一步園財団は森林施行の方針を制定し、皆伐の禁止、野生鳥獣の営巣木の維持、水辺環境の保全を定めた。自然の力に対抗して戦うのではなく、できるだけ自然の力を利用するという原則に基づき、所有する森林を原始の状態に森林を復元するための努力を続けている。

本事業以前の英語解説文

1957

Shoji Maeda, the second director of Maeda Ippoen Foundation, passes away. His wife, Mitsuko, becomes the third foundation director. With goals of establishing permanent tourism industry in the Akan region through natural conservation, and building a happier society through welfare promotion, she endeavors to conserve forests, promote tourism, and also incorporate the foundation. Further, she grants the Ainu people places to live independently, and sponsors ongoing education for many youths through the Maeda Scholarship. She becomes known as "the mother of Akan".

1983

On April 1st, the Maeda Ippoen Foundation is inaugurated as an incorporated foundation. Upon the grant of assets from Mitsuko Maeda, Eako Maeda, and Mineko Maeda, the foundation becomes a public service corporation with the objective of natural environment preservation. Mitsuko Maeda becomes the first foundation chair.

Hereafter, the foundation has established forest practice policies to forbid clear-cutting, retain wildlife nesting trees, and conserve waterside environments. With the words "oppose not the power of nature, work with nature to the greatest extent possible" at heart, the foundation strives to restore its forests to untouched primeval conditions.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Activities of the Maeda Ippoen Foundation

Forest Preservation

The foundation manages roughly 3,600 hectares of forested land surrounding Lake Akan. It is an area of scenic beauty and home to many wild plants and animals. Through activities such as managing man-made forests, conserving natural forests, and working to prevent damage to trees by deer, the foundation strives to strengthen and sustain the forest.

Natural Environmental Conservation Activities

The foundation promotes the conservation and proper usage of the Akan region's natural areas and resources by conducting surveys, carrying out research, and holding seminars. The foundation supports environmental preservation activities and gives awards that recognize people and organizations making such efforts.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

前田一步園財団——その事業

森林保全事業

阿寒湖周辺の約 3600 ヘクタールの森林を財団が管理しています。風致景観や野生動植物の生息環境に配慮しつつ、人工林の保育や天然林の改良やエゾシカによる木々の被害を防ぐ対策を講じたりするなどの活動を通じて、財団は森林の多面的機能を強化し維持するように努めています。

自然環境保存事業

財団は、阿寒の自然環境の保全と適正な利用推進のため、調査研究を行ったり、セミナーを開催したり、また、環境保全事業に対する助成、顕彰などにより、自然環境の保存を推進しています。

本事業以前の英語解説文

Forest Preservation Activities

The foundation works to reinforce and improve multifaceted functions of approximately 3,600 ha of forestland surrounding Lake Akan through forest silviculture and improvement, prevention of damage by sika deer and other related activities.

Natural Environment Conservation Activities

The foundation promotes the conservation and appropriate use of the natural environment by conducting surveys and research, holding seminars, financing environmental conservation activities and recognizing related work with commendations.

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Activities of the Maeda Ippoen Foundation

Land Lease

The foundation leases its own land, sometimes free of charge, to help maintain the local environment and to create stability for local residents. The proceeds are used to finance the organization's Forest Preservation and Natural Environmental Conservation Activities.

Hot Spring Business

The foundation supplies hotels and public facilities in the Akanko Onsen area with high-quality hot spring water. Proceeds from this business are used to finance the organization's Forest Preservation and Natural Environmental Conservation Activities.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

前田一歩園財団——その事業

土地リース事業

財団は、地域環境の整備を支援し、また地域の人々が安定した生活が送れるように支援する目的で、有料もしくは無料で、所有地のリースを行っています。収益は、森林保全事業や自然環境保存事業に使用しています。

温泉事業

財団は、阿寒湖温泉地域のホテルや公共施設に質の高い温泉水を供給しています。収益は、森林保全事業や自然環境保存事業に使用しています。

本事業以前の英語解説文

Land Lease Business

The foundation leases its own land for a fee or free of charge to help promote the local environment and stabilize the basis of living. Related proceeds are used to finance activities for forest preservation and natural environment conservation.

Hot Spring Business

The foundation supplies hotels and public facilities in the Lake Akan Hot Spring area with high-quality hot spring water. Related proceeds are used to finance activities for forest preservation and natural environment conservation.

【施設名】屈斜路湖畔

【整備予定媒体】パンフレット、ウェブサイト

できあがった英語解説文

Sunayu

Sunayu on the eastern shore of Lake Kussharo offers a unique open-air hot spring experience. If you dig a hole in the sandy beach, natural hot spring water gushes to the surface to create a warm pool. Visitors can soak their feet in the water while taking in the beautiful view of the lake.

The area around Sunayu can be enjoyed year-round. In summer, visitors flock to the shore to swim in the lake and go camping, while in winter, a whooper swan colony comes to Lake Kussharo from Siberia, attracted by the geothermal activity. Sunayu is a popular spot for photographers to capture shots of whooper swans against backdrops of fresh snow and frozen water. There are shops, toilets, and a campground nearby.

Kussharo Kotan

Kussharo Kotan (Kussharo Village) is an Ainu folklore museum located at the southern end of Lake Kussharo. Opened in 1982, the museum displays traditional everyday Ainu artifacts and tools. Visitors can try on Ainu clothing and take a commemorative photograph, try their hand at Ainu-style embroidery, and there are videos about the Ainu people. The Kussharo Kotan is a great place to learn more about the history, culture, and customs of Ainu people. The museum is closed for the winter between November and late April.

The Kotan onsen is in Kussharo Kotan. Located on the shore of Lake Kussharo, this open-air hot spring bath offers beautiful views throughout the year. It is a popular place to see the sunset. In autumn, visitors can enjoy the vibrant colors of the changing foliage of the surrounding mountains, while in winter bathers can sit in the warm water and watch whooper swans on the lake right before their eyes.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

砂湯

砂湯は、屈斜路湖の東岸に位置しており、砂浜に穴を掘ると、温泉が地表に湧き出して、湖の美しい光景を眺めながら、足湯など天然温泉を楽しむことができます。

砂湯は、1年を通して楽しむことのできる場所です。夏には、訪れた人たちが岸辺に集まりキャンプをしたり、湖で泳いだりします。冬になると、オオハクチョウの群れがシベリアから屈斜路湖に渡ってきます。雪や氷に覆われた屈斜路湖をバックにオオハクチョウを撮影する絶好のスポットになっています。近くの施設には、お店やトイレ、キャンプ場があります。

屈斜路コタン

屈斜路コタンは、屈斜路湖の南側にある集落で、アイヌ民俗資料館があります。1982年に開館した資料館では、アイヌの工芸品や生活に欠かせない道具などを見ることができます。また、伝統的なアイヌの衣裳を試着しての記念撮影、刺繍体験やアイヌの人々に関するビデオ等を見ることができます。アイヌの人々の歴史や文化、習慣に関して知りたい方には一見の価値があります。なお、資料館は11月から4月下旬までは閉館とな

ります。

また、屈斜路コタンにはコタン温泉があります。屈斜路湖の湖岸にある露天風呂からは夕焼けや、秋には紅葉の山々、冬には目の前の湖にいるオオハクチョウなど、季節毎に美しい景色を眺めることができます。

本事業以前の英語解説文

なし

**支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区訪日外国人
自然体験活動推進協議会**

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

A Land Blessed with a Bounty of Volcanic Activity

To many people, it may seem strange to talk about the “blessings” bestowed by volcanoes, and yet that is exactly the situation in Hokkaido. Most of Japan’s national parks include volcanoes—not because park visitors wish to study volcanoes, but because those areas blessed with volcanic activity tend to also have beautiful forests, lakes, rivers, and other features that make them ideal natural conservation areas. They are rich in flora and fauna and reward visitors with a sense that this is the essence of what a national park should be. Shikotsu-Toya National Park is no exception.

Here you will find dense, green, virgin forests growing next to impossibly blue lakes so clear that in places they seem to be made of glass. There are hot springs born just decades ago from volcanic activity and others with much longer histories, but it is interesting that the beautiful, cold lakes we can see above ground are balanced by giant pools of hot water below ground.

All the Japanese islands have a long history of volcanic activity, and in Hokkaido that history is still very much alive. Major eruptions have occurred in this century and multiple times in the previous century. Because Mount Usu was the first place in the world where people studied eruption timing and prepared for civilian evacuations, volcanoes came to be respected as part of nature, not just feared as potential disasters. This, too, may seem strange to outsiders. Why would anyone choose to live near an active volcano? Yet the fact remains that many towns in the vicinity of Shikotsu-Toya National Park are not only comfortable with the situation, but actually embrace their volcanic roots.

This positive approach to “living in harmony with volcanoes” may not be unique to Hokkaido, but it is certainly a characteristic of this region. And nowhere are the effects of nature’s power more obvious than here in this beautiful land. In addition to producing columns of smoke and ash and ejecting hundreds of basketball-sized rocks resembling glowing balls from children’s fireworks, volcanic activity helps to redraw local geography, creating small mountains and welcome hot springs where before there were none.

For those who wish to explore this natural beauty and coexistence with a sometimes-fearsome nature, it is a short drive from Sapporo or New Chitose Airport. Depending on which side of the park you wish to reach, it can take between one to two and a half hours.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

火山活動の恵みを受けた地

多くの方は、火山による「恩恵」と聞いて首をかしげることでしょう。しかし、それがまさに北海道を表す言葉なのです（直訳は『それがまさに北海道での状況なのです』）。日本の国立公園のほとんどには火山がありますが、これはなにも公園を訪れる人々が火山について学びたいと思っているからではなく、火山活動の恵みを受

けた土地に美しい森林や湖、川などといった自然保護区に適した環境が広がっていることが多いからなのです。そこには様々な動植物が生息しており、訪れた人々を国立公園のあるべき姿と共に迎えます。支笏洞爺国立公園も例外ではありません。

ガラスでできているのかと思うほどの透明度を誇り、目を見張るような青色をした湖のすぐ側には、青々と茂った手つかずの森があります。ここには火山活動によってほんの数十年前に生み出された温泉と、より長い歴史を持つ温泉がありますが、興味深いのは、地上の美しい冷水の湖の調和が、地中にある大きな熱水の塊によって保たれているということです。

日本列島の全ての島々には長い火山活動の歴史がありますが、この歴史は、北海道においては決して過去のものではありません。大規模な噴火が今世紀にも発生しているほか、前世紀には複数の噴火が起きました。有珠山は世界で初めて噴火のタイミング予測が行われ、住民の避難に備えた火山となったことから、人々は火山を災害をもたらすものとしてただ恐れるのではなく、自然の一部として敬うようになりました。これも外部の人にとっては奇異に聞こえるかもしれません。誰が好んで活火山の近くで暮らそうというのでしょうか？しかし実際のところ、支笏洞爺国立公園周辺の町の多くはこの状況になんら不自由していないどころか、火山と共存してきた自分たちのルーツを大切にしているのです。

この「火山との調和ある共存」という前向きなアプローチが北海道特有のものと言えるかはわかりませんが、この土地の特徴であることに間違いはありません。そして、この美しい土地ほど自然の力の影響がはっきりと表れる場所はありません。火山活動は煙や灰の柱を作り、まるで子供の花火の球のようなバスケットボール大の岩石を無数に吐き出すだけでなく、地形を描き変え、小さな山々やありがたい温泉を新たに作り出してくれます。

この美しい自然や、時として恐ろしい顔を見せる自然と人間との共存の様子を見たい方は、札幌あるいは新千歳空港から少しのドライブでその希望が叶います。公園のどちら側を訪れるかに応じて、散策には1時間から2時間半を要します。

本事業以前の英語解説文

Volcanoes have made lakes, fostered forests and given rise to magnificent scenery Japan is a country with numerous volcanoes. More than half of Japan's 29 national parks have volcanoes. By region, most volcanoes with a history of huge eruptions are in Hokaido, and in Kyushu. At Shikotsu-Toya National Park in Hokkaido, crystal clear lakes, verdant forests, and active volcanoes are major attractions. The abundant hot springs at various locations are also due to volcanic activity.

The area was designated a national park in 1949.

It is an accessible area, being very near Sapporo and New Chitose Airport.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

A Land Born from Volcanoes

Where two tectonic plates meet there is often geophysical activity. Japan lies at the confluence of three major plates—the Eurasian, North American, and Pacific—so it is no surprise to find substantial volcanic activity in this country. Hokkaido, and especially Shikotsu-Toya National Park, is no exception; within the park's boundaries are multiple volcanoes of different ages. Two of them (Mount Usu and Mount Tarumae) remain active, the former of which has erupted twice within living memory. It is this close relationship with volcanic activity that has created the awesome natural wonder of this region. Three stunningly beautiful lakes—Shikotsu, Toya, and Kuttara—are caldera lakes, formed in the craters of ancient volcanoes. Furthermore, the many hot springs in the park are a result of water being naturally heated in subterranean magma furnaces and pushed up to the surface. Truly, this land would not be as beautiful as it is without its rich volcanic history.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

火山から生まれた土地

2つの地殻プレートが出会う場所では、しばしば地球物理学的活動が生じます。ユーラシア、北アメリカ、太平洋という3つの主要なプレートが重なり合う地点の上に位置するのが日本です。したがって、日本で多くの火山活動が見られるのは驚くべきことではありません。北海道、とりわけ支笏洞爺国立公園も例外ではありません。公園内には異なる時代の複数の火山が存在します。そのうち2つ（有珠山と樽前山）は活火山で、有珠山は現存の人々が記憶するだけでも2度噴火しています。このような火山活動との密接した関係こそが、この地方に広がる自然美を作り出したのです。支笏湖、洞爺湖、倶多楽湖という息を飲むような美しさを誇る3つの湖はその全てがカルデラ湖で、太古の火山のクレーターに形成されたものです。また、国立公園内にある数多くの温泉は、地下のマグマによって自然に熱せられた水が地表へと押し上げられた結果なのです。活発な火山活動の歴史なくしては、この土地がこれほどまでに美しくなることはなかったでしょう。

本事業以前の英語解説文

Nature Created by Volcanoes

On a map of the volcanoes in Hokkaido, this highly concentrated region forms a belt. This volcanic belt connecting Chishima Islands and north-east Japan arises from the sinking of the Pacific tectonic plate into the oceanic trench, causing magma to rise from the depths.

Hokkaido is located at a point where two arched archipelagos, the Chishima Arc and the Northeast Japan Arc, meet. Shikotsu-Toya National Park is located where volcanic belt bends. In this national park, Mount Usu and Mount Tarumae are still active and continue to transform the landscape. The three caldera lakes (Lake Shikotsu, Lake Toya, and Lake Kuttara) that emerged from past volcanic activities, and many hot springs combine to create unique scenery, rendering this national park diverse and dynamic.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Mount Usu: A Volcano That Never Lies

Mount Usu stands out even in a national park full of volcanoes—it has the distinction of being one of the most active volcanoes in Japan. Formed fairly recently (almost 20,000 years ago), it was active for a period of time and then fell quiet for roughly 7,000 years. It awoke from its slumber in 1663 and has been keeping local residents alert for the past three and a half centuries. Usu has erupted eight times since 1663, with four of those events occurring within the past one hundred years (1910, 1944, 1977, and 2000).

To outside observers, this might seem frightening, but locals now find it reassuring—Mount Usu is becoming more regular, performing on a schedule of roughly every 30 years. Moreover, Usu usually warns residents that it is about to wake from a nap, with repeated earthquakes and ground ruptures taking place anywhere from a few days to several weeks before an eruption. This is one main reason why researchers are so interested in Mount Usu: it is regular, predictable, and polite enough to give advance warning before making a mess of the surrounding countryside. Hence, the common expression that Usu is “a volcano that never lies.”

The frequency of the mountain’s eruptions and the near certainty of more to come has made this area one of the world’s most advanced in terms of disaster preparation and local crisis management. Surrounding towns have refined hazard maps that show the direction and extent of possible damage, and they have developed emergency evacuation plans whose efficacy has been tested by the mountain on multiple occasions. In times of emergency, local railway companies even run special trains to help evacuate residents. In the year 2000, the mountain’s most recent eruption, 16,000 people were quickly moved to safety, resulting in no loss of life.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

有珠山：決して嘘をつかない火山

日本で最も活発な火山の1つとされる有珠山は、火山だらけの国立公園にあってもひと際目立つ存在です。わりと最近（およそ20,000年前）に形成された山で、活発な時期もあったものの、その後はおよそ7,000年にわたって火山活動を見せることはありませんでした。しかし1663年に眠りから目を覚まし、それ以来3世紀半にわたって地元住民を警戒させてきました。有珠山は1663年以来8度噴火し、そのうち4度は過去100年の間に起こっています（1910年、1944年、1977年、2000年）。

外野からするとこれは恐ろしいことだと思いかもかもしれませんが、地元の住民は安心感すら覚えています。有珠山はほぼ30年おきのスケジュールで、より定期的な活動を見せるようになってきたのですから。それに加え、有珠山はそろそろ昼寝から目覚める合図を住民に送ります。噴火の2、3日前から数週間前にかけて地震や地割れを繰り返すのです。有珠山の噴火は定期的で予知可能、そして礼儀正しいことに周囲の田園地帯を破

壊する前に警告を発してくれます。研究者が有珠山に関心を寄せる最大の理由です。有珠山は「決して嘘をつかない火山」というお馴染みのフレーズが生まれた所以です。

有珠山の噴火の頻度とほぼ確実な再発の可能性により、災害に対する備えと地元の危機管理という点において、この地域は世界最先端を行く地域の 1 つとなりました。周辺の町は想定される被害の方向や程度を示すハザードマップを作成しては改善してきたほか、緊急避難計画を策定し、その効果はこれまでに何度も噴火そのものによって試されてきました。緊急時には地元の鉄道会社が臨時列車を走らせて住民の避難をアシストします。2000 年に起きた前回の噴火では 16,000 人が素早く安全な場所へと避難し、1 人の死者を出すこともありませんでした。

本事業以前の英語解説文

Mount Usu is a volcano that emerged roughly 15-20,000 years ago after the formation of Toya caldera. It has erupted repeatedly, and there was a massive collapse near the summit about 7-8,000 years ago, triggering a rock avalanche that flowed into Volcano Bay. After a long period of dormancy, it resumed activity in 1663. Since then, over eight eruptions have been recorded, with two in 1977 and 2000 since the area was designated a national park.

The eruption in 2000 originated in the western base of Mount Usu and created a new crater in Mount Konpira, among others, near the hot spring district. Sections of the nearby road were severely damaged. Hot water spurting from Mount Konpira became a mudflow and reached the hot spring district. In addition, there were repeated occurrences of tectonic movement, some as disruptive as to cause a 70-meter rise of the ground surface, damaging buildings, roads, and railroads. From the observation trails that were constructed after the eruption, you can still see the craters releasing steam, as well as the ruins of the roads and buildings. Undoubtedly Mount Usu is one of the most active volcanoes in Japan.

A Mountain that Never Lies Eruptions of Mount Usu in historic times, followed by the formation of a lava dome, as well as its premonitory phenomena such as earthquakes and ground rupture, indicate there is a pattern to its volcanic activity Thus scientists call Mount Usu "the mountain that never lies In the Mount Usu neighbourhood observation and research on volcanic activity in order to predict the eruptions have been advancing, and moreover, the production of a hazard map to estimate damage in case of a disaster and evacuation plans have been progressing. Emergency information announced prior to the eruption in 2000 led to a prompt evacuation of 16,000 local residents with no casualties.

Mount Usu and its Ongoing Volcanic Activities

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

**Lake Toya Area Ecomuseum
Peacefully Coexisting with Volcanoes**

Look at the large photo on this page. This terrifying eruption took place as recently as 1977, and you can see how close its effects were to the city on the lakeshore. Another eruption took place in 2000, and more are sure to follow, though no one can say exactly when. How can anyone, much less a whole town, choose to live in such close proximity to an active volcano? The question is not unusual, but Lake Toya town's response certainly is: on the one hand, the volcano is a threat, albeit a manageable one; on the other hand, Mount Usu has given as much as it has taken, with the best example being the two new *onsen* hot springs that appeared following the 1910 eruption. These are now Lake Toya Hot Spring and Sobetsu Hot Spring, two prominent attractions that bring tourists to this area. However, Lake Toya town is not living in denial—it continues to take active steps toward disaster prevention, both through civil engineering and by relocating schools and other critical facilities to safer areas. Like Lake Toya, other nearby towns also teach their citizens and tourists about the history, activity, and future prospects for Mount Usu's eruptions.

Local residents realize that this entire area is an ecomuseum, that is, a “nature museum” that provides a unique opportunity for people to study the positive and negative effects of volcanic activity first-hand. People who live and work near Lake Toya want to teach others how to respect rather than fear the power of nature and learn how best to live together in harmony with both its helpful and harmful aspects.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

**洞爺湖エリアのエコミュージアム
火山との平和的共存**

このページの大きな写真をご覧ください。この恐ろしい噴火は1977年に起こったばかりです。その被害が湖岸の町のどれほど近くまで迫ったかが見て取れるでしょう。別の噴火が2000年に起こり、誰も正確に予測することはできませんが、今後も確実に噴火は起こります。一体誰が、ましてや町全体が、活火山のこんなにもすぐ側で生活することを選ぶのでしょうか？この質問は不思議なものではありませんが、洞爺湖町の答えは間違いなく珍しいものです。一方では、火山は脅威ですが、管理できるものです。他方では、有珠山は奪った分と同じだけをしっかりと返してくれます。1910年の噴火後に現れた2つの新しい温泉がその良い例です。これらの温泉は現在では洞爺湖温泉と壮瞥温泉という、この地に観光客を呼び寄せる主な名所となりました。ただし、洞爺湖町が自分たちの置かれた状況に気付かないふりをしているわけではありません（直訳は『洞爺湖町が全てを否定しているわけではありません。』）。町は土木工学の力を借りたり、学校やその他の重要な施設をより安全な場所に移したりするなど、災害防止に積極的に取り組んでいます。洞爺湖町と同様に、近隣の町も住民や観光客に有珠山の噴火の歴史、活動、将来の展望について教えています。

地元の人々はこの地域全体がエコミュージアムであることを認識しています。つまり、火山活動の正と負の影響をじかに学ぶユニークな機会を提供してくれる「自然博物館」です。洞爺湖の側に暮らし働く人たちは、この地を訪れる人々に自然の力を恐れるのではなく敬う術を教え、そして自分たち自身はその善悪両面において自然と調和して生活する最善の方法を身に付けていきたいと考えています。

本事業以前の英語解説文

Lake Toya Area Ecomuseum- Town Development Coexisting with Volcanoes Lake Toya Hot Spring and Soubetsu Hot Spring both located at the base of Mount Usu were created after the eruption in 1910, and have been developing ever since. They have sustained some damage from three eruptions thus far. Since the eruption in 2000, Toyako-cho has been working on disaster prevention and control by constructing a drainage to direct mudflow, and by removing schools to safer areas. Furthermore, the towns of Date, Soubetsu, Toyoura, and Toyako have begun incorporating the remains of past disasters into tours of the area, as well as providing educational activities (such as historical and scientific lessons) in order to increase the public's understanding of volcanoes. With the entire region serving as an ecomuseum, in other words "nature museum", the locals are making efforts to promote regional appeal. A region so densely populated as this that lies so close to a highly active volcano is highly unusual. The residents are blessed with beautiful scenery and hot springs created by the volcano.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Maintaining Transparency

Lake Shikotsu is famous as a beautiful, deep blue caldera lake. It is also well-known for having the cleanest, clearest water in Japan—so much so that the town works hard to keep hotels, restaurants, and other facilities from polluting the lake. For example, the public sewer that serves the local hot spring has been redirected so as not to damage these pristine waters. One reason for this clarity is the lack of plankton, algae, or other living material. The area around Lake Shikotsu is still sparsely developed so there is little human detritus, one of the biggest causes of water turbidity, and the operation of motorboats, jet skis, or other motorized vehicles on the lake is forbidden.

Just how clear is this water? Measurements taken in 2002 found one spot that was clear to an unbelievable depth of over 30 meters. However, the average “transparency depth” is now estimated to be between 15 and 20 meters, a remarkable achievement for any body of water. Of course, locals swear that the water used to be even clearer fifty years ago, but current tests are enough to assure any visitor that this is the clearest water in Japan.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

透明度の維持

支笏湖は深い青をした美しいカルデラ湖として有名です。また、日本で最も綺麗で透明度の高い水をした湖としても知られており、町はホテルやレストラン、その他の施設による湖の汚染の防止に取り組んでいます。例えば、この汚れない水にダメージを与えぬよう、地元温泉が使う公共下水道の方向が変更されました。この高い透明度の1つの理由は、プランクトン、藻、またはその他の生体を構成する物質の欠如です。支笏湖の周辺はまだほとんど開発が進んでいない為、水を濁らせる最大の原因の1つである人間による廃棄物があまりありません。また、湖でのモーターボートやジェットスキー、その他の電動ボートの操縦も禁止されています。

では、支笏湖の水はどれほど澄んでいるのでしょうか？2002年に行われた測定では、30メートル以上という信じられないほどの深さまで透明な場所が1つ見つかりました。平均的な「垂直の透明度」は15～20メートルと推定されているものの、それでもどの水域と比べても素晴らしい結果です。もちろん地元の人々は50年前にはもっと水が澄んでいたと言いますが、現在のテスト結果を見れば、日本にこれ以上澄んだ湖はないと支笏湖を訪れた人々も納得するはずです。

本事業以前の英語解説文

20-meter lake depth can be seen Lake Shikotsu is one of the main attractions at this park. This lake, one of the most transparent in Japan, is surrounded by forests, and fascinates visitors with its deep blue water. The clarity of the water is due to low plankton levels, and a wide coverage of deep lakeside forests. also minimizes runoff flowing into the lake. For this reason, it is valued as one of the rare freshwater diving spots in Japan. The transparency measurement averaged 15-25m in the 1960s, and has decreased to an average of 15-20m in recent years. However, it was recorded to be 30.7m at one of the measurement spots in an investigation conducted in May, 2002. In order to maintain public sewer serving the lodging facilities in Lake Shikotsu Hot Spring has been diverted away from the lake.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

A History Apart

Japan's main island of Honshu (with Kyoto, Osaka, Tokyo, and so forth) gets most of the attention in history books. However, the indigenous Ainu people of Hokkaido also have a long history, with contact between them and Honshu-based Japanese possibly going back as far as the seventh century CE. In 1590, the Matsumae clan from Honshu was granted sovereignty over the island of Hokkaido. They constructed settlements in the southern areas, including here in the Lake Shikotsu region, but did little to develop the land. Real growth didn't begin until the nineteenth century, when the new Tokyo-based national government wanted to develop Hokkaido as a defense against nearby Russia. Transportation, agriculture, commerce, and various industries were promoted over the next century, making Hokkaido a kind of "new" state within Japan.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

独立した歴史

歴史書の中で最も多く取り上げられるのは、日本の主要な島である本州（京都、大阪、東京などがある島）です。しかし、北海道の先住民であるアイヌ民族にも長い歴史があり、アイヌ民族と本州の人々の接触は7世紀まで遡ると考えられています。1590年、本州の松前藩に北海道の主権が与えられました。彼らは支笏湖地方を含む北海道の南部に拠点を構えたものの、その土地はわずかに開拓しただけでした。本格的な成長が始まったのは、東京に新しく立ち上がった明治政府がロシアに対する防衛として北海道の開拓に取り掛かる19世紀に入ってからのことでした。それからの100年間で交通、農業、商業、その他の産業が押し進められ、北海道は日本国内にありながら「新しい」国家のようになったのです。

本事業以前の英語解説文

Aspects of Shikotsu-Toya National Park

The History of Development in the Area

The neighbouring area of Shikotsu-Toya National Park was once home to the Ainu, the indigenous people of Hokkaido.

Around the middle of Edo era, Matsumae clan advancing to the southern Hokkaido placed bases around Lake Shikotsu (in Chitose, Usu, Abuta and other locations) for trade with the Ainu.

The full-blown development of Hokkaido only began in the late 19th century when the Meiji government was established. For this reason, Hokkaido has followed a different path from that of the Honshu.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Park History: Mining, Factories, and Railways

The rapid, aggressive development of Japanese industry on Honshu was mirrored during the development of Hokkaido. There was little concern about natural preservation or sustainable development; Hokkaido was seen as a large, resource-rich area with a negligible indigenous population, a land that could be easily exploited to help grow the Japanese economy. With this mindset, mining became a major industry. Long before this was a national park, mining activity was occurring in places such as Noboribetsu and Bifue, and a gold mine was located right on the western shore of Lake Shikotsu.

Mining was not the only industry that left scars on the landscape. For example, the vast, virgin forests around Lake Shikotsu were desirable resources for paper companies seeking cheap raw materials. They soon began clearing the forests and building factories in nearby Tomakomai. In 1908 the Yamasen railway was built from Tomakomai to Lake Shikotsu to carry logs for pulp production, as well as to transport construction materials for a new power plant on the Chitose River. In support of the rail line, the Oji Paper Company bought a solid iron bridge and moved it to a location spanning the Chitose River, where it became known as the Yamasen Bridge.

In time, this area was designated a national park, and all the mines and factories were closed. Today, little remains to bear witness to the short period of heavy industry in this area. However, the bright red Yamasen railway bridge still stands, the oldest such structure in Hokkaido. It is a reminder of a time when economic development was deemed more important than environmental conservation.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

公園の歴史：鉱業、工場、そして鉄道

本州における急速で強引とも言える開発は、北海道の開発にも反映されました。自然保護や持続可能な開発はほとんど考慮されませんでした。北海道はごくわずかな先住民が暮らす、広大で豊かな資源を持つ土地で、日本経済の成長の為ならば容易に搾取できる土地としか考えられていませんでした。このような考えのもと、鉱業は主要な産業となりました。この地が国立公園となるずっと前には、登別や美笛といった場所で採掘が行われており、支笏湖の西岸には金鉱山がありました。

ここの景観に傷跡を残した産業は鉱業だけではありません。例えば、支笏湖周辺の広大な手つかずの森は、安価な原材料を求める製紙会社にとって理想的な資源でした。彼らは間もなく森林を切り倒し、近くの苫小牧に工場を建設し始めました。1908年には、製紙の為に木材を運んだり、千歳川に発電所を作る為の建設資材を運んだりする為に、苫小牧から支笏湖を結ぶ山線鉄道が建設されました。この路線を支える為に王子製紙会社は鋼鉄製の橋を購入し、その橋を千歳川にかけました。橋はその後、山線鉄橋として知られるようになりました。

やがてこのエリアは国立公園に指定され、全ての鉱山と工場が閉鎖されました。短期間ながらもかつてここに存在した重工業の証人となるものはほとんど残っていません。しかし、北海道最古の鉄橋である鮮やかな赤色をした山線鉄橋は今でも残っています。環境保護よりも経済発展が重要とされた時代を思い出させるものです。

本事業以前の英語解説文

Forest/Mine Exploitation and the National park Though a high degree of nature quality remains around Lake Shikotsu, it had a history of industrial activities such as mining before it was designated a national park. In Japan, where land is very limited, reconciling conflicts with industries such as mining and power generation was often the biggest issue when designating areas as national parks. Since the beginning, the national park system in Japan has been shaped by the attempt to seek balance with various industrial activities Oji Paper Company built their factories in Tomakomai, established a railroad from Tomakomai to the Shikotsu lakeshore in 1908, constructed a power plant on Chitose River, and cleared the forests around Lake Shikotsu Exploitation of mines was vigorous at the time, and there were a few within the park such as the Bifue Gold Mine on the Shikotsu lakeshore and the Horobetsu Mine in Noboribetsu. Some of them continued operating for a while even after the area was designated a national park, although now, all the mines within the park have been abandoned. Some structures from the time, such as the railway bridge, still remain, now as part

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

A Gold Medal in Reforestation

Until 1964, the Olympic Games were almost exclusively held in North America or Europe. So it was a very big deal when the Summer Olympics came to Tokyo in 1964, and just two years later, when Sapporo was selected as the venue for the 1972 Winter Olympics. Japan, which had never hosted the Olympics, would be able to host twice in a decade. The venue chosen for the alpine downhill skiing event was Mount Eniwa on the northwest side of Lake Shikotsu. Mount Eniwa is part of Shikotsu-Toya National Park, and the idea of cutting down part of a beautiful old forest to build ski runs was highly controversial. Other mountains closer to Sapporo City were to be used for ski jumping, alpine slalom, bobsleigh, and so forth, so why should Mount Eniwa be damaged just to make facilities for a sporting event that would last only ten days?

Eventually, opponents of using Mount Eniwa were persuaded, in part by the promise that the environment would be restored as soon as the Winter Games were finished, and that all the new facilities built for this event would be removed. As promised, the buildings and the ski runs were demolished right after the Olympics, and restoration work began. New trees were planted and ongoing maintenance continued for years. Today, it is still possible to see where the two-kilometer ski runs were located, but the mountain has nearly recovered and in a short time should heal completely.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

森林再生の金メダル

1964年まで、オリンピックはほぼ独占的に北アメリカあるいはヨーロッパで開催されていました。したがって、1964年の夏季オリンピックが東京で開催され、そしてそのわずか2年後に札幌が1972年冬季オリンピックの開催地に選出されたことは非常に大きな出来事でした。これまで1度もオリンピックを開催したことのない日本が、10年の間に2度も開催することになったのです。アルペンスキー滑降種目の競技会場に選ばれたのが、支笏湖の北西にある恵庭岳でした。恵庭岳は支笏洞爺国立公園内にあり、古くからある美しい森林の一部を切り倒してスキー場を建設するという計画は大きな物議を醸しました。札幌市に近い他の山々はスキージャンプ、スラローム、ボブスレーなどの競技に使用されることになっていましたが、わずか10日間のスポーツイベントの施設を作る為に、なぜ恵庭岳が傷つけられなければいけないのでしょうか？

最終的には、恵庭岳の使用に反対していた人々は説得されました。理由の一部は、札幌オリンピックが閉幕するや否やこのイベントの為に建設された施設は全て取り除かれ、環境を回復させるという約束があったからです。約束通り、施設とゲレンデはオリンピックの閉幕と同時に取り壊され、回復作業が始まりました。新たな樹木が植えられ、継続的なメンテナンスが何年も続けました。今日、まだ全長2キロのスキーコースがどこにあったかを見ることができますが、恵庭岳はほぼオリンピック前の状態まで回復しており、間もなく完全に元通りになるはずですよ。

本事業以前の英語解説文

Column2

Nature Restoration of the Mount Eniwa Olympic Downhill Skiing Course At the Sapporo Winter Olympics held in 1972, Mount Eniwa was the venue for the downhill ski events. There was controversy surrounding the issue of cutting down trees within the national park in order to set up ski runs, however it was approved with the condition that the facility would be demolished after the events, and trees would be planted to restore the environment. For the event, ski runs for men and women spanning 2km, a ropeway, and several buildings were constructed. Immediately after the Olympics, restoration work began, and by 1974 demolition, tree planting, and construction work on the slopes for reforestation had all been carried out. In addition, maintenance work continued for a long time afterwards.

Currently, the remains of the ski runs have mostly faded, but the transplanted trees are still smaller than those in the surrounding area.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Ice-Free All Year Round

Lake Shikotsu is not only one of the clearest lakes in Japan, it is also one of the deepest. Needless to say, that makes it especially attractive to freshwater divers. However, the aspect of the lake that most pleases visitors is its year-round beauty, with water, mountains, and sky combining to make the perfect scene for a landscape photograph. The lake retains its picturesque quality even in the middle of an icy Hokkaido winter because it almost never freezes, a property it shares with neighboring Lake Toya. However, as Lake Shikotsu is slightly farther north than its sibling, it is officially the northernmost ice-free lake in Japan.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

1 年を通して凍らない湖

支笏湖は日本で最も澄んだ湖の1つであるだけでなく、最も深い湖の1つでもあります。したがって言うまでもなく、特に淡水ダイバーにとってはたまらないスポットです。しかし、訪問客を最も喜ばせるのは、水と山々、そして空が一緒になり完璧な被写体を形成する、1年を通して見られるその美しさです。支笏湖は近隣の洞爺湖と同じく1年を通して凍ることがほぼないことから、極寒となる北海道の真冬においてもその美しさを保っています。しかし支笏湖は兄弟である洞爺湖よりもわずかに北に位置している為、公式には日本最北端の不凍湖なのです。

本事業以前の英語解説文

The Northernmost Ice-Free Lake

Lake Shikotsu is a deep-water lake having a maximum depth of 363m, with an average depth of 265m. Among lakes in Japan, both of these values rank only second behind Lake Tazawa in Akita Prefecture. It holds a large volume of water due to its extreme depth. Compared to Lake Biwa, the largest lake in Japan average depth 41.2m), Lake Shikotsu has only 12% of Lake Biwa's surface area, yet 75% of its water volume. Due to convection, the temperature of the surface water layer does not drop significantly, so it never freezes entirely, even in midwinter. This makes it the northernmost ice-free lake in Japan.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Lake Shikotsu and the Three Mountains

The landscape visible throughout Shikotsu-Toya National Park is largely the result of volcanic activity, some ancient and some quite recent. The beautiful Lake Shikotsu, the eighth largest lake in Japan, is a caldera lake formed after a massive eruption some 40,000 years ago. From its shores you can easily see Mount Eniwa to the northwest and the conjoined Mount Fuppushi and Mount Tarumae diagonally to the southeast. The latter mountain made its debut a scant 9,000 years ago (roughly this morning in geological time), and the iconic lava dome on its crown only emerged in 1909. Tarumae is technically an active volcano, although the last minor eruption was over forty years ago.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

支笏湖と3つの山々

支笏洞爺国立公園で見られる風景はその大部分が火山活動によるもので、その活動は古代からつい最近にまで及んでいます。日本で8番目の大きさを誇る美しい支笏湖は、40,000年ほど前に起きた大規模な噴火の後にできたカルデラ湖です。湖岸からは北西に恵庭岳が、その対角線上の南東には連なった風不死岳と樽前山がきれいに見えます。樽前山はわずか9,000年前（地質学的に言えば、今朝のような感覚）に誕生したばかりで、そのトレードマークとも言える頂上の溶岩ドームは1909年に出現したものです。樽前山は厳密に言えば活火山ですが、前回の噴火は40年以上前に起きた小さなものでした。

本事業以前の英語解説文

Lake Shikotsu and the Three Mountains in the Vicinity

Lake Shikotsu has a surface area of 77.3 square kilometers, making it the eighth largest lake in Japan. The Shikotsu caldera was formed by an enormous eruption that took place about 40,000 years ago. Large amounts of igneous rocks and volcanic ashes were released during this eruption, and its pyroclastic flow reached the outskirts of Sapporo and Mount Yotei.

Mount Fuppushi, Mount Eniwa, and Mount Tarumae became active after the caldera formed. All three of these impressive mountains can be viewed from the shore of Lake Shikotsu. Mount Tarumae emerged 9,000 years ago and its prominent lava dome was created by the eruption in 1909. In recent years, there was a small eruption in 1978.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Biodiversity

Many people think of national parks as tranquil places to stroll while looking at trees, flowers, rivers, and so on. In fact, Japan's national park system plays an essential role in preserving biodiversity and protecting endangered species. One local animal you might think was reasonably safe from natural threats is the Ussuri brown bear (*Ursus arctos lasiotus*). They can grow very large, some almost as big as the giant Kodiak bears of Alaska. Brown bears once roamed freely throughout Hokkaido, but their habitats have steadily shrunk in conjunction with the spread of humans. In one part of the western Ishikari region brown bears are already considered endangered, and other areas may follow. Fortunately, this park covers a large part of their habitat, and aims to preserve as much of that habitat as possible.

Another local resident, the Ezo deer, has just the opposite problem. It has proliferated to such an extent that it is damaging both agriculture and forestry, causing traffic accidents, and hurting vegetation inside the park, leading the Hokkaido government to create a strategic management plan to cope with the increasing numbers of deer.

The park is also well known for its wide variety of birds. Of course, Hokkaido winters are harsh, so the majority of the winged residents here are summer birds. The park is home to several species of woodpecker, as well as the great tit and marsh tit, the hazel grouse, Japanese thrush, brown-headed thrush, narcissus flycatcher, Japanese bush warbler, black-faced bunting, and the Oriental cuckoo. In summer you can hear them talking to each other, bringing even the densest forest alive with the sound of chirping.

The tremendous biodiversity at Shikotsu-Toya National Park is a vital element of its appeal, and protecting the wide variety of flora and fauna found within its boundaries remains an important part of the park's mission.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

生物多様性

多くの人々は、国立公園を木や花、川などを見ながら散策する平穏な場所と考えています。実は、日本の国立公園システムは生物多様性の保全や絶滅危惧種の保護に欠くことのできない役割を果たしています。この地に暮らす動物のなかで、比較的自然的脅威からは守られていると思われがちな動物の1つにエゾヒグマ

（*Ursus arctos lasiotus*）があります。非常に大きな種で、一部はアラスカのコディアックヒグマほどの大きさに成長します。以前は北海道の大地を自由に放浪したエゾヒグマですが、彼らの生息地は人間の流入と同時に確実に縮小してしまいました。石狩地方の西部では、エゾヒグマはすでに絶滅危惧種と考えられており、他の地域もこれに続くかもしれません。幸いにもこの国立公園は彼らの生息地の大部分をカバーしており、できるだけ多くの生息地を保全しようと努力しています。

同じくこの地の住人であるエゾシカは、正反対の問題を抱えています。エゾシカは農業と林業の両方にとって害となるほどにまで増えてしまい、交通事故を引き起こし、公園内の植生に被害を与えています。エゾシカの増加に対応すべく、北海道政府は戦略的管理計画を策定することになりました。

この国立公園はまた、様々な種類の鳥が見られることでも知られています。もちろん、北海道の冬は厳しいので、羽のある住人の大部分は夏の鳥です。公園内には数種類のキツツキ、シジュウカラ、ハシブトガラ、エゾライチョウ、クロツグミ、アカハラ、キビタキ、ウグイス、アオジ、ツツドリが暮らしています。夏になると彼らの会話を聞くことができ、そのさえずりは最もうっそうとした森をも生き生きとさせます。

支笏洞爺国立公園が誇る見事な生物多様性はこの公園の欠かせない魅力の 1 つであり、また、公園内に生息する動植物の保護は、公園の使命の大切な一部であり続けるのです。

本事業以前の英語解説文

National parks play a significant role as a place to preserve biodiversity. Numerous species of mammals inhabit this park, such as the Brown Bear, Ezo Deer, Fox, Mountain Hare, Red Squirrel, Chipmunks, Ezo Flying Squirrel (*Pteromys volans orii*), and relatives of bats and mice. The Brown Bear and Ezo Deer are especially important in relation to humans. The Brown Bear is the largest land animal in Japan and Hokkaido is its only habitat in Japan. Formerly the Brown Bear was distributed across much of Hokkaido but its habitat has shrunk and is fragmented due to human development in the plains. In particular, the bears inhabiting the western Ishikari region are thought to be endangered.

The national park area covers large part of their habitat. Furthermore, in recent years the Ezo Deer has increased in number, causing damages to agriculture and forestry, traffic accidents, and even affecting the vegetation within the park. For this reason, Hokkaido Government has established a scientific management plan for the Ezo Deer and is advancing multiple measures.

Birds Living in the Forest

There are numerous forest bird species in the natural forests near Lake Shikotsu, and their chirping echoes throughout the early summer when the colors of the new leaves are brilliant. In Hokkaido's forests, when the winter climate is harsh, the majority are summer birds. Non-migratory birds are mainly those of the woodpecker species such as the Great Spotted Woodpecker and the Black Woodpecker, and the tit species includes the Japanese Thrush, the Brown-headed Thrush, the Brown-headed Thrush, the Narcissus Flycatcher, the Japanese Bush Warbler, the Black-faced Bunting, and the Oriental Cuckoo.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

All-You-Can-Carry Free Mineral Water

There are at least ten sources of pure, fresh mineral water around Mount Yotei. The most famous one is in Fukidashi Park on the northeast side, which gushes a remarkable 80,000 tons of clear water daily. The big, open park is already attractive, but the smaller springs area (it actually looks more like rivers running down the mountain) is breathtaking. Both locals and visitors come here to fill up canteens, water bottles, or even 20-liter plastic jugs to take home. There are stands selling empty jugs near the springs, so you can arrive empty-handed and still return to your hotel with ten liters of fresh, clean, delicious water.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

持ち帰り放題の無料ミネラルウォーター

羊蹄山の周辺には少なくとも 10 の純粋で新鮮なミネラルウォーターの源泉があります。最も有名な 1 つは北東側のふきだし公園にあり、ここには毎日 80,000 トンという驚くべき量の水が湧き出ています。大きな野外公園自体も魅力的ですが、小さな源泉（実際には山肌を流れる川のように見えます）は息を飲むほどの美しさです。地元の人々も公園を訪れた観光客も水筒や 20 リットルのプラスチック製タンクを水でいっぱいにして持ち帰ります。源泉の近くには空のタンクを販売するスタンドがあるので、手ぶらで来たとしても 10 リットルの新鮮で清潔な、美味しい水をホテルに持ち帰ることができます。

本事業以前の英語解説文

Spring Water at Mount Yotei

Volcanoes with porous lava accumulated often have springs at the bases, from which underground water emanate

There are over ten such spots known on Mount Yotei, and the one at the northeast base is known as "Yotei Spring

Water". The volume of water emanating at this spring reaches 80,000 tons per day. It has been selected as one of

the 100 best waters in Japan. Due to the water's extensive period of underground flow, it contains various minerals

resulting in a high-quality mineral water. Many visitors from afar bring containers to take water home with them.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Lake Salmon

Everyone knows that salmon breed in freshwater rivers and streams, migrate to the ocean, and then return to freshwater rivers to spawn. So you may be surprised to find a type of salmon that lives its entire life in a freshwater lake. Lake Shikotsu holds a type of sockeye salmon called kokanee (*bimemasu* in Japanese). They are raised in nearby hatcheries and released into the lake, where fishing is banned for most of the year. In the summer, the ban is lifted for a short period, and fishing enthusiasts come to catch their fill. *Himemasu* is considered a local delicacy, and you can find it on the menu in one form or another at almost any restaurant in the Lake Shikotsu area.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

サケの湖

サケが淡水の川や小川で誕生し、海へと移動し、産卵の為に再び淡水の川に戻ってくることは誰でも知っています。ですので、一生を淡水の湖で過ごすサケの種があると聞くと驚くかもしれません。支笏湖にはヒメマスと呼ばれるベニザケの一種が生息しています。ヒメマスは近くの孵化場で飼育された後、ほぼ1年中釣りが禁止されている湖へと放流されます。夏のわずかな期間だけ釣りが解禁となり、ヒメマスを目当てに釣り人がやって来ます。ヒメマスは地元が誇る美味とされており、支笏湖周辺のほぼ全てのレストランのメニューで、様々な形で調理されたヒメマスを見つけることができます。

本事業以前の英語解説文

Importation and Aquaculture of Kokanee Salmon

Kokanee is a landlocked variety of Sockeye Salmon, which was originally from Lake Akan and Lake Chimikeppu in eastern Hokkaido. It was introduced to Lake Shikotsu from Lake Akan in 1894, and after successful cultivation, it was transferred to many other lakes, such as Lake Toya in Hokkaido and Lake Towada in Honshu. During the summer season, the only time when fishing ban is lifted, the lake gets crowded with many anglers.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Spring Blooms Beneath Your Feet

While the area is best known for its tall forests, there are also rich, if short-lived, flora closer to the ground. What are called ephemeral plants come to life when the first thaw of spring begins to melt the thick carpet of snow that covers the ground. For a few weeks ample sunlight reaches the forest floor, and by the time leaves begin to appear on the trees above, these spring flowers have already come and gone. Because this growth period is so short, it takes many years for some of these plants to grow to the point of flowering. For example, the dogtooth violet takes eight years from germination to flowering, and the diminutive, white Obana-no-enrei-so (*Trillium kamtschaticum*) takes over a decade.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

足元に春が咲く

背の高い木々で最もよく知られているこの地域ですが、地面近くにも短命ではありますが豊かな植生が広がっています。春の最初のぬくもりが地表を覆っていた厚い雪のじゅうたんを溶かし始める頃、短命植物と呼ばれる草花たちが生き生きとしてきます。十分な量の日光が数週間にわたって森の地面を照らし、木々に葉がつき始める頃にはこれらの春の花はすでに消え去っています。成長期間が非常に短いことから、なかには開花までに長年を要する植物もあります。例えばカタクリは発芽から開花までに 8 年を要し、小さく白いオオバナノエンレイソウ (*Trillium kamtschaticum*) は 10 年以上を要します。

本事業以前の英語解説文

ducing columns o Forest Floor Plants of Early Spring

In Hokkaido, where winters are long, spring arrives without any warning. As if they cannot wait for the snow to melt away, the plants wake up all at once. Short-lived spring ephemeral plants flower and spread their seeds in the sunlight-filled forests before the trees' leaves come out. By the time tree leaves emerge and it gets dark within the forests, the ground plants are already gone. The growth period of spring plants is short, and many of them take several years to flower from the point of germination. Dogtooth Violet takes eight years, and Oobana-no-enreiso (*Trillium kamtschaticum*) takes over a decade.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Destruction and Regeneration

It goes without saying that volcanic eruptions can be dangerous and massively destructive. In particular, when lava or pyroclastic flows (clouds of super-hot gas and volcanic matter) escape from a volcanic vent, they incinerate all vegetation in their path. Increased ground temperatures near the vents also damage root systems and harm local flora. One view of a recently active volcano such as Mount Tarumae (left, top) shows how the ground in the area was burned clear, leaving a whitish scar on the side of the mountain. Yet in time, plants and shrubs begin to regenerate, and over decades, forests start to grow back. Much of the plant life in this national park is the result of long-term regeneration after some kind of volcanic activity in the distant past. You can see forests still recovering today on Mount Tarumae and Mount Usu.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

破壊と再生

火山の噴火が危険で、とてつもなく破壊的であることは言うまでもありません。とりわけ、溶岩または火砕流（超高温ガスの雲や火山性物質）が火口から噴出すると、その通り道にある全ての草木や花を焼き尽くしてしまいます。また、火道付近の地温の上昇は根系にダメージを与え、その地域の植物相に害をもたらします。樽前山（左上）のような近年も活発な火山を見ると、このエリアの地面がどれほど焼き尽くされたのか、さらに山肌に白っぽい傷跡が残されていることがわかります。しかし、時間の経過とともに植物や低木は再生を始め、数十年後には森が戻って来ます。この国立公園の植物の多くは、遠い過去の火山活動の後に始まった長期的な再生の結果なのです。樽前山と有珠山では、今もなお森が回復を続けている様子を見ることができます。

本事業以前の英語解説文

Column

Nature Destruction Caused by Volcanic Eruptions and Subsequent Regeneration Volcanic eruptions significantly influence nearby forests. Trees and shrubs wither and die in the areas where volcanic ashes and igneous rocks accumulate or areas covered by pyroclastic flow. Ground temperature rises near the volcanic vents, which furthers the damage. The regeneration of forests begins only when the ground temperature drops, and it takes a long time for the forest to recover.

In contrast, in areas distant from the crater and where the accumulation of released materials is low, plants are able to regenerate and forests may return to their original state in a relatively short time.

Presently, forests at various stages of recovery can be seen around Mount Tarumae and Mount Usu.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Mount Yotei

Ezo Fuji, the Mount Fuji of Hokkaido, is another name for this powerfully majestic peak that dominates the landscape for miles in every direction. Like Fuji, it has a broad, conical shape typical of many volcanoes, and it is capped by snow for a good part of the year. Another benefit of its volcanic past is the many attractive *onsen* hot springs surrounding its base. These baths are a perfect place to relax and soothe sore muscles after a day of skiing in Niseko, the famous resort destination that lies just west of Yotei. This region, also famous for its mineral water springs, is about a two-hour drive from Sapporo.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

羊蹄山

北海道の富士を意味する蝦夷富士とは、数マイルにわたって全方向に裾野を広げるこの力強く雄大な山につけられた別名です。富士山のように、この山も多くの火山に見られる裾の広い円錐形をしており、その山頂は1年のほとんどを通して雪に覆われています。火山活動の歴史のもう1つの利点として、羊蹄山の周りにはたくさんの魅力的な温泉が広がっています。羊蹄山のすぐ西側に位置する有名なりゾート地・ニセコでスキーを楽しんだ後、疲れた身体を癒してリラックスするにはもってこいの温泉です。ミネラルウォーターが湧き出ていることでも有名なこの地方は、札幌から2時間半ほどのドライブです。

本事業以前の英語解説文

Mount Yotei

This mountain's stand-alone conical shape is impressive. The lack of erosion on the mountain and its crater indicates that it is still a relatively young volcano. Old lava flows of Mount Yotei are widespread on the eastern side, and it is thought to have been active before, although there are no historical records of its eruptions.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Lake Toya

Though slightly smaller than its nearby “partner,” Lake Shikotsu, the equally beautiful Lake Toya is the older of the two caldera lakes. Lake Toya was formed by a volcanic eruption some 110,000 years ago. Later volcanic activity created its most distinctive feature—a group of small islands in its center, collectively called Nakajima (central islands), which is now one of the most popular tourist destinations in the area. From the hot spring hotels on the south shore visitors have a magnificent view of Lake Toya, Nakajima, and majestic Mount Yotei in the background. Also on the south side is Mount Usu, a volcano that became active only around 20,000 years ago, but has erupted eight times in the past 350 years, including once during this century (2000). One of its eruptions, occurring just over 100 years ago, created the southern shore’s hot springs that are now so enticing to visitors. Indeed, Lake Toya and its gorgeous surroundings are a perfect example of how volcanoes can create a beautifully diverse, endlessly appealing landscape.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

洞爺湖

「パートナー」とされる近くの同じくカルデラ湖の支笏湖よりもわずかに小さいながら、その美しさに差はない洞爺湖は、支笏湖よりも先に誕生しました。洞爺湖はおよそ 110,000 年前の火山噴火によって形成されました。その後の火山活動は、洞爺湖最大の特徴である湖の中央に浮かぶ小島のグループを作り出しました。この小島はまとめて中島（中央の島）と呼ばれており、このエリアで最も人気のある観光名所の 1 つになっています。南岸の温泉ホテルからは、洞爺湖、中島、そして背景に堂々とした羊蹄山をとらえた壮大な景色を楽しむことができます。同じく南側には有珠山があります。有珠山は 20,000 年ほど前に火山活動を始めたばかりですが、過去 350 年間に 8 度噴火し、今世紀にも 1 度噴火しています（2000 年）。およそ 100 数年前に発生した噴火は、現在多くの人々を惹きつける南岸の温泉を作り出しました。まさに洞爺湖とその見事な周辺は、いかに火山が美しく多彩で果てしなく魅力的な風景を創造できるのかを示す、完璧な例と言えるでしょう。

本事業以前の英語解説文

Lake Toya

Lake Toya has a surface area of 70.7 square kilometers and is roughly circular. It is the ninth largest lake in Japan. It is a caldera lake of 8-11km in diameter, formed after an enormous eruption about 110,000 years ago. The pyroclastic flow subsequently spilled into the Pacific Ocean and the Sea of Japan, creating a plateau in the area. The islands, comprised of seven lava domes concentrated in the center, were formed by volcanic activity about 50,000 years ago, after the formation of the caldera. Mount Usu on the south bank became active about 20,000 years ago.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Lake Kuttara and Noboribetsu

The third member of this caldera lake trio is the much smaller Lake Kuttara. It lies roughly halfway between its bigger siblings and slightly to the south. It is round like Lake Toya, but has a diameter only a quarter of the size. All of these lakes were created in the same way: by volcanic activity. Noboribetsu, one of the best-known *onsen* hot spring resorts in Hokkaido, is located nearby. It features the long *Jigokudani* (Hell Valley), where you can walk on a raised boardwalk over an otherworldly whitish landscape almost devoid of vegetation but replete with boiling pools of water, bubbling mud, and wisps of steam rising from the ground.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

倶多楽湖と登別

カルデラ湖トリオの3つ目のメンバーは、他の2つよりもずいぶん小さな倶多楽湖です。大きな2人の兄弟のほぼ真ん中、そしてわずかに南に位置しています。洞爺湖と同じく円形をしていますが、直径はそのわずか4分の1です。これら3つの湖は全て同じように火山活動によって形成されました。近くには北海道で最もよく知られた温泉リゾートの1つである登別があります。登別には長く伸びた地獄谷（地獄の谷）があります。植物はほとんど見当たらないかわりに、煮えたぎる水たまりやゴボゴボと湧き上がる泥、地中から立ち上る蒸気が満ちたこの世のものとは思えない白っぽい風景が広がっており、その上に設置された遊歩道を歩くことができます。

本事業以前の英語解説文

Lake Kuttara and Noboribetsu Another caldera lake

Lake Kuttara, was also formed by ancient volcanic activity.

Having a diameter of about 2km, it is smaller than both Lakes Shikotsu and Lake Toya. In Noboribetsu, Jigokudani Valley and Oyunuma, both filled with hot steam vents and sinters, arose about 10,000 years ago through a series of eruptions of Mount Hiyori.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Mount Yotei and Surroundings

Mt. Fuji of Hokkaido

Japanese revere Mount Fuji above all other mountains, not only for its shape, but also for its symbolism and the ineffable power it radiates over the surrounding landscape. Thus it is significant that the nickname for this majestic mountain is Ezo Fuji—the Mount Fuji of Hokkaido (Hokkaido was historically known as Ezo). Though just under 1,900 meters tall, Mount Yotei is the highest peak in Shikotsu-Toya National Park and can be seen from almost anywhere in the park. It is classified among the 100 most famous mountains in Japan.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

羊蹄山とその周辺

北海道の富士山

姿だけではなく、この山が象徴するものや周囲の風景に及ぼす言葉では言い尽くせない力も含めて、日本人は数ある山々の中でも富士山には特別な畏敬の念を抱いています。したがって、この雄大な羊蹄山が蝦夷富士－北海道の富士山（昔、北海道は蝦夷と呼ばれていました）－というニックネームで呼ばれていることには大きな意味があります。標高は 1,900 メートルを切りますが、羊蹄山は支笏洞爺国立公園の最高峰であり、公園内のほぼどこからでも見ることができます。日本百名山の 1 つに選出されています。

本事業以前の英語解説文

Mount Yotei Area

A Beautiful Cone Shape

Also Called "Ezo Fuji"

At 1,893m, Mount Yotei stands alone beautifully. It resembles Mount Fuji, is the highest peak in this national park and is adorned with alpine plants near the summit.

The Niseko area, adjoining the park on the west side, has been growing as an international ski resort in recent years.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Lake Toya Vicinity

Four seasons of beautiful scenery

Lying about 20 kilometers south of Mount Yotei, Lake Toya is unquestionably one of the most scenic lakes in all of Hokkaido, perhaps in all of Japan. Around the lake you can see many working farms, and to the south and east are *onsen* hot springs. Just south of the lake are the twin peaks of Mount Usu and Mount Showa Shinzan. The former is an active volcano, while the latter is a small mountain of roughly 400 meters in elevation. A cable car on the side of Mount Usu takes visitors to an observation platform with a panoramic view of Mount Showa Shinzan, Lake Toya, and the surrounding scenery. Despite Hokkaido's cold winters, due to its great depth (up to 180 meters), the lake never completely freezes, offering beautiful views all year round.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

洞爺湖周辺

四季のある美しい風景

羊蹄山の 20 キロほど南に位置する洞爺湖が北海道ばかりか、おそらく日本全国でも最も美しい湖の 1 つであることに疑いの余地はありません。湖の周りにはたくさんの農場があり、南と東には温泉が湧き出ています。湖のすぐ南には有珠山と昭和山の新山の双子の峰があります。有珠山は活火山ですが、昭和山は標高 400 メートルほどの小さな山です。有珠山にかけられたケーブルカーを登ると展望台があり、そこからは昭和山や洞爺湖、周辺の景色が一望できます。寒い冬で知られる北海道ですが、洞爺湖はその水深（最深部で 180 メートル）のおかげで完全に凍ってしまうことはなく、1 年を通して美しい姿を見せてくれます。

本事業以前の英語解説文

Lake Toya Area

Living with Volcanoes

In contrast to Lake Shikotsu, at Lake Toya there are many paddy fields and farmlands on the flat lakeshore with agricultural villages, creating a pleasant but serene scenery.

Mount Usu and Mount Showa Shinzan stand side-by-side on the south shore.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Jozankei Gorge Vicinity

Relaxation, forest bathing, and scenic hot springs

One of the most scenic hot spring resorts in Hokkaido is just a short hop from Sapporo. Easily accessible in under an hour from the city, it is most famous for its stunning autumn foliage, but the area exhibits beauty throughout the year. A river runs through the middle of the gorge, and in the town, hot water flows from mini-waterfalls, and there are even footbaths where visitors can sit and relax.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

定山溪周辺

癒し、森林浴、美しい景観の温泉

北海道で最も美しい景観を誇る温泉の1つが札幌のすぐ近くに 있습니다。札幌から1時間弱で足を延ばせる定山溪は目を見張るほどの紅葉で有名ですが、その美しい魅力は秋だけではなく1年を通してお楽しみいただけます。溪谷を川が流れ、温水が小さな滝となって流れ込んでいます。定山溪を訪れた人々が座ってリラックスできる足湯施設もあります。

本事業以前の英語解説文

Jozankei Gorge Area

Fresh Verdure and Autumn Colors

Adorning the Valley

Jozankei Gorge Hot Spring, along with Noboribetsu, is one of the best examples of hot springs in Japan. The region stretching along the Toyohira River is known for beautiful valleys and colourful foliage in the fall, and the surrounding mountains are destinations for relaxation and refreshment for Sapporo citizens.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Lake Shikotsu Vicinity

In a class by itself

Hokkaido boasts numerous pristine mountain lakes, but for water clarity Lake Shikotsu is in a class by itself. The water, with transparency measured to depths of between 15 to 30 meters, is amazingly clear, making the lake a favorite for freshwater divers. Shikotsu also has the distinction of being the northernmost Japanese lake that doesn't freeze in winter, providing visitors with a picture-perfect scene any time of the year. Mountains are found on both the north and south sides, and the entire area features some of the freshest, purest mountain scenery to be found anywhere in Japan.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

支笏湖周辺

別格の存在

北海道には数多くの原始の山岳湖がありますが、中でも支笏湖は他を寄せ付けない圧倒的な透明度の高さを誇っています。透明度 15～30メートルと言われる水は澄み切っており、淡水ダイバーにとって絶好のスポットとなっています。また支笏湖は日本最北端にある不凍湖で、1年を通して絵に描いたような美しい姿で訪れる人々を魅了します。湖の南北両方に山があり、そこには日本のどこを探しても見られない天然そのものの山岳風景が広がっています。

本事業以前の英語解説文

Lake Shikotsu Area

Water Color that Fascinates the Tourists

The crystal clear water of Lake Shikotsu is most impressive. It is surrounded by the rich greenery of Mount Eniwa and Mount Fuppushi, with the lava dome of Mount Tarumae on the south shore adding a special character. Although located not far from New Chitose Airport (about 20km), it is the area with the highest natural quality within the park.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

**Noboribetsu-Lake Kuttara Area
Heaven and Hell**

One of the most renowned hot springs in Japan, Noboribetsu is a magnet for visitors. The big attraction is *Jigokudani* (Hell Valley), with its long stretch of featureless moonscape, complete with steam vents and bubbling pools of boiling water. Behind Hell Valley is Oyunuma, a steaming, shallow, hot water pond. Nearby, along a forested path, the same water mixes with the cooler water of a river to create a comfortable footbath. On the far side of the valley lies Lake Kuttara, sister to lakes Toya and Shikotsu. Kuttara is a small, round caldera lake of clear, blue water. It is hard to imagine that this beautiful scene and the barren, steaming landscape of Hell Valley are both the result of volcanic activity.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

登別－倶多楽湖エリア

天国と地獄

日本で最も有名な温泉の1つである登別は、多くの人々を惹きつけてやみません。大きな見どころは地獄谷（地獄の谷）で、長く伸びた何もない月面のような風景の中に水蒸気やブクブクと沸騰する熱湯が見えます。地獄谷の裏には、蒸気が立ち上がる熱湯の浅い池である大湯沼があります。木々に覆われた遊歩道を少し進むと、大湯沼の熱湯と川の冷たい水が混じり合ってきた気持ちの良い足湯があります。地獄谷の向こう側には洞爺湖と支笏湖の姉妹湖である倶多楽湖が広がっています。倶多楽湖は澄んだ青い水が美しい、丸い形をした小さなカルデラ湖です。この美しい風景と、地獄谷の蒸気が沸く荒れ果てた風景がどちらも火山活動によってできたものだとは、容易に想像できるものではありません。

本事業以前の英語解説文

Noboribetsu Area

Blessed with Abundant Hot Springs

Noboribetsu Hot Spring, with its abundant yield of hot water and diverse spring qualities, is a perfect example of hot springs in Japan. Mount Hiyori and Jigokudani Vally (Valley of Hell), both of which fuming with smoke lie to the rear, and crystal clear waters of Lake Kuttara surrounded by forests stretch to the east.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Mount Showa Shinzan and the Mimatsu Diagram

One interesting aspect of volcanoes worldwide is that they continue to appear suddenly, grow, and change. But until the 1940s no one had kept an accurate record of the daily growth of a volcano. Then, in 1943 a major earthquake signaled that Mount Usu was again restless. The following year the land on one side of the mountain began to deform, producing what would become a new lava dome, a section that later became Mount Showa Shinzan. Over a period of almost two years a local postmaster, Mimatsu Masao (1888–1977), began making minute, accurate drawings to show the growth of this new mountain. When his work was published internationally a few years later, the “Mimatsu diagram” became a new reference point for tracking volcanic growth.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

昭和新山とミマツダイヤグラム

世界中の火山に見られる興味深い側面の 1 つとして、火山は突然現れ、成長し、変化するという性質があります。しかし 1940 年代まで、火山の毎日の成長を正確に記録した人はいませんでした。そのような中、1943 年に大きな地震が発生し、これは有珠山が再び落ち着きを失ったことを示唆しました。翌年、この山の片側が変形し初め、新たな溶岩ドームを形成し始めました。これが後に昭和新山となったのです。この間 2 年近くにわたり、三松正夫（1888 年 – 1977 年）という名の地元の郵便局長はこの新しい山の成長を記録する為に、詳細にわたる正確な線画を描き続けました。数年後に彼の作品が世界中で出版されてからというもの、「ミマツダイヤグラム」は火山の成長を追う為の新たな参考基準となりました。

本事業以前の英語解説文

During the Second World War, the activity of Mount Usu which began in December, 1943 with a severe earthquake, raised the land on the east side of the mountain between 1944-45, creating a parasite volcano, Mount Showa Shinzan (elevation 407 meters). For about 600 days during this period, Masao Mimatsu (1888-1977), then a local postmaster observed and measured geomorphological changes and kept a detailed record. Later, Mimatsu Diagram, the records of the daily rise of the base and the growth of the lave dome by his unique technique from a set point, was published at the international conference of volcanology in 1948, and became known as the world's first record of the process of volcanic growth.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Acres and Acres of Forests

The area around Lake Shikotsu is covered with dense, verdant forests. Most of the trees at the lower levels are deciduous (leaf-bearing) species such as Ezo spruce, Sakhalin fir, Mongolian oak, and Japanese elm. At higher altitudes grow more conifers (evergreens), meaning the area appears green throughout the year. The only areas conspicuously devoid of this greenery are the more active volcanoes, which are known for having low tree lines. Mount Tarumae, just south of Lake Shikotsu, has been active for centuries, and its tree line is a low 600 meters, above which little vegetation is found.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

どこまでも続く森林

支笏湖の周辺は青々と茂った深い森林で覆われています。より低地の樹木の大部分はエゾマツやトドマツ、モンゴリナラやハルニレといった落葉樹です。より高地に行くと針葉樹（常緑樹）へと変わり、つまりこのエリアが年間を通して緑色に見えることを意味しています。このような緑が著しく欠けている唯一のエリアが、樹木限界線の低さで知られるより活発な活火山です。支笏湖のすぐ南に位置する樽前山は何世紀にもわたって火山活動を続けており、その樹木限界線はわずか標高 600 メートルで、それより高地には植生がほとんど見られません。

本事業以前の英語解説文

Forests around the Rim of the Shikotsu Caldera

The mountainous area surrounding Lake Shikotsu is covered with rich forests. It is a mixed forest consisting primarily of Ezo Spruce, Sakhalin Fir, Mongolian Oak and Japanese Elm, and the upper region transitions to a more coniferous forest. Needle-leaf trees grow predominantly on Mount Fuppushi, which is dormant. However, on Mount Tarumae, which has been active since the late 17th century, forests are present only in elevations below 600m.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Giant Tree Forest

On the west side of Lake Shikotsu, near Bifue, is an area known as the Giant Tree Forest. This region is full of large, broadleaf trees such as Japanese elm, Mongolian oak, and Japanese linden, among others. These giants are old-growth trees that survived a severe typhoon in 1954 and continue to grow.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

巨木の森

美笛に近い支笏湖の西側に、巨木の森と呼ばれるエリアがあります。この森にはハルニレやモンゴリナラ、シナノキなどの大きな広葉樹がたくさんあります。これらの巨木は1954年の強烈な台風を耐え抜いた老齢樹で、今も成長を続けています。

本事業以前の英語解説文

Giant Tree Forest in Bifue

The forests around Lake Shikotsu sustained severe damage by a typhoon in 1954. However, around Bifue on the west bank of Lake Shikotsu, numerous large broadleaf trees such as Japanese Elm, Japanese Judas, Mongolian Oak, Japanese Linden, and Sennoki (*Kalopanax septemlobus*), still remain. This entire eras is called the “Giant Tree Forest”.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Moss Gateway

One of the most interesting “gifts” of the area’s volcanic activity is this long (400 meters), deep (up to 10 meters), narrow (1–3 meters) rock gorge on the western side of Mount Fuppushi. It is the result of eons of water erosion in the cracks of rocks left over from an ancient Mount Tarumae eruption. If it were merely a deep, narrow gorge it would still be interesting, but the unique aspect of this physical feature is that it has just the right temperature, humidity, and lack of sunlight to make it home to roughly eighty different varieties of moss. Unfortunately, visitors are no longer allowed to walk through the gorge, but a stunningly real, floor-to-ceiling photo is displayed at the Shikotsuko Visitor Center.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

苔の洞門

このエリアの火山活動がもたらした最も興味深い「贈り物」の1つが、風不死岳の西側にある長く（400メートル）、深く（10メートル）、狭い（1～3メートル）岩の峡谷です。これは、大昔に起きた樽前山の噴火によって残された岩の割れ目を長年にわたって水が侵食した結果です。これがただ深く狭い峡谷であったとしても、それはそれで面白いでしょう。しかし、この峡谷を唯一無二な存在としているのは、峡谷内には苔の生育に適した温度と湿度、そして日光の欠如が揃っており、そこには80種類もの苔が生えているという点です。（直訳だと『この峡谷の特徴は、峡谷内の適切な温度と湿度、そして日光の欠如のおかげで、およそ80種類もの苔が生えているという点です。』）残念ながら訪問客はもうこの峡谷を歩くことはできませんが、床から天井まで届く、臨場感あふれる峡谷の写真が支笏湖ビジターセンターに展示されています。

本事業以前の英語解説文

The Impact of Invasive Alien Species

There are numerous cases of non-native animals imported for domestic use (food and pets) running wild after escaping or being abandoned. The raccoon, native to the north-western United States, has been expanding its habitat range, raising concerns of agricultural damage and negative effects on the ecosystem. Signal Crayfish, originally from the United States and possibly endangering native Japanese Crayfish, have been recently found at Lake Toya and Lake Shikotsu. It is prohibited to transport and/or release either of these species under the Alien Species Act enacted in 2005. Currently efforts such as capturing individuals in the wild are being made.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Welcome to Shikotsu-Toya National Park

Lake Shikotsu and Lake Toya have such a wealth of interesting attractions that visitors sometimes have a difficult time planning their itineraries. Fortunately, it is easy to take advantage of the visitor centers at both lakes. The Shikotsuko Visitor Center is housed in a large, log house-style building on the lakeside. Inside you will find maps, photos, and life-size replicas of foxes, bears, and birds, as well as samples of local trees. There are TV monitors with easy-to-understand videos explaining the geologic history of the area and a 4K theater with an excellent video presentation.

The Toyako Visitor Center is equally as impressive and also features a fantastic Volcano Science Museum with a variety of visual and text-based information. You can see train tracks bent by ground deformation and a small pick-up truck that was “bombed” by falling rocks from a recent eruption.

Do yourself a favor and take a few moments to explore one or both of these visitor centers before you start your visit—you will be glad you did.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

支笏洞爺国立公園へようこそ

支笏湖と洞爺湖には興味深い名所がたくさんあり、時として旅程を立てるのに苦労することがあります。幸いなことに、いずれの湖にも簡単に活用できるビジターセンターがあります。支笏湖ビジターセンターは湖畔の大きな丸太小屋風の建物の中にあります。センターの中には地図や写真のほか、きつね、熊、鳥の実寸大のレプリカ、土着の木々のサンプルがあります。また、このエリアの地質学的な歴史を解説したわかりやすいビデオを再生するテレビモニターと、素晴らしいビデオプレゼンテーションを放映する 4K ビデオシアターがあります。

洞爺湖ビジターセンターも同様に見事な作りとなっており、様々な視覚的情報や文字ベースの情報が揃う素晴らしい火山科学博物館が併設されています。地形の変形によって曲がった電車のレールや、最近の噴火で落下した岩石による「爆撃」を受けた小型のピックアップトラックを見ることができます。

公園に到着したら、まずはどちらか、あるいは両方のビジターセンターを見学してみましょう。立ち寄って良かったときと思うはずですよ。

本事業以前の英語解説文

Welcome to Shikotsu-Toya National Park

When you first arrive at this national park, it is a good idea to stop by the visitor center.

You can obtain the latest information and tips on how to explore the park through the exhibitions on local nature and history, or guidance by the park staff. There are also various nature-experiencing events and programs.

At Shikotsu-Toya National Park, there is a visitor center on the Shikotsu lakeshore, Toya Takaranda Nature Experience House and another visitor center on the Toya lakeshore, all of which are run by the Ministry of Environment. Other facilities where you can learn about the nature in the park include the Volcano Science Museum and the Lake Toya Forest Museum.

In addition, the Utonai-ko Wildlife center is located by Lake Utonai outside the park in the wetland, which is included in the Ramsar List of Wetlands of International Importance.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Hot Springs Are Gifts from Volcanoes

Many tourists who come to Japan intend to visit one of the numerous hot spring resorts during their stay. Japan's hot springs are famous, although the reason there are so many is less well known: the country is also full of volcanoes, and wherever you find one, you are likely to find the other. Melting rain and snow seep into the earth and become heated deep underground; when this hot water is forced back up to the surface, the result is a natural hot spring.

Shikotsu-Toya National Park has a number of hot springs, and you should definitely make time to visit at least one. It is a pleasurable experience you will not soon forget.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

温泉は火山の贈り物

日本を訪問する多くの観光客は、滞在中にたくさんある温泉リゾートの1つを訪れようとしています。日本の温泉は有名ですが、日本に温泉が多くある理由はあまり知られていません。この国にはたくさんの火山があり、火山の側にはきっと温泉があるはずです。雨や雪解け水が地中へと染み込み、地下深くで熱せられます。この熱水が地表に押し出されたものが天然の温泉なのです。

支笏洞爺国立公園には数多くの温泉がありますので、少なくとも1つは必ず訪れてみてください。長い間記憶に残る、楽しい経験になることでしょう。

本事業以前の英語解説文

Hot springs are blessings from volcanoes

There are many hot springs in Japan and their distribution roughly matches the distribution of volcanoes. Most hot springs are fed by rainwater-seeping underground and heated by close proximity to magma below the volcanoes. The center of dissolved materials varies among hot springs depending on the dissemination of underground water and the composition of the surrounding rocks. The results is different types of hot springs such as simple thermal hot spring with low mineral content. Chloride spring, sulfur spring, and audie spring. Their bathing effects vary as well.

【施設名】支笏洞爺国立公園

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Joys and Benefits of Hot Springs

Water that flows up from underground to form a hot spring often picks up traces of minerals from the rock through which it passes. The result is hot, mineral-laden water, but this is not “mineral water” for drinking! Instead, it is for soaking (hot spring baths are for soaking, not bathing), and Japanese people ascribe all sorts of restorative and curative properties to these baths, including improvement of skin conditions and internal maladies. Thus, most public hot springs and hotel baths advertise the mineral content of their water.

Even thermal springs (baths that have little or no mineral content) are still very effective for alleviating stress. Japanese customarily soak up to their necks for 10 to 30 minutes, relaxing both muscles and nerves, and helping to melt away stress. In many hot spring towns, you will find public foot baths (*ashi yu*) where you can sit and soak your feet.

Whatever kind of bath you find, by all means try this custom for yourself.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

温泉の楽しみと効能

地中から湧出してやがて温泉となる水は、その過程で岩の間を通り抜ける際に鉱物を吸収することがよくあります。その結果がミネラルを多く含んだ温水です。しかし、これは飲用の「ミネラルウォーター」ではありません！ 浸かる（温泉は浸かる為のもので、入浴する為のものではありません）為のもので、日本人は、肌荒れや内臓疾患の改善など、温泉にはあらゆる種類の回復や治療効果があると考えています。ほとんどの公共およびホテルの温泉が自分たちの温泉にミネラルが含まれていることを宣伝するのはこの為です。

ミネラルをほとんど、あるいはまったく含まない温泉であっても、ストレス緩和にはとても有効です。日本人は習慣として 10～30 分間ほど首まで浸かり、筋肉と神経の両方をリラックスさせ、ストレスを解消します。温泉街の多くには、座って足を浸すことができる公共の足湯があります。

どのような種類の温泉を見つけたとしても、この習慣を是非ご自身でもお試しください。

本事業以前の英語解説文

Benefits of Hot Spring

Hot springs provide many medicinal benefits such as recuperation and disease prevention through the effects of the mineral salts contained in the water, and the psychological benefit of relieving the stress of daily life, and placing oneself in a natural environment. The Japanese are big fans of hot spring baths. The history of

hot spring use is well established. As a matter of fact, there is a record related to hot springs in “Kojiki” (The Records of Ancient Matters), the oldest history book in Japan written in the eighth century. Hot springs serve many purposes besides bathing. Not only are they used as a source of heat for raising animals and cultivating plants, but they are also utilized to heat buildings using heat pumps. In the town of Soubetsu, farmers use hot springs to cultivate tomatoes in large-scale plantation houses.

釧路市湿原展望台 リニューアル検討協議会

【施設名】釧路市湿原展望台

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro Marsh Observatory

The Kushiro Marsh Observatory is a visitor center on the west side of the marshland. The three-story facility houses a souvenir shop, a restaurant serving local cuisine, and an exhibition space. Visitors can see ancient artifacts excavated from the area and read about the region's history, as well as learn about the marshland's flora and fauna. The center of the exhibition space features a fascinating life-size diorama of the marsh, while the observation deck on the third floor and rooftop provide a spectacular panorama of the wetlands, the city of Kushiro, and the Akan Volcanic Complex. Outside, the Satellite Observatory sits at the halfway point of a 2.5 km boardwalk loop, offering a closer view of the stunning, vast marshland.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釧路市湿原展望台

釧路市湿原展望台は、湿原地の西側にある観光客向け施設です。三階建ての建物で、お土産物店と地域特産物を提供するレストランと展示スペースがあります。この地域で発掘された古代の造形物を見たり、地域の歴史を学んだり、湿原地の動植物について学ぶことができます。展示スペースの中心には、湿原の実物大のジオラマが展示されています。3階展望室と屋上からは、湿原や釧路の街、阿寒の山々などパノラマの風景を望めます。外部には、1周約2.5キロメートルの遊歩道があり、中ほどにあるサテライト展望台では、広大な湿原の風景をより間近に望めます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】釧路市湿原展望台

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Formation of the Kushiro Marsh

The Jomon Transgression

It is believed people have inhabited Kushiro since the Paleolithic period more than 10,000 years ago. Around 6,000 years ago, part of Old Kushiro Bay formed as sea levels rose, inundating low-lying areas and moving the coastline inland; the present-day marshland was underwater. This was a geological event known as the Jomon Transgression, named after the Jomon period (approximately 12,000 to 2,400 years ago). At East Kushiro and Hosooka, on the east side of the plateau, excavated shell mounds consisting mainly of clams and oysters provide evidence of prehistoric human activity.

Birth of the Kushiro Marsh

In the middle of the Jomon period, around 4,000 years ago, the climate became colder and the sea began to retreat. Sand dunes formed at the mouth of the bay, completely cutting off the area from the sea. Around 3,000 years ago, Old Kushiro Bay turned into a brackish swamp which developed into the present-day Kushiro Marsh. The land on the western side of the marshland rose while the eastern side subsided, leaving the Kushiro River and small salty wetlands along the eastern side of the plateau. This area contains a wealth of archaeological sites.

The Satsumon Culture

In the Yayoi period (300 BCE–300 CE), rice cultivation was introduced to the main island of Japan from China. The people of Hokkaido, though, continued to live as hunters, fishermen, and gatherers in what is called the Post-Jomon period. Geographical conditions and adherence to traditional culture meant that Hokkaido was the only region of Japan that experienced the Post-Jomon period, which later became the Satsumon culture (700–1200) and eventually developed into the Ainu culture. The Satsumon period coincided with Honshu's Heian period (794–1185). Satsumon people were heavily influenced by Honshu culture; for example, they lived in square-pit dwellings, ate cereals and used ironware. This was the last age when earthenware was produced.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

湿原が形成されるまで

縄文の海進

人々は 10,000 年以上も前の石器時代から釧路に定住し始めたと考えられています。海面が上昇して古い釧路湾の一部が形成され、低地に水がたまり海岸線が内陸へと移動したおよそ 6000 年前、現在の湿原は海面下にありました。これが縄文時代（12,000 年前頃から 2,400 年前頃までの期間）の名を冠して縄文の海進として知られる地質的現象です。東釧路および台地の東側の細岡では、アサリやカキなどの貝塚が発掘され、有史以前に人々が住み着いていた痕跡が認められます。

釧路湿原の誕生

約 4,000 年前の縄文中期には気候が寒冷化して海が退却し始めました。その結果、河口付近に砂丘が形成され、この一帯が海から完全に切り離されました。約 3,000 年前、昔の釧路湾が塩分を含んだ沼地へと姿を変え、今日の釧路湿原の基礎を形成しました。その後、西側の湿地帯は隆起し、東側は沈降し、釧路川と小さな海跡湖を台地の東側沿いに残しました。この地域にはたくさんの遺跡があります。

擦文文化

弥生時代（紀元前 300 年 – 紀元後 300 年）には中国から日本の本州に稲作が渡来しました。しかし、北海道に住む人々は続縄文時代と呼ばれる時代も狩人、漁師、採集民としての暮らしを続けました。その地理的条件と文化的伝統から、北海道は続縄文時代を経験した日本で唯一の地域でした。続縄文時代は後に擦文文化（紀元後 700 年 – 1200 年）となり、最終的にアイヌ文化の誕生に至りました。擦文文化は本州の平安時代（紀元後 794 年 – 1185 年）と一致します。擦文の人々は本州文化の影響を色濃く受けており、例えば、四角い竪穴住居に住み雑穀や鉄器を使用しました。土器を制作して暮らした最後の時代でもありました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】釧路市湿原展望台

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Hokkaido's National Parks

Hokkaido is home to six national parks. Recognized as places of significant scenic beauty, they are managed by the national government.

Akan-Mashu National Park

Akan-Mashu National Park boasts a unique landscape of primeval forests, enormous lakes, and ancient volcanoes. It is centered around three caldera lakes: Lake Kussharo is one of the largest caldera lakes in Japan; Lake Mashu holds the world record for highest water transparency; and Lake Akan is the home of Marimo, also known as moss balls, a rare spherical alga designated as a Special Natural Monument of Japan. There are also numerous smaller lakes in the park, including Onneto, Penketo, and Panketo, all the result of prehistoric volcanic eruptions from Mt. Oakan and Mt. Meakan. Volcanic activity continues to this day in the form of steaming sulfur mounds at Mt. Io, as well as pools of boiling volcanic mud called *bokke* that are found along the shore of Lake Akan. Bihoro Pass, Sogakudai, and other observatories dotted around the park offer stunning panoramic views of this diverse, well-conserved landscape.

Kushiro Shitsugen National Park

Kushiro Shitsugen National Park includes the largest wetland in Japan and its surrounding hills. Despite the close proximity to an urban area, conservation efforts made by the local community have resulted in little human impact on the natural environment. The wetland has forests of alder trees, meandering rivers, and a low-lying marsh rich in reeds and sedges. The marsh provides a habitat for a variety of precious flora and fauna, including red-crowned cranes which are designated as a Special Natural Monument of Japan. Kushiro Shitsugen is registered as a Ramsar Site for the international importance of its wetlands. Within the national park, popular activities include canoeing on Lake Toro and Lake Takkobu, watching the sunset over Shirarutoro Lake, and the views of the expansive marshlands from Cape Miyajima, Cape Kirakotan, Mt. Iwabokki, and the Hosooka View Point.

The Ramsar Convention

The Ramsar Convention is an international treaty for the conservation and sustainable use of important wetlands serving as waterfowl habitats, and for the protection of the animals and plants which inhabit them. The Convention was enacted in the Iranian city of Ramsar in 1971, and there are now more than 2,300 Wetlands of International Importance (Ramsar Sites) worldwide. Japan joined the convention in 1980 with Kushiro Marsh as its first designated site. To become a Ramsar Site, a region must meet strict criteria: it must be a site containing a representative and rare wetland; or a site of international importance for conserving biological diversity, including supporting endangered species or at least 20,000 waterbirds, while also providing a food source for fish, spawning grounds, and a juvenile fish habitat.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

北海道の国立公園

北海道は豊かな自然に恵まれ、6つの国立公園を有しています。どれも日本を代表する景勝地として認められ、国によって管理されているものです。

阿寒摩周国立公園

阿寒摩周国立公園は原始林、巨大な湖、大昔の火山からなる独特の景観を誇っています。3つのカルデラ湖が中心となっており、中でも屈斜路湖は日本最大級のカルデラ湖の1つです。摩周湖は過去に水の透明度の世界記録を樹立しており、阿寒湖は日本の特別天然記念物に指定された希少な球状の藻であるマリモの自然生息地です。この公園にはまたオンネトー、ペンケトー、パンケトーなどの多くの小さな湖沼が点在しており、すべてが雄阿寒岳や雌阿寒岳の有史以前の火山噴火活動の結果です。硫黄性の蒸気を噴出する硫黄山や、阿寒湖の岸沿いに見られるボッケと呼ばれる沸騰する火山泥の沼地などは今日まで続く火山活動の一部です。美幌峠、双岳台、公園の周りに点在するその他の展望台からこの多様なままでの手付かずの絶景を一望することができます。

釧路湿原国立公園

釧路湿原国立公園は日本最大の湿原及びその湿原を取り囲む丘陵地により構成されています。都市部に隣接しているにも拘わらず、地域住民の保全の努力により、この自然環境にはほとんど人の影響が及んでいません。この湿原の特徴として、ハンノキ林、蛇行した河川、ヨシやスゲに覆われた低層湿原などが挙げられます。湿原には、日本の特別天然記念物に指定されたタンチョウなどの貴重な動植物が生息しています。釧路湿原は国際的に重要な湿原に関するラムサール条約に登録され、国内だけでなく世界的にも貴重な湿原としてその価値が知られています。国立公園内で人気の活動には塘路湖、達古武湖でのカヌー体験、シラルト口湖越しに沈む夕日の眺め、宮島岬、キラコタン岬、岩保木山、細岡展望台から望む広大な湿原の鑑賞などが挙げられます。

ラムサール条約

ラムサール条約は水鳥の生息地として重要な湿地の保全とそこに生息する動植物の保護のための国際条約です。ラムサール条約は1971年イランの都市ラムサールで採択され、今や国際的に重要な湿地として2,300ヶ所が登録されています。日本は1980年に条約に加盟し、釧路湿原が登録湿地として最初に指定されました。条約登録の国際的基準には、代表的かつ希少な湿地であること、または固有の湿地タイプを含む湿地であること、絶滅危惧種、2万羽以上の水鳥を支えている湿地であること、魚類の食物源、産卵場、稚魚の生息場として重要な湿地であることなどがあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】釧路市湿原展望台
 【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Sakhalin Taimen (*Ito*)

Sakhalin taimen, or *ito* in Japanese, is a rare species of salmon and the largest freshwater fish in Japan. As well as Hokkaido, they are also found in Sakhalin and the Kuril Islands at the extreme east of Russia. In the past, enormous Sakhalin taimen up to 2 m long were believed to have lived in Lake Shirarutoro and the Akan River in the Kushiro Marsh. Shrouded in mystery, Sakhalin taimen are extremely timid and are very rarely seen by humans, despite being known to ferociously prey on other animals. In recent years, the Sakhalin taimen has experienced a dramatic decrease in population due to overfishing and habitat destruction. In particular, the damming of rivers prevents them from being able to swim upstream to spawn. They were categorized as a Ministry of the Environment Red List endangered species in 2003, and in 2006 the International Union for Conservation of Nature (IUCN) listed them as a critically endangered species facing a high risk of extinction in the wild.

Diet

In the Ainu language, Sakhalin taimen are called *chirai*. According to Ainu legend, this fish was so powerful it could attack bears and deer, and stop a river's flow. The Japanese name, *ito*, is written using the Chinese characters for "fish" and "demon." In reality, during their first one to two years of life the fish primarily eat insects and aquatic invertebrates. As they mature, they transition to a fish-based diet, consuming finfish and crustaceans. Finally, when they become fully grown, they begin to prey on larger animals such as frogs, mice, and snakes.

Growth

In the springtime, female Sakhalin taimen that have reached 60 cm in length go through their first egg-laying phase, producing approximately 2,000 eggs. After spawning, the eggs take two months to hatch. These are slow-growing fish; it takes one year for the young fish to grow approximately 7 cm in length, and three years for them to reach about 20 cm. On average, they will eventually exceed more than 1 m in length.

Spawning

Male Sakhalin taimen take four years to reach sexual maturity, while females take six years. The average life span is between fifteen to sixteen years. From early to mid-April, mature fish swim up tributaries to spawning grounds. As the fish struggle upstream, the males undergo a striking color change, turning bright red. After mating, the females lay eggs five to six times in spawning nests in the gravel riverbed. Unlike other varieties of salmon that die after laying eggs, Sakhalin taimen spawn many times during their lifetime.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

イトウ

イトウはサケの希少種で、日本における最大の淡水魚です。北海道だけでなく、サハリン（樺太）やロシア極東の千島列島でも生息が確認されています。かつて、2メートルにもおよぶ巨大なイトウが釧路湿原地のシラルトロ沼(湖)や阿寒川に生息していたと信じられていました。謎に包まれたイトウは、どう猛に他の動物を捕食することが知られており、また極めて臆病でもあり、ほとんど人目に触れることがないことから幻の魚と名付けられ

ています。近年、乱獲と生息地の環境破壊によって、その生息数は劇的な減少に晒されており、特に、河川のダム建設によって産卵のために上流へ遡上することを阻まれています。2003年に環境省のレッドリストで絶滅危惧種に分類されており、また2006年には国際自然保護連合（IUCN）において、自然界での絶滅危機の高い可能性に直面する決定的危惧種としてリストアップされています。

食習慣

イトウはアイヌ語でチライと呼ばれています。アイヌの伝説によれば、熊や鹿にも襲いかかることができるほど強靱な魚で川の流れをも堰き止めるほどとされています。何と言っても、イトウは魚偏に鬼という漢字一文字で表されます。実際に、稚魚の1, 2年間は主に昆虫や水中生物などを食べ、成長に従って、食習慣が成魚や甲殻類の捕食へ移行し、遂には、完全な成魚となってカエルやネズミやヘビといった大きな動物の捕食が始まります。

成長

体長約60センチメートルとなったメスのイトウは、春の時期、最初の産卵の段階に入り、おおよそ2000個の卵を産みます。卵は2か月後に孵化します。成長速度は遅く、1年で約7センチメートル、3年で約20センチメートルに達します。平均的に、体長は1メートル以上に成長していきます。

産卵

オスのイトウは、メスが6年を要するのに対して、4年で成熟します。寿命は15年から16年です。4月の初旬から中旬にかけて、成魚は産卵地まで川の支流を泳ぎ登って行きます。魚たちは遡上に奮闘し、オスたちは、メスがそのままの状態に対して、目立つように体を鮮紅色に変化させアピールを行います。交配後、メスたちは川床の砂利で形作られた産卵用の巣の中に5, 6回卵を産み付けます。産卵後死んでしまう他のサケの仲間たちと異なり、イトウは生涯で多くの回数の産卵をします。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】釧路市湿原展望台

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

A Year in the Life of a Red-Crowned Crane

In Japanese, red-crowned cranes are called *tancho*, which refers to the patch of red skin on their forehead. It is believed there are just 2,750 red-crowned cranes left globally. They inhabit eastern Siberia, part of northeastern China, and eastern Hokkaido. They were once found throughout western Japan in the Edo period (1603–1867), although it was believed that overhunting had led to their extinction during the Meiji period (1868–1912). However, ten birds were discovered in Kushiro Marsh in 1925. Conservation programs were immediately implemented to protect this rare species, and by 2006 their numbers had recovered to more than 1,000.

During the cold months, from around November to February, the cranes roost along frozen rivers. Winters here are harsh and the cranes are sometimes unable to find food in the frozen lakes and waterways. Consequently, many birds gather at designated feeding sites where food is provided for them.

Courting takes place around February. To find a suitable partner, male and female cranes perform a beautiful mating dance. They raise their heads in unison, open their wings, and leap in the air while calling. Many bird enthusiasts flock to the snow-covered fields around Kushiro to witness this “crane dance.” Around mid-March, the mating pairs build a soft nest made of withered reeds in the marshlands. Circular in shape and with an indent in the middle, the nest is approximately 30–50 cm deep, and 160–200 cm wide.

A red-crowned crane usually produces two eggs at a time, which are laid between March and April. The oval-shaped eggs are 10–12 cm long and 6–8 cm wide. A standard egg weighs 230–240g. The shell is the same light-brown color as the reeds and is covered in specks of various sizes. From April to May, both the male and female cranes take turns incubating the eggs. On average, they switch places four times a day, all the while rotating the eggs to ensure an even distribution of warmth. In May, around 28 days after starting incubation, the chicks begin to hatch; it takes about two days for them to fully emerge. The hatchlings have soft, caramel-brown feathers, and are able to open their eyes and begin walking immediately.

From June to October, the parents get their appetites back. They eat small fish such as stickleback and lake minnow, as well as crayfish, worms, and insects. When the chicks are a few days old, they begin foraging for their own food. As they grow they start to eat larger fish such as dojo loach, crucian carp, and Japanese dace, as well as shellfish and frogs. By the time the chicks are three months old they have the same diet as their parents, consuming mainly insects, aquatic invertebrates, fish, rodents, and amphibians.

Juvenile cranes grow quickly, reaching adult-size when they are three months old. Around this time, they begin to practice flapping their wings, and by their 100th day, most cranes are able to fly. They stay by their parents’ side until they are around ten months old, which is the start of the next breeding season. During this time, their brown feathers gradually turn black, but the red patch on their head does not appear until they are around two years old. It takes approximately three to four years for cranes to reach breeding maturity.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

タンチョウの一年

タンチョウは日本語で丹頂（たんちょう）と呼ばれるように前頭部に赤い皮膚の斑点が付いています。世界に約 2750 羽しか残存していないとされています。シベリア東部と中国の東北部の一部、そして北海道東部に生息しています。江戸時代（1603-1868）には西日本においても発見されていましたが、明治時代（1868-1912）に乱獲によって絶滅したとされていました。しかしながら、1925 年に 10 数羽が釧路湿原で発見されました。この希少な種の保護のために直ちに保存計画が実施されました。2006 年までにその数は 1,000 羽以上まで増えました。

11 月頃から 2 月にかけての寒い期間、ツルたちは凍結した川辺に巣くいます。この地の冬はツルたちに厳しい環境を作り、時として、凍結した湖や河川でエサを見つけることが出来なくなります。そのような状況においては、多くは人間によって餌付けされるエサ場に集まります。

2 月頃になると求愛が始まります。好みの相手を見つけるため、オス・メスのツルたちが互いに顔を合わせて美しい求愛ダンスを興じます。共に頭を高く掲げ、翼を広げて、鳴きながら空中を飛び跳ねます。多くの熱烈な愛鳥家がこの「ツルダンス」を目撃するために釧路近郊の雪原地に集まります。3 月中頃、ペアとなった 2 羽は湿原の枯れアシによる軟らかい巣を作りながら共に産卵の準備を始めます。円状で真ん中にくぼみのあるおおよそ 30-50 センチの深さで 160-200 センチ幅の巣です。

タンチョウは、3 月から 4 月の間、通常 1 回で 2 個の卵を産みます。楕円形の卵で長さ 10-12 センチメートル、幅 6-8 センチの大きさです。通常サイズで 230-240 グラムあります。殻はアシの同じ薄茶色で様々な大きさの違う斑点に覆われています。4 月から 5 月にかけて、オス・メスで交互に卵を抱きます。平均的に、1 日に 4 回場所を変え温める場所を確保しながら卵を転がしています。5 月に入って、卵を抱き温めだして 28 日目あたりで雛が殻を突き破ります。完全に孵化するために 2 日間ほど要します。孵化したての幼鳥はふわふわのキャラメル色の羽を持ち、目も開きすぐに歩き出します。

6 月から 10 月にかけて、親鳥たちは食欲を取り戻します。彼らはコイ科などの小魚やザリガニやミズズミや昆虫を漁ります。雛たちは生後数日で自らのエサの確保を始めます。成長に従って、貝類やカエル、どじょう、フナ、コイやウグイを、食べ出します。生後 3 か月を過ぎると、親鳥と同様の食習慣となり、主に昆虫や水生動物、魚類、ネズミ類や両生動物などを食します。

子供のタンチョウの成長は早く、わずか生後 3 か月で大人のサイズに到達します。この頃には翼を動かす運動を始め、100 日目ではほとんどのツルは飛べるようになります。生後 10 ヶ月間程度までは親鳥の側に居続け、次の繁殖時期まで一緒に過ごします。この時期に茶色の翼は次第に黒く変化します。頭の赤い斑点は 2 歳あたりまでは現れません。繁殖が可能になるまでにおおよそ 3 年から 4 年かかります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】釧路市湿原展望台

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Animals of the Marshland

Kushiro Marsh is inhabited by more than 200 species of birds and animals, including red-crowned cranes, Ezo red foxes, Ezo true squirrels, Blakiston's fish owls, and white-tailed eagles. Elusive by nature, these animals remain largely hidden from humans. The best observation opportunities are along riverbanks when the animals go to drink or in groves and grasslands when they are in search of food. Their presence is most visible in the tracks that they leave. Footprints are often found in the damp soil around pools of water, on soft areas of earth, and on snow during the winter. Feces and pellets of undigested food regurgitated by birds tell of the wildlife that live in the area. The marshland is visited by both summer and winter migrant birds, which means that a wide variety of different birds can be seen and heard depending on the season. Unique creatures, such as the Siberian salamander, live below the surface; in Japan, this endangered species is found only within Kushiro Marsh. The waterways are home to Sakhalin taimen, Japan's largest freshwater fish, as well as native Japanese crayfish.

Introduced Species of the Marsh

As well as native wildlife, Kushiro Marsh is populated with species introduced from foreign countries. The marshlands have become home to minks that escaped from farms for fur production; signal crayfish that were brought as feed for fish from America; buff-tailed bumblebees that were introduced to pollinate crops; and golden glows that were planted simply for their pretty flowers. After their introduction, these plants and animals gradually increased in numbers and began to have a negative impact on the native wildlife and ecosystems of the marshlands. Some started to destroy the habitats of native species, for example signal crayfish that damaged aquatic plants. In other cases, the introduced animals were a direct danger to native species, such as minks preying on the chicks of red-crowned cranes. Consequently, the Invasive Alien Species Act was enacted in 2005 to prevent further adverse effects caused by introduced plants and animals. It is now prohibited to breed, cultivate, or store invasive alien species, as well as to transport, import, or release them.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

湿原の動物たち

釧路湿原は、タンチョウ、キタキツネ、エゾリス、シマフクロウやオジロワシを含め、200種以上の鳥類や動物が生息しております。自然の中では見つけがたいこれらの動物は、そのほとんどが人間社会からひっそりと隠れて生息しています。これらを見るための最適の場所として、水を飲みに来る川のほとりやエサを求める木立や草原があります。それらは地上にその証を残しており、水たまり周辺の湿った土の上や地上の柔らかい部分や冬の雪上でしばしば足跡が見られます。足跡の側では糞や、鳥類が吐き出した未消化のエサの欠片などが落ちており、ここで生き物が暮らしていることを教えてくれます。夏と冬それぞれに湿原地を訪れる異なる渡り鳥を見ることができ、季節ごとの異なる野鳥のさえずりを聞くことができます。珍しい生物も地中にいます。日本では釧路湿原のみで生息する絶滅危惧種でもあるキタサンショウウオもそうです。また、その河川は日本最大の淡水魚であるイトウの生息地であり、在来種ニホンザリガニの生息地でもあります。

湿原の外来種

固有種の野生生物と同様に、釧路湿原には海外から入ってきた外来種も生息しています。湿原は毛皮産業の農場から逃げ出したミンクの住処になったり、魚のエサとして米国から買い込まれたウチダザリガニや、温室栽培授粉用に導入されたセイヨウオオマルハナバチ、美しい花として単純に栽培されたオオハンゴン草なども入ってきました。しかしながら、それらは次第に数を増やし在来種や、湿原の環境に悪い影響を与えるようになりました。あるものは在来種の生息地を破壊し始め、例えば、ウチダザリガニは水中植物を傷つけたりしました。また別の例では、ミンクがタンチョウの幼鳥を捕食するような外来動物が直接在来種に危害を与える場合があります。最終的に、2005年に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」によって、外来動植物による更なる影響の防止に向けた方針が法制化されました。そして、現在、このような外来種の飼養、栽培、保管又は運搬、輸入、譲渡を禁じております。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】釧路市湿原展望台

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Plants of the Marsh

Kushiro Marsh is home to an array of rare flora. One of the rarest plants is the *yachibozu*, which are sedges that look like a bald head, hence the name *yachibozu* which means “marshland monk.” In autumn, the plant’s leaves wither and droop, and while in most cases warm temperatures and microorganisms would lead to decomposition, in the marshland’s low temperatures and humidity microorganisms are not as active. Thus, on many *yachibozu* the leaves remain in their withered state. In winter, water freezing within the earth forces the plant roots upward, and in spring meltwater accumulates at the base of the plant, washing away the soil from around the roots. Finally, new leaves and stalks grow from among the dead grass. This process is repeated each year, causing the plant to eventually reach heights of 40–50 cm.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

湿原の植物

釧路湿原は希少な植物の生息地です。最も希少な植物のひとつとして、坊主頭のように見えるスゲの、ヤチボウズがあります。ヤチボウズは「湿地の坊主」を意味します。葉は秋に枯れて垂れ下がります。枯れた葉は気温が高いと微生物などに分解されてしまいますが、低温過湿の湿原では微生物の活動が活発ではありません。そのため多くのヤチボウズは、枯れた状態で残ります。冬には水が凍結すると植物が株ごと持ち上げられ、春には雪解け水が根元を満たして株周囲の土を洗い流します。そして枯草の間から新しい葉や茎が生育してきます。これを繰り返し、40～50cmの高さに盛り上がります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】釧路市湿原展望台

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Profile of the architect Mozuna Kiko

Mozuna Kiko (1941–2001) was a famous architect from Kushiro City whose work has earned both domestic and international acclaim. In 1985, he was awarded the prestigious Architectural Institute of Japan Prize for his designs for the Kushiro City Museum and Kushiro City Marsh Observatory. His designs are renowned for their unique blending of features of Kushiro's natural environment with the architect's distinctive style.

Kushiro Marsh Observatory

Mozuna Kiko's Kushiro Marsh Observatory was inspired by *yachibozu*, a rare form of sedge that can be seen in the surrounding marshes. The roots of this plant are lifted out of the soil by freezing each winter, and over many years they come to resemble a peculiar floating head. Like *yachibozu*, the observatory was intended to look like a vessel floating in the marshlands. The elegantly curved, cave-like interior of the building represents the core elements of the marshland.

Kushiro City Museum

The Kushiro City Museum building represents the open wings of a red-crowned crane as it embraces its chick. The staggered roof design reflects the contoured pattern of the hills surrounding Lake Harutori, located adjacent to the museum. The first, second, and fourth floors of the museum are exhibition spaces. Each floor is connected by a double helix staircase.

Kushiro Fisherman's Wharf (MOO) and EGG

The Kushiro Fisherman's Wharf (MOO) is an expression of the main characteristics of the city: the abundance of fish; the close connection to the beautiful ocean; and a place where people gather. Located along the waterfront adjacent to Nusamai Bridge, the wharf was created to give people a chance to enjoy the splendor of the sea and the fish that inhabit it. Next to MOO is a greenhouse known as EGG. Popular among both local residents and visitors, EGG provides the opportunity to see flowers and greenery throughout the year.

Kushiro Nusamai Junior High School

The Kushiro Nusamai Junior High School was designed so that its students would always remember it. On top of the building are seven large arches resembling rainbows, while light shines through stained glass windows onto a domed, open space in the foyer. Curved stairs in the center of this space create a soft and inviting atmosphere, and this curved design continues throughout the corridors of the school building. Along with Kushiro City Museum, this school considered to be Mozuna Kiko's masterpiece.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

毛綱毅曠:建築家プロフィール

毛綱毅曠（1941－2001）は釧路市出身の建築家です。彼の作品は国内外で絶賛を得ています。1985年に、釧路市立博物館と釧路市湿原展望台の設計で日本建築学会賞を受賞しました。彼のデザインはその独創性で有名で、建築家としての独特のスタイルで釧路の自然環境の特徴を調和したものです。

釧路市湿原展望台

釧路市湿原展望台における毛綱毅曠の作品は、同湿原周辺で見ることが出来るヤチボウズに着想を得たものです。冬が来るたびに凍土によってスゲの根が少しずつ持ち上げられて地表に現れ、年を重ねて浮き坊主頭のような奇妙な形となります。このヤチボウズのように、展望台は、湿原地に浮かぶ船のように見えるよう意図されています。エレガントな曲線を描いた、洞窟のような建物の内装は、同湿原地の中心的要素を象徴するものです。

釧路市立博物館

釧路市立博物館は、タンチョウが翼を広げ雛鳥を抱いている形を表現しています。交互に組み立てられた屋根のデザインは、同博物館に隣接する春採湖周辺の起伏のある丘陵地のイメージを取り込んでいます。1階、2階、4階には常設室があり、各フロアは二重らせん階段でつながっています。

釧路フィッシャーメンズワーフ MOO と EGG

釧路フィッシャーメンズワーフ MOO は、豊富な魚と、美しい海への親しみ、また人々が集まる場所という市の象徴を具体化したものです。幣舞橋に隣接するウォーターフロントとして、多くの方に豊富な地元の海産物を楽しんで頂ける場所となっています。また、MOO に隣接する通称 EGG では一年を通して花と緑に触れることができ、地元の方からも親しまれています。

釧路市立幣舞中学校

釧路市立幣舞中学校は、卒業生が決して忘れない特徴的な学校になるよう、デザインされました。建物の最上部には7本の虹をあしらったアーチがあり、日光がステンド・ガラスの窓を通してホールの床まで差し込むようになっています。中心にあるらせん階段はやさしく迎え入れる雰囲気を出しています。この特徴的な曲線でのデザインは、学内の廊下まで続いています。この学校は博物館とあわせ毛綱建築の代表作と呼ばれています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】史跡 北斗遺跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Hokuto Archaeological Site

The Hokuto Archaeological Site is situated on the west side of Kushiro Marsh. It includes the sites of more than 230 pit dwellings used in ancient times. As well as walking through the excavated site, visitors can learn about the pits and see a life-size pit dwelling inside the site's museum.

The Hokuto area is believed to have been inhabited from the Palaeolithic period more than 10,000 years ago to the Satsumon period (700–1200). Excavations have unearthed fireplaces from the Palaeolithic period, as well as dwellings, tombs and shell mounds from the Jomon period (14,000 BCE–300 BCE), and weaving devices and textiles from the Satsumon period. There are 102 circular and oval pits from the Jomon and Post-Jomon periods (14,000 BCE–700CE), and 232 square pits from the Satsumon period. The pits are located in an area that is 2,500 m from east to west and 500 m from north to south. This area was designated a National Historical Site in 1977.

Semi-basement huts over five of the square pits have been recreated. The square pits were 5–10 m long on each side and 1 m deep. Tree trunks were used for the huts' pillars and beams, and reeds were used for the thick-hipped roof that extended to the ground. Inside, there was a sleeping area as well as fireplaces for cooking. The people of the Satsumon period typically lived in settlements along rivers where they could fish for salmon and trout. They lived as hunters, fishermen, and plant gatherers, and cultivated various grains. It is not known why the pit dwellings were eventually abandoned.

The Archeological Site museum is open from April to November. On display are earthenware and stone artifacts, a diorama of the area as it was in ancient times, a full-scale square pit dwelling, and information on the history of the ruins. A video provides a fascinating look at the history of the land and its people.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

北斗遺跡

北斗遺跡は釧路湿原の西側に位置しており、古代の 230 以上の住居跡のくぼみが残っています。訪問者は、この地を散策すると共に、住居跡の穴を学び、また遺跡の展示館で等身大の住居を目にできます。

北斗地域は、一万年以上前の旧石器時代から擦文時代（700–1,200）までのかかなり長い間に生活されていたと考えられています。これまでの発掘で旧石器時代の火をたいた跡が発掘されており、縄文時代（BC14,000-BC300）の墓石や貝塚、それから擦文時代の機織り道具や繊維なども発掘されています。発見された住居跡のくぼみのうち、102 個は縄文から続縄文期（BC14,000–AD700）の円形で楕円の穴となっており、232 個は擦文時代の四角い穴となっています。これらの穴は、東西 2,500 メーター、南北 500 メーターの範囲にあります。この地域は、1977 年に国指定史跡に指定されました。

五つ以上の四角い穴の竪穴住居が修復されました。各々の四角い穴は 5-10 メーターの幅で 1 メーターの深さです。小屋の柱や梁には木の幹が使われ、地面にのばした厚い屋根には葦が使われました。内部には暖炉（調理火場）と就寝する場所があります。擦文時代の人々は典型的に川の側に住みサケやマス釣りをしていました。彼らは狩猟家や漁師、野菜収穫や各種穀物耕作で糧を得ていました。最終的に、何故これらの居住地が放棄されたのかは不明です。

史跡展示館は 4 月から 11 月の間開館しています。この展示物は土器や石器、また同地域の古代ジオラマ、実寸大の住居跡、遺跡出土の歴史的な資料です。また、同地及び人々の歴史についてのビデオも提供されています。

本事業以前の英語解説文
なし

【施設名】釧路市立博物館

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro City Museum

Kushiro City Museum presents an in-depth and fascinating look at Kushiro and its surroundings. Designed by acclaimed local architect Mozuna Kiko (1941–2001), the museum building is shaped like the open wings of a red-crowned crane. In the foyer, visitors can enjoy free art special exhibitions, while inside the museum there is a permanent collection over three floors. The first floor describes the flora and fauna of the Kushiro area, while the displays on the second floor walk visitors through Kushiro's history from prehistoric to modern times, and the top floor is dedicated to the Ainu people who once lived in the region and the red-crowned cranes.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釧路市立博物館

釧路市立博物館では、釧路及び周辺における、より詳しい魅力的な情報を提供しています。高名な建築家である毛綱毅曠(1941 – 2001)が設計した同博物館の建物の形は、タンチョウが翼を広げた形となっています。このホールでは、訪問者は適宜テーマを替えた展示を無料でお楽しみいただけます。同博物館では3つのフロアにわかれた常設展示場があります。一階フロアには釧路地区の地域の動植物が展示されています。二階フロアには有史前から現代に至る歴史の流れを見られます。そして、最後に最上階フロアでは、この地のアイヌの人々のかつての暮らしと、貴重なタンチョウの展示があります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】釧路市丹頂鶴自然公園

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro Crane Reserve

Kushiro Crane Reserve is an observation and educational facility that protects and breeds red-crowned cranes. Visitors can see various exhibits in the main building, including taxidermies showing the life cycle of the crane. Outside, pairs of cranes and their young live in a 7-hectare enclosure built in the wetlands. The birds can be observed up close through the fence, a particularly special experience in May when new chicks are hatching. Many of the red-crowned cranes live in the reserve year-round.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釧路市丹頂鶴自然公園

釧路市丹頂鶴自然公園は、タンチョウを保護及び繁殖をするための、観察と教育のための施設です。訪問者はこの本館で、ツルの剥製などを含めその生態のあらゆる展示物を見ることができます。外では、つがいや若いツルが、湿地の自然環境に造られた 7 ヘクタールの飼育展示場に住んでいます。彼らをフェンス越しに観ることもでき、特に 5 月には生れ立ての雛鳥たちも見ることができます。敷地内のタンチョウはその多くが保護個体なので、一年を通してここで見るすることができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】釧路市動物園

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro Zoo

Kushiro Zoo is one of Japan's leading zoos. It is home to more than 300 individual animals of almost 60 species, and is spread over 47.8 hectares of forestland. The zoo is separated into zones such as the Big Cat House, where visitors can see tigers and lions, and the Central Plaza, home to polar bears. Entering its Hokkaido Zone is like stepping into the wilds of eastern Hokkaido. This area is dedicated to Hokkaido brown bears, Blakiston's fish owls, Ezo flying squirrels, and other animals native to the region. A special feature of the zoo is its red-crowned crane breeding and rehabilitation program.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釧路市動物園

釧路市動物園は日本国内でも先進的動物園のひとつです。ここでは約 60 種、300 匹以上の動物の個体が、47.8 ヘクタールの森林地帯の中で飼育されています。この動物園は、獰猛な猛獣ハウス－色んな種類のトラやライオン－や、陽気なホッキョクグマを展示している中央広場のようなゾーンにわかれています。北海道東部への自然界を感じる北海道ゾーンに踏み込めば、エゾヒグマやシマフクロウ、エゾモンガなど、この地固有の動物が展示されています。同動物園 ni

は、タンチョウの繁殖とリハビリプログラムがあるのが特徴です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒国際ツルセンター

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro Akan International Crane Center

The Kushiro Akan International Crane Center (GRUS) is dedicated to the conservation of and public education about red-crowned cranes. The main building houses a souvenir shop, library, exhibition hall, and lecture rooms. The exhibits include interactive and informative displays, as well as impressive large-scale models explaining the biology of the cranes. Visitors can attend special seminars to hear about research being carried out at the center. Throughout the year, cranes can be seen in outdoor enclosures, and from November to March, approximately 200 wild cranes flock to a nearby field where workers provide food to help the birds survive the cold winter months.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釧路市阿寒国際ツルセンター

釧路市阿寒国際ツルセンター（GRUS）は、タンチョウたちの保護と、公的な教育のための施設です。本館にはお土産店、図書室、展示ホール、教室があります。展示にはツルの生態を説明するインタラクティブで有益な情報のある展示や、印象的な大型模型もあります。訪問者は、センターの研究についての特別セミナーへの参加することができます。年間を通して、飼育されたツルたちを屋外の囲いで観賞できます。冬場の11月から3月にかけて、およそ200羽の野生のツルの群れが、給餌場となる近くの畑に集まってきます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】サテライト展望台

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro Shitsugen National Park

On July 31st, 1987 Kushiro Shitsugen became Japan's 28th national park with the aim of preserving this irreplaceable natural environment. Kushiro Shitsugen National Park covers a total of 28,788 hectares in the municipalities of Kushiro City, Shibecha Town, Kushiro Town, and Tsurui Village. It includes Kushiro Marsh, Japan's largest wetland, as well as the surrounding hills and lakes. The park's landscape is highly unique within Japan: rivers and streams meander through vast fields of reeds, sedges, and Japanese alder, and it provides an ideal habitat for many species of plants and animals, including rare creatures such as red-crowned cranes, Blakiston's fish owls, red foxes, and Sakhalin taimen. The wetland contains Japan's largest area of peat, a layer of partially decayed vegetation formed in bogs and fens. The park's ecosystems support countless wildlife, plants, and also humans, so it is a major priority to protect the area's natural environment. In 1980, a 5,012-ha section of Kushiro Marsh was designated as a Ramsar Site, recognizing it as an internationally important wetland that serves as a waterfowl habitat. This designated area was expanded to 7,863 ha in 1999.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釧路湿原国立公園

釧路湿原は、1987年7月31日、日本の28番目の国立公園に指定されました。こうした国立公園への指定には、自然環境の保全という目的があります。釧路湿原国立公園は、日本最大の湿地である釧路湿原、周辺の陵丘や湖沼を含み、釧路市、標茶町、釧路町、鶴居村の市町村にまたがる合計28,788ヘクタールの面積を有しています。この公園の景観は、日本では類例のない特徴を有しています。河川が、ヨシやスゲ、ハンノキが茂る広大な湿原を蛇行しています。そしてその高度に保存されたありのままの自然は、多様な動植物の種の理想的な生息地となっています。タンチョウ、シマフクロウ、キタキツネ、イトウといった希少な動物が生息し、その中の湿地には、部分的に腐敗した植物でできた土が層となっている、日本最大の泥炭地帯が存在します。野生生物や植物だけでなく、人間も計り知れない恩恵を受けている「宝」のようなこの自然環境を保護するために、多くのことが行われてきました。1980年には、釧路湿原の5,012ヘクタールの区域が、水鳥の生息地としての役割を果たす国際的に重要な湿地であると認識され、ラムサール登録湿地に指定されました。この指定区域は1999年、7,863ヘクタールに拡大されました。

本事業以前の英語解説文

Kushiroshitsugen National Park covers 28,788 hectares over in the municipalities of Kushiro City, Shibecha Town, Kushiro Town, and Tsurui Village and includes Kushiro Marsh, Japan's largest wetland, as well as the surrounding hills and lakes. The park is truly unique in all of Japan. It offers vast horizon lines spreading across fields upon fields of reeds dotted with Japanese alder through which rivers meander, while its highly preserved

setting provides an ideal habitat for various species of flora and fauna.

The main area of Kushiro Marsh has been designated and registered internationally as an important wetland habitat of waterfowl under the Ramsar Convention.

On July 31, 1987, Kushiroshitsugen National Park became Japan's 28th national park in order to preserve this irreplaceable natural area as an important asset for future generations and to utilize the unique aspects of the area for the benefit of all.

【施設名】サテライト展望台

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro Marsh Observatory Walkway Loop

The Kushiro Marsh Walkway Loop is a forest trail approximately 2.5 km long. The majority of the trail is a raised wooden boardwalk, with steps and a suspension bridge. The 1.2 km section from Izanai Square to the Satellite Observatory is accessible by wheelchair. Along the walkway, there are signboards providing information about Kushiro Marsh. Going clockwise, visitors will pass Izanai Square, Habataki Square, the Satellite Observatory, Tancho Square, Hidamari Square, Komorebi Square, and Fureai Square. The trail splits at two locations, leading to Aosagi Square and the Onnenai Visitor Center to the north, and the Hokuto Archaeological Site to the south. Aosagi Square, the Satellite Observatory, and Tancho Square offer unique and constantly-changing seasonal views of the expansive Kushiro Marsh.

Habataki Square

Habataki Square is in a peaceful forest setting.

Satellite Observatory

At an elevation of 80 m, the Satellite Observatory provides a stunning 180-degree panorama of the vast marshland plateau. From this viewpoint, it is possible to see distant mountain ranges and parts of Kushiro City. Coin-operated binoculars are available.

Tancho Square

Through the trees, Tancho Square offers views of the marshland, downtown Kushiro city, and the Pacific Ocean.

Hidamari Square

Hidamari Square, located at one end of the suspension bridge, has a spacious rest area. The Hokuto Archaeological Site is accessed by leaving the Walkway Loop at Hidamari Square.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釧路市湿原展望台遊歩道

釧路市湿原展望台遊歩道は、(一周)約 2.5 キロメートルの林道です。歩道の大部分は、地面より少し高くなっている木道であり、階段や吊り橋もあります。いざない広場からサテライト展望台までの 1.2 キロメートルの区間は、車椅子を利用することもできます。歩道に沿って複数の休憩地点がありますが、そこには釧路湿原についての情報を記した解説板が置かれています。時計回りで、いざない広場、はばたき広場、サテライト展望台、丹頂広場、ひだまり広場、こもればい広場、ふれあい広場があります。また遊歩道は、あおさぎ広場や温根内ビジターセンターのある北方向、北斗遺跡に通じる南方向に分かれています。あおさぎ広場、サテライト展望台、丹頂広場では、広大な釧路湿原が四季折々に見せる独特な景観を楽しむことができます。

はばたき広場

はばたき広場は静かな林の中にあります。

サテライト展望台

標高(海拔)80メートルにあるサテライト展望台では、広大な湿地帯の180度の素晴らしいパノラマを楽しむことができます。さらに遠方にそびえる山脈や釧路市の一部も見渡すことができます。コイン式双眼鏡を利用することができます。

丹頂広場

丹頂広場では、木々の間から、湿地帯、釧路市、そして太平洋を眺めることができます。

ひだまり広場

ひだまり広場は吊り橋の先にあります。この広場には広々とした休憩場が備えられています。ひだまり広場から周回遊歩道を離れ、北斗遺跡に行くことができます。

本事業以前の英語解説文

Most of this approximately 2.5 km loop trail sits atop wooden boards, making it possible for just about anyone to easily observe and experience Kushiro Marsh. The approximately 1 km clockwise loop from Izanal Square to Satellite view point is also wheelchair accessible.

Each stop along the trail features various informative signboards about Kushiro Marsh. Walking one lap around the trail helps to broaden people's understanding of this wetland. Aosagi Square, Satellite view point and Tancho Square each offer unique and constantly changing seasonal views of the expansive Kushiro Marsh.

【施設名】サテライト展望台

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Hokuto Archaeological Site

Leaving the Walkway Loop at Hidamari Square, visitors arrive at the observatory with its view of the Hokuto Archaeological Site. This area is believed to have been continuously inhabited from the Palaeolithic period more than 10,000 years ago to the Satsumon period (700–1200). Throughout this long time span, the people of the area lived in pit dwellings. There are 102 circular and oval shallow pits that were built in the Jomon and Post-Jomon periods (14,000 BCE–700CE), and 232 square-shaped pits from the Satsumon period. Excavations so far have unearthed traces of fireplaces from the Palaeolithic period, and dwellings, tombs, and shell mounds from the Jomon period. In addition, ironware, textile relics, parts of weaving looms, dwellings, and the seeds of cultivated plants from the Satsumon period have all been discovered.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

北斗遺跡

ひだまり広場の周回遊歩道を迂回すると、神秘的な北斗遺跡を望む展望台に辿りつきます。この遺跡には、1 万年以上前の旧石器時代から擦文時代（700 – 1200 年）に至るまで、人々が居住していたと考えられています。この長い期間を通じて、その地域の人々は竪穴式住居に居住していました。この遺跡では、縄文時代から縄文時代後（紀元前 14,000 – 西暦 700 年）に建設された浅い円形と楕円形の竪穴式住居が 102 軒、擦文時代に建設された 232 個の四角形竪穴式住居が発見されています。これまでの発掘調査によると、旧石器時代の火を炊いた跡、縄文時代の住居跡、墓や小貝塚、擦文時代の住居跡等が確認されています。中でも擦文時代は、鉄器、繊維遺物、はた織具の一部、栽培植物の種子などが出土しています。

本事業以前の英語解説文

Japanese Crane

Registered in 1967 as a special national natural monument to be strictly protected. Passes the winter in Tsurui Village and Akan Town, and moves to Kushiro Marsh to propagate. The baby bird with about 15 cm long hatches the egg which was blooded over for 30 odd days, and grows up to about 150 cm high in 3 months, whose size is almost the same as the adult, to be able to fly.

Hokuto Archaeological Site

Consists of 102 round or elliptic shallow pits over which huts are inferred to be constructed in Jomon and ZokuJomon era (B.C.8000 – A.D.800) and 232 square pits in Satsumon era (A.D.800 – 1200). Huts were reconstructed over 6 of the pits. The east part of the site was registered to a national historical site in 1977. The reconstructed hut and the model of the whole site are exhibited at Museum of Hokuto Archaeological Site.

【施設名】サテライト展望台

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Japan's Largest Wetland

Kushiro Marsh is the largest wetland in Japan, with an area of 17,570 hectares. The marsh is composed of areas of sedge-reed bog, peat moss bog, and Japanese alder forests. The marsh ground has three different layers. Extending 1–4 m below the surface, the top layer consists mainly of peat deposits. Peat is sediment made of plant matter that does not fully decompose in the cold water of the marshlands. Kushiro Marsh accumulates about 1 mm of peat every year. Below the peat is a layer of mud or sand, and the lowest layer is made of pebbles and fossilized seashells, remnants of a time when the marshland under the sea.

The formation of the marsh dates back many thousands of years. Around 6,000 years ago, the present-day marsh was part of Old Kushiro Bay, an area formed when rising sea levels inundated low-lying regions and moved the coastline inland. This geological event is known as the Jomon Transgression, named after the Jomon period (14,000 BCE–300 BCE). Around 4,000 years ago, the climate cooled and the sea began to retreat. Sand dunes formed at the mouth of the bay, completely cutting off the area from the ocean, which led to a number of salt-water lakes forming within the interior of the old bay approximately 3,000 years ago. These bodies of water formed the basis of the Kushiro Marsh.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

日本最大の湿原

釧路湿原の面積は17,570ヘクタールで、日本最大の湿原です。釧路湿原は、ヨシ・シゲ湿原、ミズゴケ湿原、ハンノキ林で構成され、3つの地層で成り立っています。表面から1～4mの深さの最上層は、泥炭堆積物です。泥炭とは、湿原の冷水の中で、完全には分解されなかった植物の堆積物です。釧路湿原は一年に1mmの厚さで泥炭を蓄積しています。泥炭の下層は泥や砂で、最下層は、湿原が海の一部だった時代の小石や化石化された貝殻の層となっています。

この湿原が形成され始めたのは、何千年も前のことです。現在のこの湿原地帯は、約6,000年前に旧釧路湾の一部となりました。それは海面が上昇したことにより低地が水面下に入り、海岸線が内陸に移動したという、縄文時代（紀元前14,000～300年）にちなんで命名された、「縄文海進」として知られる地質学的事象による結果です。約4000年前、気候の寒冷化と共に、海が後退し始めました。その結果、湾の入り口に砂丘が形成され、この湾は海から完全に切り離されました。約3000年前、海が切り離されいくつかの海跡湖となり、これが釧路湿原の基礎となりました。

本事業以前の英語解説文

Japan's Largest Marshland ~Kushiro Marsh~

The Kushiro Marsh, at 25 km maximum width, 36 km in length, and 19,430 hectares in area (1996, Ministry of Land, Infrastructure and Transportation), is the largest wetland in Japan.

The Kushiro Marsh is composed of areas of carex-reed bog, sphagnum bog and black alder forest. The layers of the Kushiro Marsh include peat deposits from the surface to one to four meters depth, mud or sand as the next layer, and pebbles and fossilized seashells underneath.

What is Peat?

Peat is sediment made of plant matter that doesn't decompose in the cold water of the wetlands. The Kushiro Marsh annually accumulates 1 mm of peat.

【施設名】サテライト展望台

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Plants of Kushiro Marsh

Kushiro Marsh is home to sedges, reeds, peat moss bogs, forests of Japanese alder trees, and many species of flowering plants that bloom from spring to autumn, which thrive in its soils. The ground below the marsh consists of three layers. The top layer is made of peat deposits, sediment composed of partially decomposed vegetation. Next is a layer of mud or sand, while the lowest layer is pebbles and fossilized seashells.

Until approximately 4,000 years ago, the marshland was part of a large bay. As the climate became colder sea levels fell, and this led to the formation of sand dunes at the mouth of the bay that eventually completely separated the area from the ocean. By about 3,000 years ago the former bay had turned into a brackish swamp, creating the basis of the present-day marshland. The marsh receives and purifies a large quantity of fresh water from sea fog, rain, and rivers, which supports large numbers of plant life.

Sedge-Reed Bogs

Kushiro Marsh is primarily covered in sedges and reeds. The sedges grow to 60–80 cm in height, while the reeds grow to over 2 m. These two plants typically do not grow in the same areas, since their habitat requirements differ in terms of the depth and transparency of the water as well as the underlying soil. Reeds are expansive, gaining nutrients from the rivers that flood the marshland, while sedges usually cover old ponds and rivers where water levels are higher and they are exposed to plenty of sunlight.

Peat Moss Bogs

Under the reeds and sedges are bogs composed of peat moss. Due to a process called the capillary phenomenon, dense bunches of highly absorbent peat moss raise the water table. This moss, which retains water like a sponge, provides ideal conditions for the growth of high-altitude and cold-resistant flora such as Labrador tea and Bog-rosemary.

Japanese Alder Forests

The Japanese alder is one of only a few tree species that can sustain forest growth in wetlands. Alder forests form in areas where sand layers have accumulated, either through deposition from the surrounding hills or carried by rivers. Japanese alders are able to grow in peat bogs despite the lack of nutrients because of their symbiotic relationship with a nitrogen-fixing bacterium. This organism generates nitrogen at the roots of the trees, thereby enriching the peat. The alders can survive in wetlands for only 20–30 years before their roots eventually die. From the decayed stumps, new buds sprout and continue the natural growth cycle.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釧路湿原の植物

釧路湿原では、スゲ、ヨシ、およびミズゴケ湿原や、ハンノキ林、そして春から秋にかけて開花する多くの顕花植物を見ることができます。これらの植物は、この湿原の土壌で繁栄しています。湿原の地盤は3つの層で構成されています。最上層は、完全には分解されなかった植物の堆積物である泥炭堆積物で成っています。次

の層は泥や砂、最下層は小石や貝殻の化石で成っています。約 4,000 年前までは、この湿原は大きな湾の一部でした。気候の寒冷化に従って海が後退し、湾の入り口に砂丘が形成され、海から完全に切り離されました。約 3,000 年前に、この湾は汽水沼に変わり、今の湿原の基となりました。湿原は海霧、雨、河川からの大量の水を保持し、浄化する機能があり、多くの植物の命を支えています。

ヨシ・スゲ湿原

釧路湿原は、主にヨシとスゲで覆われています。スゲは高さ 60～80cm に成長し、ヨシは 2m 以上に成長します。これらの 2 つの植物は、通常同じ場所では繁殖しません。それらの繁殖地は、水の深さや透明度、水の下の方の土壌によって異なります。ヨシは、湿原を潤す河川から栄養分を得て繁殖し、スゲは、水位のより高い池や川を覆い、日の当たる場所で繁殖します。

ミズゴケ湿原

ヨシとスゲの下は泥炭層になっています。毛細管現象と呼ばれる作用による高吸収性を有するミズゴケが密集すると、地下水面上昇します。スポンジのように水を保持するミズゴケは、イソツツジやヒメシャクナゲなどの高地や寒冷に強い植物の成長に理想的な条件を提供します。

ハンノキ林

ハンノキは、湿原で林を維持できる数少ない樹木です。周辺の丘陵から流入する砂や河川から持ち込まれた土壌が蓄積している地域には、ハンノキ林が形成されます。窒素固定菌との共生関係で、栄養素の欠乏にもかかわらず、ハンノキは泥炭湿地で繁殖することができます。この細菌は木の根に窒素を生成し、泥炭を豊かにします。そうした根が最終的に死ぬ前に、ハンノキは 20 – 30 年間湿地で生き続けることができます。腐った切り株からは、新しい芽が出て自然のサイクルを継続していきます。

本事業以前の英語解説文

Carex-Reed Bog & Sphagnum Bog

Carex-Reed Bog

This bog is mainly composed of 60–80 cm high reeds and carex (sedge) that grows to a height of more than 2 m. The Kushiro Marsh is primarily covered with carex and reeds.

Sphagnum Bog

This bog is composed of sphagnum (a type of moss). In this type of bog, due to a process called the capillary phenomenon, dense bunches of highly absorbent sphagnum actually raise the water table. The sphagnum, which retains water like a sponge, provides good conditions for the growth of high-altitude and cold-resistant flora, such as Labrador tea (*ledum palustre* var. *nipponicum*) and wild rosemary.

Black Alder Forest

Black alder is the only kind of tree that can sustain forests in wetlands.

Black alder can even grow in nutrient-poor soil such as peat, because of its symbiotic relationship with a nitrogen-fixing bacterium that generates nitrogen at the tree's root, thereby enriching the peat.

In wetlands, when black alder grows for a certain time, its roots will die. But the dead roots can sprout dozens of new trees, several of which will survive to grow and renew the forest.

【施設名】サテライト展望台

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro Marsh Was Once Underwater

20,000 years ago

During the last glacial period around 20,000 years ago, the sea level was approximately 100 m lower than it is today. Many areas that are now under the ocean were above sea level during this time.

10,000–6,000 years ago

After the Ice Age, as temperatures gradually increased, sea levels rose in a geological process known as transgression. About 6,000 years ago, the coastline moved inland, and the land where present-day Kushiro Marsh is located was below sea level. The area was part of a great bay called Old Kushiro Bay.

6,000–4,000 years ago

Around 4,000 years ago temperatures again fell, resulting in a marine regression. The sea retreated and a sand dune developed at the mouth of the old bay. Cut off from the ocean, the marshlands slowly filled with sediment deposited by in-flowing rivers.

Present-Day Marshland

In the process of regression, the land that made up the western part of the old bay rose, while the eastern side became a large depression. These topographical changes led to the formation of inland lagoons, such as Lake Toro, and a network of waterways, including the Kushiro River. A thick deposit of peat gradually built up on the surface, creating the base of the present-day marsh.

Over the past 3,000 years, the area has become home to a wide variety of plant life. The majority of the marsh is covered in bogs of sedges and reeds. These plants tend to grow separately depending on the depth and transparency of the water in which they are submerged, as well as the type of underlying soil. Sedges spread across the middle of old ponds and rivers, thriving in the higher water levels and greater exposure to sunlight. Colorful flowers can often be seen among the sedges, such as white-fringed bog-beans and pale purple cuckoo flowers. Reeds have been an important plant for both animals and humans since ancient times. The people of the Satsumon period (700–1200) used reeds for thatching roofs, and red-crowned cranes continue to make their nests using dead reeds.

Forests of Japanese alders dot the marshland. Japanese alder is one of only a few tree species that can sustain forest-level growth in wetlands. Alders are able to grow in nutrient-deficient peat bogs because of their symbiotic relationship with a nitrogen-fixing bacterium. The trees survive in wetlands for 20–30 years before their roots eventually die; from the decayed stumps, new buds sprout and begin the natural process of self-regeneration.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

昔は海だった釧路湿原

約 2 万年前

約 2 万年前の最終氷期は、気温は非常に低くなり、海面は今日よりも約 100 メートル低かったと言われて
います。現在海底にある多くの場所は、この時期、海面上にありました。

約 10,000～6,000 年前

氷河期後、温度が徐々に上昇するに従い、海面は海進と呼ばれる地質学的過程を経て上昇しました。約
6,000 年前には、海岸線が内陸に移動し、現在の釧路湿原は海水に覆われていました。この地域は旧釧
路湾と呼ばれる大きな湾の一部でした。

約 6,000～4000 年前

約 4,000 年前、気温が再び下がり、海水が徐々に引いてゆく「海退」が起こりました。海は後退し、旧釧路
湾の入り口に砂丘が発達しました。こうして旧釧路湾は海から切り離され、湿地帯は川から流入した堆積物
がゆっくりと堆積し始めました。

現在の釧路湿原

海退の過程で、旧釧路湾の西側が上昇し、一方東側は大きく沈下しました。このような地形の変化により、
塘路湖などにみられるような海跡湖と釧路川を含む河川ネットワークが形成されました。泥炭の堆積物が
徐々に表面に堆積し、現在の湿原の地盤が形成されました。

過去 3,000 年にわたり、この地域は様々な種類の植物の繁殖地となってきました。釧路湿原の大部分は、
スゲやヨシの湿原で覆われています。これらの植物に適する、水位、水の透明度、水中の土壌の種類は異な
るので、それぞれ別の場所で繁殖します。スゲは、より水位の高い、日の当たる場所を好むため、池や河川の
中央に繁殖します。白い房を持つ花を咲かせるミツガシワや淡い紫色の花を咲かせるタネツケバナなど、色とり
どりの花をスゲの間で見ることができます。ヨシは古代から動物や人間にとって重要な植物でした。擦文時代
(700～1200 年) の人々は、茅葺き屋根にヨシを使用し、タンチョウは枯れたヨシで巣を作ります。

ハンノキ林も湿原に点在しています。ハンノキは、湿地で林を維持できる数少ない樹木です。この木は、窒
素固定菌との共生で、栄養が欠乏している泥炭湿地で成長し、20－30 年間生きることができます。腐った
切り株からは、新しい芽が出て、森林の自己再生という自然過程を開始します。

本事業以前の英語解説文

Did the Kushiro Marsh Used to be under the Sea?

About 20,000 years ago

During the ice age of about 20,000 years ago (Wurm glacial period), the temperature was much lower than at
present, and the sea level was approximately 100 m lower than today. Therefore many areas that are now under
the sea were once above sea level.

About 10,000－6,000 years ago

After the ice age, as the temperature gradually rose, sea levels rose accordingly in a process known as
"transgression." About 6,000 years ago, because of the advanced marine transgression, present Kushiro Marsh
was actually located below sea level and formed a great bay.

About 6,000 – 4,000 years ago

Then the temperature dropped again, resulting in "regression." Due to the marine regression, a dune developed at the mouth of the bay. The bay also filled with sediment flowing in from rivers,

Present

In the process of regression, the western part of the bay was elevated while the eastern part of the bay became a large depression. Because of such changes in topography, in-land-sea lakes, such as Lake Touro, were former and the present Kushiro Marsh was born about 3,000 years ago.

【施設名】釧路フィッシャーメンズワーフ

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro Fisherman's Wharf (MOO)

Kushiro Fisherman's Wharf is one of the iconic landmarks of Kushiro. The wharf consists of two buildings: Marine-Our-Oasis (MOO) and Ever Green Garden (EGG). MOO is a multi-level shopping and restaurant complex, with local produce from Kushiro and Hokkaido available at stores on the first floor. Adjacent to MOO is EGG, a greenhouse where flowers and greenery can be enjoyed year-round. Small concerts are held in the glass dome from spring to autumn.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釧路フィッシャーメンズワーフ MOO

釧路フィッシャーメンズワーフは、釧路のランドマークのひとつです。フィッシャーメンズワーフは、マリン・アワー・オアシス（MOO：通称ムー）とエバー・グリーン・ガーデン（EGG：通称エッグ）の2つの建物で構成されています。MOOは1階から3階までのショッピングとレストランの複合施設です。1階にある店舗では、釧路と北海道の地元製品を購入することができます。MOOに隣接しているEGGは、温室（Greenhouse）で、一年を通して花や緑に触れることができます。春から秋にかけて、毎年このガラスドームではミニコンサートが開催されています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】釧路湿原国立公園

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro Shitsugen National Park

Kushiro Shitsugen National Park encompasses Japan's largest wetland and the surrounding hills. The marsh is a well-preserved natural environment consisting of reeds and sedges, alder forests, and meandering rivers and streams. The park is home to rare flora and fauna such as the region's famous red-crowned cranes. Boardwalks, observatories, and canoe excursions offer stunning views throughout the year.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釧路湿原国立公園

釧路湿原国立公園は日本最大の湿原及びその湿原を取り囲む丘陵地により構成されています。今も原始的な自然環境が残されており、湿地の大部分はヨシやスゲで覆われ、ハンノキ林が点在し、蛇行した河川が流れています。さらにタンチョウなどの希少な動植物が生息しています。遊歩道や展望台から、またカヌーを漕ぎながら、1年中素晴らしい景観を堪能することができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】道の駅 阿寒丹頂の里(クレインズテラス)

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Roadside Rest Area CRANE'S TERRACE

CRANE'S TERRACE is a roadside rest area located along National Highway Route 240. Open year-round, it was designed to give travelers a convenient rest spot, as well as to promote the local area. The area offers sightseeing information, local agricultural products and souvenirs, and food made with local ingredients. Public restrooms are available 24 hours a day.

CRANE'S TERRACE is accessible via car or an infrequent bus service. Opened in 2016, the store sells locally-grown vegetables, local dishes such as Yezo shika deer burgers, and ice cream, as well as products and souvenirs from Kushiro and Akan. The name CRANE'S TERRACE was inspired by the red-crowned cranes that can be seen in the area. The Kushiro Akan International Crane Center, located across the road, is a popular place to witness the beautiful cranes perform their mating dance during February. On the expansive grounds behind CRANE'S TERRACE are a small supermarket, restaurant, lodgings, and hot springs, while a campsite is a short walk away.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

道の駅 阿寒丹頂の里クレインズテラス

クレインズテラスは国道 240 号線の道路沿いにある道の駅です。年中無休で営業しており、旅行者のための休憩所として、また地域の活性化に役立っています。観光案内所や、地元の特産品やお土産、また地元の食材を使った料理も提供しています。公衆トイレは 24 時間ご利用できます。

クレインズテラスには車や、定期バスでアクセスできます。2016 年に開業したクレインズテラスの店舗では、地元産の野菜、エゾシカバーガー、ソフトクリームなどの地産地消メニュー、釧路・阿寒の特産品や土産物などを販売しています。クレインズテラスという名前の由来は、この地域で見られる頭頂部が赤い丹頂鶴です。クレインズテラスの国道を挟んだ向かい側にある阿寒国際ツルセンターは 2 月は美しい求愛ダンスを見ることができる人気のスポットになります。クレインズテラスの広々とした裏の敷地には、小さなスーパーマーケット、レストラン、宿泊施設、温泉施設などがあり、少し歩けばキャンプ場も整っています。

本事業以前の英語解説文

なし

100

No.23 Overview, Nusamai Bridge

<釧路湿原、北海道>

【施設名】幣舞橋

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Nusamai Bridge

Nusamai Bridge is one of the landmarks of Kushiro City. It is considered one of Hokkaido's three most famous bridges, and one of the top 100 bridges in Japan. Crossing over the Kushiro River, the bridge offers a stunning view of the river's mouth and the sea beyond. Locals and visitors alike come here to watch the sun go down over Kushiro Port, and it is said to be one of the top three sunsets in the world. Standing on the railings are four bronze statues that represent each of the four seasons, created by four different renowned Japanese sculptors.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

幣舞橋

幣舞橋は釧路市のランドマークの1つです。北海道の三大名橋の1つであり、日本では100名橋の1つに数えられる名高い橋です。釧路川に架かるこの橋からは、釧路川の河口とその先に広がる大海原の絶景を見晴らすことができます。地元の人も観光客も一緒になって、世界の三大夕日の1つとされる釧路港に沈む夕日ここから眺めます。橋脚の上に飾られているブロンズ像4体は、四季をそれぞれ表しており、4人の著名な彫刻家によって制作されました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】パシクル沼
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文
Pashikuru Pond

Pashikuru Pond is a unique pond that spills over into the Pacific Ocean when the water level rises. It is possible to go digging for Shijimi clams at low tide, while pond smelt fishing is available during the winter. Spectacular sunsets can be seen from the sandy beach between the pond and the sea from November to January.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

パシクル沼

パシクル沼は、満水になると太平洋に流れ出る珍しい沼です。干潮時にはシジミ貝を捕ることができ、冬には、ワカサギ釣りを楽しむことができます。11月から1月にかけて、沼と海の中の砂浜から素晴らしい夕日が見られます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】佐々木榮松記念 釧路湿原美術館
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro Shitsugen Art Museum

Kushiro Shitsugen Art Museum displays the works of Sasaki Eisho (1913–2012). Dubbed the “wetlands artist,” Sasaki’s exquisite artworks were inspired by the landscape and wildlife of Eastern Hokkaido. The museum opened in 2013, coinciding with the 100th anniversary of the artist’s birth. It is open year-round.

Born and raised in eastern Hokkaido, Sasaki enjoyed fishing and spent much of his time outdoors. Through his oil and watercolor paintings, and his drawings and fish prints, he expressed the lessons he learned from nature. The common theme of his work is “biological life.” Beyond featuring captivating portrayals of the local area, Sasaki’s art encourages viewers to reflect on their personal values and emotional responses to his work.

The museum holds approximately 600 pieces, and features a permanent collection as well as special exhibitions that are changed every six months. The museum is located along National Highway Route 240 beside the Akan International Crane Center. Wild red-crowned cranes can be spotted around the museum, especially during winter when the nearby fields become feeding grounds.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釧路湿原美術館

釧路湿原美術館には、佐々木榮松（1913–2012）の作品が展示されています。「湿原の画家」と呼ばれた佐々木榮松の優美な作品は、北海道東部の風景や野生生物から着想を得て制作されました。この美術館は、榮松が生きていれば100歳を迎えるはずであった、平成25年に開館しました。年中無休です。

佐々木榮松は北海道東部で生まれ育ち、釣りをしながら、野外で多くの時間を過ごしました。油彩画、水彩画、素描や魚拓を通して、彼は自然から学んだ教訓を表現しました。榮松の作品に共通しているテーマは「命」です。

彼の作品は地元の描写を魅了するだけでなく、価値あるものや感情的に作品にどう反応するかなどの個人的な質問を塾講するよう促します。

美術館には約600点の作品が保管されており、常設展示と半年ごとの企画展示があります。美術館は、阿寒国際ツルセンター横、国道240号線沿いにあります。野生のタンチョウは美術館の周囲でも、特に近隣の畑が給餌場になる冬に観察することができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】港文館

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kobunkan (Harbor Rest House)

Kobunkan is a compact, two-story harbor rest house located along the Kushiro River. The charming red brick structure is a reconstruction of the Kushiro Shinbun (newspaper) office building, originally built in 1908. The first-floor cafe offers drinks and light meals with a beautiful view of the sea. The second-floor features exhibitions about Ishikawa Takuboku (1886–1912), a renowned Japanese poet who worked as a journalist at Kushiro Shinbun for a short time. His statue stands outside the building and his poems are written on large stones around Kushiro City. The harbor rest house provides information on Kushiro's modern history, including old town photographs.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

港文館（港湾休憩所）

港文館は、釧路川沿いにある2階建の小さな港湾休憩所です。魅力的な赤レンガ造りの建物は、1908年に竣工された旧釧路新聞社（現北海道新聞社）の社屋を復元したものです。1階の喫茶店では、美しい景色を眺めながら飲み物や軽食を楽しむことができます。2階の展示室には、釧路新聞で記者として短期間働いていた有名な日本の詩人、石川啄木に関する資料が展示されています。建物の外には彼の像があり、彼の詩を記した歌碑が、釧路市内のあちこちに点在しています。この港湾休憩所は、旧市街の写真など、釧路の近代史に関する情報も展示しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】マリン・トポスクしろ

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro Marine Exhibition Hall (MARINE TOPOS KUSHIRO)

MARINE TOPOS KUSHIRO is a maritime museum located in Kushiro Port. The word *topos* is Greek for “place.” From May to October, the museum is closed on Sundays and public holidays. From August to September the museum is open every day. The exhibition room displays fishing tools, dioramas, and valuable historical documents. Visitors can learn about the history of the Kushiro City fishing industry through a video presentation. On the fifth floor, an observation deck provides a wide view of Kushiro and the Pacific Ocean.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釧路市水産資料展示室（マリン・トポスクしろ）

マリン・トポスクしろは、釧路港にある水産資料展示室です。トポス（*topos*）はギリシャ語の「場所」という意味です。この展示室の開館期間は5月から10月で休館日は日曜日、祝日です。8月から9月は無休です。

この展示室では漁具やジオラマ、貴重な歴史的資料等が展示されており、DVD等による映像を通じて、釧路市の水産業の歴史を学ぶことができます。5階には釧路と太平洋を眺望できる展望台があります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】釧路和商市場

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro Washo Market

The Kushiro Washo Market is a bustling indoor seafood market established in 1954. Today, there are around 60 stores selling fresh seafood, dried fish, meat, vegetables, and confectioneries. The Washo Market specialty is a do-it-yourself seafood dish called *katte don*. Walk around the market and choose fresh ingredients from the various vendors, add them to a bowl of rice, and then eat your creation in the market, or in the central patio.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釧路和商市場

釧路和商市場は、1954年に設立された賑やかな屋内魚介類市場です。新鮮な魚介類、干し魚、肉、野菜、菓子類を販売する約60店舗が軒を連ねています。和商市場の名物は「勝手丼」という海鮮料理です。訪問者は市場を歩き回り、お好みの新鮮なネタを直接お店から購入し、そのネタをご飯の入ったどんぶりにのせていきます。出来上がった自分だけの「勝手丼」は中央パティオなど市場内で食べることが出来ます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒摩周国立公園

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Akan-Mashu National Park

Akan-Mashu National Park boasts magnificent views of volcanoes, forests, and lakes. The national park's volcanoes are still active today. Primeval forests surround the mountains, while several notable lakes including Lake Akan, Lake Mashu, and Lake Kussharo lie within the foothills. Many rare species of plants and animals inhabit this rich natural environment, and there are hot springs in every region of the park, each very distinctive. Ainu culture and traditions continue to be shared at the park's Akanko Ainu kotan village.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿寒摩周国立公園

阿寒摩周国立公園は、「火山と森と湖」が織りなす雄大な景観を有する国立公園です。現在も噴気活動を続ける火山性の山々、それらを包むように広がる天然林、山麓には阿寒湖、摩周湖、屈斜路湖に代表される湖が点在しています。その豊かな自然の中で希少種を含む多くの野生動植物が育まれ、公園内の各地で、それぞれ特徴的な温泉が湧出しています。公園内には阿寒湖アイヌコタンがあり、アイヌの伝統文化が伝承継承されています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Lake Akan

Lake Akan is a caldera lake, most famous for being home to Marimo, a rare spherical green alga. Along the southern shore are natural hot springs and pools of boiling volcanic mud called *bokke*. A sightseeing cruise on the lake is available from the end of April to November. During the winter, visitors can try fishing for pond smelt through the ice, or go skiing while enjoying a view of the frozen lake and the hot spring town.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿寒湖

阿寒湖はカルデラ湖であり、マリモと呼ばれる希少な球状の緑藻の生息地として有名です。南岸沿いには天然温泉が湧き出ており、ボッケと呼ばれる沸き立つ泥火山の沼があります。4月末から11月まで遊覧船によるクルーズや、冬期間には氷上でワカサギ釣りやゲレンデでは氷結した湖や温泉街を眺めながらのスキーを楽しむことができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖アイヌコタン

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Akanko Ainu Kotan

As the indigenous people of Japan, the Ainu have inhabited Hokkaido for centuries, living in villages called *kotan*. Akanko Ainu Kotan gives visitors a rare opportunity to experience traditional Ainu culture. There are souvenir shops selling beautiful wood carvings, restaurants serving Ainu dishes, reconstructed dwellings, a museum, and a dance theater.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿寒湖アイヌコタン

日本の先住民族であるアイヌ民族は、何世紀にも渡って北海道に居住し、コタンと呼ばれる集落に住んでいました。阿寒湖アイヌコタンは、アイヌ文化を体験することができる貴重なスポットです。美しい木彫りを販売する土産物店、アイヌ料理を堪能できるレストラン、伝統的な家屋、博物館、舞踊劇場があります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖アイヌシアター「イコロ」

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Akanko Ainu Theater *Ikor*

Part of Akanko Ainu Kotan, *Ikor* was Japan's first theater dedicated exclusively to Ainu ethnic dance. The unusual stage includes special features like a fire pit and an artificial stream. Visitors can watch traditional performances such the "Tomante Fire Festival," as well as the UNESCO Intangible Cultural Heritage-listed "Traditional Ainu Dances."

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿寒湖アイヌシアターイコロ

阿寒湖アイヌコタンにある「イコロ」は、日本初のアイヌ民族舞踊専用の劇場です。火の燃える炉と水路がステージを飾っています。「イオマンテの火まつり」やユネスコの世界無形文化遺産に登録されている「アイヌ古式舞踊」など、伝統的な公演を鑑賞することができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖遊覧船

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Lake Akan Sightseeing Cruise

The Lake Akan Sightseeing Cruise operates from the end of April to November. The boats travel around the pristine waters of the lake, making a short stop at the Marimo Exhibition Center on Churui Island. During the boat ride visitors can get a closer look at Mt. Oakan and the surrounding protected forests.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿寒湖遊覧船

阿寒湖遊覧船は、4 月末から 11 月にかけて運行しています。遊覧船は、チュウレイ島にある「釧路市阿寒湖のマリモ展示観察センター」に寄りながら、太古の姿そのままの湖の周囲を巡ります。遊覧船から雄阿寒岳を望みつつ、周辺の保護森林地帯を近くから観察することができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】阿寒湖畔エコミュージアムセンター
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Akankohan Eco-museum Center

Akankohan Eco-museum Center offers visitors the chance to learn about the history, flora, and fauna of Akan-Mashu National Park's Akan caldera. There are educational materials, videos about the natural environment, and aquariums housing Marimo and Sakhalin taimen. Covering the floor is an enormous aerial photograph that provides a unique view of the entire caldera region.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿寒湖畔エコミュージアムセンター

阿寒湖畔エコミュージアムセンターは、阿寒摩周国立公園の阿寒カルデラ地形の自然を知ることができる施設で、この地域の歴史や動植物について学ぶことができます。自然環境に関するインフォメーションボードやビデオ、マリモやイトウを観察できる水槽があります。阿寒カルデラ周辺の巨大な空中写真が床を覆い、独特の雰囲気を楽しめます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】サテライト展望台

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro Marsh, Natural Monument

Since the discovery of ten red-crowned cranes in Kushiro Marsh in 1924, much has been done to protect both the species and their marshland habitat. In 1935, part of the marsh measuring 2,700 hectares was designated as a Natural Monument. The protected area was expanded to 2,749 ha in 1952 and, in the same year, the Kushiro red-crowned cranes as well as their breeding grounds were recognized as a Special Natural Monument. The protected marshland was expanded again in 1967 to 5,012 ha. In 1980, a section of the marsh was designated as a Ramsar Site, recognizing it as an internationally important wetland. Finally, in 1987, an expansive area covering a total of 28,788 ha became Kushiro Shitsugen National Park.

Functions of Marshlands

Kushiro Marsh is not only valued as a natural monument, but is also recognized for its many practical functions. The main benefits of a marsh are:

Water Retention and Flood Control

Marshland stores water like a sponge, which in turn helps to prevent flooding. Marshland is sometimes referred to as a dam without water because, although the land is full of water, much of it remains out of sight, stored in plants or hidden beneath the ground.

Absorbing Greenhouse Gases

Plants that grow in large marshes absorb substantial amounts of carbon dioxide. Even after the plants die, the carbon dioxide remains stored as the decayed vegetation decomposes and becomes part of the soil.

Purifying Water

A marsh works as a natural filter, absorbing sediments and nutrients such as phosphorus and nitrogen from the waterways that flow through within it.

Stabilizing the Local Climate

A marsh holds a large volume of water and thus temperature changes happen very slowly. Due to this inertia, it functions as a buffer to climate change in the local area.

Preserving Biodiversity

Marshlands provide a diverse natural environment. Sedge-reed bogs, peat moss bogs, lakes, ponds, and rivers provide a habitat for many different plants and animals.

A Recreational Retreat

Marshes allow people to experience the wonders of nature and to escape the stresses of everyday life. Popular outdoor activities in marshlands include camping, canoeing, and observing various flowers and birds.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

天然記念物「釧路湿原」

1924年に釧路湿原で10羽のタンチョウが発見されて以来、動物の種と湿原の両方を保護するために多くの努力がはらわれてきました。1935年には、釧路湿原全体のうち、2,700ヘクタールが国の天然記念物に指定されました。その後、1952年に、保護区域は2,749ヘクタールに拡大され、同年には釧路のタンチョウ及びその繁殖地が特別天然記念物として指定されました。保護された湿原は1967年に5,012ヘクタールにまで拡大され、1980年には湿地の一部がラムサール登録湿地と指定され、国際的に重要な湿地として認識されました。最後に、1987年には28,788ヘクタールの広大な地域が釧路湿原国立公園と指定されました。

湿地のはたらき

釧路湿原は自然記念物として評価されているだけでなく、多くの重要なはたらきを持っています。湿原の主なはたらきは以下の通りです。

保水と洪水対策

湿原はスポンジのような保水作用を持ち、洪水を防ぐ働きをします。湿原は「水がないダム」とも呼ばれており、その土壌には多くの水が蓄えられていますが、その多くは植物内に蓄えられているか、地面に隠されています。

温暖化ガスの吸収

大きな湿原で生育する植物は、多くの二酸化炭素を吸収します。植物が枯れ、腐敗し、分解され土壌の一部になっても、その中の二酸化炭素は蓄えられたままとなります。

浄水作用

湿原は自然のフィルターとして働き、河川や他の源から湿原に流入する水に含まれるリンや窒素などの汚れや栄養素を取り除きます。

気候変動の緩和と安定

湿原は水を貯め込んでいます。水は温まりにくく冷めにくいという性質があることから、こうした湿原は地域の気候変動を和らげる働きをします。

生物多様性の保全

湿原の自然環境は多様性に富んでいます。スゲ・ヨシ、およびミズゴケの泥炭、湖、池、川には、多様な動植物に生息地を提供しています。

レクリエーションの場の提供

素晴らしい自然を体験させてくれる湿原は、人々に日常生活のストレスから逃れる機会を与えてくれます。この湿地では、多くの人が、キャンプ、カヌー、バードウォッチング、花の観察などの野外活動を楽しんでいます。

本事業以前の英語解説文

Kushiro Marsh, a Natural Treasure

In August of 1935, a part of the Kushiro Marsh measuring 2,700 ha in area was designated as a national natural treasure and has been protected as the Kushiro Red-crested Crane Sanctuary.

In March of 1952, the protected area was expanded to 2,749 ha and recognized as a special natural treasure. Since June of 1967, the red-crested crane itself has been designated as a special natural protected species (regardless of habitat). In July of the same year, the protected area was expanded again to 5,012 ha designated as a national treasure and protected as the Kushiro Marsh.

【施設名】サテライト展望台

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro Marsh, a Ramsar Site

The Ramsar Convention is an international treaty for the conservation of important wetlands that serve as waterfowl habitats. The Convention was enacted in the Iranian city of Ramsar in 1971, and there are now more than 2,300 Wetlands of International Importance (Ramsar Sites) worldwide. Since they provide freshwater, food, and building materials, wetlands are crucial for the survival of humans, plants, and wildlife. As such, through international cooperation, the Ramsar Convention aims to maintain and protect the function, resources, and value of wetlands for coming generations.

Japan joined the convention in 1980 with Kushiro Shitsugen (Marsh) as its first designated site. At first the protected sanctuary area was limited to 5,012 hectares, but this was expanded to 7,726 ha in July 1989, and finally to 7,863 ha in January 1999. To become a Ramsar Site, a wetland must meet at least one of nine criteria; for example, it must support a community of endangered species, or provide a food source for fish, spawning grounds, and a habitat for juvenile fish.

In becoming a Ramsar Site, Kushiro Marsh was noted for its pristine state and its rare plants and animals. Human development has had only a minor impact on the marsh, and much of the area is preserved in its original state. It is an important habitat for numerous creatures, including red-crowned cranes, an endangered bird found only in Hokkaido, far eastern Russia, China, and Korea, and many other rare bird species. It provides vital habitat for Sakhalin taimen, a freshwater salmon, and the Siberian salamander. The majority of Kushiro Marsh is low moorland covered in sedges and reeds, with scattered forests of Japanese alder trees. Since 2003, the local community has joined together to undertake regeneration projects in order to protect further this important region.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ラムサール条約登録湿地

ラムサール条約は、水鳥の生息地となる重要な湿地の保全を目的として制定されました。条約は 1971 年にイランのラムサール市で採択され、現在、世界には 2,300 以上の登録湿地（ラムサールサイト）が存在しています。湿地は淡水、食糧、建材の供給源として、人間、植物、動物の生存に欠かせないものです。ラムサール条約は、こうした湿地のはたらき、資源および価値を、国際協力を通じて維持し、保護することを目的としています。

日本は、1980 年に釧路湿原が国内第 1 号登録湿地として指定された時に、条約に加盟しました。当初、保護区域は 5,012 ヘクタールに制限されていましたが、1989 年 7 月には 7,726 ヘクタール、1999 年 1 月には 7,863 ヘクタールへと拡大しました。ラムサール条約登録湿地と認定されるための基準は 9 つあります。例えば、絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地であること、魚類の食物源、産卵場、稚魚の生

息場として重要な湿地であることなどがあります。

ラムサール登録湿原として認定されるにあたり、釧路湿原は原生的環境条件と希少な動植物で知られていました。釧路湿原は開発による自然破壊が小規模で、その大部分は元の自然状態を留めています。北海道、ロシア極東、中国、韓国にしか生息していない絶滅危惧種タンチョウや多くの希少な鳥類の生息地でもあり、またサケ科の淡水魚イトウやキタサンショウウオの生息地でもあります。釧路湿原の大半は低層湿原で、ヨシやスゲで覆われており、ハンノキ林の分布も見られます。釧路湿原を守るため、2003年から地域の人々が集まり、湿原の再生事業を行っています。

本事業以前の英語解説文

Marsh Designated as a Ramsar Site

The Ramsar Convention. The Convention on Wetlands of International Importance Especially as Waterfowl habitat

Through international cooperation the Ramsar Convention aims not only to preserve wetlands of international importance as waterfowl habitats, but also the value of wetlands for the future.

The Kushiro Marsh was designated as Japan's first Ramsar Site in 1980. At first the designated area was limited to only 5,012 ha of the sanctuary but was subsequently expanded to 7,726 ha and 7,863 ha in July 1989 and January 1999 respectively.

【施設名】サテライト展望台

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kushiro Shitsugen National Park

Kushiro Shitsugen (Marsh) became Japan's 28th national park in July 1987. The park's boundaries enclose a total area of 28,788 ha. Within its borders are expansive bogs of reeds and sedges, meandering rivers, lagoons, as well as the surrounding hills. The national park is Japan's largest wetland. This vast plateau was once underwater as a part of Old Kushiro Bay. When the sea retreated, sand built up at the mouth of the bay, and the area was eventually cut off from the sea, becoming a brine lake. Over the past 3,000 years this brine has turned to fresh water, and peat has accumulated atop the mud and sand, creating the environment that exists today. The wetland is home to many rare species, including red-crowned cranes, Blakiston's fish owls, Sakhalin taimen, and Siberian salamanders. Many of these animals can be spotted from the walkways and observatories located around the marshland. While exploring the park, it is also possible to see many species of plants such as cuckoo flowers in spring, Japanese irises in summer, and water peppers in autumn. In winter, a small amount of snow accumulates on the plateau, creating yet another unique and beautiful landscape.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釧路湿原国立公園

釧路湿原は、1987年7月に日本の28番目の国立公園になりました。公園の面積は28,788ヘクタールで、ヨシとスゲの茂る広大な湿原、蛇行する川が流れ、湿原の東側には海跡湖があり、丘陵が湿原を取り巻いています。この国立公園は日本最大の湿原で、かつては旧釧路湾の一部でした。海が後退したとき、湾の入り口に砂が堆積し、海から切り離された部分が海跡湖となりました。過去3000年の間に、泥と砂の上に泥炭が堆積し、今日見られる環境が形成されました。湿原には、タンチョウ、シマフクロウ、イトウ、キタサンショウウオなど、多くの希少種が生息しており、湿原周囲の歩道や展望台から観察することができます。公園では、春にはタネツケバナ、夏にはハナショウブ、秋にはタデなどの、様々な植物を観察することができます。冬には、少量の雪が高原に蓄積し、さらに独特で美しい景色を作り出します。

本事業以前の英語解説文

Kushiro Marsh National Park

Kushiro Marsh National Park was designated Japan's 28th national park in July 1987. The park's boundaries enclose a total area of 26,861 ha, including vast bogs, Lake Kaiseki in the eastern part of the marsh, and the hills surrounding the marshland.

環境省十和田八幡平国立公園管理事務所

【場所】 十和田ビジターセンター

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

Welcome to Lake Towada Visitor Center!

Use your smartphone or other electronic device to scan this series of QR codes and follow the 13 stops that will take you on a tour through the Center.

Let me introduce myself. I am a Japanese serow, (*Capricornis crispus*) an endangered goat-like mammal. In Japanese, I am called a *kamoshika*—nice to meet you! Follow my hoof prints on the ground to join me on my annual journey, and see the changing seasons through my eyes.

If you are lucky, you might even spot one of my friends deep in the forest or high up on the mountainside. We may be friendly, but please don't feed us or do anything that disrupts our habitat. The flora and fauna have made these woods, streams, and mountains their home for centuries alongside humans. This delicate balance must be preserved for generations to come.

After our Visitor Center tour through the four seasons at Towada, get ready to go out into the field and explore the park for yourself—no matter the season!

上記解説文の仮訳（日本語訳）

十和田ビジターセンターへようこそ！

スマートフォンや他の電子機器でQRコードをスキャンし、13か所の展示を巡って、ビジターセンターのツアーをお楽しみいただけます。

はじめまして！私の名前はニホンカモシカです。ヤギに似た哺乳類で、絶滅危惧種に指定されています。日本語ではカモシカと呼ばれています。私が地面に残した足跡を辿り、一緒に旅へ出かけましょう。移り行く季節を私の視点をご覧ください。

運が良ければ、森の奥や山腹で私の仲間に出会えるかもしれません。人懐っこいからといって、餌をあげたり生息地を荒らしたりしないでください。私たちが長年にわたって森林、小川、山々で人間と共に暮らすことができたのは、地域の生態系のおかげです。これからもずっと、生態系の微妙なバランスを保っていかなければなりません。

十和田の四季を紹介するビジターセンターのツアーが終わったら、大自然に足を踏み入れましょう。季節を問わず、公園の散策を満喫してください！

本事業以前の英語解説文
なし

【場所】 十和田ビジターセンター
【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

We begin our journey in spring and summer—particularly important seasons for us serow. Having made it through the harsh, snowy winter, we heartily welcome the first signs of spring. As the snow clears from the base of the beech trees, we start to eat the grass and other flourishing undergrowth. In fact, this is the season that the whole ecosystem—from insects to birds to our fellow mammals—has been looking forward to. Join us as we emerge into an increasingly verdant landscape!

Along the way, be sure to listen to the sounds recorded around Lake Towada as the forests burst with new life in the spring.

Don't be afraid to interact with the displays when invited—and be inquisitive! There is a lot you might miss if you don't interact with the dioramas and exhibits.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

旅に出るのは春から夏にかけてです。私たちニホンカモシカにとって特に重要な季節です。雪の厳しい冬を乗り越え、春の兆しがやってきます。ブナの根元から雪が解け、私たちは生い茂る藪から草を食べ始めます。そう、この時こそ、昆虫から鳥類、私たち哺乳類に至るまで、あらゆる生き物が待ちわびていた季節なのです。青みを増す自然の中で、あなたをお待ちしています！

ツアー中、十和田湖周辺で実際に録音した音を聴くことができます。春の訪れにより新しい命で賑わいを見せる森を、自分の耳で体験しましょう。

遠慮せず、展示品に触れてみてください。質問も大歓迎です！ジオラマや展示品と触れ合っこのビジターセンターです。

本事業以前の英語解説文
なし

【場所】 十和田ビジターセンター
【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

Nests are vitally important to us birds since that's where we raise our chicks. That's why we put so much effort into making them every spring. Nests can often be used only once, but some birds are able to spruce up their old nests and use them again. We woodpeckers make our nest by pecking holes in trees, which makes them solid and long-lasting. Nests like ours are built so well that other creatures use them, too. You could say they are valuable property!

What do you think? Would you like to try living in a woodpecker's nest hole? You'd better be quick, though—"the early bird gets the worm," after all!

Great Spotted Woodpecker's Nesting Behavior

Great spotted woodpeckers (*akagera*) hollow out their nest holes in tree trunks. They generally choose dead trees whose trunks are thick enough to make a nest suitable for the parents and several chicks. This is a large bird, so the nest holes are roughly 30 centimeters deep. Since it's easier to hollow out softer material, they try to select spots that are dead or hollow if they use a living tree.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

私たち鳥にとってヒナを育てる巣はとても重要なので、毎年春になると巣作りで大忙しです。たいてい巣は一度しか使えませんが、鳥によっては古い巣を整えて再利用します。私たちキツツキは木に穴を開けて巣を作るので、頑丈で長持ちする巣ができます。作りが良いので、他の生き物が使うこともあります。貴重な財産と言っても良いでしょう！

どうですか？私たちの巣穴に住んでみたくなりましたか？それなら急ぎましょう。諺の通り、「虫を捕らえるのは早起きの鳥」ですから！

アカゲラの巣作り

アカゲラは木の幹に巣穴を空けます。親鳥と数匹のヒナが住むのに十分な太さの幹を持つ枯れ木が好まれます。アカゲラは大きな鳥なので、巣穴の深さは約 30 センチにもおよびます。柔らかい木に穴を開ける方が楽なので、枯れていない木を使う場合は、枯れている部分か穴が空いている部分を選んで巣作りをします。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】 十和田ビジターセンター
【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

Japanese Pygmy Woodpecker Nest

This nest was built in a wild native cherry tree. Japanese pygmy woodpecker (*koGERA*) nests are reused by other small birds, such as the Japanese tit and willow tit.

All Kinds of Eggs

Displayed below is a selection of bird eggs from species found in the Towada area. The size, shape, color, and shell patterns differ depending on the type of bird. The species of the bird can be identified by the characteristics of the egg. Many types of bird eggs are slightly pointed at one end. This is no accident of nature: the oblong, pointed shape prevents eggs from falling from nests, and also facilitates their warming.

Japanese Rat Snake Has its Eye on Eggs

Skilled at climbing trees, Japanese rat snakes (*aodaisho*) use their scales to slither up and down tree trunks and move around on top of bamboo grass.

Bird eggs—even larger ones like chicken eggs—are a favorite part of the Japanese rat snake's diet. Despite the size difference between egg and snake, eggs are swallowed whole. As the egg passes through the snake's esophagus, it is pierced by protuberances on the vertebrae, allowing the snake to extract the nutrient-rich yolk and egg white. Once the snake has emptied the punctured egg of its contents, it regurgitates the shell.

Brood Parasitism by Lesser Cuckoo

The sound of birds singing floats from the depths of a grove of bamboo grass. Can you guess what kind of bird it is? Lift the flap to find out!

上記解説文の仮訳（日本語訳）

コゲラの巣

この巣は、エゾノウワミズザクラに作られたものです。コゲラの巣は、コガラ、シジュウカラやその他の小鳥たちに再利用されます。

様々な卵

下の展示品は、十和田一帯で見つかった鳥の卵です。鳥の種類によって、大きさ、形、色、殻の様子が異なります。卵の特徴を観察することにより、鳥の種類を見分けることができます。片方の先が少しとがった卵が多いのは、偶然ではありません。楕円形の卵は巣から落ちにくく、温めやすいのです。

卵を狙う、アオダイショウ

木登りの達人アオダイショウは、鱗を使って木の幹を滑り、上り下りできます。笹の上を動き回ることもできます。

鳥の卵はアオダイショウの大好物ですが、鶏卵のように大きな卵もその対象です。蛇は自分の体より大きな卵を丸呑みにしてしまいます。卵が食道を通ると脊椎の突起に突き刺さり、これによって蛇は栄養豊富な卵黄と卵白を吸収することができます。蛇は穴をあけた卵の中が空になると、殻を吐き出します。

ホトギスによる托卵

鳥の鳴き声が笹の木立深くから聞こえてきます。何の鳥かわかりますか？蓋を開けて、見てみましょう！

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】 十和田ビジターセンター

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

My scientific name is *Cordyceps militaris*. Can you guess what I am? An insect maybe? How about a mushroom? Don't worry if you're unsure—those who know me are few and far between! Here, I'll tell you—I'm a forest mushroom. Since we fungi can't produce nutrition for ourselves, we have to get it from somewhere else. Any idea where that might be? Open the door below to find out!

If you look around you should spot some insects pretending to be plants. Unless you know what to look for, it's easy to be fooled. Now that you do, see if you can spot them in the wild!

1. Cicada-hunting Yellow Hornets

Did you notice the buzzing of the *Lyristes biamatus* cicada that stopped just now? Mid-song, it got caught by a yellow hornet. Yellow hornets are fond of cicadas. Quite delicious! This lucky hornet will chew up the cicada and carry the meat back to its nest nearby.

2. Yellow Hornet-hunting Honey Buzzards

When an oriental honey buzzard (*bachikuma*) spies a yellow hornets' nest, it flies to a nearby branch to survey the scene, and then attacks in one fell swoop.

The yellow hornets respond by mounting a defense en masse in an attempt to fight off the bird of prey, but the honey buzzard is determined to win the battle!

The honey buzzard's wings are covered with hard, scaly feathers, and the yellow hornet attack is futile. Grabbing the combs containing the hornet larvae and pupae, the honey buzzard returns to its nest where the lucky chicks—who count bee larvae and pupae among their favorite foods—are waiting.

Thank you, cicada! Thank you, hornet! We honey buzzards owe you our lives!

上記解説文の仮訳（日本語訳）

私の名前はサナギタケ。私の正体が分かりますか？昆虫？キノコかも？分からなくても仕方ありません。知っている人はほとんどいませんから。ではお教えしましょう。・・・私は森のキノコです。私たち菌類は自分で栄養を作り出すことができないので、別のところから吸収する必要があります。どこからだか分かりますか？下の扉を開けて、見てみましょう！

周りを見渡してください。植物に擬態した昆虫が見つかるはずですよ。手がかりがなければ、擬態には簡単に騙されてしまうものです。今度は自然の中でチャレンジしてみましょう！

1.セミを狩るキロスズメバチ

コエゾゼミの鳴き声があった今止まりました。気付きましたでしょうか？鳴いている最中にキロスズメバチに捕まったのです。セミはキロスズメバチの大好物です。さぞ美味しいのでしょう！ご馳走にありつけたズメバチはセミを噛みつぶし、その身を近くの巣まで持ち帰ります。

2.キロスズメバチを狩るハチクマ

ハチクマはキロスズメバチの巣を偵察するため、近くの枝に止まります。目標の観察が済んだら、急降下による一撃で攻撃を加えます。

キロスズメバチは集団による防御で対抗し、猛禽類の顔を露わにしたハチクマの撃退を試みます。しかし、ハチクマの勝利への決意は揺るぎません！

ハチクマの羽は固い鱗状の羽毛で覆われているので、キロスズメバチの攻撃は効果がありません。ハチクマはズメバチの幼虫とサナギの入った蜂の巣をつかみ、巣に持ち帰ります。巣ではそれを好物とするヒナたちが帰りを待ちわびているのです。

ありがとう、セミ！ありがとうズメバチ！私たちハチクマが活着ているのは、あなたたちのお陰です！

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】 十和田ビジターセンター

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

Look up! Do you see what we are working on? It's our dream home! Japanese squirrels like us utilize two types of homes. Sometimes, we use cavities in tree trunks; other times we put together dreys (leaf nests) way up high on tree branches.

Tree cavity dens are solid and dependable, and definitely make the best homes. You have to be a pretty lucky squirrel to find one, though—even in forests with lots of huge trees, tree hollows aren't very plentiful.

If you ever see a great, big, round-looking leafy ball way high up in a tree, that's probably a squirrel's leaf nest. Good luck spying one, though—they often blend right in with a tree's leaves.

Squirrel Nesting Behavior

Japanese squirrels build nests, or dreys, in forks in the trees, where a thick branch meets the trunk. With a base of approximately 50 centimeters, the outer nest is covered in twigs and thin branches, while the inside is filled with softer materials, like dried grass, bark and feathers. Even at 50 centimeters across, a squirrel's nest is often invisible to passersby in a tree with thick foliage. Aside from the dreys set high in trees, Japanese squirrels also build tree cavity dens in hollow tree trunks.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

見上げてください！ 私たちが作っているものがわかりますか？ そう、夢にまで見たマイホームです！ 私たちニホンリスが住む家は二種類あります。木の幹に空いた穴を家にもすれば、高い所の木枝に葉っぱで巣を作ることもあります。

木に作った巣穴は頑丈で安全なので、住まいとして理想的と言えます。しかし、相当運が良くなければそこに住むことはできないでしょう。大きな木が生い茂る森であっても、穴の空いた木は滅多にありません。

もし木の上に、丸っこくて大きく、見事に形作られた草の塊を見つけたら、それは恐らくリスが葉っぱで作った巣です。巣を観察するのは容易ではありません。多くの場合、木の葉に上手く溶け込んでいるからです。

リスの巣作り

ニホンリスが巣を作るのは、幹から生える太い枝の分かれ目の部分です。土台は約 50 センチの大きさで、巣の外部は小枝で覆われ、中は乾いた草、樹皮、羽根など柔らかい材料が詰まっています。全長が 50 センチあっても、リスの巣は生い茂る葉に溶け込んでいるので、通り過ぎても気づかないことが多いです。ニホンリスは木の高い所に巣を作るだけでなく、木の空洞に巣穴を作ることもあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】 十和田ビジターセンター

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

We are western honey bees. Beekeepers bring us out when the Japanese horse chestnuts (*tochinoki*) start to bloom. Thanks to nectar-producing trees like these, we bees are able to raise our larvae and produce delicious honey for you humans as well. We hope you enjoy it!

Hollows in a Japanese horse chestnut's trunk and branches are home to various birds and animals. You'll meet all kinds of wildlife friends in and around the trees.

You might even meet a duck nesting in a tree! We bet you didn't expect to see that!

Japanese Horse Chestnut and Western Honey Bees

Horse chestnut honey originates in Towada. By a happy twist of fate, beekeepers introduced western honey bees to Japanese horse chestnut trees at the beginning of the Showa period (1926–1989), resulting in the first harvest of horse chestnut honey. Japanese horse chestnuts are now an important source of nectar for honey production. In national forests, the trees are accordingly protected from logging.

Western Honey Bees and Asian Black Bears

Asian black bears love honey, and have a disturbing habit of destroying commercial hives. Recently, some beekeepers have begun to surround their hives with electric fences, which has minimized bear damage.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

私たちはセイウミツバチです。トチノキが開花し始めると、養蜂家に外に出してもらえます。トチノキのような花蜜を出す木のおかげで、私たちミツバチは幼虫を育てたり、作った美味しい蜂蜜をあなたたち人間にもおすそ分けすることができるのです。どうぞ召し上がれ！

トチノキの幹や枝に空いた穴には、様々な鳥類や動物が住んでいます。木々に足を踏み入れれば、ありとあらゆる野生動物に出会えるでしょう。

木で巣作りをするカモを見られるかもしれませんよ！きっと驚くことでしょう！

トチノキとセイウミツバチ

十和田はトチはちみつの原産地です。運命の巡り合わせで、昭和(1926年～1989年)の初期に、養蜂家たちがセイウミツバチとトチノキを引き合わせ、その結果トチ蜂蜜が初めて収穫されました。今ではトチノキが出

す花蜜が、蜂蜜を生産する上で重要な役割を担っています。そのような事情もあり、国有林のトチノキは乱伐を防ぐため保護されています。

セイヨウミツバチとツキノワグマ

ツキノワグマは蜂蜜が大好きで、売り物になるはずの蜂の巣箱を壊すなど、粗暴な一面を見せることがあります。最近では養蜂家たちが巣箱を電気柵で囲み、熊による被害を抑えることに成功しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】 十和田ビジターセンター

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

As plants, we can tell you that making seeds to ensure that future generations thrive is our greatest concern. But because we plants can't move on our own, we've had to come up with all sorts of clever ways to spread around. For example, we give off delicious aromas to attract insects to help us with pollination. We even adjust the length of our stamens—the place where pollen is produced—and pistils—the place where pollen is received—to make the whole process smoother.

As *Arisaema serratum*—that's a Japanese type of Jack-in-the-pulpit plant—we have a few sneaky tricks up our sleeves. Have a look!

A Jack-in-the-Pulpit to Die For

Jack-in-the-pulpits are members of the Araceae family of plants and are dioecious, meaning that there are separate male and female plants. As a result, insects are necessary for pollination. Small flies, drawn by an attractive odor, crawl down into the male plant's spathe (a structure that surrounds and protects the flowers). After picking up pollen, the flies escape through a small hole at the base of the spathe. However, the female plant's spathe offers no escape hole, so after fertilizing the female flowers, the flies find themselves trapped and doomed to die inside the pulpit.

A Change from Female to Male for the Japanese Bigleaf Magnolia

In spring, the Japanese bigleaf magnolia (*honoki*) produces large, fragrant blossoms. The pistils are located in the center of the flower, surrounded by several whorls of stamens. On the first day of bloom the pistils are receptive, but the stamens remain closed. From day two onward the stamens open, but the pistils are no longer receptive. In this way the magnolia prevents self-pollination by staggering the timing of the stamens and pistils.

Two Flower Types for the Deer-cabbage

The Japanese deer-cabbage (*Nephrophyllidium crista-galli japonicum*, or *ivaicho* in Japanese) is a popular alpine flowering plant. The plant puts out two different types of flowers: one with long pistils and a short stamen, and another with a long pistil and short stamens. When hoverflies visit the first type of flower, they pick up pollen from the long pistils, but do not contact the short pistil. When they visit the second type, they transfer this pollen to the long pistil. This system assures that the flowers are cross-pollinated, which helps ensure genetic diversity and long term survival of the species.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

植物である私たちにとって最大の関心事は、子孫が繁栄するために種子を育てることです。ただ、私たちは自分で動くことができないので、生息域を広げるにはあらゆる知恵を絞る必要があります。例えば、受粉しやすくするために、いい香りを放って昆虫を集めたりしています。受粉をスムーズに進めるため、おしべ(花粉を作る部分)やめしべ(花粉を受け取る部分)の長さを調整したりもしています。

私たちマムシグサ(日本のテンナンショウの品種)は巧妙な隠し技を持っています。見てください！

死を呼ぶテンナンショウ

テンナンショウはサトイモ科の一種です。雌雄異株なので、雄株と雌株に分かれて育ちます。したがって、昆虫がいなければ受粉できません。羽虫が香りに引き寄せられ、雄株の仏炎苞（花を包み保護する部分）に入り込みます。花粉を付けた羽虫は仏炎苞の根元にある小さな穴から出ていくのですが、雌株にはその出口がありません。つまり、雌花への授粉を済ませた羽虫には既に逃げ道がなく、テンナンショウの中で待つのは死のみなのです。

雄から雌に役割を変えるホオノキ

春が来ると、ホオノキは芳しい香りを放つ大きな花を咲かせます。めしべは花の中心にあり、らせん状に生えたおしべに囲われています。開花 1 日目にはめしべだけが機能し、2 日目以降はおしべだけが生殖機能を果たします。このように、ホオノキはめしべとおしべのタイミングをずらすことによって自家授粉を防ぎます。

2 種類の花を咲かせるイワイチョウ

イワイチョウは人気の高い高山植物で、被子植物に分類されます。2 種類の花を咲かせることで知られ、両方もめしべが長く、おしべが短いのですが、片方はめしべを複数、おしべを 1 本持つのに対し、もう片方はめしべを 1 本、おしべを複数持ちます。ハナアブが前者の花を訪れると、複数の長いめしべから花粉をもらいますが、短いおしべには触れません。次にハナアブが後者の花を訪れると、その花粉は 1 本の長いめしべに移されます。この仕組みにより花は確実に異花授粉し、遺伝的多様性、さらには長期にわたる種の生存が実現するのです。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】 十和田ビジターセンター

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

Now that spring and summer are behind us, the most pressing concern for us animals is making sure we eat enough to get us through the coming winter.

For us Japanese serow, autumn delicacies include a variety of leaves, roots and tubers, and mushrooms.

You humans also eat all sorts of different mushrooms, but sometimes you eat poisonous varieties by accident! We serow are surprised to learn this, as we know instinctively which mushrooms are poisonous and which aren't.

Have a look in the book below to learn more about the mushrooms on display. See if you can guess which ones are safe to eat, and which ones you definitely want to stay away from. And please—be careful when foraging for fungi!

上記解説文の仮訳（日本語訳）

春夏が過ぎた今、私たち動物にとって一番の心配事は、冬を越えるのに十分な食べ物にありつけるかどうかです。

私たちニホンカモシカにとって、秋の味覚は葉っぱや根っこ、塊茎、キノコなど様々です。

人間もあらゆる種類のキノコを食べますが、間違えて毒キノコを食べてしまう人もいます！私たちカモシカはそのことを知って驚きました。私たちなら直感で毒キノコを区別できるからです。

下にある本を読んで、展示中のキノコについて詳しく知りましょう。食べても安全なキノコと、決して食べてはならないキノコ。見分けられるか試してみましょう。そしてどうか・・・キノコ類を探すときはくれぐれも気を付けてください！

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】 十和田ビジターセンター

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

Even with a thick blanket of snow covering the ground, the forest in winter is full of life. Despite the cold temperatures and lack of food, a look around will reveal all sorts of paw prints dancing across the snow's surface.

At this time of year, the Japanese serow—like the Japanese marten (*ten*) making its way through the snow in the diorama—depends on its dense winter coat of fur to keep it warm and toasty as it stands for hours on the lookout. Even though the serow of Towada are used to the cold, they are probably already hoping that spring will come around again soon.

Remains of Chewed Young Beech

Have a look at the branch in the photo. Doesn't it look like it's been cut with a sharp instrument? Well, it wasn't a blade that sliced the branch. The culprit was actually a Japanese hare. Using their sharp front teeth, Japanese hares slice off the tips of branches in their hunt for winter food. In the cold, snowy months, their fur changes color to white in order to camouflage themselves in the snow. Their eating habits change as well, with tough tree bark added to the menu. The soft fur on the soles of their feet helps hares navigate the wintry landscape without sinking deep into the snow.

The Winter Survival of Japanese Aucuba

Aucuba japonica var. borealis is a variety of Japanese aucuba shrub (*aoki*) that has adapted to a northern climate. Although evergreen, this northern variety is smaller than its warm climate cousin; with thin, flexible trunk and branches that bend and don't break under loads of heavy snow. Other similarly cold-adapted trees like these can also be found growing in beech forests.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

地面が分厚い雪で覆われていても、冬の森は活気にあふれています。気温が低く食べ物もありませんが、見渡してみれば、雪の表面に様々な動物の足跡が残っています。

一年のこの時期、ニホンカモシカは(ジオラマの中で雪をかき分けるテンと同様)厚い毛皮のおかげで、見張りに立つ何時間もの間、暖かく快適に過ごすことができます。十和田のカモシカは寒さに慣れていますが、早くも春の到来を待ちわびているのではないのでしょうか。

ブナ若木が噛まれた跡

写真の中の枝をご覧ください。鋭い刃物で切られたように見えませんか？いいえ、枝を切ったのは刃物ではありません。犯人はニホンノウサギです。冬の食料を探すニホンノウサギは、鋭い前歯を使って枝の先端を切り落と

すのです。寒く雪の多い季節、雪の色に溶け込むために、ノウサギの毛は白に生え変わります。食生活も変わり、固い樹皮も食べるようになります。足の裏に生えた柔らかい毛のおかげで、ノウサギは深い雪に足を取られることなく、雪原を移動することができます。

アオキの越冬

ヒメアオキは北国の気候に順応した、アオキの一種です。常緑樹ですが、温暖な気候で育つアオキよりも小ぶりです。細くしなやかな幹と枝は、雪の重みでたわむことで、折れるのを防いでいます。ブナの森では他にも同様に寒さへの順応を果たした木々を見ることができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】 十和田ビジターセンター

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

For us drakes—male ducks—romance starts in the winter after we migrate to Japan. Primping and preening is a must because the female ducks won't give us a second look without our fancy breeding plumage.

Many of us spend time out on Lake Towada, but the lake is huge and we're small, so sometimes we're hard to spot. One good way is to head to the lounge or up to the observation deck above, and scan the lakeshores with binoculars. By the way, did you know that all the wood in this Visitor Center is from the forests around Towada as well?

Common Goldeneye

The common goldeneye gets its Japanese name, *hojiro-gamo* (“white-cheek duck”), from the white mark on the male's cheek.

Mallard

Mallard ducks are sometimes called *aokubi-kamo* (“green-necked ducks”) due to their iridescent green head and neck feathers. They spend the winter months in the Lake Towada region, and migrate northwards as the seasons change.

Common Pochard

With a reddish-brown head and a white body, the common pochard (*boshi-hajiro*) drake stands out from the waterfowl crowd by its contrasting colors. As diving ducks, they prefer lakes and large, slow-moving rivers. The female's eyes are brown; while the males have red, ruby-like eyes. These ducks are found in Towada only during the winter months.

Common Merganser

With a long, slender bill that ends in a hook, the common merganser's (*kawa-aisa*) diet consists mainly of fish. Its slender body is ideally adapted for chasing fish through the water. Common mergansers can be found in mating pairs or small flocks around lakes, marshes, and estuaries. In Towada, they can be seen only during the winter.

Mandarin Duck

The male mandarin duck's (*oshidori*) breeding plumage is truly stunning, setting it apart from all other ducks. Look for the triangular “sail” feathers on the male's back. Mandarin ducks spend the entire year at Lake Towada, and can be seen every seasons.

Tufted Duck

The male tufted duck (*kinkuro-hajiro*) stands out for its long crest feathers. The female also has crest feathers, but these are shorter than the male's. The female also has a white patch at the base of her bill. Both male and female tufted ducks have bright yellow eyes. The tufted duck is a winter visitor that can be found around the lakes and coastal areas.

A Change of Plumage Before Proposing

When ducks first arrive here, the males are still in their drab summer plumage. To prepare for the winter mating season, they molt into their fancy breeding plumage. Then they put much of their energy into swimming around and courting the females.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

私たち雄鴨は越冬のために日本に渡り、発情期を迎えます。鳥でも見栄えは大事です。美しい繁殖羽が無ければ、雌鴨に見向きもされないのです。

私たちの多くは十和田湖で過ごしますが、大きな湖で小さな鴨は見つかりにくいかもしれません。そんな時はラウンジへ向かうか展望台へ上がり、双眼鏡を通して湖岸に目を凝らしてみましょ。ところで、ビジターセンターの木材は十和田湖周辺で伐採したものであることをご存知でしたか？

ホオジロガモ

ホオジロガモは「白い頬のカモ」を意味する和名を持ち、その名の通り、頬に白い模様があります。

マガモ

マガモは、頭部や首の羽根が緑がかかった玉虫色をしていることから、日本では「アオクビカモ」とも呼ばれています。マガモたちは十和田湖一帯で冬を過ごし、季節の変わり目に北に渡ります。

ホシハジロ

白い体に赤茶色の頭部を持つホシハジロは、その見事なコントラストにより、水鳥の群れの中でもひととき目立つ存在です。スズガモ亜科に属するだけあって、湖や大きく流れの緩やかな川を好みます。雌の目は茶色ですが、雄はルビーのように赤い目をしています。ホシハジロを十和田で見ることができるのは冬の間だけです。

カワアイサ

先端が折れ曲がった細長くちばしを持つカワアイサは、魚を主食とします。細い体は、水中で魚を追い回すのに適しています。カワアイサは湖や湿地、河口周辺で、つがいや小さな群れでいるところを見ることができます。カワアイサもまた、十和田で見ることができるのは冬の間だけです。

オシドリ

雄のオシドリが持つ繁殖羽は、他の鴨のものとは比べても特に魅力的です。雄の背中には三角形の「帆」の形をした羽根があるので、探してみてください。オシドリは一年を通して十和田で過ごしますので、季節を問わず見ることができます。

キンクロハジロ

雄のキンクロハジロの特徴は、その長い冠羽です。雌にも冠羽がありますが、雄のものより短いです。雌のくちばしの基部は白い色をしています。雄も雌も明るく黄色い目をしています。キンクロハジロは湖や湖岸の周辺で見られる冬の渡り鳥です。

求愛に備えて生え変わる羽根

雄鴨たちが渡ってきて間もない頃は、くすんだ茶色の夏羽をまとっていますが、冬の発情期に備えてオシャレな繁殖羽に生え変わります。発情期が到来すると、雄鴨たちは泳ぎ回って雌に求愛することに集中します。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】 十和田ビジターセンター

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

We *himemasu* are a species of landlocked salmon called *kokanee* salmon in some parts of the world. “Landlocked” means that we never return to the sea, but we are more than happy to spend all our days in beautiful Lake Towada. Our ancestors first arrived in this lake more than 100 years ago. They didn’t travel here themselves, though—it was humans who brought them here. The water was cold and clear, and it suited them very well. There were also plenty of tasty water fleas to feed on. If you go out to the lake, you can see them for yourself!

Wainai Sadayuki and Himemasu

Long ago, there were no edible fish inhabiting Lake Towada. In the early 20th century, a man named Wainai Sadayuki (1858–1922) had a dream that locals would be able to eat fresh fish. His attempts at cultivating carp and *masu* salmon were unsuccessful, but in 1905, Wainai succeeded in breeding *himemasu*.

Originally native to Lake Akan in Hokkaido, *himemasu* salmon were successfully moved to Lake Shikotsu, Hokkaido in 1895. Following this example, Wainai Sadayuki imported fish from Lake Shikotsu for breeding in 1905. To this day, eggs are collected in autumn, hatched and bred at the local hatchery, and then the fingerlings are released in the spring.

Himemasu salmon is a Lake Towada delicacy, so be sure to try it while you are here!

上記解説文の仮訳（日本語訳）

私たちヒメマスは陸封型のサケの一種で、一部の地域では「コカニーサーモン」と呼ばれています。「陸封型」である私たちが海に帰ることはありませんが、美しい十和田湖で残りの人生を過ごせるのなら本望です。私たちヒメマスの祖先がこの湖に辿り着いたのは、100年以上前のことです。ですが自分たちで泳いで来たわけではありません。というのも、十和田湖に祖先を連れてきたのは人間たちだからです。冷たく澄んだ水は、祖先が住むのに最適でした。餌となる美味しいミジンコも豊富でした。湖まで足を運べば、自分の目で確かめることもできます！

和井内貞行とヒメマス

かつて十和田湖には食用魚がいませんでした。20世紀はじめ、和井内貞行(1858年～1922年)という男性が、地元民に新鮮な魚を食べさせることを夢見ていました。コイやマスを養殖する試みは上手くいきませんでした。1905年、和井内はついにヒメマスの繁殖に成功しました。

1895年、北海道阿寒湖を原産とするヒメマスが支笏湖に移入されました。和井内貞行はこの例に倣い、1905年に支笏湖から繁殖用のヒメマスを運び出しました。今日に至るまで、秋になると卵の採取が行われ、地元のふ化場でふ化と繁殖がなされます。春には幼魚の放流が行われています。

ヒメマスは十和田湖の珍味です。ぜひこちらにいらっしゃる間に味わってみてください！

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】 十和田ビジターセンター

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

There are countless routes for you to enjoy the unique nature and culture that surrounds Lake Towada. Shoreline trails offer a wealth of fascinating discoveries without steep inclines, as well as plenty of resting spots where you can sit and relax. So just take your time and let the spectacular scenery unfold in front of you.

Direct from this Visitor Center you can follow two courses as indicated on the map in front of you.

For first-time visitors, the Yasumiya Nature Trial is highly recommended. This route takes you out along the shores of Lake Towada, offering stunning views no matter the season.

From the shore, wander through the town of Yasumiya on foot until you join the original *sando* approach to Towada Shrine. This cedar-lined route guides you through the middle of the historic town center before you enter the grounds of the shrine itself.

After visiting the shrine, you will pass the iconic Statue of Maidens before returning back to the shoreline. From there, the route will take you all the way back to the Visitor Center.

For maps and guidance, don't hesitate to ask any of the staff here at the Visitor Center, who will be happy to help you plan your adventure.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

十和田湖を取り巻くユニークな自然や文化をお楽しみいただくため、いくつかのルートをご用意しております。湖岸ルートでは急な坂を上り下りすることなく、雄大な自然との出逢いを果たすことができます。要所要所に設置された休憩場所では、腰を下ろしておくろぎいただけます。素晴らしい風景をじっくりとご満喫ください。

目の前の地図の通り、ビジターセンターからは2本のコースが出ています。

初めていらした方には、休屋ネイチャートライアルが最もお勧めです。十和田湖の湖岸を通り、季節を問わず素晴らしい景色をお楽しみいただけるルートです。

湖岸の次は休屋の街を徒歩で巡り、続いて十和田神社に続く参道に入ります。杉が立ち並ぶこのルートは、歴史ある街の中心部を通り、神社の境内まで続きます。

神社のお参りが済んだら、象徴的な「乙女の像」を通って湖岸まで戻り、ルートを通ってビジターセンターまでお帰りいただけます。

地図やご案内が必要な場合、ビジターセンターのスタッフまでお気軽にお問い合わせください。喜んで一緒に旅の計画を立てさせていただきます。

本事業以前の英語解説文
なし

【場所】十和田八幡平国立公園

【整備予定媒体】JNTO Global web site

できあがった英語解説文

Towada-Hachimantai National Park

Scale Sacred Heights and Serene Shores Sculpted by Volcanic Might

The far-flung reaches of northern Honshu are readily accessible from Tokyo by Shinkansen. But another world awaits you in the mountain ranges and expansive lakes that make up Towada-Hachimantai National Park. With landscapes defined by their stillness, this sparsely populated region offers unspoiled panoramic views of a Japan that still feels like a frontier; whether you are adventuring along one of its many hiking routes, or following ancient spiritual pilgrimage routes into its mysterious interior.

Ascend to Hachimantai

In this serenity, you are reminded of the monumental scale of movement that first crafted these lands. In the southern Hachimantai area of the park, the immense dormant stratovolcano of Mt. Iwate sleeps quietly on a volcanic plateau. The Yakebashiri lava flow that snakes from the mountain was deposited by an 18th century eruption. These landscapes recall the staggering forces that quite literally created the Japanese islands as we know them today. Also, as seen in the many religious carvings and statues that line the ridge of the crater summit, these same landscapes form the base for a unique history and spiritual culture that continues to thrive to the present day.

As you explore further into the volcanic peaks, you will begin to sense the incredible forces lying dormant beneath you. Volcanic fumes drift lazily across the slopes; and bubbling mud seeps and hot spring (*onsen*) fountains punctuate the dense forests and volcanoes. Here you can experience the unique culture born from the Japanese people's relationship with nature as well. The many remote hot springs have since ancient times contributed to Japan's singular bathing culture. The varied mineral compositions carried up from deep within the earth have gifted the area with an array of resorts, known as much for their varied atmospheres as for the healing qualities of their respective waters.

From Hachimantai to Towada

Once past the volcanoes, and over the moors and marshes that lie between them, your next destination is the double caldera (volcanic crater) of Lake Towada. This forms the gateway to the northern Towada area of the national park. The vast caldera lake opens up before your eyes with its mysterious depths conjuring forth countless legends that continue to inspire to the present day. The lake's clear waters and steady shores suggest a stillness that mirrors the untamed primeval forests that envelop the perimeter of the lake. The play of wind across the lake surface is enlivened by the movement of *himemasu* salmon who now call the sacred waters home.

Set against the vast scope of the still lake, these signs of life become all the more poignant--like a testament to the harsh conditions that the earliest settlers to the northern reaches of Honshu Island met. In the foothills surrounding the lake Towada Shrine stands as a welcoming point for ancient pilgrimage routes. The legends of vanquishing the monstrous forces that used to hold dominion over these lands are a perfect metaphor for the hardships endured by those who braved the harsh volcanic landscape to reach the lake's waters.

From Hachimantai to Towada

Once past the volcanoes, and over the moors and marshes that lie between them, your next destination is the double caldera (volcanic crater) of Lake Towada. This forms the gateway to the northern Towada area of the national park. The vast caldera lake opens up before your eyes with its mysterious depths conjuring forth countless legends that continue to inspire to the present day. The lake's clear waters and steady shores suggest a stillness that mirrors the untamed primeval forests that envelop the perimeter of the lake. The play of wind across the lake surface is enlivened by the movement of *himemasa* salmon who now call the sacred waters home.

Set against the vast scope of the still lake, these signs of life become all the more poignant--like a testament to the harsh conditions that the earliest settlers to the northern reaches of Honshu Island met. In the foothills surrounding the lake Towada Shrine stands as a welcoming point for ancient pilgrimage routes. The legends of vanquishing the monstrous forces that used to hold dominion over these lands are a perfect metaphor for the hardships endured by those who braved the harsh volcanic landscape to reach the lake's waters.

Beyond Lake Towada

For those enticed by this spirit of adventure, the mountain ranges that open up to the north of Lake Towada are waiting, broken up by numerous secluded hot springs and towns to relieve the rigors of the day amidst the steaming waters. Many of the hot springs boast their own bathing culture and are known for their therapeutic waters and a relaxing atmosphere largely unchanged over the centuries.

While this remote region boasts a peaceful landscape all year round, it is one that changes dramatically with the seasons. In the winter, a thick blanket of snow is draped over the entire national park, allowing for a complete line-up of winter sports, including exceptional skiing and snowboarding with the picturesque mountain landscapes as the backdrop. Whether you want to explore off-piste (back country) terrain or take it easy on a relaxing day out in the elements, you can end your day with one of the region's famed local hot pot dishes before dipping into an outdoor hot spring in the snowy fields.

Warm Hospitality in Snowy Climbs

Come spring, the spirit of "overcoming adversity" that defines the Tohoku area of northeast Japan is all the more apparent, as bright green buds take over the lowlands before finally reaching all the way to the once-snowy peaks come summer. As time passes, these rich greens of summer blend into the rustic yellows, reds, and browns of autumn. Throughout the year, you are spoiled by a seemingly endless choice of ways to explore the spectacular landscape -- from casual walking routes and steep hiking trails to sightseeing boats and canoes gliding over the shimmering surface of Lake Towada itself.

Your journey through Towada-Hachimantai National Park is one packed with contrast that mirrors the volcanic energy that has wrought this landscape over the millennia -- at times, exhilarating - at others times, tranquil -- and, yet, always full of rustic charm and soaring legends of dragons and gods that dwell in the mystic peaks and deepest depths.

Towada-Hachimantai National Park beckons visitors with dramatic mountain landscapes shaped by powerful volcanic energy, serene lakes and ponds, a range of fun year-round outdoor activities, spiritual adventures, rich folklore and relaxing resorts.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

十和田八幡平国立公園

神聖な山々に登り、火山の力で刻まれた穏やかな岸辺を臨む

十和田八幡平国立公園は本州北部の奥地にありながらも、東京から新幹線で気軽に足を運ぶことができます。しかし、そこに広がる山々や広大な湖では、全くの別世界が待ち受けています。静寂が支配する風景の下、人里離れたこの地域から一望する日本の原風景は、さながら新天地のようです。豊富なハイキングコースを散策するのもよし。歴史ある参道を辿って神秘的な建造物に出逢うのもよし。

八幡平への登山

静寂の中、この地を生んだ、ある自然現象の壮大さを思い起こさずにはいられないでしょう。公園内で八幡平の南にそびえる成層休火山、岩手山は、溶岩台地の上に静かに佇んでいます。山から続く焼走り熔岩流は、18世紀の噴火が堆積したものです。その地形は、今日私たちが知る日本列島の姿を作り上げた凄まじき力を物語っています。火口の頂上に並ぶ数々の宗教的な彫刻や像を見れば分かるように、目の前に広がるものと同じ地形が、今日まで繁栄を続けてきた独自の歴史や精神文化の基礎を成しているのです。

火山の頂に近づくにつれ、足元に眠る信じがたいほどの力を感じ取ることができるようになります。火山からの噴煙が斜面をゆっくりと漂い、沸き立つ泥水が地面から顔を出し、うっそうとした森や火山からは温泉水が吹き上げています。ここでは、日本人の自然との関係から生まれた独特の文化を感じ取ることができます。温泉は古くから日本特有の入浴文化を形作ってきました。地中奥深くから吹き出す温泉水は多様性に富むミネラル分を含んでおり、その恵みの下で、地域一帯はリゾート地としても活況を見せています。それぞれの温泉水が様々な効能を持つことで有名です。

八幡平から十和田へ

火山と火山の間に姿を見せる原野や沼地を通り過ぎると、次は二重カルデラ湖（火口）として知られる十和田湖に向かいます。十和田湖は国立公園で十和田北部への入口の役割を果たしています。目前に広がるカルデラ湖。その神秘的なまでの深みが物語るのは、今日まで靈感を与え続ける数々の伝承です。澄み渡った水や岸辺の穏やかさは、湖を取り巻く手付かずの原生林を支配する静寂を暗示しています。湖面を吹き抜ける風が奏でる演奏会。そこに命を吹き込むのは、聖なる湖を故郷と呼ぶようになったヒメマスたちです。

その生命の兆しは、静かな湖の雄大さと対比されることで、より一層強い感動を生み出します。まるで本州北部の奥地に初めて足を踏み入れた開拓者たちに課された、厳しい試練のように。十和田湖を取り巻く小丘には、歴史ある参道への入口として、神社が佇んでいます。凶暴な力によりこの地をかつて支配した八頭の大蛇。その退治にまつわる神話は、過酷な火山の地形を乗り越えて湖まで行き着いた先祖たちの受難を、見事なまでに象徴しています。

十和田湖を後にして

旅の精神に魅了された者を迎えるのは、十和田湖の北に広がる山々。川の間ひっそりと佇む無数の温泉や町が、一日の疲れを癒やしてくれます。独自の入浴文化を讃える温泉から湧き出る水は、治癒効果を持つことで知られます。温泉を包む安らぎの雰囲気は、ここ何世紀も変わっていません。

人里離れたこの地が一年を通して見せる平穏な姿は、季節の変わり目に劇的な変化を遂げます。冬には国立公園全体が厚い雪で覆われ、絵画のような雪山を背景に、スキーやスノーボードなど、ここならではの様々なウィンタースポーツを楽しむことができます。オフピステスキー（バックカントリースキー）で手付かずの自然を探

索するのよし、自然の中でのんびりとした一日を過ごすのよし。一日の終わりには地元で親しまれる鍋料理に舌鼓を打ち、雪原を望む露天風呂に身を浸しましょう。

雪道で出逢った、もてなしの温もり

春先には、東北地方を特徴づける「不屈の精神」を体現するかのよう、新緑のつぼみが低地を覆い尽くします。夏には雪が解けた山頂にまで達し、やがて秋に入ると、豊かな緑が紅葉に彩りを加えます。散歩道や険しいハイキングコース、十和田湖のきらびやかな水面を行く観光船やカヌーなど、年間を通して様々な方法で壮大な大地に魅入ることができます。

神秘的な頂や深淵に宿る龍と神々を讃える伝承、そして素朴な魅力。十和田八幡平国立公園を巡る旅を織りなすのは、ときには活気を見せ、ときには静寂を守る、その対比的な美しさです。そこからは、悠久の時間の中でこの地を形作ってきた火山の力を見出すことができるでしょう。噴火で生まれた山々の絶景や穏やかな湖、一年を通して楽しめる屋外スポーツ、宗教の旅、豊かな伝承、快適なリゾート。数々の魅力が観光客を十和田八幡平国立公園に導いています。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

Lake Towada and Himemasu Salmon

There is a Japanese saying, “If the water is clear, it is devoid of fish.” Lake Towada is a caldera lake that receives very little runoff from the surrounding slopes, so the waters are poor in the nutrients required to support a rich aquatic food chain. To make matters worse, the only exit from Lake Towada is the Oirase River, which has a high waterfall that prevents fish from reaching the lake from downstream. Today, however, the lake is inhabited by *himemasu*, landlocked salmon also referred to as *kokanee*, which have been cultivated here since 1905. The *kokanee* are able to thrive even in the Lake’s clear and nutrient-poor water.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

十和田湖とヒメマス

日本には「水清ければ魚棲まず」ということわざがあります。カルデラ湖である十和田湖には周りの斜面からの流入がほとんどないので、水中で豊かな食物連鎖を維持するのに必要な栄養素が足りません。また、十和田湖から唯一流れ出る奥入瀬川は、高い滝が下流からやってくる魚をせき止めています。しかし、1905年にコカニ―サーモンとしても知られるヒメマスの養殖が開始され、湖に生息するようになりました。ヒメマスは澄んだ湖の栄養素の少ない水の中でも健康に育つことができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

What Is the Difference Between the Inner and Outer Walls of the Caldera Volcanic Lake?

Did you know that peaceful Lake Towada is the result of volcanic activity? The lake is a caldera lake, meaning that its waters sit in an empty chamber left in the collapse after a volcanic eruption. The inner slope of the caldera is steep—climbing sharply to a height of up to 600 meters above the lake’s surface, with an average height between 300 to 400 meters. In contrast, the caldera’s outer wall consists of a gentle slope that extends outwards in all directions. Enjoy surveying the varied landscape and make note of these differences while viewing the lake from the ridge.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

カルデラ湖の内壁と外壁の違いは？

この穏やかな十和田湖が、実は火山活動の産物であることをご存知でしたか？十和田湖はカルデラ湖と呼ばれ、火山の噴火で陥没した窪地に水が溜まってできました。カルデラの内側の斜面はとても急で、湖面からの高さは平均して300～400メートルですが、600メートルの高さまで切り立った部分もあります。一方、カルデラの外壁をなすのは放射状に広がるなだらかな斜面です。山頂から湖の眺めを楽しみ、多様性豊かな景色を注意深く観察しましょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

Inside the “Cauldron”

There's more to Lake Towada than meets the eye. It is no ordinary lake, but rather sits in the caldera of a volcano. Its origins stretch back 13,000 years to when the Towada Volcano erupted, and the ensuing collapse of volcanic material resulted in a concave depression referred to as a caldera. The word “caldera” comes from the Spanish word for “cauldron” or “cooking pot.” What do you think? Does the Towada Caldera look like a water-filled pot to you? The water that collected in the caldera formed Lake Towada—but, that isn't the end of the story. Volcanic activity continued, and a second, smaller volcano formed inside the main one. The walls of this smaller caldera rise up from the lake and form the Nakayama Peninsula and the Ogura Peninsula.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

「お鍋」の中

十和田湖にはある秘密が隠されています。他の湖と異なり、湖の下には火山のカルデラが潜んでいるのです。その起源は1万3000年前にさかのぼります。十和田火山が大噴火を起こし、火山物質が崩落したことで、カルデラと呼ばれる陥没ができました。「カルデラ」という言葉はスペイン語で「お鍋」を意味する「Cauldron」に由来しますが、どう思いますか？十和田カルデラは水の入った鍋に見えますでしょうか？カルデラに溜まった水により、十和田湖が作られたのですが、話はそこで終わりません。その後も続いた火山活動により、内部に小規模な火山が生まれました。湖から突き出た新しい火山の壁は、中山半島と御倉半島をなしています。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

Northern Japanese White Pine

Although this region is heavily covered in deciduous vegetation, the rocky areas around Lake Towada—including the Nakayama Peninsula and the Ogura Peninsula—are home to a northern variety of the Japanese white pine tree (*kitagoyo*). Different species of pine tree are partially identifiable by the number of needles in each bundle. Can you guess how many needles are in each bundle of the northern Japanese white pine? Here's a hint: the tree is also called the “northern Japanese five-needle pine.”

The two pine trees in front of you commemorate the 1921 visit to Lake Towada by two Japanese imperial princes: Prince Yasuhito (also known as *Chichibunomiya*, or Prince Chichibu) and his younger brother Prince Nobuhito (also known as *Takamatsunomiya*, or Prince Takamatsu).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

キタゴヨウ

この地域に生い茂るのは落葉樹ですが、中山半島や御倉半島など十和田湖周辺の岩場には、ゴヨウマツの変種にあたるキタゴヨウが自生しています。マツの種類は、葉束ごとの針葉の数で判別できる場合があります。キタゴヨウの葉束には針葉が何本あるでしょうか？ヒント：キタゴヨウは五葉松とも呼ばれています。

こちらの2本のキタゴヨウは、1921年（大正10年）に日本の皇族、雍仁親王（秩父宮）とその弟君、宣仁親王（高松宮）が十和田湖をご訪問されたことを記念して植えられた記念樹です。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

The Secret Strength of Pines

Can you spot the pine trees growing on the small islands in front of you? Pine trees, like Japanese red pine (*akamatsu*) and northern Japanese white pine (*kitagoyu*)—also referred to as northern Japanese five-needle pine—can often be found growing in areas of thin rocky soil like the mountain ridges and islands of Lake Towada. These habitats are also characterized by the harsh, dry conditions that can support only sparse vegetation. In more favorable conditions, pine trees often lose ground to other more aggressive vegetation, giving them a reputation of weakness. However, in rocky, dry and difficult conditions where other vegetation has trouble gaining a foothold, the pine's resilience shines through—and the conifer is king!

上記解説文の仮訳（日本語訳）

マツに秘められた力

目の前の小さな島々にマツの木が生えているのわかりますか？

十和田湖の島や周辺の山頂部を覆う岩だらけの痩せた土では、アカマツやキタゴヨウ（五葉松）といったマツの木が育ちます。このように乾燥した厳しい環境で生存できるのは、限られた植物だけです。一方、植物に適した環境では、マツは競合する植物に圧倒されてしまいます。マツが弱い植物とされる所以です。しかし、岩がちで乾燥した過酷な環境の下では、他の植物が根を張ることができず、マツの忍耐力が本領を發揮します。頂点に立つのはマツなのです！

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

The Lakeside Forests

The shore around Gozengahama Beach is level with Lake Towada, and as a result the groundwater level is relatively high. Because of this, only vegetation that thrives in saturated conditions can grow along the lakeshore. A survey of the forest will reveal a variety of water-tolerant deciduous trees, including willow, katsura and elm, mixed in with oaks. Among these trees grows a member of the poplar family, but you'll have to look up to catch sight of the top of its crown. A true giant, the Japanese poplar (*doronoki*) towers above the other trees, reaching heights of over 30 meters.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

湖畔の林

御前ヶ浜一帯の標高は十和田湖の水面と同じ高さなので、地下の水位が比較的高いです。したがって、湖畔で生息できる植物は水分の多い環境に耐えられるものに限られます。森林調査によると、オークを中心としてヤナギ、カツラ、ニレなど、耐水性の強い様々な落葉樹が生息しています。中でもドロノキ（ポプラ種）は、樹冠を見るために上を見上げなければならない高さです。他の木々からそびえ立つドロノキは、30メートル以上の高さを誇ります。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

Pillars Crafted from Lava

Like open pincers reaching into Lake Towada, Nakayama Peninsula and Ogura Peninsula jut out from the lakeshore. These are the visible walls of the inner caldera, the majority of which is hidden beneath the lake. This smaller caldera is newer than the larger Towada Caldera, resulting from volcanic activity that occurred after the original caldera was formed. The small islands ahead of you, as well as the rocky mountains in the background, were created with the same lava. As the lava cooled and hardened, it cracked and formed into pillar-like masses of rock. Due to their shape, such rock formations are called “columnar joints.”

上記解説文の仮訳（日本語訳）

溶岩が生んだ柱状節理

中山半島と御倉半島は、湖畔から十和田湖の中心に向かって「コ」に字に突き出しています。目に見える部分は内側カルデラを構成する壁の一部にすぎず、そのほとんどは水面下に隠れています。この小さな内側カルデラは、大きな十和田カルデラが誕生した後の噴火活動で生まれたものです。目前の島々やその背後に見える岩山は、それと同じ溶岩で作られました。溶岩が冷えて固まる過程で割け目が生じて、柱のような岩の集合体が形成されました。その特徴的な見た目から、このような岩を「柱状節理」と呼びます。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

Yasumiya Suginamiki – The Yasumiya Avenue of Cedars

This avenue of Japanese cedars (*Cryptomeria japonica*, or *sugi*) forms the *sando*, the approach leading to Towada Shrine. For devotees who originally made the long pilgrimage, it signaled that they were finally reaching the pinnacle of their spiritual journey. Today, you can still walk the same final part of this route all the way to Towada Shrine.

Among the cedars are trees suffering from various levels of decay—some of which are in danger of falling. To avoid injury, please take care when walking along this route.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

休屋杉並木 – 休屋にある杉の並木通り

スギが立ち並ぶ参道は十和田神社まで続きます。その昔、お参りのために遠方からやって来た参拝者たちは、参道を見て巡礼が山場を迎えたことを悟りました。今日でも、昔の参拝者と同じ道を辿って十和田神社まで歩くことができます。

一部の並木杉は腐朽が進んでおり、倒木の恐れがあります。怪我を防ぐため、歩く際には十分お気を付けください。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

Yasumiya Suginamiki Avenue of Cedars

This avenue of Japanese cedars (*Cryptomeria japonica*) forms the main *sando* approach to Towada Shrine. In a travel journey written in 1807, Sugae Masumi, an Edo-era (1603–1867) literary figure known for his travels in Tohoku and Hokkaido, visited Towada and wrote “the entrance is marked by a number of *torii* standing amongst cedars. A road through the cedars leads to the shrine.” He noted that many people came to visit the shrine, and that they would commonly spend the night here. The name for the area, “Yasumiya,” means “rest house.”

The 900 meter avenue of cedars from the entrance of the Towadaso Hotel to the Towada Shrine is a precious reminder of how this area looked in Sugae’s time.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

休屋杉並木

スギが立ち並ぶ参道は、十和田神社まで続きます。東北と北海道を巡歴したことで知られる江戸時代（1603年～1867年）の紀行作家、菅江真澄は、1807年に十和田湖を訪問し「杉が群れ立ったところにある数々の鳥居から入り、並び立つ杉の下路を通っていくと堂がある」と紀行文に残しています。また、当時この場所が十和田神社の巡礼客で賑わい、その多くが宿泊していたことを記しています。「休屋」という地名はこれにちなんだもので、文字通り「休む」「家」を意味します。

ホテル十和田荘の入り口から十和田神社まで続く900メートルの杉並木は、菅江の時代の風景を今に伝える、貴重な歴史的財産です。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

The History of Uranai-ba, Divination Spot

Towada Shrine is the center of Towada spiritualism, a belief system common in the Tohoku region of northeast Japan. The worship of dragon *kami* (deities) is key to Towada belief. According to local legend, Nansonobo, a devotee of the Kumano Sanzan Three Grand Shrines of Kumano, fought against a monstrous serpent with eight heads which was threatening the guardian goddess of Lake Towada. The battle raged for seven days and nights. Nansonobo eventually won and he joined the dragon goddess as a protective deity of the lake.

Located 150 meters up the mountain from here is a flat area with an iron ladder leading down to a place known as Uranai-ba. It is here that Nansonobo is said to have first entered the waters of the lake. By throwing white rice wrapped in white paper, or “*oyorigami*”—paper blessed by priests from the shrine—into the lake, you can make a wish to the deities. If the paper sinks the wish will come true, but if it floats, it will not. It is said that trying to influence the result—like by wrapping a heavy item in the paper—will not work, and that the paper will be carried away by waves.

Please note that at present you cannot descend to the Uranai-ba via the ladder.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

占場（うらないば）の歴史

十和田神社は東北地方で広く信仰される龍神信仰の象徴です。地元の言い伝えによると、熊野三山の修行僧であった南祖坊（なんそのぼう）が、十和田湖の守り神である龍女を脅かす八頭の大蛇と戦いました。七日七夜の戦いの末、ついに南祖坊が勝利し、龍女とともに湖の守り神になったと言われています。

ここから150メートルほど山を登ると、平地に鉄の梯子が設置されています。梯子を下りると占場と呼ばれる場所にたどり着きます。ここで南祖坊が初めて入水したと言われており、米を白紙にひねったものや、宮司が祈念をこらした「おより紙」を湖に投げ入れ、神様に祈りを捧げることができます。紙が沈むと願いが叶い、紙が浮くと叶わないそうです。重い物を包んでズルをしようとしても、波に運び去られてしまうと言います。

現在、占場へ下る梯子は使用できませんので、ご注意ください。

本事業以前の英語解説文

なし

139

No.25 Lake Towada Commemorative Monument

<十和田八幡平国立公園、青森・秋田>

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

Lake Towada Commemorative Monument

The development of Lake Towada began in 1869, when Kuriyama Shinbei (1824–1900) led the first settlers to Yasumiya.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

十和田湖開発之碑

1869年、栗山新兵衛（1824年～1900年）が率いる開拓者がこの地に降り立ち、十和田湖周辺の開発が始まりました。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

Towada Shrine

Towada Shrine is one of the most famous shrines in the northern Tohoku region. There are two historical accounts of how the shrine was founded.

In the first version, the shrine was built in 807 by the military commander Sakanoue no Tamuramaro to enshrine Yamato Takeru no Mikoto, son of the legendary 12th Emperor of Japan, Emperor Keiko (71–130).

In the second version, a Buddhist priest named Nansonobo, a devotee of the Kumano Sanzan Three Grand Shrines of Kumano, received a gift of sandals and a staff from the gods, with the instruction to travel until the sandals fell apart, at which spot he should make his home. His sandals broke on the shores of Lake Towada and he started to make preparations to settle here. However, he encountered a monstrous eight-headed serpent that was threatening the guardian goddess of the lake, and after miraculously transforming into a nine-headed dragon himself, vanquished it in a battle that lasted for seven days and nights. Nansonobo then became one of the guardians of the lake, watching over the many pilgrims who came from afar to worship at this sacred power spot.

Shinto and Buddhism were fused until the Meiji Period (1868–1912), when the government ordered the separation of temples and shrines. As a result, Nansonobo's remains were moved to a separate small shrine in the grounds of the Towada Shrine.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

十和田神社

北東北有数の知名度を誇る十和田神社ですが、その歴史的な起源には2つの説があります。

1つ目の説によると、伝説上の人物である第12代景行天皇（71年～130年）の皇子・ヤマトタケルノミコトを祀るため、807年に武官の坂上田村麻呂が神社を建立しました。

2つ目の説によると、熊野三山の僧侶、南祖坊がわらじと錫杖（しゃくじょう）を神から授かり、「わらじが破れた所に住むべし」というお告げを受け、そのわらじが尽きた場所が十和田湖のほとりだったという話です。南祖坊はそこで生活の準備を始めたのですが、十和田湖を守る龍女を脅かしていた巨大な八頭の大蛇に遭遇します。奇跡が起き、九頭の龍と化した南祖坊は、七日七夜におよぶ戦いの末、ついに龍を退治します。その後南祖坊は湖の守り神に加わり、今日に至るまで、神聖なパワースポットを拝みに来る数々の参拝者を見守ってきました。

神仏習合による融合が図られていた神道と仏教ですが、明治時代（1868年～1912年）に入ると新政府が寺と神社の分離を命じます。これを受けて、南祖坊のご神体は十和田神社の境内にある小さな社殿に移されました。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

The Path to Good Fortune

Since ancient times this route has been a place of pilgrimage, and mountain ascetics would meditate inside these tiny, cave-like structures. There are six *torii* gates on the route, each marking an inactive volcanic vent.

You can ask the *kami* (deities) for good fortune by praying or presenting an offering at each gate.

- The god of wind blows away sins and impurities, and also protects people from typhoons.
- The god of fire protects blacksmiths, pottery, and fireproofing. As this god prevents kitchen fires, it is also known to protect household items.
- The god of mountains is also the god of water and rice paddies, as water cascades down from mountains to nourish the rice fields below. This god is also known for protecting hunters.
- The god of gold protects mining, ore manufacturing, as well as metal processing and sales. More recently, it is also considered a god of wealth.
- The god of enormous strength is especially helpful for those seeking a decisive victory.
- The sun goddess bestows happiness, prosperity, luck, and peace.

To ensure the best of fortunes, be sure to stop by and make an offering at each spot along the path.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

開運の小道

古来より参拝者が利用してきた参道に沿って、小さな洞穴のような建造物が並びます。山伏が修行を行った場所です。道中 6 つの鳥居をめぐりますが、それぞれがかつて火口であった場所を示しています。

鳥居に手を合わせたりお賽銭を納めることで、神様にご利益を祈願することができます。

- 風の神は罪やけがれを吹き払い、台風から人々を守ってくれます。
- 火の神は鍛冶、陶業、火除けの神です。台所の火事を防いでくれることから、家財を守る神としても知られます。

- 山の神は水と水田の神でもあります。山々から流れ落ちる水が麓の水田を潤しているからです。狩猟者の神としても知られます。
- 金の神は採掘や鋳業、金属加工や販売業、近年では金運の神としても知られています。
- 天ノ岩戸は決定的な勝利を迫る者の味方です。
- 日の神は幸運、繁栄、開運そして平和をもたらす神です。

ご利益を授かるため、必ず立ち止まってお賽銭を納めましょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】QRコード

できあがった英語解説文

The Otome no Zo Statue of Maidens

The Statue of Maidens, cast in bronze and set on a block of black granite, was crafted in 1953 by Takamura Kotaro (1883–1956), one of modern Japan's most prominent sculptors and literary figures. The statue was commissioned to celebrate the 15th anniversary of the creation of Towada National Park, as well as to celebrate three important figures in the history of Towada: Omachi Keigetsu, a famous poet who wrote of Lake Towada's beauty at a time when the region was barely known; Takeda Chiyosaburo, then-governor of Aomori Prefecture; and Ogasawara Koichi, then-mayor of Towada. Takamura spent a year working on the 2.1-meter-tall bronze maidens, for which it is said his deceased wife, Chieko, was the model.

The Statue of Maidens is Takamura Kotaro's last work.

The statue is very popular with Japanese visitors as a symbol of the lake, and is much cherished by the people of Towada.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

乙女の像

黒御影石の台座に立つ銅像は乙女の像です。近代日本を代表する彫刻家であり、詩人でもある高村光太郎（1883年～1956年）が1953年に制作しました。乙女の像は十和田国立公園の開園15周年を記念するだけでなく、十和田の歴史に名を刻んだ3人の功績を讃えるために作られました。十和田湖が無名だった時代にその美しさを歌った詩人の大町桂月、当時青森県知事を務めていた武田千代三郎、そして十和田村の村長であった小笠原耕一の3人です。高村光太郎が2.1メートルの銅像に費やした制作期間は1年。亡き妻、千恵子に捧げるため、彼女自身をモデルにしたと言われています。

乙女の像は高村光太郎にとって最後の作品でした。

銅像は湖の象徴として日本の観光客に大変親しまれています。十和田市民にも歴史的遺産として大切にされています。

本事業以前の英語解説文

なし

143

No.29 Jigomori Rock

<十和田八幡平国立公園、青森・秋田>

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Jigomori Rock

This rock is said to be where Nonsonobo came to meditate during the battle with the eight-headed serpent that was threatening the goddess of Lake Towada. Legend has it the gods spoke to him from here during the battle. Nansonobo became a dragon god himself and claimed victory over the monstrous serpent, which is why this outcrop is considered as sacred as the Uranai-ba and the Towada Shrine.

To reach Jigomori Rock you will need to follow an unmarked mountain trail for over 30 minutes. Once there, you will find a series of metal ladders and rocks to climb to the summit, which offers spectacular panoramic views of Lake Towada.

Note: You are only allowed to visit this location with an experienced guide. This route is not recommended for beginners.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

自籠岩（じごもりいわ）

南祖坊が十和田湖の守り神を脅かす八頭の大蛇と戦うため、修行に使ったと言われる岩です。言い伝えでは、神々が大蛇と戦う南祖坊に話しかけたのもこの場所であったとされています。龍神と化した南祖坊は暴虐な大蛇を相手に勝利を収め、以後、自籠岩は占場、十和田神社とともに神聖な場所とみなされるようになりました。

道標もない山道を30分以上歩くと自籠岩に至ります。金属製の梯子や岩を伝って頂上まで登ると、十和田湖の壮大な景色が目前に広がります。

ご注意：自籠岩へは経験豊かなガイドの付き添いが必須です。初心者の方にはお勧めいたしません。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Uranai-ba

Known as one of Lake Towada's most spiritual spots, Uranai-ba is where you can have your fortune told in a novel way. Buy a paper fortune slip, known as "*oyorigami*," at Towada Shrine and fold it the special way instructed on the slip. When tossed into the water, your fortune will be determined and you will instantly know if your luck will improve or not.

If your *oyorigami* slip sinks down straight into the water, it means the gods are listening intently to your wish and it will most likely come true. It is also a sign of good fortune.

If your fortune slip falls on its side when it hits the water, you will be blessed with moderate luck.

Should your slip fall into the water upside down or get washed ashore, then your prayers have fallen on deaf ears.

Until further notice, the ladder to the Uranai-ba area is closed off. Please make your wish at Gozengahama near the Statue of the Maidens, or board a pleasure cruise and throw your fortune slip from the boat as you pass near the Uranai-ba area.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

占場（うらないば）

十和田湖周辺でも特に神聖な場所として知られる占場では、変わった方法で運勢を占うことができます。十和田神社で「おより紙」という願掛けの紙切れを購入し、そこに書かれた説明通りに紙を折ります。湖におより紙を投げ入れると、その瞬間に運勢が決まり、吉か凶かがすぐに分かります。

おより紙がそのまま水に沈んだら、それは神々が願いを聞き入れてくれた証拠です。願いは叶うことでしょう。大吉と同じ意味でもあります。

おより紙が横向きで水に落ちたら中吉です。

おより紙が逆さに沈むか岸に流されたら、祈りは聞き入れられなかったということです。

通知があるまでの間、占場への梯子は使用禁止になっています。

願い事をするには、乙女の像の近くの御前ヶ浜まで行くか、遊覧船に乗って占場を通るタイミングでおより紙を湖に投げ込んでください。

本事業以前の英語解説文
なし

【場所】十和田湖休屋休平地区

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Shinsen-en Garden

The Shinsen Garden is a secluded area connected to Towada Shrine by a steep, stair-lined path. It includes the Uranai-ba divination spot and various other smaller shrines.

Home to an ancient forest and a rich variety of wildlife, it is a peaceful and deeply spiritual area. After visiting the main Towada Shrine, join pilgrims from generations past and continue your spiritual journey up the steep steps behind the shrine, to the smaller shrine beyond.

The Nansoden Shrine is dedicated to Nansonobo, the deified hero who first conquered the monstrous serpent spirit of Lake Towada. It is said that if you pray here you will receive great blessings in your next life.

The Towada-Seiryu-Gongensha Shrine is dedicated to the blue dragon water deity which protects Lake Towada. The most sacred spot of the shrine stands near the deepest point of the Lake Towada, and offers a commanding view over the water. It's said that if you make the pilgrimage high up into the mountains above Towada Shrine, your wish is sure to be granted!

上記解説文の仮訳（日本語訳）

神泉苑（しんせんえん）

十和田神社から急階段を登った先に神泉苑があります。周りから隔絶された神泉苑には、占場や小さな社殿の数々が佇んでいます。

由緒ある森と多様性豊かな野生動物が、この地の平和と神秘を象徴しています。本殿で手を合わせたら、昔の参拝者に思いを馳せつつ、裏から続く急階段を登り、小さな社殿を目指します。

南祖殿が祀る南祖坊は、十和田湖に潜む凶暴な八頭の大蛇を初めて退治した英雄として崇められています。ここで祈りを捧げると、来世で大きなご利益を授かると言われています。

十和田青龍権現社は十和田湖を護る水の神、青龍大権現を祀っています。神社の中でも最も神聖な場所として、十和田湖の奥深くに佇んでおり、湖を一望する景勝地でもあります。十和田神社からさらに山を登ってお参りを続ければ、願いが必ず叶うと言われています！

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】御鼻部山

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The Formation of Lake Towada

1. Approximately 200,000 years ago
The Towada volcano was formed and erupted molten lava and ash, creating a conical volcano. This formation of alternate layers of ash and lava is called a stratovolcano.
2. Approximately 30,000 years ago
A major eruption occurred in which the volcano spewed enormous amounts of pumice. Two geological faults surrounding the area moved, causing the center of the volcano to begin to collapse in on itself.
3. Three more eruptions occurred, sending pumice into the air. The volcano continued to collapse, eventually creating a square-shaped basin which formed Lake Towada.
4. Approximately 10,000 years ago
A new stratovolcano with a central depression formed to the south of the lake.
5. Approximately 4,000 years ago
The central crater erupted, spewing ash and pumice into the air.
6. The eruption created a bowl-shaped depression in which a new lake, called the *nakanoumi* (or inner lake) formed.
7. The shore of the lake continued to erode as the volume of water increased, eventually breaching the rim wall and creating the Oirase Gorge. This marked the completion of the shape of the lake today.
8. Approximately 2,000 years ago
A small parasite volcano formed a small dome at the head of Ogura Peninsula, which is known as the Ogurayama Lava Dome.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

十和田湖の成り立ち

1. 約 20 万年前
十和田火山が活発化し噴火して、溶岩を噴出し火山灰をまき散らし、円すい火山を形成しました。溶岩と灰の地層が交互に重なったこのような地形を成層火山と呼びます。
2. 約 3 万年前

大規模な噴火が起こり、火山は無数の軽石を噴出しました。それと同時にこの地域を取り巻く2つの断層が滑り、その結果火山の中心部が崩落を始めました。

3. 以後3度の噴火が起き、その度に軽石を大気中に噴出しました。火山は崩落を続け、ついには正方形の窪地が形成されました。十和田湖の原型です。

4. 約1万年前
湖の南部に中央が陥没した成層火山が新たに作られました。

5. 約4千年前
中央の火口が噴火し、火山灰と軽石を大気中に噴出しました。

6. 噴火がお椀型の陥没を生み、新たに中湖と呼ばれる湖が誕生しました。

7. 水位が上がって湖岸の侵食が続き、湖の周縁の壁が決壊して、奥入瀬渓谷が誕生しました。今日見られる湖の姿はこうにして生まれたのです。

8. 約2千年前
寄生火山の働きにより、御倉半島の先に小規模なドームが形作られました。今日では御倉山溶岩ドームと呼ばれています。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】御鼻部山
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Cross-section of Lake Towada

The word “caldera” comes from the Spanish word for “cauldron” or “cooking pot,” because the crater is formed by a sharp drop from the rim to a broad flat central floor. Lake Towada is a rare water-filled caldera, and rarer still because it is a double caldera, created by the main shallow basin (the perimeter caldera) and a deep basin (the central caldera). The summit of Mikado-ishi visible in the lake is a parasite volcano created approximately 4,000 years ago.

Lake Bottom Topography

The main lake basin is approximately 100 meters deep in most spots. The deepest point is in the central *nakanoumi* caldera, which is 327 meters deep. The deep valley within the lake was caused by powerful underwater currents aggressively eroding the lake bottom.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

十和田湖の構造

「カルデラ」という言葉はスペイン語で「調理鍋」を表す「cauldron」に由来します。広く平たい底部とそれを取り囲む切り立った周縁部の形が、鍋に似ているからです。十和田湖が貴重な理由は、カルデラとしては珍しく水で満たされているからだけでなく、二重カルデラだからです。主要部分の浅い盆地（外輪カルデラ）と深い盆地（内輪カルデラ）が組み合わさってできています。約4千年前に誕生した御門石と呼ばれる寄生火山は、その頂が湖面から顔を出しています。

湖底の地形

湖水盆地の主要部分は水深約100メートルで、最も深い中湖カルデラ中心部では約327メートルです。湖に切り立つ谷は、激しい水流が湖底を繰り返し侵食した結果生まれたものです。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】御鼻部山
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

1 A Tough Habitat

Towada Lake receives very little nutrients from the surrounding slopes, and thus supports very little plankton. Only a limited number of fish species are native to the lake, but several species were introduced, including white-spotted char, *himemasu* salmon, and carp. Today, there are approximately 20 species. During winter you can see waterfowl such as tufted duck, common golden-eye, and common merganser, but they are few in number relative to the vast scale of the lake.

2 Vegetation Along the Caldera Wall

Lake Towada boasts diverse vegetation and landscapes that change dramatically from season to season. A natural Japanese beech forest surrounds most of the lake, and there are native Japanese oaks on the Ogura and Nakayama peninsulas. Many maple trees and other broadleaved species can be found here, as well as Japanese pines.

3 A Cross-section of Lake Towada

Lake Towada is a double caldera, indicated by the main shallow basin (the perimeter caldera) and a deep basin (the central caldera). The summit of Mikado-ishi, a parasite volcano created approximately 4,000 years ago, is visible above the water surface.

4 Lake Bottom Topography

The lake basin is approximately 100 meters deep in most spots. The deepest point is the central caldera, which drops 327 meters.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

1 過酷な生息環境

十和田湖を取り囲む斜面からはほとんど栄養素が流れ込んでこないため、生息できるプランクトンの数は限られています。よって湖に自生する魚の種類も限られていますが、アメマス、ヒメマス、コイなど、複数の品種が移入されています。今日その数は約 20 品種に上ります。冬にはキンクロハジロ、ホオジロガモ、カワアイサをはじめとする水鳥が訪れますが、湖の大きさと比べると、その数は決して多いとは言えません。

2 カルデラ壁の植物

十和田湖に見られる植物や地形は、季節ごとに大きな変化を遂げます。湖の大部分をブナの自然林が囲んでいますが、御倉半島、中山半島にはミズナラが自生しています。さらに、カエデやクロマツ、その他様々な広葉樹林が広く生息しています。

3 十和田湖の構造

十和田湖は二重カルデラ湖です。主要部の浅い盆地（外輪カルデラ）と深い盆地（内輪カルデラ）を観察することで、それをうかがい知ることができます。約 4 千年前に誕生した御門石と呼ばれる寄生火山は、その頂が湖面から顔を出しています。

4 湖底の地形

湖水盆地の水深はほとんどの場所で約 100 メートルです、最も深い中湖カルデラの中心部では、約 327 メートルです。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】紫明亭

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Lake Towada National Park

Lake Towada is a double caldera lake that straddles the boundary between Aomori and Akita prefectures. It was created by a series of volcanic eruptions that begun some 200,000 years ago. As of 2018, Lake Towada is Japan's twelfth largest lake and its third deepest. The lake is 400 meters above sea level and its circumference measures approximately 46 kilometers. Lake Towada is beautiful all year round, but it is especially popular for the views offered in late spring (May–June) and autumn (October).

Shimeitei Observation Point and the New Eight Views of Japan Stone Monument

In 1927, Tokyo *Nichinichi* and Osaka *Mainichi* newspapers called for a public vote to choose Japan's eight best views.

Lake Towada was chosen as the best in the lake category. To commemorate this result, a stone monument was erected in 1931 at this observation point, which offers the best view of the lake.

Facing this sign, if you look to the right you can see Hakka Pass Observation Point. To the left beyond the lake, you can also see the caldera's outer rim, Mt. Ohanabe. Visible directly to the east are the Ogura and Nakayama peninsulas.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

十和田湖国立公園

十和田湖は、青森県と秋田県にまたがる二重カルデラです。約 20 万年前に始まった一連の火山の噴火により誕生しました。2018 年の時点で、面積では日本 12 位、深さでは 3 位です。海拔 400 メートルに位置する湖岸の長さは、約 46 キロメートルです。季節を問わずに美しい十和田湖ですが、特に人気が高いのは、晩春（5 月～6 月）および秋季（10 月）の景色です。

紫明亭展望台と日本新八景の碑

1927 年、東京日日新聞と大阪毎日新聞が、一般からの投票により日本新八景を選定しました。

湖沼の部門で十和田湖が最優秀に選ばれると、1931 年にはその快挙を記念し、日本新八景の碑が建てられました。展望台に置かれた理由は、十和田湖が最も良く見える場所だからです。

この看板の右手に見えるのは発荷峠展望台です。左手には、湖の向こう岸にカルデラの外輪部をなす御鼻部山が見えます。東側に見えるのは、御倉半島と中山半島です。

本事業以前の英語解説文
なし

150

No.36 West Lakeside Walking Trail Holy Savior Chapel

<十和田八幡平国立公園、青森・秋田>

【場所】西湖畔遊歩道

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

An American missionary, Bishop Kenneth Viall, built this modest chapel around 1950. A raised floor protects it from the humidity of the forest. Bishop Viall used to visit for services throughout the summer and autumn months. In 1961, Edwin Reischauer, the US ambassador to Japan, visited the chapel with his wife.

Property of The Diocese of Tohoku, The Anglican Episcopal Church in Japan

*Please do not enter the chapel without permission.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この質素な礼拝堂は、1950年頃に米国人宣教師ケネス・ヴァイアル司教により建てられました。床が高いのは、森の湿気から建物を守るためです。司教は夏から秋にかけてここで礼拝を行っていました。1961年には、米国駐日大使エドウィン・ライシャワーが夫人を伴い訪れています。

日本聖公会東北教区の私有地です

* 礼拝堂への立ち入りには許可が必要です

本事業以前の英語解説文

なし

151

No.37 Wainai Shrine

<十和田八幡平国立公園、青森・秋田>

【場所】西湖畔遊歩道

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Wainai Shrine was built in 1908 as “Shoryo Shrine.” The name was changed in 1933 to recognize Wainai Sadayuki (1858–1922) for his success cultivating *himemasu* salmon in Lake Towada. Wainai is enshrined here, along with his wife Katsu. Every year, two festivals celebrate this couple and their important contributions to the Towada area: in spring on May 3rd to commemorate the day Katsu passed away, and in autumn on September 21st, the date of Sadayuki’s death.

*Please do not enter the main shrine hall without permission.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

和井内神社は1908年に建立され、当時の名前は「勝漁神社」でした。1933年、十和田湖でヒメマス（*himemasu*）の養殖に成功した和井内貞行（1858年～1922年）の功績を讃えるため、現在の名前が付けられたのです。和井内は妻のカツとともにここで祀られています。二人が果たした十和田地域への貴重な貢献を祝い、年に2度、祭りが開かれています。春の例祭は5月3日（カツの命日）、秋の例祭は9月21日（貞行の命日）です。

* 本殿への立ち入りには許可が必要です

本事業以前の英語解説文

なし

152

No.38 Himemasu salmon

<十和田八幡平国立公園、青森・秋田>

【場所】和井内

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Himemasu salmon (also referred to as *kokanee* salmon) is a Lake Towada delicacy. It is a landlocked species of sockeye salmon that never returns to the sea. Originally native to Lake Akan in Hokkaido, *himemasu* salmon were successfully introduced to Lake Shikotsu (also in Hokkaido) in 1895. Following this example, Wainai Sadayuki (1858–1922) imported fish from Lake Shikotsu for breeding in 1905. To this day, eggs are collected in autumn and hatched at the local salmon hatchery, and the fry are released in spring.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

コカニーサーモンとしても知られるヒメマスは、十和田湖の珍味です。ヒメマスはベニザケの一種ですが、陸封種なので海に帰ることはありません。北海道阿寒湖を原産とするヒメマスですが、1895年に道内の支笏湖に移入され、1905年にはこの例に倣った和井内貞行（1858年～1922年）によって、繁殖用のヒメマスが支笏湖から運び出されました。今日に至るまで、秋になると卵の採取が行われ、春には地元のヒメマスふ化場でふ化した稚魚の放流が行われています。

本事業以前の英語解説文

Himemasu

Himemasu (kokanee salmon) are land-locked red salmon that live in the lake year-round without returning to the sea. They are native to Lake Akan. In 1903 Sadayuki Wainai imported the fish from Lake Shikotsu for stocking. This structure is a salmon hatchery. Spawn are collected and hatched in fall, and the fry are released into the lake the following spring. In about four years they reach maturity and return to their hatchery of origin in September and October. Kokanee salmon are now an important specialty of Lake Towada.

【場所】和井内

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The Lake Towada Ecosystem and Himemasu Salmon

Lake Towada is a double caldera volcanic lake created by multiple volcanic eruptions. Due to its unique environment and wildlife, the lake has been designated a Special Natural Monument of Japan, as well as a scientifically valuable site within the Towada Hachimantai National Park.

Initially, there were no edible fish inhabiting the lake. During the Meiji era (1868–1912), a man named Wainai Sadayuki had a dream that locals would be able to eat fresh fish. Attempts at cultivating carp and *masu* salmon were unsuccessful, but in 1905 Wainai succeeded in breeding *himemasu* salmon. This place marks the ruins of the original Wainai Hatchery, built in 1906. Wainai's fish cultivation supported the lives of those living by the lake, and the adjacent modern day hatchery carries on that tradition today.

The *himemasu* salmon (also known as landlocked *kokanee* salmon) was originally a sockeye salmon that bred in fresh water lakes and rivers but spent its adult life in the ocean. It has evolved into a species that lives its whole life in fresh water. The fish mature at age 4 and grow to approximately 25 centimeters long.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

十和田湖の生態系とヒメマス

十和田湖は複数の火山噴火から生まれた二重カルデラ湖です。特有の自然環境と野生生物が評価され、国の特別天然記念物に指定されています。また、その高い学術的価値から、十和田八幡平国立公園内で特別地域として保護されています。

かつて十和田湖には食用魚がいませんでした。20世紀はじめ、和井内貞行という男性が、地元民に新鮮な魚を食べさせることを夢見ていました。コイやマスを養殖する試みは上手くいきませんでしたが、1905年、和井内はついにヒメマスの繁殖に成功しました。この地には1906年に建てられた和井内ふ化場の跡地が残っています。和井内による養殖は湖畔に暮らす人たちの生活を支えていました。隣で操業するふ化場は、今日も当時の伝統を伝えています。

コカニーサーモンとしても知られるヒメマスは、もともと淡水湖や川で繁殖するベニザケでした。成魚は海で生活します。その後進化して生涯を淡水で過ごすようになりました。4年で成魚まで育ち、約25センチメートルまで成長します。

本事業以前の英語解説文
なし

154

No.40 Juon's Bells

<十和田八幡平国立公園、青森・秋田>

【場所】大川岱

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Japan - Germany Bell of Friendship

The Japanese town of Kosaka and Germany's Freiburg City are forever joined by the efforts of metallurgist Curt Netto. From his arrival to Japan in 1873 during the Meiji era, Netto assisted in the development of Japanese mining. His remarkable work was an important force in the modernization of Japan and will never be forgotten.

The collection of bells is named Juon's Bells. The enduring message they seek to spread far and wide is:

“Love nature forever, be grateful for nature's bounty.”

上記解説文の仮訳（日本語訳）

日独友好の鐘

冶金家クルト・ネットーの尽力により、日本の小坂町とドイツのフライベルク市は、永遠の絆で結ばれました。明治6年（1873年）に来日して以来、ネットーは鉱業の発展に協力します。ネットーの偉大な功績により日本の近代化が後押しされ、歴史にその名を残すことになりました。

「樹恩の鐘」と名付けられた鐘は、不朽のメッセージを世界に伝えています。

「永遠に自然を愛し、自然の恵みに感謝する」

本事業以前の英語解説文

なし

155

No.41 Lake Towada

<十和田八幡平国立公園、青森・秋田>

【場所】子の口

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Lake Towada

Winters at Lake Towada are extremely cold, with temperatures regularly dropping as low as -20°C (5°F). However, the lake almost never freezes over. Its great depth—which measures up to 327 meters—prevents the water temperature from getting low enough to freeze.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

十和田湖

十和田湖の冬は極めて寒く、気温が -20°C まで下がることも珍しくありません。しかし水が深いので、湖面に氷が張ることは滅多にありません。深い所で水深 327メートルにまで達するので、凍り付くまで水温が下がらないのです。

本事業以前の英語解説文

LAKE TOWADA

Winters at Lake Towada get very cold, at coldest gets to 21°C (5F).

However the lake is never freezes over.

Lake Towada is deep the deepest part is 327 meters, so the so the temperature of the lake never gets low enough to freeze before spring comes.

156

No.42 Oirase River Basin Furusato Forest, River, and Ocean Conservation Area

<十和田八幡平国立公園、青森・秋田>

【場所】子の口

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Oirase River Basin Furusato Forest, River, and Ocean Conservation Area

Working together to preserve and protect our forests, rivers, and oceans.

Oirase River Basin is a conservation area protected by a number of regulations. Conservation areas are spaces where the local culture and the lives of the people are deeply intertwined and in harmony with the nature that surrounds them.

(White box:)

Wild animals and other living creatures inhabit conservation areas, so it is important to give them due consideration. Conservation work carried out to ensure the health of the protected areas includes: (4 images)

- 1 - Removing and relocating sand and rocks
- 2 - Constructing, refurbishing, and demolishing buildings and other structures
- 3 - Moving soil to change the landscape
- 4 - Maintaining and removing trees

上記解説文の仮訳（日本語訳）

奥入瀬川流域ふるさとの森と川と海保全地域

一丸となって森林、河川、海の保全および保護に取り組んでいます。

奥入瀬川流域は各種法規制による保護を受ける保全地域です。この地では地元文化と地域住民が深く結び付いており、共に自然環境との調和を織りなしています。

（白い囲み記事：）

保全地域には野生動物やその他の生き物が生活しているので、十分な配慮をお願いいたします。保全地域の環境を健全に保つため、以下の保全作業を実施しています。（イラスト4枚）

- 1 - 土砂の撤去や移動
- 2 - 建物やその他構造物の建築、改装、および解体
- 3 - 土壌の移動による地形の変更
- 4 - 樹木の維持と伐採

本事業以前の英語解説文
なし

157

No.43 Mt. Towada New Road Construction Monument

<十和田八幡平国立公園、青森・秋田>

【場所】子の口

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Mt. Towada New Road Construction Monument

This monument was erected to commemorate the building of the first road to the entrance of Lake Towada, known as Ne no Kuchi.

In the Edo era (1603–1867), the governor of the Gonohe territories, Kimura Matasuke Hideharu, was sent here by a southern lord to construct a road leading to the lake. A stone monument was erected here in 1693 to commemorate the successful opening of this road.

This updated sign was put up in the same location as the original stone monument in 1988.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

十和田山新道開拓の碑

十和田湖へ続く最初の道が作られたのを記念し、石碑が建てられました。道は「子の口」の名で知られていません。

湖に至る道を建築するため、江戸時代（1603年～1867年）、南部藩主が五戸代官木村又助秀晴をこの地に派遣しました。1693年には、道が無事開通したのを記念して石碑が建てられました。

1988年に設置されたこの看板は、元々石碑が建てられたのと同じ場所に立っています。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】発荷峠

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Lake Towada

Lake Towada is located on the border between Akita and Aomori prefectures. The lake is 61.11 square kilometers, and extends about 10 kilometers in all directions. It has a maximum depth of 326.8 meters, which makes it the third deepest lake in the country (as of 2018).

In 1905, this sparsely inhabited lake region was given new life by Wainai Sadayuki (1858–1922), who successfully started a fish farming industry through the introduction of *himemasa* (*kokanee*) salmon. Today, this salmon is a specialty of the Towada area, with over 10 tons harvested annually. Here at Hakka Pass, you can see Mt. Ohanabe straight ahead, the Hakkoda Range behind you, and the Nakayama and Ogura peninsulas to the right. Below, you can see the Wainai hatchery, which continues to cultivate salmon to this day.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

十和田湖

十和田湖は秋田県と青森県の県境に位置しています。面積は 61.11 平方キロメートルで、約 10 キロメートル四方の大きさです。最深部の深さは 326.8 メートルもあり、日本で 3 番目に深い湖です（2018 年時点）。

かつてほとんど人気のなかった湖畔地帯を生まれ変わらせたのは、和井内貞行（1858 年～1922 年）です。和井内はヒメマスを湖に移入して、養殖産業を創始することに成功しました。今日ではそのヒメマスが十和田一帯の特産品となっており、年間水揚げ量は 10 トン以上に上ります。ここ発荷峠から目前に見えるのは御鼻部山です。後ろには八甲田連峰、右手には中山半島と御倉半島が見えます。麓に目を下ろすと和井内ふ化場が目に入ります。和井内ふ化場では今日に至るまでヒメマスの養殖を続けています。

本事業以前の英語解説文

Lake Towada

Lake Towada is located on the border between the prefectures of Akita and Aomori. At 61.11 km², the lake extends about 10 km in all directions. The lake's maximum depth of 326.8 m ranks as the third deepest in the country (as of 2015). Visibility in the lake is about 10m. In 1905, this once uninhabited lake was given new life by Sadayuki Wainai, who started a fish farming industry through the introduction of the Kokanee Salmon (himemasu). Today, that salmon is a specialty of Towada, and over 10 tons are harvested annually.

Here at Hakka Pass, you can see Mt. Ohanabe straight ahead, with the Hakkoda Ranges behind, and the peninsulas of Nakayama and Ogura to the right.

平泉町世界遺産推進協議会

【施設名】観自在王院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kanjizaioin is a rare, historically important example of twelfth-century Pure Land Buddhist architecture and garden design. The original temple featured a pair of elaborately decorated Amida Halls, a landscaped garden with a central, stream-fed pond, and extensive perimeter earthworks.

According to the *Azumakagami*, a thirteenth-century historical record, Kanjizaioin was constructed by the wife of Fujiwara no Motohira (1105–1157), the second lord of the Oshu Fujiwara clan that once ruled Hiraizumi. Researchers believe the original temple burned down in 1573, and by the seventeenth century most of its land had become paddy fields. Much of the current understanding of the temple and its history results from the archaeological excavations of the Kanjizaioin Temple ruins which began in 1954. Among other discoveries, researchers have located the sites of several temple buildings, including the Amida Halls.

According to the *Azumakagami*, the walls of the larger Amida Hall were decorated with scenes of life in Kyoto, including the Kamo Festival and Kiyomizudera Temple.

The Kanjizaioin Temple garden was designed to depict the Pure Land Western paradise, and to reproduce the peace and tranquility of this Buddhist paradise. The centerpiece of the garden is an 8,100-square-meter lake called Maizurugaike (Dancing Crane Pond), with its landscaped central island. The shape and design of the pond and its decorative rock formations are typical of twelfth-century Japanese garden design, and the garden at Kanjizaioin Temple is highly acclaimed as a rare example of twelfth-century Pure Land Buddhist garden architecture.

Kanjizaioin Temple and nearby Motsuji Temple were originally constructed around the same time, resulting in similarities in the designs of their gardens. However, researchers evaluate the garden at Kanjizaioin as being less elaborate than that of Motsuji. The pond at Kanjizaioin Temple has now been restored to its original state, based upon research and excavations at the site.

The Kanjizaioin Temple Remains were designated a UNESCO World Heritage Site in 2011.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

観自在王院は、12世紀の「浄土を表現した寺院庭園」の、歴史的かつ優れた事例として非常に価値の高いものです。庭の中央の、遣水から水を注いだ池、周囲を囲む土塁、そしてかつては2つの阿弥陀堂がありました。

13世紀の歴史書の『吾妻鏡』によると、観自在王院は平泉の地を治めた奥州藤原氏の二代目、藤原基衡(1105-1157)の妻により建立されたといわれています。寺は1573年に燃え落ちたと伝えられ、17世紀には境内の大半が水田化しました。観自在王院の発掘調査は1954年に始まり、2つの阿弥陀堂を含む複数の建物の痕跡が確認され、寺やその歴史について現在知られている知識の発見に大きく貢献しました。

『吾妻鏡』によると、大阿弥陀堂内部の壁面には京都の名所である賀茂の祭りや清水寺などが描かれていたといえます。

観自在王院の庭園は、西方浄土の平和や静けさをこの世に再現するものとして設計されました。庭の中央には、8,100平方メートルの舞鶴ヶ池があり、池のなかには中島があります。池の形や石の配置には12世紀の造園技術が反映され重要です。また、観自在王院は12世紀の浄土庭園の例として高く評価されています。

観自在王院とその隣にある毛越寺の庭園は、同時代に造営されたことから、意匠や設計に類似点がみられます。しかし、研究者は、観自在王院の庭園を毛越寺の庭園に比べて簡素だと評価しています。発掘調査の成果に基づいて池は修復・再生されました。

観自在王院跡はユネスコ世界遺産に2011年に登録されました。

本事業以前の英語解説文

Former Kanjizaoin Temple Garden

According to the Kamakura era historical record *Azuma Kagami*, Kanjizaiōin Temple was commissioned by the wife of the second Ōshū Fujiwara lord Motohira. Beside it, on the west side, is Mōtsū-ji Temple Garden, designated a Place of Special Scenic Beauty, whilst to the north of the Kanjizaiōin Temple garden pond called Maizuru ga Ike (Dancing Crane Pond) is the Historic Site Kinkeisan (Golden Cockerel Hill). To the south is the site of the Kuramachi Remains, where traces of the large structures called Takaya were discovered. Maizuru ga Ike has undergone restoration and maintenance. The foundation stones of both a large and a small Amidadō (Amida halls), a Fugendō (Fugen Bosatsu hall) and a belfry show that the site was considerably developed in the 12th century. Traces of earthen embankments were excavated on the west side (extending 120 metres east to west) and another on the south side (240 metres north to south) as well as a west and south gate. Between the embankment bordering the west side of Kanjizaiōin Temple and another on the east side of Mōtsūji Temple there was a wide road surfaced with stones and an area used for the parking of Oxcarts beside it. Until recent times, the area was rice paddy fields. The scenery we can see now is thanks to a restoration and maintenance project that took place from 1973 to 1978. The former Kanjizaiōin Temple garden is highly valued in the history of Japan's gardens and is designated as a Place of Scenic Beauty.

【施設名】無量光院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Muryokoin Temple is considered to be one of the masterpieces of twelfth-century Pure Land Buddhist temple and garden design. Pure Land Buddhist temple design sought to create a physical representation of the Buddhist Pure Land Western paradise. The design of Muryokoin Temple and its garden is therefore not only architecturally important, but also tells us how twelfth-century Buddhists envisioned the Pure Land Western paradise.

According to the thirteenth-century historical record *Azumakagami*, the Muryokoin Temple was modeled after the famous Phoenix Hall of Byodoin Temple in Kyoto. Both temples featured a central worship hall (Amida Hall) with wing-like lateral corridors, and were built on islands surrounded by large ponds.

Muryokoin was established by Fujiwara no Hidehira (1122–1187), the third Oshu Fujiwara lord to rule Hiraizumi. The temple grounds, which are surrounded by earthen mounds, originally consisted of a pond with three islands set in extensive gardens. An Amida Hall, with an enshrined statue of Amida Buddha, stood on the largest island. The Amida Hall was located facing the east, in accordance with the Pure Land Buddhist belief that the Pure Land Paradise was located in the west.

Excavations have discovered evidence of buildings on the smaller eastern island, leading experts to believe that prayers were offered and ceremonies performed there. The ruins of a bridge that once connected the northern island to the Amida Hall have also been found.

The site of Muryokoin Temple is a part of the Hiraizumi UNESCO World Heritage Site, and one of the four twelfth-century Pure Land Buddhist gardens in Hiraizumi. The other three are at nearby Chusonji, Motsuji, and Kanjizaoin Temples.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

無量光院は、西方浄土を再現しようと試みた 12 世紀の浄土仏教の寺院の貴重な例でした。今日の研究者や歴史家たちは、この寺院の庭園を浄土式寺院庭園の傑作の一つと評価しています。建築物としての重要性に加え、無量光院とその浄土庭園からは 12 世紀の仏教徒が思い描いた西方浄土の姿を伺い知ることができます。

13 世紀の歴史書『吾妻鏡』によると、無量光院の伽藍は京都にある平等院を模したものと記録されています。無量

光院と平等院はどちらも、池中にある島に翼状の廊を備えた阿弥陀堂が建てられていました。

無量光院の造営は、平泉を支配していた奥州藤原氏の三代秀衡(1122－1187年)によるものです。無量光院の境内は周囲を囲む土塁と、広大な庭園と3つの島をもつ広大な苑池で構成されています。池の中のもっとも大きな島に阿弥陀堂が建っていました。極楽浄土は西方にありとする仏教の世界観を表すため、阿弥陀堂は東向きに建てられていました。

発掘調査では、東島の上から数棟の建物の痕跡が発見されました。研究者たちはここで儀式や祈りが行われたと考えています。北小島には、阿弥陀堂へ橋を掛け渡した痕跡が確認されています。無量光院跡はユネスコ世界遺産「平泉」の構成遺産に含まれています。そして、平泉に4つある浄土を表現した12世紀の寺院庭園の1つです。他の3つの浄土庭園は、中尊寺、毛越寺の庭園、観自在王院跡の庭園です。

本事業以前の英語解説文

Muryoko-in Ato (Muryoko-in Temple Remains)

These are the remains of Muryoko-in Temple, commissioned by the third Oshu Fujiwara Tord Hidehira in the late 12th century. The temple was in a "Jodoteien" (Pure Land garden) and surrounded on three sides by earthworks. Within the precinct, traces have been found of the garden pond called Bonjigaike (Sanskrit Pond). In this pond, to the west, are the remains of an island where the foundation stones of the Buddha hall of the temple can be found. There are also remains of a smaller island to the east. According to the historical record Aduma Kagami, compiled by the Kamakura shogunate, Muryoko-in Temple was modeled on the Phoenix Hall of Byodo-in Temple in Uji near Kyoto. Excavation and research conducted in 1952 confirmed that the shape of the Buddha hall of Muryoko-in Temple resembles that of the Phoenix Hall.

Twice a year, in the middle of April and at the end of August, the Buddha hall and the building on the east island were aligned with the sun when it set over the top of Mt. Kinkeisan (Golden Cockerel Hill).

【施設名】中尊寺

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Eternal Flames

A pair of Eternal Flames (*fumetsu no boto*) burn in the lanterns that flank the statue of Shakyamuni Buddha in the main worship hall of Chusonji Temple. Every morning, priests light candles on the altar using fire from these sacred eternal flames.

The eternal flame was originally kindled by Saicho (767–822), the Japanese Buddhist monk who founded the Tendai sect of Buddhism in Japan, and it has burned continuously for over 1,200 years. Saicho first ignited the flame at Enryakuji Temple on Mount Hiei, in Shiga Prefecture. That flame was split in 1958, and a portion brought to Chusonji Temple, which is one of only two temples in the Tohoku region to possess this sacred flame.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

不滅の法灯

中尊寺の本堂にある釈迦如来坐像の両側には、不滅の法灯が立っています。中尊寺では毎朝、この不滅の法灯から祭壇にあるロウソクに火が灯されます。

滋賀県の比叡山にある日本の天台宗の総本山、延暦寺の元火が 1958 年に中尊寺に分燈されたものです。もともとの炎は、日本で天台宗を設立した伝教大師最澄（767-822 年）が灯したもので、1200 年以上も燃え続けています。

現在、中尊寺は、神聖な火が灯った「不滅の法灯」をもつ、東北地方で 2 つの寺院のうちの一寺となっています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】中尊寺

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Matsuo Basho and *The Narrow Road to the Deep North*

The seventeenth-century haiku master Matsuo Basho (1644–1694), one of Japan’s most famous poets, visited Hiraizumi and mentioned it in his masterpiece, *The Narrow Road to the Deep North*.

Hiraizumi flourished in the twelfth century under the rule of the Oshu Fujiwara clan, who built several temples transforming Hiraizumi into a center of Buddhist culture. In 1689, five centuries after the golden age of Hiraizumi, Matsuo Basho visited Chusonji Temple while traveling on foot in Tohoku.

During the eighteenth century, a local haiku group donated this monument to Chusonji Temple to commemorate Basho’s visit. The stone bears Basho’s original haiku poem about the Konjikido, which reads:

Untouched by

The rains of May

Shining Hall

上記解説文の仮訳（日本語訳）

松尾芭蕉と奥の細道

日本でもっともよく知られる 17 世紀の俳人、松尾芭蕉（1644-1694 年）の記念碑です。彼は平泉を訪れ、傑作「奥の細道」で平泉についても触れました。

12 世紀の平泉は、奥州藤原氏の統治のもと、仏教文化が花開き、多数の寺院が造営され、栄華を極めました。それから 5 世紀ほど経った 1689 年、松尾芭蕉は東北を歩いて旅し、中尊寺を訪れました。

18 世紀に入り、芭蕉の訪問と芭蕉の金色堂の句を記念し、地元の俳句を愛する人々の団体が、この記念碑を中尊寺に捧げました。

五月雨の

降りのこしてや

光堂

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】中尊寺

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Miyazawa Kenji Monument

This monument, erected in 1959, memorializes Japanese author and poet Miyazawa Kenji (1896–1933), a native of Iwate Prefecture with strong connections to Chusonji. Many of Miyazawa’s works, including his poetry and children’s stories, are considered classics of modern Japanese literature. Miyazawa’s deep connection to Buddhism, particularly the *Lotus Sutra*, also had an important impact on his life.

The monument includes a poem Miyazawa wrote about Chusonji Temple. In the poem, a thief is so overwhelmed by the beauty of Chusonji Temple that he completely loses the urge to steal.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

宮沢賢治石碑

1959年に建てられたこの石碑は、中尊寺とのかかわりが深い岩手県出身の作家、詩人の宮沢賢治（1896-1933年）を記念するものです。

詩や童話を含め宮沢賢治の作品は、近代日本文学の傑作とされています。宮沢は仏教、特に法華経と深い関わりがあり、法華経は彼の人生に大きな影響を及ぼしました。石碑には、宮沢が執筆した中尊寺の詩が刻まれています。

詩の内容は、中尊寺に来た泥棒が寺の美しさに圧倒され、畏怖の念を抱き、盗みの意思を完全に失ったというものです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】中尊寺

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Traditional Dance Ritual Kojitsu Shiki Sanban

The Kojitsu Shiki Sanban is a four-part ritual dance performed each year to ensure an abundant harvest and peace throughout Japan.

The dance begins with a performer wearing the mask of an old man who announces the start of the Kojitsu Shiki Sanban. After prayers for peace are conducted, there is a dance by a performer wearing the mask of a young woman. Finally, a different performer wearing the mask and attire of an elderly woman performs a stamping dance.

Kojitsu Shiki Sanban is performed each May, during the Fujiwara Festival, on the Noh stage of Hakusan Shrine. This shrine sits northwest of Chusonji and is dedicated to the native spirits that inhabit and protect the land around the temple.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

古実式三番

この古典的な舞踊は、重要な宗教的儀式舞踊は、この国の豊作と平和を願うものです。

古実式三番は、翁の面をつけた演者が舞の開始を伝えてはじまります。そして、祝詞が捧げられ、3番目では若い女性の面をつけた演者が舞いを披露します。最後の部では、老婆役が舞を披露します。

今日では5月の藤原まつりの際に、中尊寺の北西にある白山神社の能舞台で披露されます。白山神社は、中尊寺の境内地、関山の地主神である白山神をまつる鎮守社としての役割を果たしてきました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】中尊寺

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Ennin and Chusonji

The Japanese monk Ennin (794–864) traveled to the Tohoku region around the year 829 to spread the teaching of Tendai Buddhism. Ennin was a disciple of Saicho (767–822), the founder of the Tendai sect headquartered at Enryakuji Temple on Mount Hiei in Shiga Prefecture. After Saicho's death, Ennin became the third chief priest of the Tendai sect.

In the early ninth century, most of the Buddhist temples in Tohoku belonged to the Nara-based Hosso sect. The Hosso sect's doctrine asserted that one's world was created by their own intellect, placing emphasis on philosophical thought and scholarship. While traveling in Tohoku, Ennin founded Chusonji and Motsuji, which the Oshu Fujiwara clan later developed and thus played an important role in the expansion of Tendai Buddhism into northern Honshu. The Tendai sect asserts that everyone can achieve enlightenment. This was appealing and many people around the country embraced these ideas.

Hosso Buddhism remained the dominant sect in Tohoku until the establishment of Chusonji Temple by Fujiwara no Kiyohira (1056–1128) at the beginning of the twelfth century. Chusonji was the first temple in Tohoku to genuinely follow Enryakuji-style Tendai Buddhism, whose core teachings are based on the Lotus Sutra and Pure Land Buddhism. The Oshu Fujiwara clan, who supported the construction of Chusonji and the other temples of Hiraizumi, is remembered as a ruling family who helped develop Hiraizumi into a peaceful city that was run based on Buddhist teachings.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

円仁と中尊寺の建立

仏僧、円仁（794-864 年）は、仏教を広めるため 829 年に東北地方を周遊しました。円仁は、京都の東にある天台宗の総本山・延暦寺で天台宗の開祖、最澄(767-822 年)に仕えた僧で、最澄の没後、天台宗の三代目の座主になりました。

9 世紀の初め、東北のほとんどの寺は奈良を拠点とした法相宗に属していました。法相宗は、自分の見ている世界は

自分の心が作り出したものという考えをもち、哲学的な学問を重視していました。円仁は東北への布教の旅で、奥州藤原氏が後に発展させることになる、中尊寺や毛越寺といった寺の基礎を築きました。このように円仁は、天台宗をこの地に広めることに貢献したのです。天台宗は、人は皆悟りに至ることができるとし、この考えは多くの人に支持されました。

しかし、12世紀初頭に藤原清衡（1056-1128年）によって中尊寺が造営されるまで、東北地方では法相宗が優勢でした。中尊寺は、法華経と浄土思想の教えに基づく、延暦寺の天台宗の体系に沿って築かれた東北で最初の寺でした。奥州藤原氏は、中尊寺や平泉にあるその他の寺の造営を支援し、仏教の教えに基づいた平和な都市を築こうとしました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】無量光院跡
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Bonjigaike Pond, Muryokoin Temple

As part of the larger Muryokoin temple complex, Bonjigaike Pond and its three islands were designed to replicate and reflect the Pure Land Buddhist paradise on earth. Originally constructed between 1170 and 1180, the pond measures 19,600 square meters in size, with a maximum depth of approximately 40 centimeters.

It is believed that Fujiwara no Hidehira (1122–1187), who constructed Muryokoin, modeled the temple after Kyoto's Byodoin Temple. An Amida Hall once stood on the largest island in Bonjigaike Pond, and a bridge connected this central island with the smaller northern island. The Amida hall featured lateral corridor wings, like the Phoenix Hall of Byodoin Temple, and enshrined a statue of Amida Buddha. Excavations have also discovered the remains of several buildings on the eastern island, including a stage.

First excavated in 1952, the pond and its three islands have been painstakingly restored to their original size and condition, allowing visitors to experience this rare Pure Land Buddhist historical site.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

無量光院梵字ヶ池(ぼんじがいけ)

無量光院庭園にある梵字ヶ池と3つの島は、極楽浄土をこの世に再現しようとする寺の一部として設計されたものです。造営は1170から1180年の間とされています。この池の最も深いところは約40センチ、140メートル四方(19,600平方メートル)です。

無量光院は藤原秀衡(1122–1187)によって京都の平等院鳳凰堂を模して建立されたと言われています。池にある最大の島、中島に阿弥陀堂はありました。北島と中島は橋で結ばれていました。平等院鳳凰堂と同様に翼廊をもつ阿弥陀堂には阿弥陀如来像が祀られていました。発掘調査によって、東島からもいくつかの建物の跡や、舞台の跡が見つかりました。

1952年に発掘されたこの池は、多くの時間をかけて修復されました。こうして訪れる人が、この貴重な浄土庭園を見られるようになったのです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】無量光院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kitakojima, the Northern Island

Kitakojima is the smallest of the three islands in Bonjigaike Pond. A bridge originally connected this island with the central island where the temple's primary worship hall (Amida Hall) once stood. This northern island was used as an access route to the Amida Hall. This feature can also be seen at Byodoin Temple in Kyoto, which served as the model for Muryokoin.

Muryokoin Temple, including its garden, pond, and islands, was designed to emulate and recreate the Pure Land Buddhist paradise on earth. During the sixteenth century, the temple burned to ruins, and the land was used as farmland until after 2010, when restoration work began. Subsequent efforts have restored the original shape of the pond and its three islands, making Muryokoin one of the only remaining examples of twelfth-century Pure Land Buddhist garden architecture in Japan.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

北小島

北小島は、無量光院庭園の島の中でもっとも小さい島です。かつてこの小さな島と、阿弥陀堂が建っていた大きな島には橋がかけられていました。北小島は、京都府にある平等院鳳凰堂の小島と同様に、阿弥陀堂への通路となっていたと考えられます。

庭や池、島とともに無量光院は、極楽浄土をこの世に再現するという目的で設計されたものです。16世紀に無量光院は火災で消失し、2010年代になって修復再生事業が始まるまで水田化していました。修復・再生の努力により池にある3つの島は元の形状に修復され、無量光院は12世紀の浄土庭園の傑作のひとつとして蘇りました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】無量光院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Higashijima, the Eastern Island

The eastern island (Higashijima) of Muryokoin Temple is located near the center of Bonjigaike Pond, and faces the western island where the main worship hall (Amida Hall) once stood. From the eastern island, visitors and worshippers could view the Amida Hall, with its enshrined statue of Amida Buddha.

Excavations have revealed evidence that at least three buildings once stood on Higashijima. The easternmost apparently served as a hall for performances of ceremonial music, while the westernmost was used as a stage.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

東島

無量光院の東島は、池の中心近くに造られた島です。島は、中島に建っていた阿弥陀堂と向かい合う位置にあります。訪問者と礼拝者は、この東島から、阿弥陀堂とそこに祀られた阿弥陀仏を拝むことができました。

東島には少なくとも3つの建物があつたことが発掘調査でわかりました。最東の建物は、儀式音楽の演奏のために用いられたと考えられています。最西の建物は、舞台として使われました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】無量光院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Nakajima, the Central Island of Muryokoin Temple

Constructed during the twelfth century, the Central Island (Nakajima), is the largest of the three islands in the Muryokoin Temple garden. Originally, the Central Island held an Amida Hall modeled after the famous Phoenix Hall at Byodoin Temple in Kyoto, and was connected to the shore by means of bridges that crossed over the northern island (Kitakojima).

Although some records indicated that the Amida Hall at Muryokoin Temple was identical to the Phoenix Hall in every detail, excavations of the Central Island revealed brick paving that did not exist at the Phoenix Hall.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

中島跡

12世紀に造られた無量光院庭園に3つある島の中で、もっとも大きな島が中島です。ここには、京都の平等院鳳凰堂を模したとされる、阿弥陀堂が建っており、北小島に渡る橋によって岸につながっていました。

記録によると、無量光院の阿弥陀堂は、細部まで鳳凰堂と類似していましたが、中島の発掘により、鳳凰堂には存在しなかったタイルの一種が地面に敷かれていました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】無量光院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Amida Hall Remains

The Amida Hall (Amidado) of Muryokoin Temple, which once stood on the pond's central island, was designed to recreate the Buddha's palace in the Pure Land paradise, as described in Buddhist scriptures.

Historical records indicate that the Amida Hall was constructed during the twelfth century and modeled after the famous Phoenix Hall at Byodoin Temple in Kyoto. Like the Phoenix Hall, the Amidado at Muryokoin Temple enshrined a statue of Amida, the primary Buddha of Pure Land Buddhism. The sacred statue at Muryokoin was 2.43 meters tall.

During initial excavation of the central island, researchers discovered a type of brick paving in front of the Amida Hall that did not exist at Byodoin, offering one point of contrast to the classical structure at Kyoto.

Muryokoin Temple originally faced to the east, so that worshippers would look west, in the direction of the Pure Land Buddhist paradise.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

阿弥陀堂

無量光院の阿弥陀堂は、仏典に描かれる極楽浄土の姿を再現しようと設計され、かつて池の中央にある中島に建っていました。

平等院と同様に、無量光院の阿弥陀堂には極楽浄土の主仏である阿弥陀像が祀られていました。阿弥陀像は丈六仏(2.43m)だったとされます。中島の発掘中に研究者たちは、阿弥陀堂の正面の地面にタイルの一種があるのを発見しました。これは平等院にはないものです。

人々が極楽浄土のあるとされる西側を向いて礼拝できるように、阿弥陀堂は東向きに建てられていました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】無量光院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Earth Mound Remains of the Muryokoin Temple

When Muryokoin Temple was established, during the twelfth century, extensive earthen fortifications surrounded the temple grounds almost completely.

Similar fortifications exist at Kanjizaioin Temple, but while the earthen mounds at Kanjizaioin were constructed along straight lines, the earthen fortifications at Muryokoin Temple were built to resemble natural landscape features.

The excavated remains of these earthen mounds are visible along the eastern and western sides of the former Muryokoin Temple grounds. The size of the mounds indicates that Muryokoin Temple was once considerably larger than the current boundaries of the restored temple garden.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

土塁跡

12世紀の建立当時、無量光院の境内は多くの部分を土塁に囲まれていました。

観自在王院の土塁は直線的に作られている一方、無量光院の土塁は自然の地形に見えるように造られているものです。

これらの土塁は寺院の敷地の東側と西側で見ることができます。これらの土塁跡を通して、無量光院は修復された寺院庭園よりもはるかに大きかったことがわかります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】観自在王院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Remains of the South Gate, Kanjizaion Temple

Historians believe that the pillars and rectangular columns discovered here belong to the South Gate (Nanmon) that once marked the entrance to Kanjizaioin Temple, and that the gate that stood at this location is the same one mentioned in the *Azumakagami*, a thirteenth century Japanese chronicle recording the history of the Kamakura period (1185–1333).

The roughly rectangular remains of the Kanjizaioin Temple grounds measured 204 meters long from north to south and 120 meters wide from east to west. The original buildings of Kanjizaioin Temple were apparently lost to fire during the sixteenth century. Thereafter, the temple grounds were used as farmland until excavation and restoration of the site began during the late twentieth century.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

南門跡

歴史家はこの場所が、13世紀鎌倉時代（1185–1333年）の歴史書「吾妻鏡」に記載された、観自在王院の門のあった位置だと考えています。そして、ここで発見された柱と角柱は、南門のものだと考えられています。

観自在王院の遺跡の規模はおおよそ南北 204メートル、東西に 120メートルあります。

観自在王院の建物は 16 世紀に火災で失われたとされ、20 世紀後半に池の修復再生や遺跡全体の整備事業が行われるまで敷地は水田として利用されていました。

本事業以前の英語解説文

South Gate Site

The remains of thick pillars spaced 4.5 m apart were unearthed here and determined to have belonged to a gate at the center of the south border of the temple grounds. The gate was set into a wall, from which square pillar remains have been uncovered. A water drainage pipe passing through the eastern wall has also been discovered.

【施設名】観自在王院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Oxcart Storage Remains, Kanjizaioin Temple

The wide space between the eastern end of Motsuji Temple and the western side of the Kanjizaioin Temple remains once served as a parking area for the carts and wagons of high-ranking temple visitors. Research and excavations have discovered that this wide space used to be paved with stones.

Visitors to Kanjizaioin Temple would leave their carts, oxen, and horses here before entering the temple. The ruins of this designated parking area indicate that many upper-class visitors to Kanjizaioin Temple used oxcarts for transportation.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

車宿跡

毛越寺の東端と観自在王院の西側にある区域は、かつて身分が高い人物を乗せた牛車を留め置くための、車宿として使われていました。

この広場は、石を敷いて舗装していたことが発掘調査でわかりました。

観自在王院を訪れる人は、お寺に入る前に牛車や牛などをここに残しました。この車宿の跡地は、平泉でも当時貴族の乗り物であった牛車を使用されていたことを示す遺構です。

本事業以前の英語解説文

Cart Garage Site

10 ox-drawn carts were housed in this 10x2-bay (27.5 x 4.7m) structure located in a large plaza(30m wide) west of Kanjizaioin and east of Motsuji.

The building was long on its north-south axis, and probably walled on three sides with the west open. The floor was of the same large gravel as its surroundings, with rainwater drainage channels on all sides.

This garage, mentioned in the Azuma kagami(the official history of the Kamakura shogunate), was a convenient place for carts to be stored or just hitched.

【施設名】観自在王院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Garden Stream and Waterfall Stonework

This garden stream was the original water source for the Dancing Crane Pond (Maizurugaike) of Kanjizaioin Temple. The stream spills over the top of the large stones at the water's edge, creating a waterfall. The stream and its large stones are unique highlights of this garden, and highly valued by garden art researchers.

The garden of Kanjizaioin Temple is an excellent example of Pure Land Buddhist garden architecture dating to the twelfth century.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

遣水（やりみず）、滝石組（たきいしぐみ）

発掘調査で、この遣水が、観自在王院の舞鶴が池に水を落としていたとわかりました。水の流れが水際の大きな石の上を伝い、滝を作ります。

観自在王院庭園の中でも、特にこの滝石組は専門家から高い評価を受けています。観自在王院の庭園は12世紀の浄土庭園の貴重な例です。

本事業以前の英語解説文

Yarimizu (Stream) and Stone Formations

The stream which originally flowed into Kanjizaioin's pond from the direction of neighboring Motsuji's Benten Ike Pond has been restored based on excavation data. A sluice, constructed of four wooden slats, conducted water through the temple grounds' enclosing wall and over a waterfall into the pond. The fall was composed of 18 rocks of various sizes dynamically assembled in accord with the prescriptions of the classic gardening manual, Sakuteiki.

The remains of a second stream have been discovered from the area of the pond's northwest peninsular fromation, but its source is unknown.

【施設名】観自在王院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Earth Mound Remains, Kanjizaioin Temple

The earthen fortifications at this site are believed to predate the establishment of Kanjizaioin Temple. The earthen mounds at Kanjizaioin follow perfectly straight lines, in contrast with the fortifications at nearby Muryokoin Temple, which were built to resemble the natural flow of the land.

These mounds existed to block the view of people passing by outside. Apparently, they were originally tall enough to obscure the sightline of a person on horseback.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

土塁

これらの土塁は、観自在王院の設立よりも古いと信じられています。観自在王院の土塁は直線的であり、隣接する無量光院庭園の自然の地形に見えるように造られている土塁とは異なる特徴を持ちます。

遮蔽を目的として造られたとされ、騎乗の人からも見えないような高さだったと考えられています。

本事業以前の英語解説文

Earthwork Remains

Simple, durable earthen walls such as this at the western edge of the temple grounds were often used around the mansions of the upper classes. It is unclear how the other three sides were delineated, nor how tall this wall was. However, assuming that it was intended to block the view even from horseback, 2.4m seems reasonable. The wall's width, on the other hand, is known to have been 3m at the base, with a 60cm gravel water drainage area to the east.

【施設名】観自在王院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Dai Amidado, the Large Amida Hall of Kanjizaioin

Kanjizaioin Temple featured a pair of worship halls, each of which enshrined an image of Amida, the primary Buddha worshipped in Pure Land Buddhism.

As the largest hall at Kanjizaioin, the Large Amida Hall (Dai Amidado) likely served as the main temple building and worship hall. This hall enshrined sacred statues of Amida Nyorai, Kannon Bodhisattva, and the Bodhisattva Mahasthamaprapta, who represents the power of wisdom. The hall's interior featured silver altars with gold railings, and contained depictions of famous places in Kyoto.

It is believed that Kanjizaioin Temple, including the Large Amida Hall, was constructed during the twelfth century by the wife of Fujiwara no Motohira (1105–1157), the second Fujiwara lord to rule Hiraizumi. According to temple records, the temple buildings were lost to fire during a war in 1573, and the existing building was constructed during the eighteenth century. A stone roof decoration discovered at this location, which researchers believe was part of the original Large Amida Hall, is now housed in the Treasure Hall Museum at Motsuji Temple.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大阿弥陀堂跡

観自在王院には、浄土仏教で崇拝されている阿弥陀如来を祀った2つの仏堂がありました。

この寺院の主要な建物と考えられているのが、大阿弥陀堂です。

大阿弥陀堂には阿弥陀如来の像や観音仏、知恵の仏である勢至菩薩の像が祀られていました。室内には銀の仏壇、磨金の高欄があり、室内には京都の名所が描かれていたといえます。

観自在王院の大阿弥陀堂は、12世紀に平泉を支配した藤原二代基衡（1105–1157年）の妻が建立したとされ、そのちに1573年に兵火により消失したと記録されています。現在の建物は18世紀に建造されたものです。この場所に残されていた路盤(石)は、かつての大阿弥陀堂のものと考えられています。現在は、毛越寺の宝物館に保管されています。

本事業以前の英語解説文

Large Amida Hall

The largest and principle hall of the temple measured 10.6m², with 2m eaves or finishing boards on all sides. The roof was pyramidal and hipped with a spire at the peak capped by a tear-drop shaped protective ornament—perhaps the very stone decoration in the collection of Mōtsūji. The hall's principle image, an Amida (Amitābha) statue, sits atop a dais surrounded by internal pillars spaced 4.55m apart.

The Azuma kagami (official history of the Kamakura shogunate) remarks that "the dais was silver, its railing gold," and that the four walls were adorned with paintings of scenes of famous sites from the capital.

【施設名】観自在王院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Sho Amidado, the Small Amida Hall of Kanjizaioin Temple

The Small Amida Hall (Sho Amidado) was located immediately adjacent to the Large Amida Hall. Both worship halls enshrined an image of Amida, the primary Buddha worshipped in Pure Land Buddhism. In the flat area between the two halls, excavations have revealed a depression that resembles a pool. Researchers speculate this pool was a Spring Hall (Izumi-dono), used for cooling in the summer, that was often seen at upper class residences.

The stone monument behind the Small Amida Hall was built in the seventeenth century and marks the grave of Lady Fujiwara no Motohira (1105–1157). The monks of Motsuji Temple conduct a festival, simulating a funeral, at this site on May 4th each year, in commemoration of Lady Fujiwara no Motohira's death.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

小阿弥陀堂跡

小阿弥陀堂は、大阿弥陀堂のすぐ横にありました。どちらの阿弥陀堂も浄土仏教で崇拝されている阿弥陀如来を祀っていました。発掘調査によってこれら 2 つの阿弥陀堂の間にある平坦な場所から浅い池状のくぼみが発見されました。これは、貴族の邸宅にみられた納涼の場としての「泉殿」の跡ではないかと考えられています。

小阿弥陀堂の後ろにある石碑は、17 世紀につくられたもので、藤原二代基衡（1105–1157）の妻の墓とされています。彼女の死を悼み、毛越寺の僧侶らによって葬式を模した祭が毎年、5 月 4 日に行われています。

本事業以前の英語解説文

Small Amida Hall

Excavations have revealed Kanjizaioin's second Amida hall to be a long, thin building 16.8mx7.2m most likely topped by a hip-and-gable roof.

Between the large and small halls is a rectangular site measuring 5.3X4.4m that was covered by gravel and surrounded by earthfast posts at intervals of 3m. These pillars extended to form a corridor to the south. This appears to be a "spring pavilion," an important feature of period mansions and an indication that Kanjizajōin was originally a residential complex converted into a temple. This revelation is an interesting peek into the lives of the twelfth-century upper class

178

No.20 Nakajima, Central Island Remains, Kanjizaoin Temple

<平泉、岩手>

【施設名】観自在王院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Nakajima, Central Island Remains

This island was originally constructed near the center of the Dancing Crane Pond (Maizurugaike) in accordance with architectural principles established in the *Sakuteiki*, the first published treatise on Japanese garden design. The *Sakuteiki* dates to the Heian period (794–1185) and contains detailed teachings for garden design, including instructions for the creation and placement of upright stones, islands, ponds, waterfalls, and rivers.

A rare iron stupa container found on the island is currently on display in the Treasure Hall Museum of Motsuji Temple. Although the Kanjizaoin Temple pond was used as a rice field after the original temple fell into ruin, the island itself was never used for farming. Instead, artifacts revealed during excavations suggest the island was used as a burial ground.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

中島跡

この島は、平安時代（794–1185）に書かれた庭園に関する最初の学術書、「作庭記」の庭づくりの方法に則って造られた島で、舞鶴が池の中心近くに位置しています。

作庭記は、平安時代(794–1185)の書籍で、立石や島、池、滝、川など日本庭園の設計や造園について詳細に言及されていました。

中島には、鉄鑄宝篋印塔（鉄塔）が置かれてありました。現在それは、毛越寺の宝物館に展示されています。観自在王院の池はこの寺が荒廃したあと、水田として使われましたが、この中島自体は水田化しませんでした。発掘作業中には板碑が見つかり、この島が墓地として使用された時代があったことを示唆しています。

本事業以前の英語解説文

Island Site

Beginning as early as the seventeenth century, this area was converted to paddy land and the island, partially reduced in size. However, archaeological data have allowed restoration of the island to its original size and shape. An iron stupa dated 1355 stood in the island's center into early

modern times, and its remains (body and base) are on display at neighboring Mitsuji Temple's museum.

Interestingly, steles dated 1350 and 1351 unearthed here suggest the eastern part of the site was used as a graveyard in the fourteenth century.

【施設名】観自在王院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Maizurugaikē, the Dancing Crane Pond

The Dancing Crane Pond (Maizurugaikē) is a unique highlight and key component of the Kanjizaioin Temple garden. When viewed from above, the pond resembles a crane with outstretched wings, a rare feature of twelfth-century Japanese garden architecture.

Both the name and the design of Maizurugaikē correspond to instructions written in the *Sakuteiki*, a Heian period (794–1185) treatise on Japanese garden design that states that ponds should resemble the shape of either a turtle or a crane.

The Dancing Crane Pond was restored according to information discovered through research excavations. It measures 90 meters wide from east to west, with stonework using large rocks along the western bank, and a central island (Nakajima) that stands at the center of the pond.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

舞鶴が池

観自在王院のなかでも重要な見どころのひとつが、この舞鶴が池です。上から見ると鶴が羽を広げたように見える池で、12世紀の庭園の貴重な例です。

池の設計や形は、平安時代（794-1185）の庭園に関する最初の学術書「作庭記」が記していたことと一致します。それには「池は鶴か亀の形に似せるのがよい」と書かれていました。

現在の観自在王院の舞鶴が池は、発掘調査の成果に基づいて修復・再生されました。池の幅は90メートルで、西側には巨石を用いた石組みがあります。池の中央には中島があります。

本事業以前の英語解説文

Maizuru ga Ike Pond

This 100 x 105m (north-south) pond dominated the temple grounds. Its total area reached approximately 9000 m,

with a 35×10m (total area 300 m) island at its center. The temple grounds slope gently northwest to southeast; Maizuru ga Ike was built by creating an earthen levee at the southern edge to hold water. The island was probably artificial, raised slightly from the water.

The pond area was long used as paddy land, but excavations unearthed the border stones and fallen decorative garden rocks, which have been partially restored. The water level is kept at 34.9m above sea level, in deference to these stone features, including the beach formation at the northeast corner.

【施設名】観自在王院跡

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Fugendo Hall Remains

Researchers believe that a worship hall dedicated to the Buddhist deity called Fugen Bosatsu stood at this location. The remains of the hall are located on the west side of the temple garden, near the place where water drains from the Dancing Crane Pond (Maizurugaiké).

A number of foundation stones are still visible embedded in the earth at this location. While the exact date of the hall's construction, and many other architectural details, remain unknown, evidence suggests the Fugendo Hall was constructed later than the rest of Kanjizaioin Temple.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

伝普賢堂跡

ここには、普賢菩薩を祀るためのお仏堂があったと考えられています。庭の西側、舞鶴ヶ池の排水のそばに、この普賢堂跡があります。

この場所では礎石が発見され、こうした礎石がまだ土に埋もれているのを見ることができます。伝普賢堂跡が建設された正確な年代は不明のままですが、観自在王院よりも後に建設されたとも考えられています。

伝普賢堂は、庭園の西側、舞鶴が池の排水口や、かつて観自在王院の鐘樓の跡とされる礎石の近くに位置します。

本事業以前の英語解説文

Fugendo Hall Site (Traditional)

This three-bayed, 4.6m-square hall is set atop a low, 7m-square earthen podium. Archaeological data has revealed that this hall was built on the site of a filled-in pond.

【施設名】毛越寺

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Main Hall (Hondo)

The Main Hall (Hondo) of Motsuji Temple dates to 1989, and is the center of worship at Motsuji Temple. Although of modern origin, the hall was constructed using twelfth-century Japanese Buddhist architectural techniques. It enshrines a statue of Yakushi Nyorai, the Buddha of medicine and healing, that dates to the Heian period (794–1185). Statues of bodhisattvas, or enlightened beings, stand on either side of the Buddha, while images of four heavenly kings stand guard at the cardinal compass points around the Buddha statue.

The interior of the Main Hall is not normally open to the public, but during the month of October, visitors can enter the hall and offer prayers to the statue of Yakushi Nyorai.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

毛越寺本堂

毛越寺の本堂は、1989年に建てられたもので、12世紀の日本の仏教建築の技術を用いています。本堂は、毛越寺の主な祈りの場です。

本堂には、薬と癒しの仏、薬師如来の像を祀っています。薬師如来像は平安時代（794～1185年）の作で、両側には2体の菩薩が立っています。さらに、本尊である仏を守る四天王も安置されています。

本堂の内部は通常一般に公開されていませんが、毎年10月には、本堂に入って薬師如来近くで祈りを捧げることができます。

本事業以前の英語解説文

Hondo (Main Hall)

Built in 1989, this is the central hall of Mōtsū-ji's present 18 structures. The principal image is a Heian era (794 -1192) statue of Yakushi Nyorai (the Buddha of Healing) flanked by the bodhisattvas of sunlight, Nikko (Sūryaprabha) and moonlight, Gakko.

【施設名】毛越寺

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Nandaimon, Remains of the Great South Gate of Motsuji Temple

The Great South Gate (Nandaimon) originally served as the symbolic entrance to the sacred precincts of Motsuji Temple. It was also the first sight many visitors saw upon arrival in Hiraizumi. The thirteenth-century Japanese chronicle *Azumakagami*, a historical record of the Kamakura period (1185–1333), describes the Nandaimon as a “great, two-storied gate,” suggesting a large, imposing structure.

Excavation of the Motsuji Temple grounds has revealed not only the twelve foundation stones of the Great South Gate, still visible at their original locations, but also the remains of a wall and gutters that once belonged to this massive gate. These elements suggest that Motsuji may have been comparable in size to the palace in Heiankyo, the capital city of Japan during the Heian period (794–1185).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

毛越寺南大門跡

南大門は、聖域である毛越寺を象徴する門だったとされます。平泉を訪れる人たちが最初に目にしたのも、この南大門でした。13世紀に編纂された、鎌倉時代（1185–1333年）の歴史的記録「吾妻鏡」には、「大きな二階惣門だった」と、門の大きさや形が描写されています。

毛越寺の発掘調査の結果、南大門の十二の礎石が発見され、もともと門があった位置がわかりました。さらに、この巨大な門を構成したとされる堀と溝の跡も明らかになりました。これらは、歴史書「吾妻鏡」にある記述と一致する発見でした。これらの発見から、毛越寺の規模は、日本の平安時代の都（794–1185）であった平安京の宮城に、まさるとも劣らないものだったと研究者たちは推測しています。

本事業以前の英語解説文

Great Southern Gate

Thought to have been a two-storey structure, the gate displayed the name placard of the main Kondo Enryu-ji Temple written by the regent Tadamichi. A statue of a guardian Nio deity was housed on either side. The gate was destroyed by fire during but twelve of its foundation stones remain.

【施設名】毛越寺

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kashoji Temple Remains, Motsuji Temple

The ruins of Kashoji Temple stand to the west of Motsuji Temple's main hall (Kondo Enryuji). The enormous stones still visible in the ground at this location are the original foundations of the Kashoji Temple hall, which predated construction of Motsuji Temple. The hall once enshrined a statue of Yakushi Nyorai, the Buddha of Healing—the same Buddha enshrined at nearby Kondo Enryuji.

According to the *Azumakagami*, a historical record of the Kamakura period (1185–1333) that contains detailed accounts of the history of the warrior class, construction of Kashoji Temple was begun by Fujiwara no Motohira (1105–1157) and completed by his son, Fujiwara no Hidehira (1122–1187).

Because Kashoji Temple's worship hall is similar in size and purpose to Kondo Enryuji, researchers believe that Kashoji Temple may have served as the original worship hall of Motsuji Temple.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

毛越寺（嘉祥寺跡）

嘉祥寺跡は、かつての毛越寺の本堂であった金堂円隆寺の西側に立っています。

この場所に残る巨大な石は、嘉祥寺のもとの基礎である礎石です。嘉祥寺は、毛越寺以前に建てられたと推測されています。嘉祥寺には本堂と同じ、苦悩や病気を癒す仏である大きな薬師如来像を祀っていたとされます。

鎌倉時代（1185–1333）の歴史書で、武家の歴史について詳しく叙述した「吾妻鏡」は、藤原基衡（1105–1157年）が嘉祥寺の建設を始め、息子の藤原秀衡（1122–1187年）が完成させたと記しています。

隣接する毛越寺の金堂円隆寺とほぼ同じ大きさであることから、祈りの場として使われていたのではと考えられています。

本事業以前の英語解説文

Kashō-ji Temple Site

According to Azuma Kagami the official history of the Kamakura shogunate, Kashō was begun by the second Fujiwara lord Motohira and completed by his son Hidehira. However, based on evidence, including its name, the hall is thought to date from the Kashō era (848-851) when Mōtsu-ji was founded by Jikaku Daishi Ennin. The principal image was Yakushi Nyorai (the Buddha of Healing). The statue was about 4.8m tall (jōku). The hall was almost as large as Mōtsu-ji's main hall Kondo Enryū-ji, being 7 bays (22.5m) wide and 6 bays (27.9m) deep with long corridors extending forward on either side, Images illustrating the meaning on the interior walls and doors.

【施設名】毛越寺

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kodo, Lecture Hall Remains of Motsuji Temple

The Motsuji Temple Lecture Hall (Kodo) that once stood at this location enshrined an image of Dainichi Nyorai (Vairocana), the Supreme Buddha of the Cosmos.

In addition to functioning as a forum for Buddhist lectures, this hall was used for important rituals, including the rites performed when monks first enter the priesthood or reach a higher rank. Use of the hall for these sacred rituals suggests that Motsuji Temple occupied a position of prestige among Buddhist temples in the Tohoku region.

The pillars supporting the front eaves of the Lecture Hall appear to align perfectly with those in the northern wall of the Kondo Enryuji, suggesting the two may have once formed parts of a larger, conjoined structure.

Although the Lecture Hall was lost to fire in 1573, the original foundation stones remain visible in the ground at this location.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

毛越寺講堂跡

かつてこの場所にあった講堂には、宇宙の至高の仏である、胎金両部大日如来の像が祀られていました。

講堂は、仏教の教えを説く場として利用されていました。さらに、僧が仏門に入るときや、より高い位に上がる時に行われる儀式などの、重要な儀式にも用いられていたといえます。これらの神聖な儀式に講堂が使用されていたことから、毛越寺は、東北地方の仏教寺院の中でも位の高い寺とみなされていたと考えられています。

講堂跡の庇柱筋は金堂円隆寺跡の北の柱筋と一直線に並ぶことから、講堂は金堂円隆寺と一体的に造営されたものと考えられます。

1573年に、この講堂は火災で破壊されましたが、元の礎石はこの場所に残っています。

本事業以前の英語解説文

Lecture Hall Site

The principal image of this hall was the cosmic Buddha Dainichi Nyorai (Vairocana). In addition to lectures on Buddhist law and principles, the esoteric Buddhist abhiseka initiation ritual for Tohoku (north-eastern Japan) was held here. 34 foundation stones remain from this hall which was 5 bays (19.1m) wide and 4 bays (15.1m) deep. The original building was renovated once but destroyed again by fire.

【施設名】毛越寺

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kondo Enryuji Hall Remains, Motsuji Temple

Kondo Enryuji was originally commissioned by Fujiwara no Motohira (1105–1157), the second Fujiwara lord to rule Hiraizumi, and once functioned as the primary worship hall of Motsuji Temple.

Azumakagami, a historical record of the Kamakura period (1185–1333), describes the hall as it appeared during the time of the Oshu Fujiwara clan: “The Kondo Enryuji Hall was studded with gold and silver and was made out of a precious rosewood tree. Because all kinds of jewels had been used to decorate it, the hall was splendid. It enshrined a 2.43 m statue of Yakushi Nyorai and the twelve gods of the zodiac.”

The statue of the Yakushi Nyorai, the Buddha of healing, enshrined at Kondo Enryuji was the first Buddha statue in Japan with crystal eyes. Although neither the hall nor its famous Buddha has survived to the present day, the original, massive foundation stones demonstrate the elaborate size of the hall, which once stood directly across the Oizumigaiké Pond from the temple’s Great South Gate.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

金堂円隆寺跡

金堂円隆寺は、平泉を治めていた藤原 2 代基衡（1105–1157）の命で、建設がはじまったと言われています。このお堂は、毛越寺の重要なお堂でした。

鎌倉時代（1185–1333）に編纂された歴史書『吾妻鏡』には、奥州藤原氏が栄華を誇ったときの、寺の様子が触られています。それによると、「金堂円隆寺は金銀をちりばめ、紫檀赤木を継ぎ（銘木で作られ）、万宝を尽くした荘厳さで、本尊として尺丈六(2.43m)の薬師如来、十二神像を安置してあった」とのことです。

金堂円隆寺は、癒しの仏、薬師如来を祀っていました。薬師如来は、日本初の玉眼入りの仏像であったということです。建物と、記録にある仏像は残っていませんが、大泉ヶ池を挟んで南大門の向かいのこの場所にいまに残る巨大な礎石が、この歴史的に重要な寺院の規模の大きさを示唆しています。

本事業以前の英語解説文

Kondo Enryū-ji Temple Site (former Main Hall)

A temple of Imperial vow (for the salvation and peace of emperor and nation) commissioned by the second Fujiwara lord Metohira. Azume Kagami, the official history of the Kamakura shogunate records that Kando Enryū-ji was unparalleled in all the land. The principal image was a statue of Yakushi Nyorai (the Buddha of Healing) by the famous sculptor Unkai. It was about 4.8m tall (Crucifixion). Mōtsū-ji's main hall faced south and corridors on either side also turned to extend in the same direction. At the end of one was a belfry and at the Kondo Enryū-ji was destroyed by fire.

【施設名】毛越寺

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Garden Stream and Poetry Festival, Motsuji Temple

This stream, restored in 1986, serves as the canal used for carrying water to the temple pond (Oizumigaike), and is the only remaining twelfth-century garden stream in Japan that retains its original form. Its design replicates a natural stream running downhill from the mountains to the sea.

Each year on the fourth Sunday in May, Motsuji Temple hosts a traditional poetry festival called *Gokusui no En* (“Winding Stream Festival”) along the banks of the stream. Participants wear Heian period (794–1185) courtly dress: men wear traditional hunting attire and headdresses, and women wear layered kimono called *jūnihitoe*.

Participants compose traditional poems on a specific theme as a small wooden boat floats down the stream carrying a cup of sake, and attempt to complete their compositions before the sake cup arrives.

The festival pays homage to traditional poetry competitions held by Japanese nobles, and also commemorates Fujiwara no Hidehira (1122–1187), the third Fujiwara lord to rule Hiraizumi.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

毛越寺 遣水 曲水の宴

この遣水は、この池に水を引き入れるためのものです。12世紀に設計された遣水のなかでは、当時の姿のまま残存する唯一のもので、遣水は、海に水を注ぐ川を模して造られています。

毎年5月の第4日曜日には、この遣水のほとり、伝統的な詩の祭である「曲水の宴」が行われます。参加者は平安時代の衣装、男子は衣冠狩衣、女性は十二単を着るのが通例です。

酒が入った盃を木の小舟に乗せて川に流し、自分の前に酒の盃が到着する前に、参加者は特定のテーマについての句を詠み終えるというものです。

これは、貴族たちが行ったという伝統的な詩の宴で、平泉を統治した藤原三代秀衡（1122–1187年）の栄華を偲んで行われます。

本事業以前の英語解説文

Yarimizu (Feeder Stream)

Unearthed in pristine condition during excavation and research of the temple garden from 1955-1956. The only extant Heian era (794-1192) feeder Stream site in Japan: one other, discovered at the site of the imperial residence in Nara, is from an earlier era. The stream was designed in the style prescribed by the 11th century Sakuteiki (Treatise on Garden Making) to replenish the water of the pond. Rounded river stones line the bottom. The course of the stream is punctuated by curves and carefully placed obstacles that direct and divert the flow of the water as it winds towards the rock formation at the edge of the pond. Every spring this beautiful stream which imparts such elegance to the Jōdo (Pure Land garden, is the site of a costumed poetry festival called Gokusui no En.

【施設名】毛越寺

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Jogyodo, the Circumambulation Hall of Motsuji Temple

The Jogyodo, or Circumambulation Hall, stands to the east of the Kondo Enryuji Hall. The original Circumambulation Hall burned in 1597, and was rebuilt at its current location in 1732.

The hall enshrines an image of Amida, the primary Buddha of Pure Land Buddhism, as well as a statue of Matarajin, a guardian of the Tendai Buddhist sect. According to legend, Matarajin appeared to Jikaku Daishi as he sailed home to Japan from China. The image of Matarajin enshrined in the Circumambulation Hall dates to the Muromachi period (1336–1573) and is displayed to the public only once every thirty-three years.

A spring festival dedicated to Matarajin is held each year from January 14th through the 20th. The festival features longevity dances called *Ennen no Mai*, a ritual performed at the Circumambulation Hall in praise of the guardian deities of the temple, which has been performed at Motsuji Temple for more than eight hundred years. Due to their historical, cultural, and religious significance, the *Ennen no Mai* dances have been designated a National Important Intangible Folk Culture Asset.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

常行堂

常行堂は、金堂円隆寺の東にあります。1597年に元の御堂が火災で失われ、1732年に現在の位置に再建されました。

ここでは、浄土仏教の主仏である阿弥陀如来と、天台宗の守護神・摩多羅神の像があります。伝説によると摩多羅神は、慈覚大師が中国へ旅した際に現れた神とされています。摩多羅神の像は、室町時代(1336 - 1573)に常行堂に祀られたといわれており、33年に一度開帳されます。

毎年1月14日から20日に、摩多羅神の祭礼が行われます。ここでは、重要な仏教儀式である舞踊、「延年の舞」が奉納されます。仏と寺を讃えるという目的で、800年以上にわたって行われてきました。

歴史的、文化的、宗教的に重要な意味をもつため、「延年の舞」は国の重要無形民俗文化財に指定されています。

本事業以前の英語解説文

Jōgyodo (Circumambulation Hall)

The principal image is a crowned Amida Nyorai (Mahavairocana). Deep inside the hall there is also a 'hidden' statue of Matarajin, a deity of agricultural fertility. Every January 20 th the ritual of samadhi (meditation) by constant walking is held and a Mai longevity rites (designated an important Intangible Folk Cultural Property) is dedicated. The present hall was rebuilt in 1732.

188

No.30 Matsuo Basho Haiku Monuments, Motsuji Temple

<平泉、岩手>

【施設名】毛越寺
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Matsuo Basho Haiku Monument

This stone monument memorializes haiku master Matsuo Basho (1644–1694), one of Japan's most famous poets. The monument is engraved with a haiku poem that Basho composed to commemorate his visit to this area five centuries after the fall of Hiraizumi:

*The summer grass
'tis all that's left
of ancient warriors' dreams.*

This English version of Basho's haiku was translated by Nitobe Inazo, former Undersecretary-General of the League of Nations and author of *Bushido: the Soul of Japan*.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

夏草英訳の句

この石碑は、日本でも有名な俳人の松尾芭蕉（1644–1694 年）を記念して建てられました。石碑は芭蕉が平泉を訪れたことを記念し、彼の詠んだ俳句「夏草や兵（つわもの）どもが夢のあと」が刻まれています。芭蕉は、平泉の凋落から 5 世紀ほどのちにこの地を訪れたとされています。

この句は、国際連盟事務次長も務め、著名な作家であり、「*Bushido: The Soul of Japan*（『武士道』）」を執筆した、新渡戸稲造によって、「*The summer grass / 'Tis all that's left / of ancient warriors' dreams.*」と英訳されました。

本事業以前の英語解説文

Matsuo Basho Haiku Monument

The summer grass / 'Tis all that's left/Of ancient warriors' dreams - Nitobe Inazo The English translation, in Nitobe's own hand, of master haikulst Matsuo Basho's famous lament for Hiraizumi's fate. Erected in 1967. Nitobe Inazo, born in Iwate, was an educator and agronomist Wanting to be a 'Bridge across the Pacific', he made major contributions to world peace as a statesman and member of the League of Nations. He is also famous *Bushido: the Soul of Japan*.

【施設名】毛越寺

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kaizando, the Founder's Hall of Motsuji Temple

The Founder's Hall is dedicated to the Japanese Buddhist monk Ennin (794–864), also known as Jikaku Daishi, the third head priest of the Tendai Sect of Buddhism, who is said to have established Motsuji Temple during the ninth century.

The Founder's Hall enshrines a pair of Ryokai Dainichi Nyorai (Mahavairocana) statues. The portraits of the three Fujiwara lords who ruled Hiraizumi during the Heian period (794–1185), Kiyohira, Motohira, and Hidehira, are also displayed within the hall.

The Founder's Hall was constructed in 1923 and modeled after an ancient Japanese storehouse on a raised foundation, which is a traditional architectural style known as *azekura-zukuri*.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

開山堂

開山堂は、第三代天台座主、慈覚大師（円仁）（794-864年）を祀るお堂です。円仁は、9世紀に毛越寺を開いたとされています。

開山堂には、2体の両界大日如来と、平安時代（794-1185年）に平泉を支配した藤原家氏3代、清衡、基衡、秀衡の画像が納められています。

開山堂は1923年に、高く盛った基礎の上に、日本の古い建築様式である校倉造風で建てられました。

本事業以前の英語解説文

Kaisando (Founder's Hall)

Dedicated to Mōtsu-Ji's purported founder Jikaku Daishi Ennin (794-864), third head abbot of the Tendai sect and the first recipient of the title 'Daishi' ('great teacher'). His diary of his nine-year stay in Tang dynasty China, Record of a Pilgrimage to China in Search of the Law, is ranked alongside Marco Polo's Il Milione (The Travels of Marco Polo) and the Chinese Journey to the West as among the world's great travelogues.

【施設名】毛越寺

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Homotsukan, the Treasure Museum of Motsuji Temple

This museum houses the artifacts and treasures of Motsuji Temple. A seated statue of Ennin (794–864), the legendary founder of the Motsuji and Chusonji Temples, is located near the museum entrance.

The Homotsukan collection includes ancient records, traditional crafts, archeological relics, and information about the excavation of Motsuji Temple, as well as costumes and decorations traditionally used in the annual *Ennen no Mai* longevity rites at Motsuji. The museum also features rare Buddhist statues from the Heian period (794–1185), some of which are designated Important Cultural Properties of the Japanese nation.

Other featured exhibits include a fourteenth-century iron sutra repository tower discovered at the ruins of Kanjizaioin Temple, and two unusual hammered iron trees experts believe once decorated the home of Fujiwara no Hidehira (1122–1187), the third Fujiwara lord to rule Hiraizumi. Evidence suggests these iron trees were created by the *Mokusa Kaji* swordsmiths, a guild whose advanced techniques were critical to the origin and development of traditional Japanese swords.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

宝物館

宝物館には、毛越寺に伝わる宝物が展示されています。宝物館の入り口には、毛越寺や中尊寺の開祖である円仁（794–864）の座像があります。

宝物館には、古文書や遺物、毛越寺の発掘にまつわる情報、毛越寺で奉納される長寿を祈る舞「延年の舞」で伝統的に使われていた衣装や装飾などが収蔵されています。所蔵されている平安時代（794–1185）の仏像のうちいくつかは、日本の国指定文化財です。

ほかにも、観自在王院跡で発見された14世紀の「鉄鑄宝篋印塔（鉄塔）」や、さらに、平泉を統治した藤原三代秀衡（1122–1187年）の邸宅にあったのではないかとされる2つの「鉄樹」など、貴重な品々が展示されています。

す。この鉄樹は、日本刀の成立を語るうえで欠かせない鍛冶集団、舞草鍛冶(もくさかじ)によるものとされます。

本事業以前の英語解説文

Museum

Built in 1977 of reinforced concrete. This museum displays Buddhist statues, documents, crafts, archaeological relics, and survey materials, as well as equipment and costumes for the Ennen no Mai longevity rites, handed down through the generations, by the monks of Mōtsū-ji Temple. The previous museum has been converted into the Kaizando Hall.

【施設名】毛越寺
 【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Elements of the Motsuji Temple Garden:

artificial mound (*tsukiyama*), cove beach (*subama*), standing stone within the pond, and the cape stones (*dejima ishigumi*)

The Motsuji Temple Garden was constructed according to Heian period (794–1185) principles of garden design that focused on the use of gardens to replicate larger natural landscapes in miniature form. The garden's central pond, *oizumigaike*, represents the sea, with additional features that emulate a beach, a rugged coastline, and a stream that flows from the mountains to the sea.

Large rock formations on the southwest shore of the pond (*tsukiyama*) recreate the rugged coast of Japan, while a peninsula along the eastern edge (*subama*) simulates a coastal promontory that changes shape with the ebb and flow of the lake.

Additional rock formations, called *dejima ishigumi*, line the southeast shore. Nearby, within the pond, another rock formation creates the impression of a coastal shoreline. Its focal point, the Ikenaka Tateishi, is a single stone that rises 2.5 meters above the surface of the pond.

Careful restoration of the Motsuji Temple pond and garden has restored the original majesty of this Pure Land Buddhist landscape. While similar gardens once existed at temples and noble residences across Japan, Motsuji Temple is one of the few remaining examples of twelfth-century Pure Land Buddhist garden architecture.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

庭全体の説明(築山・洲浜・出島石組と池中立石)

毛越寺庭園

毛越寺の庭園は、平安時代の造園作法にのっとり作られました。この造園作法は、広大な自然の景色を、庭のなかに再現することを重視するものです。毛越寺庭園には、海を表現した「大泉が池」と呼ばれる大きな池があり、この池には、砂浜、険しい海岸線、山から海に水を注ぐ川など、自然景観を表現した重要な特徴があります。

南西の岸の大きな岩“築山”は、日本の険しい海岸を模し、池の東端の“洲浜”と呼ばれる突き出た場所は湖の流れ

や流れに伴って変化する沿岸を表しています。

さらに“出島石組と呼ばれる石組みが、池の東南にあります。その側、池の中にも池中立石”2.5メートルの石があり、荒磯のような印象を与えます。

池と庭園は、12世紀の状態に復元されました。現在、参拝者が浄土庭園の荘厳さを目の当たりにすることができるのは、発掘調査のおかげです。かつて日本の寺院や貴族の邸宅には、このような庭園があったと言われていますが、12世紀の姿のまま残っている浄土庭園は、この庭園を含めほんの少数です。

本事業以前の英語解説文

なし

宗教法人 瑞巖寺（多言語解説協議会）

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

“A massive temple with seven stately halls embellished with gold.” That is how the haiku master Matsuo Basho (1644–1694) described Zuiganji in his 1689 travel diary and poetry collection *Oku no Hosomichi* (*Narrow Road to the Deep North*).

There has been a temple here since the ninth century when the priest Ennin (794–864) established a base for the Tendai school of esoteric Buddhism in Matsushima. Four centuries later, the Rinzai school of Zen Buddhism, then a new religion in Japan, built a temple here that gradually supplanted and absorbed the Tendai institution. Zuiganji is still a Rinzai temple today.

The current temple complex was commissioned in 1604 by Date Masamune (1567–1636), the powerful feudal lord whose clan governed much of northern Japan during the Edo period (1603–1867). The main structures took five years to complete. Masamune’s Zuiganji, which served as the Date family’s private temple, incorporates features common to other Zen temples but breaks with the sect’s aesthetic austerity. Its lavish decorative elements—dark wood beams shipped from Wakayama Prefecture, elaborately carved transoms, colorful paintings on the gold leaf noted by Basho—are typical of the Azuchi-Momoyama period (1568–1600). The last decades of the sixteenth century marked the end of over a hundred years of civil war and ushered in a huge social transformation. During this period the arts flourished, and the first Europeans visited Japan.

Zuiganji’s main hall and kitchen building (*kun*) are designated as National Treasures.

The wide pathway leading to the main hall is lined with cedar trees. Many of the trees were damaged by seawater during the 2011 Tohoku earthquake and had to be cut down. Zuiganji was otherwise spared from the effects of the disaster thanks to its traditional earthquake-resistant construction and the protection afforded by the many islands of Matsushima Bay. A second approach to the main hall winds past ancient caves carved out by the ocean and further expanded by generations of visitors. These caves were used for Buddhist ceremonies even before the temple’s construction. Today, they contain statues and Buddhist name tablets left by visitors to honor deceased relatives.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

「瑞巖寺の七堂伽藍は金で装飾されていた」と、俳句の松尾芭蕉（1644–1694）は1689年に瑞巖寺を訪れ、紀行文と詩集「奥の細道」の中で述べている。

円仁(793/794-864)が松島に密教であった天台宗の拠点を設定した9世紀以来、ここに寺院がある。400年後、禅宗の臨済宗（当時は新仏教であった）が、ここに寺院を建設し、徐々に宗派は取って代われ吸収された。瑞巖寺は今も臨済宗の寺院である。

現在の寺院の複合施設は、江戸時代（1603–1868）、日本の北部の大部分を統治していた有力な藩主である伊達政宗（1567–1636）によって1604年に造営命令が出された。主な仏閣は5年の歳月をかけて完成した。政宗の瑞巖寺は伊達家の菩提寺となり、他の禅寺に共通する特徴を取り入れているが、宗派の審美的な質素さには欠けている。その豪華な装飾—和歌山県から船で運ばれた建築資材、精巧に彫刻された欄間、金箔の上に描かれた色鮮やかな襖絵は、芭蕉によって奥の細道に記されており、安土桃山時代(1568–1600)の典型的なものである。16世紀末の最後の数十年、時代は100年以上の内戦の終焉を迎え、大きな社会変革が起きていた。この間に芸術は繁栄し、最初のヨーロッパ人が日本を訪れた。

瑞巖寺の本堂と台所にあたる建物（庫裏）は国宝に指定されている。

本堂へと続く広い道には杉の木が並んでいるが、2011年の東北地方太平洋沖地震では、海水で被害を受けた多くの木を、伐採しなければならなかった。瑞巖寺は伝統的な耐震構造と松島湾の島々によって守られたおかげで、震災の他の被害からは免れていた。

本堂へと続くもう一つの参道には海によって浸食された古代の洞窟群がいたるところで見られ、何世代にもわたり訪問者によってさらに拡大されてきた。これらの洞窟群は、寺院の建設前から仏教の儀式に使用されていた。故人を供養するため、今日、ここに訪問者は彫像を置いたり戒名を刻んだりしている。

本事業以前の英語解説文

Masamune built this temple in 1609. Though simple in the exterior, the decorations seen in the interior of the “Hondo (main building)” and on the roof of the “kuri (priest’s kitchen)” as well as the formation of the corridors clearly embody the fulgent world of the “DATE” culture. A total of 161 paintings on room partitions in various sizes are thickly painted on gold-leaf ground, and are works of painters retained by the Sendai domain. The arrangement of the rooms show a high resemblance to the large hall of Sendai Castle, such as the “jojodan-no-ma” or Emperor’s room. The major Heisei Restoration revealed that the latest construction techniques of the time were employed in the building of the temple.

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

This room is the spiritual heart of Zuiganji Temple and houses the mortuary tablets of the Date clan. Buddhist rituals are held here, including memorial services for the Date lords. The importance of this room can be seen in the height of its coffered ceiling. The room is also known as the Kujaku no Ma, or Peacock Room, after the magnificent peacocks painted on the doors. The four seasons of spring, summer, autumn, and winter are depicted running counterclockwise from the entrance on the right. The banners hanging from the ceiling represent the Four Heavenly Kings, deities who guard the cardinal directions. On the transoms over the sliding doors are carvings of musical half-bird, half-human creatures called Karyobinga. These landscapes and creatures represent Jodo, the realm of enlightenment also known as the Pure Land.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この部屋は、瑞巖寺の宗教的な行事を営む中心となっていた場所で、伊達一族の位牌が納められ、法要などの仏教儀式が営まれていた。この部屋がいかに重要であったかは、その間仕切りの天井の高さに見ることができる。この部屋は扉に描かれた壮大な孔雀にちなんで、孔雀の間として知られている。春、夏、秋、冬の四季は、右側の入り口から反時計回りに描かれている。天井からぶら下がっている布は、東西南北を守護している四天王を表している。襖の上の欄間の彫刻には、迦陵頻伽と呼ばれる音楽に身をささげた、上半身が人で、下半身が鳥の生物が刻まれている。これらの風景や生物は浄土を表現しており、Pure Land としても知られている悟りの領域を表している。

本事業以前の英語解説文

SHITCHU:

Another name is “Kujaku no Ma.” This is the central room for religious functions. Hoyo (buddhist service) is held here. The fusuma-e (sliding screen picture), “Pine trees and Peacock” was drawn by Sakum Sakyō, who was a Date clan painter and retainer. At the back of this room is the Buddhist altar room, where the mortuary tablets and the principle images of the Date clan are kept.

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

Memorial services to pray for the repose of members of the Date clan are held in this room. The altar holds the mortuary tablets of Date Masamune (1567–1636) and eleven of the Date lords who succeeded him. The central bronze statue is Kannon, the Buddhist deity of mercy and compassion, and dates from the Muromachi period (1336–1573). The three wooden statues to the left commemorate monks who played significant roles in the history of Zuiganji. The room was originally smaller, but it was extended seventeen years after Masamune’s death to include a recessed alcove. The alcove was added to house a wooden statue of Masamune seated in armor that is now on display in the Seiryuden Temple Museum.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

伊達一族の魂を供養する法要がこの部屋で行われる。祭壇には政宗（1567–1636）と彼の跡を継いだ11人の伊達藩主たちの位牌が納められている。中央のブロンズ像は、慈悲と思いやりの神様である観音様で室町時代（1336年から1573年）まで遡る。また、左手には瑞巖寺の歴史の中で重要な役割を果たした僧侶を祀る3つの彫像がある。この部屋は元々小さかったが、政宗の死から17年後、奥に床の間が取り付けられ、拡大された。床の間は、現在は寺院の青龍殿博物館に展示されている鎧を着た政宗の木像を置くために付け加えられた。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

This room was reserved for the relatives of the Date lord. The delicate ceiling work and the classical design of the fusuma door paintings by Hasegawa Toin (dates unknown) lend the space a palatial grandeur. The clouds in the paintings have delicate raised patterns created by adding artist's chalk made from crushed seashells before painting the images.

The fusuma depict a scene from the Chinese classics in which King Wen of Zhou (1152–1056 BCE) meets a seemingly ordinary fisherman named Jiang Ziya. King Wen was so impressed by Jiang Ziya's benevolent world view that he made Ziya his military adviser. This decision is said to have been the basis for the success of the Zhou dynasty. The Chinese classics present King Wen as a model sovereign, and this scene is a fitting motif for a room used by the ruling Date clan. The room takes its name from the Japanese reading of the name of the Chinese King Wen, which is "Bun-O."

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この部屋は伊達藩主の親族の待機場所だった。長谷川等伯（生没不明）による天井の繊細な細目や襖絵のクラシックなデザインは宮殿のような高貴さを空間に与えている。襖絵の雲には、絵を描く前に、砕いた貝殻から作られる顔料を加えることによって施された細かい隆起した模様が見られる。襖は中国の古典の一場面を描いている：周の文王（1152-1056 BC）と一見普通の漁師であった呂尚が会う場面である。文王は呂尚の慈悲深い世界観にとっても感銘を受け、彼を軍師にした。この決断が周王朝の成功の基盤となっていると言われている。中国の古典には、文王は国王のモデルとして描かれており、このシーンは当時の支配者である伊達氏が使用する部屋にぴったりのモチーフであった。部屋の名前は中国語の Wen 国王を日本語で文王と発音したことにちなんで付けられた。

本事業以前の英語解説文

BUNNO NO MA

The Date clan used this room before the Meiji Restoration in 1868. In 1622, Hasegawa Toin created this room's gorgeous and luxurious picture, which depicts the ancient Chinese story of the Holy Emperor Bunno and the Great Premier Rosho. Toin, who played an active part with the Kano school in Momoyama-style paintings, was especially commissioned to paint this picture.

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

This room was used exclusively by the lords of the Date clan, and the floor is elevated to reflect their status. The gilded metal fittings, created by an artisan from Kyoto, are carved with intricate floral patterns to stress the importance of the room. The shape of the alcove doorway resembles a keyhole, a design that was more commonly used for exterior windows. The contents of the wall paintings by Hasegawa Toin (dates unknown) portray the ideal qualities of a ruler: plums for integrity, bamboo for refinement, and peonies for nobility. The flowering trees depict the four seasons.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この部屋は、伊達藩の藩主専用の部屋であり、床にその地位が反映されていた。

京都の職人によって作られた金具には複雑な花模様が彫られ、この部屋が重要であったことが強調されている。鍵穴に似せた框の出入口の形は、屋外の窓によく使われるデザインである。

長谷川等伯（生没不明）による壁画は、君主の理想的な性質を描いている：梅は高潔を、竹は清操を、また牡丹は富貴を表している。花木は四季を描いている。

本事業以前の英語解説文

JODAN NO MA:

This room was also called the “Onari no ma” was used by the Date lords in the Edo period. All the walls were gold plated. A picture of Japanese apricot trees by flowing water as well as paintings of peonies, Japanese hollyhocks and lilies were done on the fusuma (sliding doors) by Hasegawa Toin.

A scroll done by the Yoshimura the Fifth entitled “Enman” is hanging above the small window.

197

No.6 Jojodan no Ma, Imperial Presence Chamber

<瑞巖寺、宮城県>

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

This room at Zuiganji is reserved for the emperor and members of the Imperial family. The room's floor is higher than any other room in the main hall in recognition of the emperor's superior status. This room was unused from the time of its construction in 1609 until Emperor Meiji spent a night at the temple in 1876. The hand-woven tatami mats are of the highest quality workmanship and are thicker and softer than any others in the building. The red and white camellias painted on the shelves represent long life and enduring prosperity.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

瑞巖寺のこの部屋は天皇と皇族のために設けられた。部屋の床は天皇の高い地位を称えて本堂のどの部屋よりも高くなっている。この部屋は、1609年に建造されて以来、明治天皇が1876年に寺院で一泊するまで使われることがなかった。手織りの畳は、最高級の出来栄で、建物の他のどれよりも厚くて柔らかい。棚に描かれた赤と白の椿は、長寿と繁栄を象徴している。

本事業以前の英語解説文

JO-JODAN NO MA

It is also called the "Teikan no ma" and Goza no ma." Hasegawa Toin painted the picture in this room in 1622. On the walls are a pair of shelves slightly overlapping each other.

The Meiji Emperor spent the night of June 27th 1876 in this room while he was taking an inspection tour of the Tohoku District.

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

Originally a storeroom, this room was converted into a space to honor the twenty samurai who followed Date Masamune (1567–1636) into death, and another sixteen who killed themselves on the death of Masamune’s son Tadamune (1600–1658). The practice of showing loyalty by committing suicide on the death of one’s lord is called *junsbi* and was outlawed by the shogunate in 1663. The wall paintings are from 1878 and depict the sixteen *rakan* (Sanskrit: arhat), the disciples of Buddha who attained nirvana and are revered in Zen Buddhism.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

もともと納戸であったが、伊達政宗公（1567–1636）に殉死した20名と政宗公の息子である忠宗公（1600–1658）に殉死した16名の位牌を祀る部屋に変わった。

主の死に対し自殺をすることで忠誠を示すことは殉死と呼ばれ、1663年に幕府によって非合法化された。障壁画は1878年のもので、涅槃を成就し、禅宗で崇拝された仏の弟子である十六羅漢（サンスクリット：arhat）を描いている。

本事業以前の英語解説文

RAKAN NO MA

The samurai who killed themselves after the death of their respective lords, Date Masamune and Date Tadamune, were laid in state in this room. They numbered 20 men (for Masamune) and 16 men (for Tadamune). In 1878, Sakuma Tokuro painted “juroku rakan-Zu.” “Rakan” describes the buddha’S disciples who attained nirvana.

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

The head monk of Zuiganji Temple used this room when receiving guests. The ink paintings were completed in 1622 and are the only paintings in the main hall that have not been replaced with replicas. Small amounts of red ochre were mixed with the ink, giving the paintings a distinctive hue. Traces of the artist Kibi Koeki's (dates unknown) name seal remain on the paintings. Monochrome ink paintings are a hallmark of Zen art, and compared to the other rooms elsewhere in the building the Sumie no Ma is perhaps more typical of a Zen temple.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

瑞巖寺の住職が応接間として利用した部屋である。障壁画は 1622 年に完成したものであり、本堂にあるものの中で唯一レプリカに置き換えられていない。少量の赤い黄土がインクと混ざり、独特の色合いとなっている。絵師である吉備幸益（生没不明）の落款の痕跡が絵に残っている。モノクロの墨絵は禅美術の特徴であり、建物内の他の部屋と比較しても、墨絵の間は禅寺の典型例であろう。

本事業以前の英語解説文

SUMIE NO MA

The chief priest used this as a reception room.

Here Kibi no Koeki painted “Ryuko, Kanzan-Jittoku, Chotto-Osho-Zu” in sumi (Japanese Ink). He followed the school of SESSON Shukei who showed great activity at the end of the Sengku period in Aizu, Miharu (part of present day Fukushima Prefecture)

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

The lords of the Date clan traveled with their personal physicians and samurai guards. When they visited Zuiganji, the doctors would wait in this room. The wall paintings by the artist Sakuma Sakyō (1581–1658) depict white, yellow, and pink chrysanthemums in bloom. Chrysanthemums were originally brought to Japan from China as a medicinal plant and are thus an appropriate motif for a room reserved for the lord's physicians.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

伊達藩主は、御典医と武士の警護と一緒に旅をした。彼らが瑞巖寺を訪ねたときに御典医はこの部屋で待機した。佐久間左京（1581–1658）の障壁画には白、黄色、ピンクの菊が描かれている。菊は元来、薬草として中国から日本に持ち込まれ、領主の医師の控え室に描くには適切なモチーフとされた。

本事業以前の英語解説文

KIKU NO MA

Awaiting room for doctors. “kiku-zu”, a picture of chrysanthemums in full bloom against gold leaf, was painted by Sakuma Sakyō and his apprentices.

201

No.10 Matsu no Ma, Pine Room

<瑞巖寺、宮城県>

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

The design of the ceiling was an important indication of the status of the people who used the room. The plainly crafted ceilings in this room reflect the relatively low status of the tea ceremony masters who waited here. Magpies, ducks, wood pigeons, and sparrows are painted on the walls among pine and cherry trees. These paintings are modern reproductions of paintings done by a disciple of Sakuma Sakyō (1581–1658) named Ichimon (dates unknown). The originals have been moved to the Seiryuden Temple Museum.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

天井のデザインは、部屋を利用した人々の地位を示す重要なものであった。
この部屋の天井の細工は質素で、ここで待機していた茶道衆の比較的低い身分を反映している。壁には、松や桜の樹木の間、尾長、鴛鴦、鳩、雀などが描かれている。これらの障壁画は、一門（生没不明）という佐久間左京（1581–1658）の弟子が描いたものを現代に復元模写したものである。

本事業以前の英語解説文

MATSU NO MA

Another name “Matsuzakura-Chidori no ma.” This is a waiting room for tea-servers. Roosters and doves were pictured with pine and cherry trees on the gold leaf. This painting was done with Kurota, a disciple of Sakuma Sakyō.

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

This room was reserved for high-ranking samurai retainers of the Date family. The paintings depict hawks hunting egrets, pheasants, and quail. The image of the hawk was popular among samurai and here symbolizes the courage of the Date warriors. Japanese oak trees, which fill the scene along with cypress and cedar, represent endurance and the preservation of family lines from generation to generation. These are reproductions of paintings done by a disciple of Sakuma Sakyō (1581–1658) named Kurota (dates unknown). The originals have been moved to the Seiryuden Temple Museum.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この部屋は伊達家の高位の家臣達のために設けられた。障壁画は、白鷺、雉、鶉を追い、捕獲する鷹を描いている。鷹は武士の間で人気があり、伊達武士の勇猛さの象徴とされている。ヒノキやスギと共に景色を彩る柏は、子孫不断の象徴である。これらは九郎太（生没不明）という佐久間左京（1581–1658）の弟子が描いた障壁画の復元模写である。オリジナルは青龍殿に移されている。

本事業以前の英語解説文

TAKA NO MA

This waiting room for high-ranking samurai was also known as “Rei no ma.”

Kurota, a follower of Sakuma Sakyō, painted “Kashiwa ni taka-zu” in 1622. Hawks, preying on white herons or scanning for rabbits, symbolize the bravery of the Date clan samurai.

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

This entrance was reserved for the heads of the Date clan and members of the Imperial family. The word *onari* referred to a visit by a high-ranking noble, an event so important that special entrances were built to receive the honored guest. Many of the architectural elements of this entrance, including the carved elephant heads and the cylindrical columns with pinched necks and bulbous bases, were inspired by the Chinese Tang dynasty (618–907). The angled arrangement of the granite flagstones is typical of Zen temples, as is the zig-zag layout of the hall that hides visitors from view as they enter the building. The entrance is minimally decorated with gold leaf and carved transoms to evoke serenity and purity. The squirrel among grapes motif—like the carving over the main door—was a symbol of prosperity during the Edo period (1603–1867).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この玄関は、伊達藩の藩主と皇室のために設けられていた。お成りという言葉は、高位の貴族による訪問を意味し、貴族を受け入れるために特別な入り口が建てられるほど重要なイベントであった。

彫刻された象の頭や、根元が少し膨らんで、首は少しすぼんだ形になっている円柱など、この玄関の建築要素の多くは、唐王朝（618～907）に触発されている。

花崗岩の敷石の角度のある配置は、ホールのジグザグのレイアウトと同様に禅寺に典型的のもので、訪問者が建物に入るときに視界から隠れるようになっている。入り口は、金箔と彫刻が施された欄間で最小限に装飾されており、静けさと純粋さをもたらす。

メインの扉に施された彫刻のように、葡萄の中にあるリスのモチーフは、江戸時代（1603年 - 1868年）繁栄の象徴であった。

本事業以前の英語解説文

Onari Genkan (Entrance). Built in 1609

Onari genkan was built specifically for when the clan lord would visit the temple (such visits were called “Onari”)/ The roof extends in three directions in the Irimoya-chidoharu style. In the exterior, base plates were placed upon the cornerstones, and round columns, with a white plaster finish, built upon them. The eaves were decorated with wood carvings of elephants, the transom with sculptures of “budo ni kinezumi, take ni tora.” The interior bends at the center, which is why the building is known as “otsuzigata genkan or olenakamon.” The floor is made of granite paving stones (laid at an angle) with seats set along the wall. It is a “karayo” architecture built of plain wood.

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

Adorned with carvings of clouds, peonies, chrysanthemums, and birds, these Chinese-style folding doors (*karato*) lead to the ceremony hall. As the next room represents the realm of enlightenment known as the Pure Land, these doors are figuratively the doors to paradise.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

雲、牡丹、菊、鳥の彫刻で彩られたこれらの中国式の折り畳み式ドア（唐戸）は、法要の間につながっている。隣の部屋は浄土として知られる悟りの領域を表しているので、これらのドアは比喩的に楽園への扉を表している。

本事業以前の英語解説文

KARA-TO

This Chinese style door marks the entrance to the Shitchu (Hoyo no ma). Carvings Characteristic of the Momoyama period, such as the beautifully carved peonies, golden pheasants, chrysanthemums and melons can be found on this door. These magnificent and glorious images seem to take us to Jodo (the pure land of paradise).

【施設名】 瑞巖寺
【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

The transoms (*ranma*) above the doors were carved by Osakabe Saemon Kunitsugu (dates unknown), a renowned artisan from Negoro (in present-day Wakayama Prefecture). His assistants did portions of the work, and the carvings become more refined toward the southwestern end of the hallway, which was used by the Date lords and their families. The names of the artists were found written on a doorframe in black ink during an extensive restoration of the building that began in 2008. Based on evidence found during the renovation, researchers now believe that color was added to the carvings after the temple's completion.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

扉の上にある欄間は、現在の和歌山県の根来の有名な職人、刑部左衛門国次（生没不明）によって彫られた。彼のアシスタントは作業を分け合い、伊達家の藩主とその家族が使用していた廊下の南西端に近づくにつれて、彫刻はより洗練されたものになっている。ドアフレームに黒いインクで書かれた作者の名前は、2008年に始まった建物の大規模な修復の際に大工が発見した。修復の際に現れた証拠から、研究者は現在、寺院の完成後、いつの間にか色が欄間に追加されたと信じている。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

In Zen art, dragons and tigers often represent Buddhist practitioners who have attained nirvana. Originally there were three painted wooden doors on the north, south, and east sides of the main temple building made between 1620 and 1623 by the artists Sakuma Shuri (1581–1658) and Hasegawa Toin (dates unknown). This door is a reproduction of one of those doors and was created in 1997.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

禅美術では、龍や虎は涅槃を達成した仏教の修行者を表すことが多い。もともとは、1620年から1623年の間に画家の佐久間修理（1581–1658）と長谷川等胤（生没不明）によって制作された3つの木製の扉が本堂の北、南、東の側に設置されていた。この扉はそのうちの一つの複製で、1997年に作られた。

本事業以前の英語解説文

Restored Replica Itadoc (wooden door painting)

Restoration completed in April 1997

Created by Rikusho Ritsu. Original by Toin Hasegawa.

Original completed in 1622.

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

The living quarters of a Zen temple, called a *kuri* in Japanese, contain the kitchen, the monks' rooms, and the reception and sleeping areas for guests. Having been commissioned by a wealthy feudal lord, Zuiganji's *kuri* is grander and more ornate than that of other seventeenth-century temples, with decorative carvings under the gables and other ornate features. The open atrium allows smoke from cooking fires to escape and exposes the structure's columns and beams, which are fitted together without nails. This traditional Japanese construction is both strong and flexible, allowing the building to absorb the vibrations of earthquakes. The Zuiganji *kuri* was designated a National Treasure in 1959.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

日本語で庫裡と呼ばれる部屋は、禅寺の居間で、台所、僧侶の部屋、応接間と客人のための寝室を兼ねている。富裕な封建君主からの依頼を受けた瑞巖寺の庫裡は、切妻やその他の装飾的な彫刻が施された他の17世紀の寺院よりも壮大で華やかである。

吹き抜けの空間は火を使って調理する際、煙を逃がせるようになっており、釘を使わずに組まれた構造の柱と梁は露出している。この伝統的な日本の工法は、強度と柔軟性を兼ね備えており、建物が地震の振動を吸収することを可能にした。瑞巖寺の庫裡は1959年に国宝に指定された。

本事業以前の英語解説文

Kuri (National Treasure)

The Kuri is the kitchen for Zuiganji temple.

The building stands 13.78 meters wide by 23.64 meters long.

The tiled roof was built in the kirimon-zukuri (gabled style with an irimoya-zukuri (hip and gable) upper roof designed as a chimney to vent smoke.

The aesthetic sense of samurai ruler Date Masamune can be seen in the arabesque wood carvings under the roof gables. The embellish a building intended for practical use,

The Kuri was designated a national treasure in 1959

208

No.17 Corridor and Monks' Entrance

<瑞巖寺、宮城県>

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

This corridor connects the *keuri* to the main hall. The entrance on the southeastern side is used by monks when they are called to prayer by the hanging bronze bell.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この廊下は庫裡と本堂を結ぶ。南東側の玄関は、つり下がった青銅の鐘を鳴らして祈祷に呼ばれた僧侶が使用した。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

The two gates in this area were reserved for high-ranking visitors. Lords of the Date domain and members of the Imperial family used the grander Onarimon, while their samurai attendants entered through the less imposing Chumon. The difference in prestige is expressed in the construction of the gates: the Onarimon has a hip-and-gable tiled roof, while the Chumon has a simpler gable roof and wooden shingles. The Onarimon is supported by two main posts at the front and a pair of smaller posts at the rear, a style known as *yakuimon*, whereas the Chumon has two main posts under the central roofline supplemented by pairs of smaller posts on each side (*shikyakumon*).

The wall on the west side of the gate is a drum wall (*taikobei*). The center of the wall is loosely filled with stone and it makes a low, drum-like sound when the wall is struck.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

このエリアの2つの門は、高位の客のために設けられた。伊達藩の藩主と皇室メンバーはより大きな御成門を使用していたが、彼らの付き添いの武士はそれほど大きくない中門を入り口としていた。位の違いは、門の建築に表れている。御成門は陶磁器の瓦で覆われた入母屋造であったが、中門はより単純な切妻屋根と柿葺が使われていた。御成門は薬医門と呼ばれる形式で、正面の本柱2本と背面の小さい柱1対により支えられているが、中門の中央の屋根の下の2本の本柱には、両側に小さい柱が2本ずつ付いている。（四脚門）

門の西側の壁はドラム壁（太鼓塀）である。壁の中心には緩く石が詰められており、壁を叩くと低い太鼓のような音が鳴る。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

This building is said to have been constructed from the wood of a single tree. The tree, a large Japanese cypress, was recovered from the bottom of the Kitakami river at the turn of the twentieth century. Such “sunken trees” (*umoregi*) are prized for the naturally rich color of their wood. A wealthy family in Sendai purchased the tree and used it to build this structure in 1908. After being donated to Zuiganji in 1943, the building was dismantled and rebuilt in its current location.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この建物は、1本の木から建てられたと言われている。その大きなヒノキの木は、20世紀の変わり目に、北上川の底から発見された。「沈んだ木」（埋れ木）は、自然で豊かな木目の色から珍重される。仙台のある資産家はその木を買い取り、それを使って1908年に建物を建てた。1943年に瑞巖寺に寄贈された後、建物は解体され、現在の場所に移築された。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

It is unknown exactly when this gabled, tile-roofed gate was completed, but it was likely constructed at the start of the seventeenth century along with Zuiganji Temple's main buildings. A hexagonal pendant adorns each gable, and double-paneled, stone-filled drum walls (*taikobei*) extend from the gate's sides. The name of the walls refers to the drum-like sound they make when struck. The gate has been designated an Important Cultural Property by Miyagi Prefecture.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この切妻本瓦葺の門が正確にいつ完成したかは不明であるが、瑞巖寺の本堂と同じく17世紀初頭に建てられた可能性が高い。六角形のペンダントが各切妻を飾り、2重パネル式の小石が詰められたドラム壁（太鼓塀）が門の両側から延びている。壁の名前は叩いたときの太鼓のような音にちなんで付けられた。門は宮城県の重要文化財に指定されている。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 五大堂

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

Completed in 1604, Godaido was the first temple built in Matsushima by Date Masamune (1567–1636), who created the wealthiest feudal domain in the Tohoku region. The building is a recreation of an older temple built by Ennin (794–864), a monk who brought the teachings of Tendai Buddhism to northern Japan. Before Ennin’s temple, there was a hall built here for the worship of Bishamon, a fierce Buddhist deity known as the Guardian of the North. This hall was built by Sakanoue no Tamuramaro (758–811), a general sent by the Imperial Court to defeat the Emishi, an aboriginal group that inhabited Tohoku at the time. When Ennin built Godaido he dedicated it to another group of protective deities, the Five Wisdom Kings (Japanese: Godai Myo-O).

Masamune rebuilt the temple with a square-tented roof, entrance canopy, and railed veranda. The struts under the eaves are carved with the twelve signs of the Chinese zodiac. Both the temple and the statues inside it are designated Important Cultural Properties. The Buddha statues inside the temple are displayed to the public every thirty-three years.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

1604年に完成した五大堂は、東北地方で最も豊かな藩をつつた伊達政宗（1567–1630）によって松島に建てられた最初の寺院である。その建物は、日本北部に天台宗の教えをもたらした僧侶、円仁（794–864）によって建てられていた古い寺院を改造したものである。円仁の寺院より前には、北の守護神として知られ、仏教の武神である毘沙門を拜むためにここに礼拝所が建てられていた。この礼拝所は当時、東北に住んでいた先住民族の蝦夷を倒すために、都から送られた將軍坂上田村麻呂（758–811）が建てた。円仁が五大堂を建てたとき、別の守護神である五大明王を奉った。政宗は、四角いテント付きの屋根、入り口の張り出し屋根、柵で仕切られたベランダを付けて、寺院を再建した。ひさしの下の支柱には中国の十二支が彫られている。寺院とその中の仏像は、重要文化財に指定されており、寺院の中の仏像は33年に一度開帳される。

本事業以前の英語解説文

In 1604 DATE Masamune constructed the Buddhist hall in the place where the Bishamondo hall, associated with the Shogun “Sakanoueno Tamuramaro”, had stood since the 9th century. With Masculine sculptures decorating the exterior, unique technique was given full play in the creation of the “iegata zushi (house-shaped miniature shrine).” Which is representative of “DATE” culture. The “Godai Myoo-oo (Statues of Five wisdom Kings)” inside are put on exhibit once only every thirty-three years.

213

No.22 Unpan, Cloud Gong

<瑞巖寺、宮城県>

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

At Zen temples, meals are announced with the striking of a cloud-shaped bronze gong called an *unpan*. This gong is a reproduction of an *unpan* cast in 1326 for Enpukuji Temple, which occupied the site prior to Zuiganji's construction. It later hung in Zuiganji's kitchen and living quarters (*kuri*). The original is designated an Important Cultural Property and is kept in the Seiryuden Temple Museum.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

禅寺では、雲版と呼ばれる雲のような形をした青銅器のどらを鳴らし食事の時間を知らせる。このどらは、瑞巖寺の建設前に敷地にあった円福寺のために1326年に作られた鑄造物、雲版の複製である。

その後、瑞巖寺の台所と居間（庫裡）に掛けられていた。オリジナルは、重要文化財に指定されており、寺院の青龍殿に保存されている。

本事業以前の英語解説文

This is an instrument used to announce mealtimes to people in the precinct. It was made in 1326 and designated as a national cultural property.

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

The plum trees on either side of this path were brought back from the Korean peninsula by the feudal lord Date Masamune (1567–1636), the founder of Zuiganji Temple. Between 1592 and 1598 he participated in two unsuccessful invasions of the peninsula led by Toyotomi Hideyoshi (1537–1598), who in 1590 had unified Japan under his rule after more than a century of civil war. Masamune had the trees planted at Zuiganji to commemorate its construction. When the trees bloom in early April, the blooms on this tree are red, while those on the tree opposite are white. The combination of red and white is auspicious in Japan and is often seen at celebrations.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この道の両側にある梅の木は、瑞巖寺の創設者の藩主伊達政宗（1567–1636）によって朝鮮半島から持ち帰られた。100年以上にもわたる内戦の末、1590年に天下を統一した豊臣秀吉（1537–1598）が1592年から1598年の間、2回にわたり指揮を行った半島侵略に政宗は参戦したが、失敗に終わっている。政宗は瑞巖寺を建てた記念に木を植えた。その木は4月上旬には花を咲かせ、こちら側には赤色、反対側には白色の花を咲かせる。赤と白の組み合わせは日本では縁起が良く、お祝いの場でよく見られる。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 瑞巖寺 宝物館

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

This wooden statue of Masamune was created in 1652, seventeen years after his death. It was originally placed in the altar room of Zuiganji's main hall and is a Designated Cultural Property of Miyagi Prefecture. The statue is said to depict Masamune at the age of twenty-seven, when he led a contingent of samurai during a military campaign on the Korean peninsula. Masamune lost his right eye to a childhood disease. When he commissioned the statue in his will, Masamune is said to have requested that it show him with two eyes, but the artist has hinted at his true appearance by making the statue's right eye slightly narrower.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

政宗のこの木製の像は、死後 17 年たった 1652 年につくられた。もともと瑞巖寺の本堂にある祭壇に設置されており、宮城県の文化財に指定されている。像は朝鮮出兵の際に、伊達政宗が家臣団を率いた姿を描いたもので、27 歳頃のものだと言われている。政宗は幼少期の病がもとで右目を失っていた。政宗は彼自身の意思により 2 つの目があるよう彫像を作るよう依頼したと言われているが、彫刻家は彫像の右目をやや狭く作ることによって彼の本来の姿を暗示している。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 瑞巖寺 宝物館

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

Samurai typically carried two swords, one long and one short. The shorter sword is called a *wakizashi*, which means “inserted at the side.” The second lord of the Sendai domain, Date Tadamune (1600–1658), had this heavy ceremonial *wakizashi* made in honor of his father Masamune (1567–1636) on the twentieth anniversary of his death. It was originally bequeathed to Zuihoden, the Date family mausoleum in Sendai, but it was returned to the family during the Meiji period (1868–1912). After World War II, the family donated the sword to Zuiganji. The sword is a Miyagi Prefecture Designated Cultural Property.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

侍は通常、長い刀と短い刀の2本の刀を持っていた。短い刀は脇差と呼ばれ、「脇に挿入している」ことを意味する。仙台藩の第2代藩主である伊達忠宗（1600–1658）は彼の父である政宗（1597–1636）の20回忌に、追悼の意を表して儀式用の重い脇差を作らせた。もともとは仙台にある、伊達家の御廟である瑞鳳殿に納められていたが、明治時代（1868–1912）に家族のもとに戻された。第二次世界大戦後、家族はその刀を瑞巖寺に寄贈した。刀は宮城県指定文化財である。

本事業以前の英語解説文

なし

217

No.26 Temple Bell

<瑞巖寺、宮城県>

【施設名】 瑞巖寺 宝物館

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

Zujiganji Temple's original bell, dating to the temple's establishment in the seventeenth century, was used until 1977 when it was replaced because of cracking. The text inscribed on the bell records the history of Matsushima and the founding of Zuiganji by Date Masamune (1567–1636). The bell is a Miyagi Prefecture Designated Cultural Property and is located inside the Seiryuden Temple Museum.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

瑞巖寺のオリジナルの鐘は、17世紀の寺院の設立時に造られたものであるが、1977年まで使用され、ひびが入ったため交換された。鐘に描かれた文章は、松島の歴史と伊達政宗(1567–1636)による瑞巖寺建設の歴史の記録である。鐘は宮城県指定の文化財で、寺院の博物館である青龍殿に納められている。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

Cedar trees line the approach to Zuiganji Temple. A number of the original trees had to be removed or replaced after their roots were damaged by seawater during the Tohoku tsunami in 2011. Signs of an older approach, dating from the temple's founding in 1609, have been discovered under the current path.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

杉の木が瑞巖寺へと続く道に並んでいる。2011年に発生した東北の津波で、根が海水によって損傷を受けたため、元々あった木の多くが撤去され植え替えられなければならなかった。1609年、寺が建立された時代のもよりもさらに古い参道の痕跡が、現参道の地下から発見された。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

Long ago, the nearby ocean eroded the soft volcanic rock of the hills around Matsushima, creating caves. These caves became a popular place to carve Buddhist memorial markers for deceased relatives. The oldest visible caves date from the seventeenth century, but evidence of grottoes from as early as the twelfth or thirteenth century have been found in lower layers of rock that are now hidden by soil.

In the past, six small independent temples stood on each side of the *sando* approach to Zuiganji. For a modest donation, a visitor could access the caves behind the temples and leave a carving or a memorial stone.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

昔、松島周辺の柔らかい火山岩は近くの海によって浸食され、洞窟が造られた。これらの洞窟は、仏教徒が亡くなった親族を供養するために墓碑を彫る人気の場所となった。目に見える最古の洞窟は17世紀のものであるが、12世紀や13世紀にまでさかのぼる洞窟の痕跡が、現在は土に覆われている岩石の下層で発見されている。

過去には小さな独立した寺が、瑞巖寺に通じる参道の左右に6カ寺ずつ建っていた。ささやかな寄付をするために、訪問者は寺の裏の洞窟に入り、彫刻や供養のための石を記念に残すことができる。

本事業以前の英語解説文

Zuiganji temple caves

Originally used as an area for the memorial services and a cinetarium to house the ashes of the deceased, making of these caves dates back to the Kamakura period (1192-1333) and they continued to use them until the Edo period (1603-1867).

In ancient times Matsushima was called the “Koyasan of Tohoku,” a sacred, hollowed ground where many went to pray for safe passage to the pure land in their next life.

【施設名】 三聖堂

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

This small temple, built in 1682, originally faced in the opposite direction, with its entrance on the main approach to Zuiganji, but it was rotated in the eighteenth century. Buddhist customs forbade women from entering parts of the temple grounds on certain days, but the Sanseido became popular with female worshippers who came to pray to Kannon, the bodhisattva of compassion and mercy. Zuiganji's abbot ordered Sanseido turned so that women could visit from a different route without violating Buddhist customs.

Sanseido is dedicated to Daruma, the fifth or sixth century Buddhist monk credited with bringing Zen teachings from India to China, to Sugawara no Michizane (845–903), a ninth-century Japanese scholar and poet, and to Kannon.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

1682年に建てられたこの小さな下位の寺院は、もとは瑞巖寺への主な参道の入口の逆側に面していたが、18世紀になってその向きが変えられた。かつて仏教の習慣では、ある特定の日に寺院の敷地の一部に女性が立ち入るのを禁じていたが、三聖堂が同情と慈悲の菩薩である観音を参拝に来る女性参拝者に人気を得るようになった。瑞巖寺の住職は、女性が仏教の習慣に背くことなく別の道から参拝できるよう、その向きを変えるように命じた。

三聖堂には、5、6世紀に、インドから中国へ禅の教えをもたらした功績があると信じられている仏教僧の達磨と9世紀の日本の学者で詩人でもあった菅原道真（845-903）と観音様が祀られている。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

Completed in 1609, the main hall was built in the layout of a *hojo*. *Hojo* were originally used as living quarters for monks, but by the 1600s the *hojo* and its design were used for the main halls of Zen temples. The main hall of Zuiganji is a masterpiece of the lavish architectural style of the Azuchi-Momoyama period (1568–1600). Date Masamune (1567–1636), the feudal lord who commissioned Zuiganji, turned to the established artisanal centers of Kyoto and Wakayama in western Japan to realize his vision for the temple. He imported both the materials for the hall—mostly Japanese cypress and zelkova wood—and 130 master craftsmen who oversaw its five-year construction. The hall was designated a National Treasure in 1953.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

1609年に完成した瑞巖寺本堂は方丈の設計で建てられた。方丈はもともと僧侶の住居として使用されていたが、1600年代までには方丈とその設計は禅寺の本堂で使用されるようになった。瑞巖寺本堂は、安土桃山時代（1568–1600）の贅沢な建築様式の傑作である。瑞巖寺建設を委託した藩主伊達政宗（1567–1636）は、寺の構想を実現するため、西日本にある京都と和歌山の定評ある職人を頼った。彼は方丈の材料 - ほとんどがイトスギとケヤキ - と5年間におよぶ建設を監督する130名の職人たちの両方をつぎ込んだ。方丈は1953年に国宝に指定された。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 雄島

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

According to tradition, the monk Kenbutsu Shonin (dates unknown) took up residence on Oshima Island in 1104 and spent at least twelve years here in solitary Buddhist practice. Among other feats, he is said to have recited the Lotus Sutra 60,000 times and gained the powers of levitation and teleportation. People are drawn to the island and its caves by the legend of Kenbutsu as well as the beauty of the island which is said to resemble the Pure Land, or Buddhist paradise. People began erecting gravestones and carving memorial tablets on Oshima in the twelfth century.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

伝説によると、高僧である見仏上人(生没不明)は1104年に大島に居を定め、孤独な仏教の修行をしながら少なくとも12年間過ごした。他の功績の中でも、彼は法華経を60,000巻唱え、浮上と瞬間移動の力を得たと言われている。彼の伝説は、島の美しい景色（純粋な土地、すなわち極楽浄土に酷似していると言われる）と一緒に伝えられ、洞窟群と共に、その後ずっと訪問者を惹きつけてきた。人々は12世紀に雄島に墓石を建て、記念碑を彫刻し始めた。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 瑞巖寺

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

Sekkoku is a species of wild orchid (*Dendrobium moniliforme*) native to Northeast Asia, the Himalayas, and northern Indochina. The flowers were abundant in Matsushima until over-harvesting for use in perfume and other goods nearly wiped them out. Difficult to cultivate, sekkoku have only recently begun to make a comeback in the area thanks to advances in plant-breeding technology. Wild specimens, such as the flowers high in the branches of this cedar tree, remain rare. Sekkoku bloom in late May or early June.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

せっこくは、北東アジア、ヒマラヤおよび北インドシナに固有の野生のラン（*dendrobium moniliforme*）の一種である。かつて松島では豊富に繁殖していたが、香水や他の用途のため過剰収穫が原因で殆ど無くなってしまった。せっこくは、栽培が困難だが、植物育種技術の進歩により、最近この地域で復活し始めた。この杉の木の枝の高いところに着生する花は野生の標本ではまれである。せっこくは5月下旬か6月初旬に開花する。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 陽徳院

【整備予定媒体】 案内板

できあがった英語解説文

Date Tsunamune (1640–1710) built this ornate mausoleum in 1660 for his grandmother Megohime (1568–1653), the wife of Date Masamune (1567–1636), feudal lord of the Sendai domain and founder of Zuiganji. Yotokuin is the Buddhist name posthumously given to Megohime. Although her husband's grave is in Sendai, according to one local story, Megohime requested that her remains be buried near the holy sites of Matsushima so that she might more quickly reach paradise and reunite with Masamune.

The mausoleum is coated in black lacquer which contrasts beautifully with its gold fittings and polychrome painted details. Grapes—like the ones depicted on the door—were commonly associated with women at the time when the mausoleum was built. The structure was restored over a three-year period beginning in 2006.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

伊達綱宗（1640～1710）は1660年に、仙台藩の領主、瑞巖寺の創始者である伊達政宗（1567-1636）の妻で、彼の祖母にあたる愛姫（1568～1653年）のためにこの豪華な霊廟を建てた。陽徳院とは愛姫に与えられた戒名である。彼女の夫の墓は仙台にあるが、伝説によると愛姫は松島の聖地の近くに遺骨を納めてもらうよう依頼し、より早く天国に到達し、正宗と再会できるように願ったと言われている。霊廟は黒い漆で塗装されており、金具とカラフルに描かれた細目とのコントラストが美しい。ドアに描かれたぶどうは霊廟が建てられた当時よく女性と関連づけられていた。構造は2006年に始まり3年以上かけて復元された。

本事業以前の英語解説文

Yotokuin's mausoleum (hogeden)

Special exhibition

The mausoleum of Megohime (愛姫), wife of Date Masamune, born into the Tamura clan, stands on the elevated ground at the back of Yotokuin.

The building was built by her grandson, Tsunamune, in 1660.

The mausoleum was restored to its gorgeous original state over the course of three years beginning in 2006.

Famed calligraphy drawn-by Daiten Tsutetsu

Closed to the public except for special exhibitions

Mt.6 多言語解説整備協議会（蔵王）

【施設名】蔵王温泉

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

On a clear day at Zao, when the ski conditions are at their best, the mountain's ropeways and ski trails fill with locals and travelers alike. From the Jupeer Base Center to Jizo Sancho Station at the peak, skiers and boarders of many ages and skill levels are everywhere. But when the sun has just begun to climb in the sky and the trails have not yet become packed with figures in parkas and snowpants, visitors can share a quiet moment with the towering pack of imposing white figures that amass on the southern slope—the famous Snow Monsters of Zao.

The Snow Monsters (or Ice Monsters) are called *juhyo* in Japanese. The word means “frost-covered trees,” but when you're up close, walking or skiing among them, nothing so benign comes to mind. They seem to stomp across the landscape, beautiful and otherworldly. The *juhyo* are Maries' Fir trees that have been transformed by the dry winds of the Siberian desert. These winds sweep across the Sea of Japan, rolling over the peaks of the Asahi mountain range and passing over the Shirataka Hills and Yamagata Basin before releasing super-cooled droplets of rain that do not freeze even at several degrees below zero. The Snow Monsters of Zao are born when these droplets meld with the snow on the mountain. The Snow Monsters do not last very long, and they have been shrinking in size and number due to global climate change, but they are still a sight to behold. They are at the apex of their growth between late January and mid-March.

Located farther down the slopes, the Frosted Forest (*mubyo chitai*) is a silver grove filled with wind-whipped ice. This silver frost is formed when condensed water vapor is exposed to freezing air. Dew on the stems of grass and leaves is caught in a slow freeze. Swept together, the dew becomes translucent ice that refracts the light like silver filigree. Like a garden of glistening timber chrysalises, the Frosted Forest is most picturesque around the same time that the Snow Monsters become most imposing. Both are easily reachable from the main Juhyogen Course and can be reached by skiers of any level. The mountain is serviced by several ropeways, and the view from these is a wonder in its own right. The condition of both the Frozen Forest and Snow Monsters may vary depending upon weather conditions, but the best time to view them is during the colder hours of the morning.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.1 スノーモンスターと凍った森

蔵王の晴れた日の、スキーのコンディションが最高のときには、山のロープウェイとスキークースには地元の人たちや旅行者で溢れる。ベースセンタージュピアーから地蔵山頂駅まで、年齢や技術レベルの異なる多くのスキーマーやボーダーがいたるところで見られる。しかし、太陽が上空に登り始めるころは、コースにはスキージャケットを纏いスキーズボンに身を固めたスキーマーの姿はない。訪問者は南斜面にたくさん見られる聳え立った威圧的な白い姿…蔵王のスノーモンスター

ーを眺め静かなひと時を過ごすことができる。

スノーモンスター（またはアイスモンスター）は日本語で「樹氷」と呼ばれている。この言葉は「氷霜で覆われた樹木」を意味するが、近よったり、その間を歩いたり、スキーをしたりしても、何の害もないことに気づくだろう。彼らは美しい異世界の風景の中を力強く踏みしめているようだ。樹氷はシベリアの砂漠の乾燥した風によって変形されたアオモリトドマツの木である。この風は日本海を横切って広がり、朝日山脈の頂上を吹き抜け、白鷹丘陵と山形盆地を通過して、氷点下でも凍らない過冷却の雨滴を放出する。これらの飛沫が山の雪と溶けあい、蔵王のスノーモンスターが生まれる。スノーモンスターの姿はそれほど長く続かない。

地球規模の気候変動のためにサイズと数が減少しているが、それでも注目に値する光景である。

1月下旬から3月中旬までが樹氷が最も成長する時期である。

斜面のさらに下に位置する霜に覆われた森（霧氷地帯）は、風に吹き飛ばされた氷でいっぱいの銀の木立だ。この銀の霜は、凝縮した水蒸気が凍結空気にさらされ形成されるのである。草や葉の茎の上の露はゆっくりと凍結する。つまり、露は半透明の氷になり、銀細工のように光を屈折させる。森の中の樹木は氷晶に包まれ姿を変え、白光した大きな繭の花園のように、氷霜の森はスノーモンスターが最も印象的になるのと同じ頃に最も絵になる。どちらもメインの樹氷原コースから簡単にアクセスでき、どのレベルのスキーヤーも行くことが可能である。山にはいくつかのロープウェイが整備されており、ここからの眺めは驚嘆にあたいする。凍った森とスノーモンスター両方の状態は気象条件によって変わり、見物に最もよい時間帯は朝の寒い時。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

While people have been coming to the Zao's onsen for over a thousand years, the first ski resort opened on the mountain in 1925. One of the first resorts in Japan, Zao became popular for its beautiful powdery slopes of varying difficulty and for the Snow Monsters on the summit. The mountain is also home to some of Japan's first ski lifts, the first of which was constructed in 1951. In all, Zao ski resort is equipped with over forty distinct trails and forty-one cable cars, ropeways, and ski lifts.

When you are on the mountain, please be aware that there are several kinds of trails with several levels of difficulty: Green trails are the lowest difficulty, easiest to access and to ski down. Red trails are intermediate and are intended for skiers of average ability. Black trails are for experts. Zao also has a competition-certified course, and night skiing is possible within certain areas of the mountain.

Please be aware that while the team at Zao wants every visitor to have the experience of a lifetime, the slopes are subject to certain rules: smoking is prohibited on all parts of the mountain, and regardless of your backcountry skiing experience, Zao is not a backcountry ski area. Do not go off-trail. Areas that look safe for off-piste skiing are likely to contain dangerous ravines. The ropeways and lifts are numbered and marked with multilingual signage. If you have any problems, Zao has a first-aid station and five ski patrol posts.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.2 スキーリゾート概説

蔵王は千年以上の長きにわたって人々に人気を得ていた。1951年にはスキーリゾートとしてもオープンした。スキー場は美しい粉雪のスロープと各種レベル難度のコースを有する国際的なレベルで、すぐに人気が出た。どんなレベルのスキーヤーにも適合できる。蔵王スキーリゾートには、25以上の異なるコース、40台のケーブルカー、ロープウェイ、スキーリフトが設備されている。山に上ることさえ、楽しい経験の1つになることだろう。

山には、いくつかの異なる種類のコースがあるが、高難度のコースがあることに注意が必要。グリーンコースは難度が最も低く、アクセスしやすく、簡単にスキーを楽しめる。レッドコースは中級レベルで、どのレベルのスキーヤーでも楽しむことが可能。ブラックコースは上級レベルなので、スラロームをしたいと思っている人は、これらのコースが挑戦的で、上級スキーヤーを念頭に作られていることを十分に認識してほしい。蔵王には競技コースや夜間スキーも備わっている！

蔵王チームでは訪問者の皆さんが蔵王が一生の思い出になることを願っているものの、規則を設けている。複合施設は全域禁煙ゾーンで、公示されている全ての規則に従わなければならない。そして、蔵王を訪れる多くのスキーヤーがバックカントリースキーの経験が豊富であっても、蔵王はバックカントリースキーエリアではなく：遮断された峡谷の多くを、ス

マップよりもよく知っていると主張しても、コースから外れることは禁止となっている。何か問題があれば、第一救急隊と5つのスキーパトロール基地が準備されており、これに対応する。全てのロープウェイとリフトには番号が付けられており、すべてのコースには多言語での表示が設置されている。

本事業以前の英語解説文

Zao Onsen, located in Yamagata city in the northeastern region of Tohoku, is one of Japan's most renowned mountain tourist destinations. Standing about 800 meters above sea level and among splendid mountains, this traditional hot spring village surrounded by nature boasts many hotels, restaurants and souvenir shops. Zao Onsen has a long history and is said to have been discovered in the year AD 110.

The surroundings of Zao Onsen are rich with mountains and wilderness, and after a ride on one of the three cable cars departing from the hot spring village, it is possible to enjoy with ease trekking in summer or the brightly colored leaves in autumn.

In winter, those surrounding mountains turn into slopes for the top-class Zao Onsen Ski Resort, renowned in Japan for its large scale. Another distinguishing feature of this resort village is the opportunity to get a view of the "Ice (or Snow) Monsters", trees coated with ice and snow that take on a surreal appearance, a rare winter phenomenon worldwide.

Zao Onsen is one of the top mountain tourist spots in Japan, surrounded by splendid mountains rich in nature, and with 1900 years of venerable hot springs tradition. We look forward to your visit!

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The Juhyogen Course is a red, or intermediate course. Also known as the Zange Zaka Course, the Juhyogen Course is the longest course on the mountain. Roughly ten kilometers long and starting from Jizo Sancho Station, this course first runs through two kilometers of Snow Monsters and then all the way down to Zao Onsen Village. From the upper-central part of the course you can turn into the Sailer Course, a red course with a steeper grade named for renowned Austrian skier, Anton “Toni” Sailer (1935-2009). Farther down the mountain, the Juhyogen Course will take you through the Utopia Slope and the Hyakumannin Slope to the Yokogura Slope near the bottom of the mountain. At first the gradient can be a little steep but should be no issue for beginners who are willing to snow-plough and take it slow.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.3 樹氷原コース

樹氷原コースは赤、または中級コース。ザング坂コースとしても知られる樹氷原コースは最も長いコースである。地蔵山頂駅から約10キロメートルの長さのこのコースは、まず2キロメートルのスノーモンスターエリアを通り抜け、その後、蔵王温泉村まで続く。コースの中央上部から、有名なオーストリアのスキーヤー：トニー・ザイラー（1935年-2009年）の名前が付けられたより急勾配の赤いコースのザイラーコースに移ることができる。樹氷原コースからさらに山を下ると、ユートピアゲレンデの斜面と百万人ゲレンデの斜面を通って山の麓近くの横倉の斜面へまで行くことができる。最初は勾配が少しくつくなるが、初心者でも全制動滑降したり、ゆっくり滑れば問題にならないはずだ。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】蔵王温泉スキー場
【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The Ohira Course is a green, or beginner course. The Ohira Course will be one of your first options after descending from either the Sailer Course or the Renranku Course. The Ohira Course is five kilometers long—the second-longest on the mountain—and will take you through the Paradise and Shobunuma Slopes to the Uwanodai and Sunrise Slopes. A central hub for the north side of the mountain, (the right side, from the skier's perspective) the Ohira Course is wide (roughly thirty meters), and has some nice variation in grade, making it one of the more popular courses on the mountain.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.4 大平コース

大平コースはグリーン、または初心者コース。大平コースは、ザイラー・コースまたは連絡コースから下った後の最初の選択肢の1つになる。大平コースの長さは5キロメートルで、山で2番目に長いコース。そして、パラダイス・ゲレンデと菖蒲沼ゲレンデの斜面を通して、上の台ゲレンデとサンライズ・ゲレンデの斜面にあなたを導く。山の北側の中心的な場所（スキヤーの視点から見て右側）の大平コースは幅広く（約30メートル）、グレードも多少変化しているため、このコースは最も人気のあるコースの1つになっている。

本事業以前の英語解説文

Connecting the Paradise and the Shobunuma slopes with the Uwanodai and Sunrise slopes, it is an approximately 5 km long course with an average width of 30 meters offering a variation of moderate slopes with sudden steep pitches in the middle.

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The Takatori Course is a green, or beginner course. Starting from the Chuo Slopes near the Zao Sky Cable Chuo Kogen Station, the Takatori Course is roughly three kilometers long. The course curves gracefully down past Diamond Valley, widening out as it reaches the bottom of the mountain. Please be aware the Takatori Course does transition into a red course with a steep 23° pitch when it reaches the Uwanodai Slope area, but the slope is wide enough that beginners should be able to easily control their speed with long hairpin turns.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.5 高取コース

高取コースはグリーン、または初心者コース。蔵王スカイ・ケーブル中央高原駅近くの中央斜面を起点とした高取コースの長さは約 3km。コースはダイヤモンド・バレーを通過して優雅にカーブし、山麓に達するにつれて広がっている。高取コースは上の台ゲレンデに到達すると、斜度 23°の赤コースに移行するが、スロープは十分に広く、初心者でも長い斜滑降そしてキックターンを繰り返せば、スピードをコントロールできる。

本事業以前の英語解説文

connected from the Zao Sky Cable Chuo Kogen Station to the Uwanodai Slope, it is a varied course approximately 3 km long. Its gentle slope from the beginning to its middle turns to a steep pitch of about 23 degrees when reaching the area of the Uwanodai Slope, but it is still accessible for beginners due to the large width of its course.

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The Hanenkamm Course is a black, or expert course. Authorized by the FIS, Hanenkamm has A, B, and C courses, all of which end in the Uwanodai Slope area. A variety of competitions are held here throughout the year. The top of the A/B Course is a 38° wall that contains some of the most challenging terrain at Zao. The C course is to the north of the A/B courses (right, when facing down the mountain) and is a good course for both beginners and more advanced skiers. Heading south (left, when facing down the mountain) while going down Hanenkamm will lead you to the green Sunrise Course that you can take down to Zao Onsen.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.6 ハーネンカム・コース

ハーネンカム・コースはブラック、または上級者コース。FISによって認定されたハーネンカム・コースは、A、B、およびCコースがある。それらはすべて上の台ゲレンデの斜面地域で終わる。年間を通して様々な競技大会が開催されている。A/Bコースの最上部は、蔵王の最も困難な地形を含む38°の壁だ。CコースはA/Bコースの北側（山から下を見たとき）にあり、初心者から上級者までの両方に適したコースである。ハーネンカム・コースを下りながら南（左、左下）に行くと、サンライズ・ゲレンデがあり、そこから蔵王温泉に降りることができる。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The Renraku Course is a green, or beginner course. It is a long, gentle course found at the beginning of the Utopia Slope that takes you across the mountain to the Shobunuma Slope. This narrow, kilometer-long course is popular with families because it has very gentle grade and good quality snow. The course connects one side of the mountain to the other, taking you from the Utopia Slope to the bottom of the Shobonuma Slope, where you can ride the lift up to the Paradise and Central Slopes and the Ohira Course, Hanenkamm Course, and Diamond Valley.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.7 連絡コース

連絡コースはグリーン、または初心者コース。ユートピア・ゲレンデの始まりにあるゆったりとした穏やかなコースで、山を横切って菖蒲沼ゲレンデへと向かう。この狭くて1キロの長いコースは非常に穏やかで雪質も良く家族連れに人気がある。このコースは山の片側と反対側をつなぎ、ユートピア・ゲレンデから菖蒲沼ゲレンデの坂の下まで行くことができる。そこから、パラダイス・ゲレンデ、中央ゲレンデ、そして大平コース、ハーネンカム・コース、そしてダイヤモンド・バレーまでリフトで行ける。

本事業以前の英語解説文

Connecting the Utopia Slope to the Shobunuma, Paradise and Central slopes, it is a comparatively narrow course with good snow quality and an even gentle slope making for an enjoyable slide.

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The Uwanodai Slope was the very first ski slope at Zao, and its ski lift was the second ever built in Japan. Almost anyone who has ever been skiing at Zao has been down this slope. Its light grade and proximity to the onsen town make it a popular place for lessons and for children. Also open for night skiing, Uwanodai is one of the most popular places on the mountain. You can get a hot meal, a new pair of gloves, or a rest at the Jupeer base center located at the bottom of the slope.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.8 上の台ゲレンデ

上の台ゲレンデは蔵王初のスキー場で、そのスキーリフトは日本で2番目に作られたものである。蔵王でスキーをしたことのある人ならだれもがこのスロープを滑り降りているはずだ。その初心者向けレベルのコースと温泉の町へいちばん近い理由で、練習と子供向けとして人気がある。また、夜間のスキー場も開かれている上の台ゲレンデは、山で最も人気のある場所の1つになっている。温かい食事、新しい交換手袋、そして休憩はゲレンデのいちばん下手にあるベースセンター・ジュピアーでとることができる。

本事業以前の英語解説文

なし

233

No.9 Ryuzan Slope

<蔵王温泉、山形県>

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The Ryuzan Slope was the main slope used in the 1979 Interski training convention and is a green, or beginner area. Located next to the Kuraray Zao Schanze ski jump and with more than four different slopes to take down to the bottom, this is a great spot for families and beginners. It is a straightforward slope with little in the way of surprises and only minor grade variation between 20° to 23° throughout.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.9 竜山ゲレンデ

竜山ゲレンデは 1979 年の Interski トレーニング・コンベンションで使用された主要なゲレンデで、グリーン、または初心者エリア。クラレ蔵王ジャンプ台の隣に位置し、4 つ以上の異なる斜面で山裾に下る。驚くことなく全体を通してわずか 20 度から 23 度のまっすぐな斜面のコースは家族連れや初心者にとって絶好の場所である。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Located on the south side of the Uwanodai Course (to the left, from the skier's perspective) the Sunrise Slope is split into two trails. The left trail has a sharp incline and is often used for pole practice, while the right trail is softer and better for beginners. The Sunrise Slope can also be used to access the Nakamori Slope via Kamoshika Obashi Bridge, which also leads to the Chuo Ropeway.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.10 サンライズ・ゲレンデ

上の台ゲレンデの南側（スキヤーの視点から見て左側）にあるサンライズ・ゲレンデは、2つのコースに分かれている。左側コースは鋭い傾斜を持っていてポール練習によく使われ、右側のコースは優しく初心者むきになっている。サンライズ・ゲレンデは中央ロープウェイへ続くカモシカ大橋を経由して中森ゲレンデへのアクセスにも使用できる。

本事業以前の英語解説文

Located on the right side of the Uwanodai Slope, it has two courses, one for beginners and intermediate skiers and another one for intermediate and expert skiers. One of those courses has a steep slope good for pole practice. The Nakamori Slope is accessible through the Kamoshika Bridge located on the side of the slope.

【施設名】蔵王温泉スキー場
【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The Chuo Slope is one of the most popular slopes on the mountain. Covered with high-quality snow and looking out over the Snow Monsters, the Chuo Slope is a green, or beginner area. It is usually one of the first slopes to open each year and last to close for the season—during an average year, the snow on Chuo Slope will be skiable until around May. This central set of seven trails is a good starting point for beginners to get used to their gear before gliding down through Diamond Valley and the Frosted Forest. Chuo sits on top of the Hanekamm, Ohira, and Takadori Courses.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.11 中央ゲレンデ

中央ゲレンデは山で最も人気のあるゲレンデの一つ。最高の雪質で覆われ、スノーモンスターを見渡せる中央スロープは、緑、または初心者エリア。ここは通常、毎年最初にオープンされ、シーズンが終わる最後まで開かれているゲレンデの1つである。平均して毎年、中央ゲレンデの雪は5月頃まで残っていてスキーを楽しむことができる。ここの7つのコースの組み合わせは、初心者がダイヤモンド・バレーと凍った森を滑走する前に、慣れるための良い出発点になっている。中央ゲレンデは、ハーネンカム・コース、大平コース、高取コースの一番上にある。

本事業以前の英語解説文

なし

236

No.12 Diamond Valley

<蔵王温泉、山形県>

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The Diamond Valley is a green, or beginner area. Right next to the Zao Sky Cable Chuo Kogen Station, Diamond Valley is the location of the Frozen Forest. On sunny days the sun shines through the ice on the trees, making them sparkle like crystal. The valley is a popular part of the mountain for group lessons because the snow is good, and the steepness of the slope varies between runs. The Takadori Course also cruises past Diamond Valley and straight down the mountain into town.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.12 ダイヤモンド・バレー

ダイヤモンド・バレーは、緑、または初心者エリア。ダイヤモンド・バレーは、蔵王スカイ・ケーブル中央高原駅のすぐ隣に位置し、凍った森のある場所である。晴れた日には太陽が木々の上の氷を照らし、クリスタルのように輝かせる。雪質がよく、変化にとんだ勾配は、グループ・レッスンに人気がある。高取コースは、ダイヤモンド・バレーを通り過ぎて、山をまっすぐ下り、町へ導く。

本事業以前の英語解説文

Located in front of the Zao Sky Cable Chuo Kogen Station at the bottom of the Dokko Pond, it is a quiet course protected from winds by the surrounding beech forest. Its three slopes are best for beginners and intermediate skiers.

237

No.13 Paradise Slope

<蔵王温泉、山形県>

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The Paradise Slope is a red, or intermediate area. Paradise Slope directly connects the Juhyogen Course to the Chuo and Uwanodai Slopes. Often full of thick, fluffy snow until Golden Week in May, Paradise Slope is right between the Snow Monsters and the Frosted Forest. It does have a rather steep 25° grade and is intended for intermediate skiers, but there is a more roundabout route with a gentler slope for beginners that ends at the same location as the wall. There is a free, sixteen-seat rest area near the lift building at the bottom of this slope.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.13 パラダイス・ゲレンデ

パラダイス・ゲレンデは、赤、または中級者むき。パラダイス・ゲレンデは樹氷原コースと中央ゲレンデおよび上の台ゲレンデの斜面に直結している。5月のゴールデンウィークまでは、パウダースノーがいっぱいある。パラダイス・ゲレンデは、スノーモンスターと凍った森の間に位置している。かなり急な25°斜面は中級者向きに意図されている、しかし初心者向けによりなだらかな迂回ルートが壁の終点と同じ場所にある。この斜面の下のエレベーターの建物の近くに、無料の16席の休憩所がある。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Shobunuma Slope is a green, or beginner area. This is a great area for those making their way down from the Kotan and Paradise Slopes. Shobunuma is one of gentlest slopes on the whole mountain and has a general grade of only 10°, which makes it a good place to give lessons to anyone trying skiing or snowboarding for the first time. The slope also has an area for tube sledding, and loudspeakers play music which can be heard across the slope.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.14 菖蒲沼ゲレンデ

菖蒲沼ゲレンデは、緑、または初心者のエリア。ここはコタン・ゲレンデとパラダイス・ゲレンデから滑り降りてくる人にとって素晴らしいエリアになっている。菖蒲沼ゲレンデは山全体で最もなだらかなスロープの一つで、斜度はわずか 10°なので、スキーやスノーボードの初心者が試すには最適の場所。このゲレンデにはチューブ用のためのエリアもあり、音楽がゲレンデ中に響き渡っている。

本事業以前の英語解説文

Located in front of the Paradise Slope at the starting point of the Taihei Course 4 km from the Uwanodai Slope, it has moguls with an average angle of 10 degrees. The Paradise slope can be used to cut through from the Juhyogen Course at the peak of the mountain toward the Central Course.

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The Kotan Slope is just north of the Paradise Slope (to the right, from the skier's perspective) and has a beautiful panoramic view of the distant mountains. The two trails here are great for beginners and intermediate skiers who want to challenge themselves. Both courses are rated green but are more difficult than some of the other beginner courses on the mountain.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.15 コタン・ゲレンデ

コタン・ゲレンデはパラダイス・ゲレンデのすぐ北（スキーヤーから見て右側）にあり、遠くの山々の美しいパノラマ・ビューが楽しめる。ここには二つのコースがあり、初心者から中級者が挑戦するのに最適。どちらのコースもグリーンと評価されているが、山の他の初心者コースよりも難しくなっている。

本事業以前の英語解説文

Located on the left side of the Paradise Course, it offers on sunny days a direct view of the impressive surrounding mountains and a peak at those in the distance.

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Most of the Nakamori Slope is a green area for beginners, but the top is for more intermediate-level skiers. The Nakamori Slope is near the base of the mountain and ends in front of Zao Chuo Ropeway Onsen Station. After taking the Triple Lift up to the third station, you can ski down Nakamori and across the Kamoshika Obashi Bridge to get to the Uwanodai and Sunrise Slopes. A Kids' Area suitable for younger skiers is located at the bottom of Nakamori Slope as well.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.16 中森ゲレンデ

中森ゲレンデの大部分は初心者のためのグリーンに指定されているが、中森ゲレンデの上部はもっと上の中級レベルのスキーヤーのためのものになっている。中森ゲレンデは山の麓近くにあり、蔵王中央ロープウェイ温泉駅の前で終わっている。トリプル・リフトで3つ目の駅まで上がった後は、ゲレンデを滑降して、カモシカ大橋を渡って、上の台ゲレンデとサンライズ・ゲレンデに行ける。中森ゲレンデの斜面の下部には、子供のエリアがあり、初心者に適している。

本事業以前の英語解説文

Located in front of the Zao Chuo Ropeway Onsen Station, it is of easy access due to its closeness to the hot spring resort's central street. It is possible to enjoy almost 4 km of downhill ski from the Chuo Ropeway Torikabuto Station through the Central Slope, the Taihei Course, the Sunrise Slope, and finally the Nakamori Slope.

241

No.17 Yokokura Slope

<蔵王温泉、山形県>

【施設名】蔵王温泉スキー場
【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The Yokokura Wall, located at the very top of the slope, is known for its initially steep 38° incline, which is followed by 300 meters at a 30° incline. After clearing these two steep sections, this area is relatively straightforward, and beginner and intermediate skiers can take the longer slope around the wall to avoid them. The lower part of Yokokura is gentle and good for families. This slope is one of the two areas open for night skiing on the mountain. The Zao Ropeway at the bottom of the Yokokura Slope is also the main way to get to the summit to see the Snow Monsters.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.17 横倉ゲレンデ

斜面の最上部に位置する横倉壁は、最初の急勾配は 38°の傾斜があり、続いて 300メートル続く 30°の傾斜がある。この 2 つの急な区間を通過した後は、比較的簡単になる。初心者や中級者は、より長い勾配をとることで、この壁を回避することができる。横倉の下の部分はなだらかで家族連れにぴったり。この斜面は夜間のスキー用に開かれている 2 つのエリアのうちの 1 つ。横倉ゲレンデの裾にある蔵王ロープウェイも、スノーモンスターを見るために山頂へ行くための主要な交通手段である。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Some parts of this green slope, located in the Juhyogen Course, are 200 meters wide, making the slope popular with beginners. It offers grand views and is perfect for families and groups who want to ski together. Some instructors will also bring classes here to take advantage of the open space. Hyakumannin is connected to the Kurohime, Omori, Yokokura, and Utopia Slopes.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.18 百万人ゲレンデ

樹氷原コースにあるこの緑レベルの斜面の一部は 200 メートルの幅があり、初心者に人気がある。素晴らしい景色が望め、一緒にスキーをしたい家族やグループに最適のゲレンデ。スキーのインストラクターたちはこのスペースを利用し、教習クラスを実施している。百万人ゲレンデは黒姫ゲレンデ、大森ゲレンデ、横倉ゲレンデ、そしてユートピア・ゲレンデへと繋がっている。

本事業以前の英語解説文

Located in the middle of the Juhyogen Course at the bottom of the Utopia Slope, it is a broad slope with a width varying from 100 up to 200 meters. Offering a great view from the lifts, it is ideal for family skiing and practice.

243

No.19 Utopia Slope

<蔵王温泉、山形県>

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

As the name suggests, the Utopia Slope is a green, or beginner area. Right in the middle of the Juhyogen Course, this slope is located in front of Zao Ropeway Juhyo Kogen Station and offers moderately challenging skiing, fantastic powder, and spectacular views. The restaurant Todomatsu is a great place to stop and take a break. Utopia is up the mountain from the Kurohime and Hyakumannin Slopes, and when facing downhill the Renraku Course is further north (right from the skier's perspective) on the mountain.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.19 ユートピア・ゲレンデ

名前が示すように、ユートピア・ゲレンデは緑、または初心者エリア。樹氷原コースの真ん中にあるこのゲレンデは蔵王ロープウェイ樹氷原駅の正面に位置しており、適度に挑戦的なスキー、素晴らしい粉雪、そして壮観な景色を眺めることができる。レストラン・トドマツは、休憩に最適の場所。ユートピア・ゲレンデは黒姫ゲレンデと百万人ゲレンデから山を登った所にあり、下を向くと山のさらに北側（スキーヤーから見て右手）に連絡コースがある。

本事業以前の英語解説文

Located in front of the Zao Ropeway Juhyo Kogen Station in the middle of the Juhyogen Course, it is popular for its moderate slope and good snow quality. It is usually open until the beginning of May every year. The top of the slope will be filled with the famous Ice Monsters and the scenic mountains far away can be gazed upon on a clear day.

244

No.20 Omori Slope

<蔵王温泉、山形県>

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The Omori Slope is a multilevel area, the lower level of which is intended for younger skiers. The long course starts near the top of the Yokokura Wall and is serviced by the Omori Quattro four-person ski-lift. The Omori Wall at the end of the course is good for experts. It is very steep, with a maximum pitch of 30°, and contains moguls. The other trails range in difficulty, so visitors should pay close attention to trail signs.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.20 大森ゲレンデ

大森ゲレンデはマルチ・レベル・エリアであるが、その下の方のレベルは若いスキーヤーを対象としている。ロングコースは横倉壁の頂上付近から始まり、大森クアトロの4人乗りスキーリフトが運行されている。大森の壁はコースの終了地点にあり、専門家には最適。勾配はきつく最大傾斜度は30°でモーグルコースもある。他のコースも難度が高く、訪問者はコースのレベル表示に注意してください。

本事業以前の英語解説文

Located at the lowest altitude of the Zao Onsen Ski Resort, the Omori Giant course offers multiple various courses. While the peak of Mt.Yokokura is accessible by the four-person lift Omori Quattro, the Omori Wall has moguls at a maximum angle of 32 degrees for experts, and there is a slope for kids at the base.

245

No.21 Kurohime Slope

<蔵王温泉、山形県>

【施設名】蔵王温泉スキー場

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The Kurohime Slope contains beginner, intermediate, and expert trails. Kurohime is the southernmost slope on the mountain, beginning at the top of the Kurohime Quattro Lift No.1 and connecting in four different places to the Hyakumannin Slope. The main trail is 1.7 kilometers long with a maximum grade of 26°, but it diverges into the more difficult Super Giant Course, which is intended for intermediate skiers, and the Crazy Traverse Course, which is for experts.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.21 黒姫ゲレンデ

黒姫ゲレンデには初級、中級、上級者向けのコースが備わっている。黒姫ゲレンデは山の最南端のゲレンデで、黒姫クワトロ・リフト・No1 の頂上から始まり、百万人ゲレンデへの4つの異なる場所とつながっている。メインのゲレンデは長さ1.7キロメートル、最大傾斜度は26°だが、中級スキーヤーを対象としたより難しいスーパージャイアントコースと、上級者向けのクレイジー・トラバース・コースに分けられている。

本事業以前の英語解説文

Offering direct access to the Juhyo “Ice Monsters” area with the Kurohime No.1 Quattro Lift, the Kurohime Super Giant Course, which has a peak angle of 26 degrees and a total length of 1.7 km, is a long course with numerous sudden slow and rapid changes. The Kurohime Connection Course is a course connecting the Juhyogen Course to the Kurohime area.

【施設名】蔵王温泉

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

There have been humans on Mount Zao for at least 1,900 years. While the onsen town's beginnings are uncertain, the properties of its waters are well known. Therapeutic and invigorating, with names like "springs of beauty," these hot springs brought an influx of tourism in the early 1900s. The water of Zao Onsen is very acidic, with a pH range between 1.6 and 1.25. This acidity offers a variety of medicinal benefits, but it will also oxidize and discolor metal, so visitors should take care with any jewelry or piercings. Zao has three famous hot springs, all of which are open to the public for a small donation of 200 yen.

As these springs are very old, traditional facilities, it is important to know the correct behavior for visiting one. The hot springs are separated: one side for men (男), and one side for women (女). Visitors must bathe before entering the bathhouse. There is no space to wash in the bathhouse itself and entering a communal bath without washing is considered impolite. Towels are not worn into the water; some bathers place their towels on top of their heads but leaving it by the edge of the bath is also fine. Smoking or roughhousing within the baths is also prohibited. Because of their association with crime, tattoos are considered taboo within Japanese society, and visitors with tattoos are asked not to enter the bath.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.22 蔵王温泉の概要

少なくとも 1900 年間、蔵王には人間が住んでいた。温泉街の始まりは定かではないが、その水の特性はよく知られていた。「温泉の美」の名称、治療的で元気づける温泉は 1900 年代初頭に観光の流入をもたらした。蔵王温泉の水は強い酸性で、pH は 1.6～1.25 を示している。この酸性度は、さまざまな薬効があるが、金属を酸化して変色させることもあるため、湯治者は宝石やピアスに気を付ける必要がある。蔵王には 3 つの有名な温泉があり、そのどこもが 200 円の入浴料で一般に公開されている。

これらの温泉はとても古く、伝統的な施設なので、訪れるための正しい作法を知らなければならない。温泉は：片側が男性（男）、もう片側が女性（女）にわかれている。湯治者は湯船につかる前に体を流さなければならない。浴場自体には洗うスペースがなく、体を流さずに共同浴場に入るとは礼儀を知らないと見なされる。タオルは湯船に浸けてはならない。入浴者は頭の上にタオルを載せたり、お風呂の端に置いても大丈夫だ。浴場内での喫煙や乱暴な行為も禁止されており、犯罪に近いということで、入れ墨は日本社会ではタブーであり、入れ墨を入れた訪問者は入浴しないように求められる。

本事業以前の英語解説文

Zao Onsen is one of the top spots for strong acidic hot springs in Japan. Its springs are sometimes even called the

"Springs of Beauty". Zao Onsen is the source of strong acidic sulfur springs, said to help with rejuvenating and strengthening the skin and blood vessels. The skin and blood vessel rejuvenation and skin beautifying effects of Zao Onsen are the reason why it is also called the "Springs of Beauty".

【施設名】蔵王温泉

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

According to local legend, people have been visiting Zao since 110 CE. The hot springs are believed to have been discovered by soldiers who were sent to find cherry blossoms. A local ruler was shot with a poisoned arrow, and as he lay dying, he asked his retainers to bring him a sprig of cherry blossoms so that he could see their beauty one last time. His retainers went into the nearby hills and mountains to search for a cherry tree. Cresting a ridge, one of the retainers was caught off guard by what looked like smoke from the cookfire of an enemy camp. He went to investigate and discovered not a fire but a hot spring with bubbling waters. The retainer brought his lord to the pool and watched in wonder as his master was healed upon entering the water. So goes the story, but whether the life-saving properties of the water are true or not, there is no doubt that Kamiyu public bath is the spring it describes, the source of the hot spring water in Zao.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.23 上湯共同浴場

地元の伝説によると、人々は西暦 110 年以來、蔵王を訪問している。温泉は、桜を見つけるために派遣された兵士によって発見されたと信じられている。地元の支配者が毒矢で射られ、死にかけて横たわり、最後に美しい桜を見たいと願い、兵士に桜の小枝を探してくるよう命じた。彼の部下は近くの丘や山々に入って桜を探した。尾根に立ったとき、部下の 1 人が敵の居留地から焚き火の煙が立ち上っているように見えたので、警戒しながら捜査に向かった。しかし、それは焚火ではなく、水が泡立つ温泉の湯けむりを発見したのだ。部下は主人を温泉に連れて行き、湯に入ると、傷が癒されたので、部下は驚いた。話は続くのだが、水に生命を救う特質があるかどうかにかかわらず、上湯共同浴場はそのお話の温泉であることに疑いの余地はなく、蔵王の源泉である。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】蔵王温泉

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

From the latter part of the Edo period (1603–1868) Zao Onsen became a tourist destination for the surrounding domains. Believing its water to be a panacea, people came to Zao to be healed of their ailments. They stayed at the inns (*ryokan*) that make up much of the town and bathed in the waters. By the 1860s the Kamiyu bathhouse had become too crowded, and the town built the Shimoyu public bath lower down the side of the mountain. Outside the Shimoyu building are a stone monument and footbath which the same water as the bath inside. To prevent discoloration, visitors should be sure to remove any jewelry before putting their hands or feet in the bath waters.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.24 下湯共同浴場

江戸時代後期（1603～1868年）から蔵王温泉は周辺地域の観光地となった。万能薬であると、その水を信じて、人々は彼らの病気を治癒するために蔵王を訪れた。彼らは町の大部分を占める旅館に泊まり、温泉に浸かった。1860年代まで上湯浴場はあまりにも混雑したので、村は山の脇下に下湯浴場を建設した。現在下湯のビルの外には石碑や足湯があり、その中にはお風呂と同じ温水が流れている。変色を防ぐために、訪問者は手または足を温泉に入れる前に必ず宝石類を取り外してください。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】蔵王温泉

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Kawarayu is a free-flowing onsen, which is extraordinarily rare. Although normally onsen are filled with spring water that is piped in from elsewhere, this bath is built on top of a depression in the bedrock where the water from higher up the mountain flows down and gathers naturally. Open slats in the sides and bottom of the basin allow the spring waters to flow freely through the bath.

Like the Kamiyu and Shimoyu baths, the water temperature at Kawarayu bath fluctuates but can reach temperatures of up to 50° C. Visitors should enter the bath slowly to give themselves time to adjust to the heat, and once submerged, hold still to let their muscles fully relax. Bathers should refrain from splashing and supervise their children. There is no specific rule regarding the age at which children can enter the hot springs, but there is a risk of heatstroke for any child younger than four years old.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.25 川原湯共同浴場

川原湯は自由流動性の温泉であり、非常に珍しい。通常、温泉はどこか他の場所で湧き出た温水を配管で引いて満たすのであるが、この浴場は山の上の方から温水流れ落ちて、自然に集まる基盤の窪地の上に建てられている。湯だまりの側面と底部に開いた羽目板から、湧き出た温水が浴槽を自由に流れる。

上湯浴場や下湯浴場のように、川原湯浴場の水温は変動するが、最高 50℃まで上がることもある。入浴者はゆっくりと浴槽に入って熱さに慣れるまで時間をかけてください。一度湯に浸かると 筋肉は完全にリラックスできる。入浴者は水しぶきを控え、子供を監督してください。子供たちが温泉に入ることができる年齢に関する特定の規則はないが、4 歳未満の子供たちの湯あたりの危険に注意してください。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】トレッキングコース

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Zao is fantastically beautiful during the winter, but that beauty is not limited to the months when the mountain is covered in snow. Some of the ropeways run year-round, and the mountains become especially beautiful for hiking during the summer and fall. Some noteworthy attractions include Okama Volcanic Lake, Fudodaki Falls, and Zao Quasi-National Park.

Please note the following safety information for visitors to the park outside of the ski season:

When visiting Zao during the warmer seasons, bring plenty of water (1.5–2.0 liters per person), dress appropriately for the weather (rain gear, even if rain isn't in the forecast), and inform someone, such as the hotel staff, of your route and destination as well as your intended return time. When hiking, you must stay on the trail—do not attempt to make your own route up the mountain—and respect the wildlife. Hunting, fishing, and collection of specimens are not allowed. Likewise, leave no trace of your presence on the mountain. Please keep in mind that camping is allowed only in designated areas.

While hiking, it is important to make noise to alert the local wildlife to your presence, as startled animals are more likely to pose a threat. A bear bell, which can be strapped to your pack and will make noise as you walk, makes a good souvenir. If you do encounter a bear, make sure you know how to keep yourself safe: if you are in a group, make as much noise as you can; if alone, do not run. Instead, back away slowly. Bear attacks are rare, but if attacked by a black bear, fight back using anything you may have and with everything you've got. If possible, aim for the eyes and nose.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.26 トレッキング・コース

蔵王は冬を通じて幻想的に美しい場所だが、その美しさは山が雪に覆われている数カ月だけではない。一部のロープウェイは一年中運転されており、山は夏と秋にはハイキングのために特に美しい姿を見せる。。いくつかの注目すべきアトラクションには、オカマ火山湖（五色沼）、不動滝、蔵王国定公園が含まれている。

スキーシーズン以外の公園への訪問者は以下の安全情報に注意してください：

暖かい季節に蔵王を訪れる際は、十分な水（1.5～2.0 リットル/人）を持って行き（天気予報が雨でなくても防水着携帯）、適切な服装をし、あなたの予定のコースと目的地、予定の帰還時刻をホテルのスタッフなどに知らせてください。ハイキングをするときは、歩道から外れないでください。自分で作成したルートで山に登らないでください。そして野生生物を尊重してください。狩猟、釣り、標本採取は不許可。同様に、あなたの存在の痕跡を山の上に残さないでください。キャンプは指定された場所でのみ許されている。

ハイキング中は、驚いた動物が脅威をもたらす可能性が高いため、地元の野生生物にあなたの存在を知らせるために騒音を出すことが重要だ。あなたのバックにくくり付け、歩くときに音を立てるベアーベルは、良いお土産をにもなる。クマに遭遇したら、自分自身を安全に保つ方法を確認してください。グループの時はできる限りの音を立ててください。一人の場合は、走りださないでください。代わりに、ゆっくりと戻ってください。クマの攻撃はめったに見られないが、クロクマに攻撃された場合、あなたが持っている物、手にすることのできる物すべてを使って闘ってください。可能であれば、目と鼻をクマに向けて睨みつけてください。

本事業以前の英語解説文

There are numerous trekking courses along the mountains near Zao Onsen. With an elevation of almost 1000 meters, there are various courses suitable for anyone from beginners to advanced-level trekkers, along with walking courses in the woods, but also in wetlands, bleak landscapes and volcanic regions. Another characteristic of Zao Onsen is to be surrounded by an abundance of vegetation, and an especially large variety of alpine plants.

【施設名】蔵王温泉

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Three large statues of the gods Jizo Son, Daikokuten, and Daigongen were built on Zao to protect the people who live on the mountain. “Jizo Son” is the Japanese name of the bodhisattva *Kbitigarbha*, who is revered in Japan as a protector of children. The Zao Jizo Son was built in 1775 and is easily accessible by the Zao Ropeway, but during the winter only the statue’s head is visible above the snow.

Zao Daikokuten can be found near Outlook Point at Torikabuto Station. The statue was erected in 1980 for the safety of visitors to Zao and the continued health of the tourism economy. Zao Daigongen was erected in 2002 near Chuo-Kogen Station. Daigongen is the deity who keeps the town safe from disaster and maintains peace throughout the year.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.27 蔵王三大神

山に住む人々を守るために、蔵王には、地藏尊、大黒天、大権現の三つの大きな像が建てられている。「地藏尊」は、子供の保護者として日本で尊敬されている菩薩クシティガルバの日本名である。蔵王地藏尊は1775年に建てられ、蔵王ロープウェイから簡単にアクセスできるが、冬の間は雪の中から像の頭だけをのぞかせていらっしゃる。蔵王「大黒天」はトリカブト駅の展望台の近くにいらっしゃる。蔵王への訪問者の安全と観光経済の継続的な発展を願って1980年に建てられた。蔵王「大権現」は2002年に中央高原駅の近くに建てられた。大権現は町を災害から守り、一年中平和を維持する神でいらっしゃる。

本事業以前の英語解説文

Zao Jizoson: God against misfortune built in 1775.

Zao Daikokuten: God for success in business.

Zao Daigongen: God for inviting peace and offering protection against all kind of evil.

【施設名】童の里

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Warabe no Sato is a museum comprising five historic buildings filled with mostly art and artifacts from the Edo period (1603–1868). The museum is run by the Takamiya Hotel Group, which also operates a 300-year-old ryokan in northeast Zao. The many beautiful objects on display at Warabe no Sato museum give a clear image of the lives of the wealthy during the Edo period (1603–1868), and many of the pieces stored here once belonged to the local daimyo. The buildings themselves are also historical treasures, and several were relocated to the site from other areas. Two of the buildings are from Miyagi Prefecture, and a few of the other of buildings were moved here from Yamagata city.

In addition to a large collection of art pieces, the museum has a number of items used by various visiting dignitaries. One of the houses in the complex, originally built for the visiting Emperor Meiji (1852-1912), has been remarkably preserved with the original decorations still on display. Visitors to Warabe no Sato can expect to learn a lot about the history of Yamagata and the Takamiya Ryokan that runs the museum. The museum is open from 9:00 am to 5:00 pm, and entry is 700 yen.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.28 童の里の概要

童の里は、江戸時代（1603年-1868年）の美術品や工芸品で飾られた5つの歴史的建造物で構成されている。博物館は、蔵王北東部にあり、300年に渡る旅館経営の高見屋ホテル・グループによって運営されている。童の里美術館に展示されているたくさんの美しい展示物は、江戸時代（1603年-1868年）の地方大名の生活と富を鮮明に映し出している。建物自体も歴史的な宝物であり、いくつかは他の地域からここに移築された。そのうちの2棟は宮城県から、他の2棟は山形市から移された。

美術館の膨大な美術工芸のコレクションに加えて、博物館は様々な高位の訪問者によって使用された多くの展示物を所有している。もともとは明治天皇訪問（1852-1912）のために建てられたこの複合施設内の家の一つは、オリジナルの装飾と共に驚くほど大切に保存展示されている。童の里への訪問者は、山形の歴史や博物館を運営する高見屋旅館について知ることができる。博物館は午前9時から午後5時まで開いており、入場料は700円。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】童の里

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

North of the main building and storehouse is a restored rice warehouse from the Goto Matabei Ryokan that originally stood in Yamagata city. The two-story building is now used to showcase beautiful and intricately crafted Edo-period (1603–1868) goods including a princess's toys, combs, and wedding kimono. At the time, the kimono was said to have been so well made that the finest weavers from Kyoto were unable to reproduce the gold filigree woven into it. Upstairs are even more amazing artifacts. Even the steps are unique—it is common for traditional two-story Japanese buildings to have cupboards built into the stairs, but instead of being removable from the side, the cupboards open directly over the flats of the stairs. On the second floor, there are over one hundred and twenty ivory *netsuke*, miniature carvings that are used to attach a pouch to the belt of a kimono. Also on display are poems written by famous poets during their stays at the inn, and a daimyo clock, which tells time in the traditional Japanese system that was used during the Edo period (1603–1867). The main support beam for the roof is made from a single piece of Japanese red pine, a notoriously gnarled species of tree whose twisted shape is popular for bonsai. A straight beam of this size is remarkable, and indirectly shows the wealth associated with the construction of this inn.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.29 庄屋の蔵

本館と倉庫の北には元々山形市にあった後藤又兵衛旅館の復元された米蔵がある。この2階建ての建物は現在、お姫様のおもちゃ、櫛、結婚式の着物など、精巧で美しい江戸時代（1603年-1868年）の物品を展示するために使用されている。当時、京都で織られた着物は、現在の最高級の織り手でも展示された着物に込まれた金細工を再現することができなかったという。二階にはさらに素晴らしい工芸品が展示されている。

階段の段差も独特である。伝統的な2階建ての日本の建物では、食器棚が階段に組み込まれているのが一般的で、食器棚は横から取り出すのではなく、階段のフラットな部分を直接開くようになっている。2階には、着物の帯の小袋に取り付けるために使用された120以上の象牙の彫刻された根付が展示されている。また、旅館に滞在した有名な詩人が書いた詩や、江戸時代（1603年-1867年）に使われた日本の伝統的な仕掛けの大名時計も展示されている。

屋根を支える主梁は一本の日本赤松が使用されている。赤松は盆栽で見られるように曲がりくねる性質で有名で、この大きさのまっすぐな梁は注目に値する。これはこの旅館を建てた者の富を暗示している。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】童の里

【整備予定媒体】 ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

This building took ten years to complete and was used for only 30 minutes. Construction began in 1882 to accommodate Emperor Meiji (1852-1912) during his travels in northern Japan. The house was finished in 1892, and the emperor finally came to visit in 1909. The lodgings were built by the Hanzawa family to entice the emperor to stay at their home rather than a government building. The entire house is believed to have been built from the wood of a single tree. The windows are over one hundred years old, and still have their original glass fittings. The rooms are divided by painted sliding doors (*fusuma*), and the floors are raised to different heights for different levels of dignitaries. Accordingly, the highest room was reserved for the emperor himself. Although it may seem extreme, the Hanwaza family's work was not in vain: the emperor reportedly relaxed here for a brief time before moving on.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.30 行在所

この建物は完成するのに 10 年を要したが、使用されてた時間はわずか 30 分であった。明治天皇（1852-1912）にご休息いただくために 1882 年に建設が始まった。建物は 1892 年に完成し、明治天皇は 1909 年に御幸された。宿舎は、政府の建物ではなく天皇が彼らの家にご滞在されるようにお誘いするために半沢家によって建てられた。家全体が一本の木から造られたと言われている。100 年以上の時が経っているが、窓には当時のオリジナルのガラスが嵌められている。部屋は絵が描かれた引き戸（ふすま）で仕切られており、床は地位のレベルによって異なる高さに仕上げられている。したがって、最も高い部屋は天皇陛下のために予定されていた。極端に思えるかもしれないが、半沢家の労力は無駄ではなかったのである。明治天皇は移動される前に、しばらくここでご休息なさったのである。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】蔵王温泉

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

Kokeshi dolls are a common souvenir from northern Japan. The first known *kokeshi* is thought to have been made in Togatta Onsen near Zao, and the practice spread to Zao and other onsen towns in northeastern Japan during the Meiji era (1867–1912). The dolls are traditionally children's toys and were bought as gifts by visitors to the onsen. Handmade from wood, *kokeshi* come in many sizes but are generally of a single characteristic shape: a simple trunk for a body and a spherical head. They became popular with collectors during the twentieth century, and *kokeshi*-makers began to sign their work. Despite their simple shape, making a *kokeshi* is not easy. After the wood is harvested, it must be left to dry for one to five years before it can be used, after which it is carved on a lathe. Depending on the style, the dolls will either be made of one or two pieces of wood, and their decorations reflect the locations in which they were made. Sadly, only a few *kokeshi* artisans still live in Zao, and this tradition may soon disappear.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.31 蔵王こけし人形

こけし人形は、北日本の土産物として有名であり、最初に作られたのは蔵王に近い遠刈田（とがた）温泉だと考えられている。そして明治時代（1867年-1912年）に蔵王や日本の北東部の他の温泉街に広まっていった。人形は伝統的に子供のおもちゃであり、温泉への訪問客がお土産として購入し始めた。手作りの木で作られたこけしは、色々な大きさがあるが、一般的には単一の独特の形で、主要な胴体部分と球形の頭部から成っている。こけしは20世紀に入って収集家の間で人気になり、こけしメーカーは彼らの作品にサインを入れ始めた。

単純な形にもかかわらず、こけしの制作は容易ではなく、木材が伐採された後、制作する前に1～5年の間、乾燥のために放置しなければならない。その後、それは旋盤で切り分けられ、形に応じて、人形は1本か2本の木が使われる。こけしの絵付け装飾は制作場所を反映している。残念ながら、蔵王には少数のこけし職人しか住んでいないので、いずれこの伝統はなくなってしまうかもしれない。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】蔵王温泉

【整備予定媒体】ウェブサイト、パンフレット

できあがった英語解説文

The town of Zao is more than just an onsen and ski resort—all throughout Zao are marks of the town's 1,900-year history. Near the center of town, for example, is a cluster of shrines located at the top of a long set of steep, narrow stairs. Stone lanterns line both sides of these treacherous stairs, and recently jokes have been written on them to entertain the weary and the elderly as they climb.

The city contains many small stone monuments. In order to facilitate new construction, five of these commemorative stones were moved to a single location. One of these is known as the Yuna Seki, or Yuna Stone. The Yuna Seki is said to commemorate the story of a man who died with his mistress, who was a bath-attendant or *yuna* (at the time, bath attendants were essentially prostitutes). His wife was distraught at their passing and built the stone statue of the *yuna* to commemorate them.

Most recently the town tourism board has erected stone pillars carved with Japanese traditional poetry (*waka*) written about Zao Onsen. These can be seen throughout the town, along with much older stone monuments. Some of these monuments have been standing so long that their inscriptions are weathered away.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

No.32 歴史的遺物

蔵王の町はただ温泉とスキー・リゾートだけではないのだ。蔵王中の至る所が1900年の歴史を有する史跡である。たとえば町の中心部近くには、長くて狭い階段の頂上に神社が集合している。石造りの灯籠がこれらの危なっかしい階段の両側に並んでおり、最近、階段を登るのに疲れた人や年配の人を力づける言葉が書かれた。

街にはたくさんの小さな石碑が見られる。新しく施設を建築するために、これらの記念碑の5つが同一場所に移された。これらの1つは湯女石、または湯女ストーンとして知られている。湯女石は、愛人と一緒に死んだ男の物語を伝えていると言われている。男の愛人は風呂の係員の湯女（当時、風呂の係員は本質的に売春婦）だった。男の妻は彼らの死に取り乱したが、弔うために湯女の石碑を建てた。

ごく最近、町の観光局は、蔵王温泉を詠った日本の伝統的な和歌を彫った石柱を建てた。これらはの石柱は、はるかに古い石造りの記念碑とともに、町中で見られるようになった。これらの記念碑の中には、碑文が風化するほど長く立っているものもある

本事業以前の英語解説文

なし